

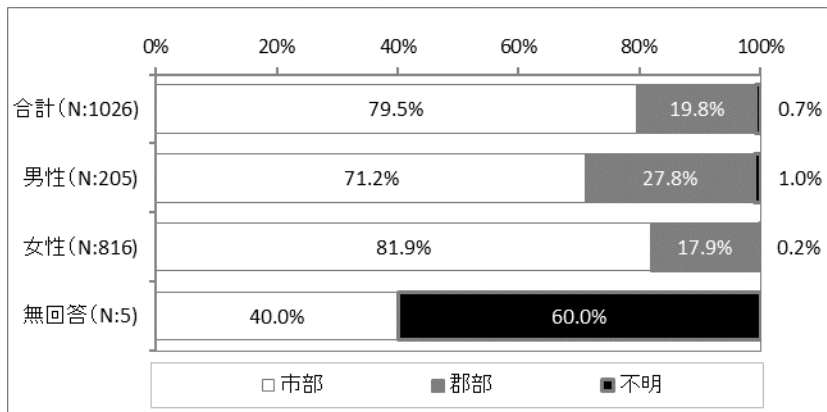
調査結果

以下では、調査結果について、平成 25 年度に実施した「子どもと子育てに関する調査」（以下「前回調査」という。）との比較を交えながら、設問ごとに記述する。

回答者のプロフィール

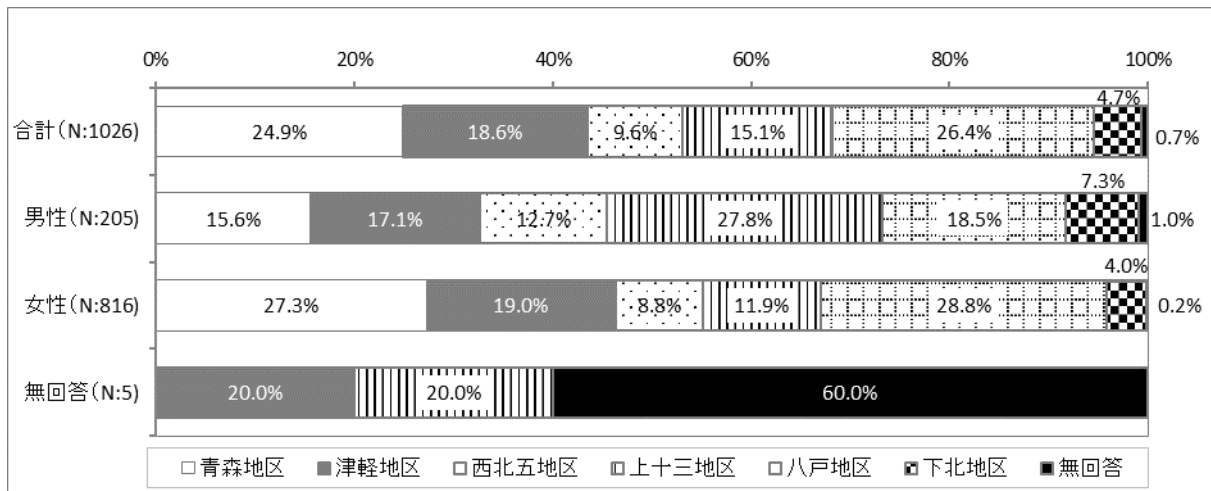
問1. あなたがお住まいの市町村名をご記入ください。

・市部・郡部別



市部と郡部の比率は 4 : 1 となっており、前回調査とほぼ同等の割合になっている。
男女別では、男性で郡部の回答者の割合が女性よりも大きくなっている。

・地区



居住地区は、「青森地区」、「八戸地区」が 20%超、「津軽地区」、「上十三地区」が 15%超、「西北五地区」、「下北地区」が 10%以下となっている。前回調査に比べて「青森地区」、「八戸地区」が 2 ポイント増加、「津軽地区」、「下北地区」が 2 ポイント以上減少している。

【男女別】

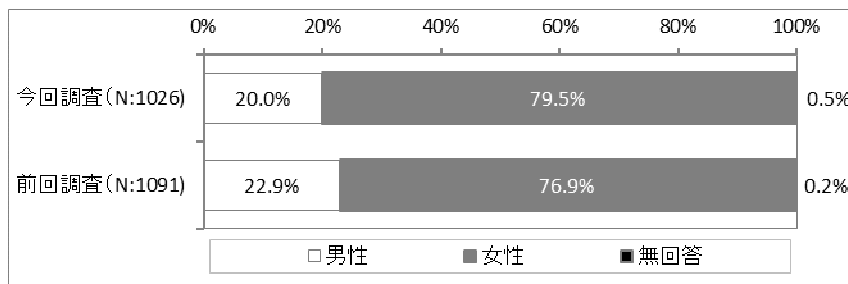
男性では「上十三地区」の28%、女性では「八戸地区」の29%が最も多くなっている。

【無回答】

性別の無回答は5件で、「津軽地区」、「上十三地区」がそれぞれ1件、3件が居住地区無回答となっている。

問2. あなたの性別はどちらですか。

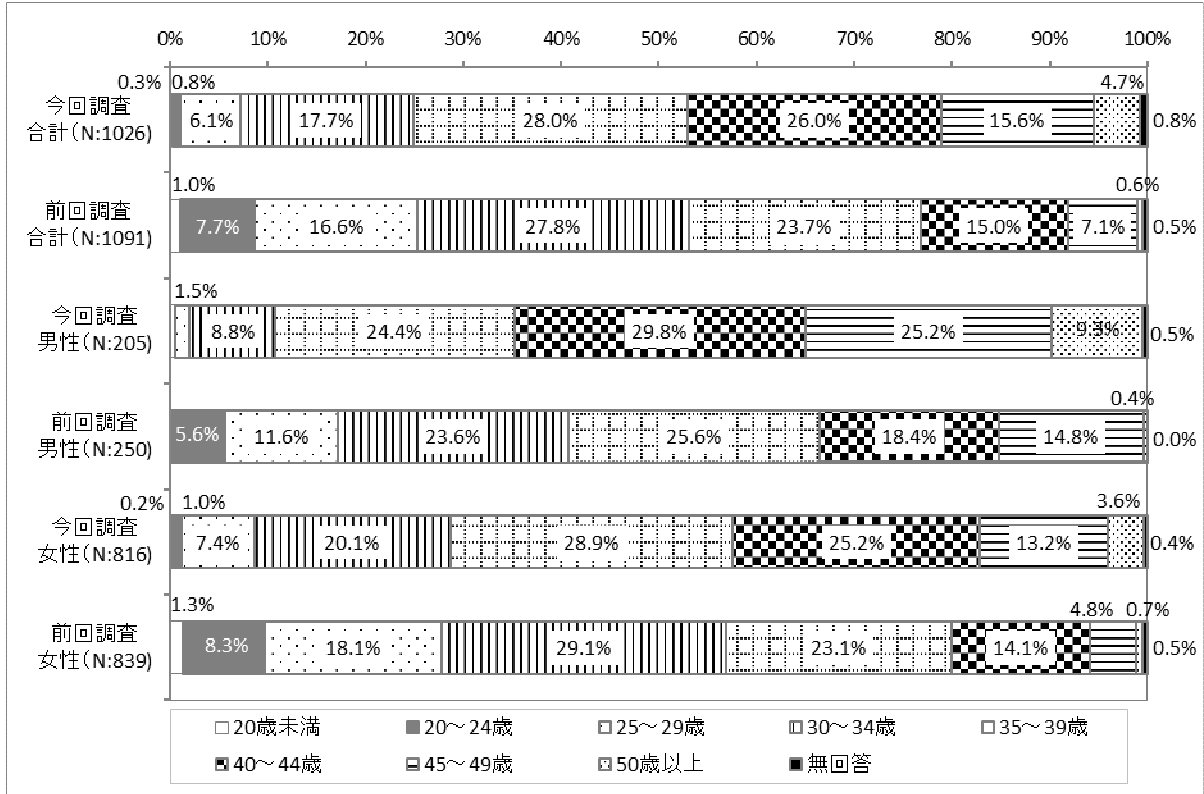
・ 回答者の性別



男女の比率は1：4であり、前回調査と比べて男性の割合が3ポイント減少している。無回答は5件、0.5%である。

問3. あなたとあなたの配偶者(夫又は妻)の年齢をお答えください。(平成30年10月15日現在)

・回答者の年齢



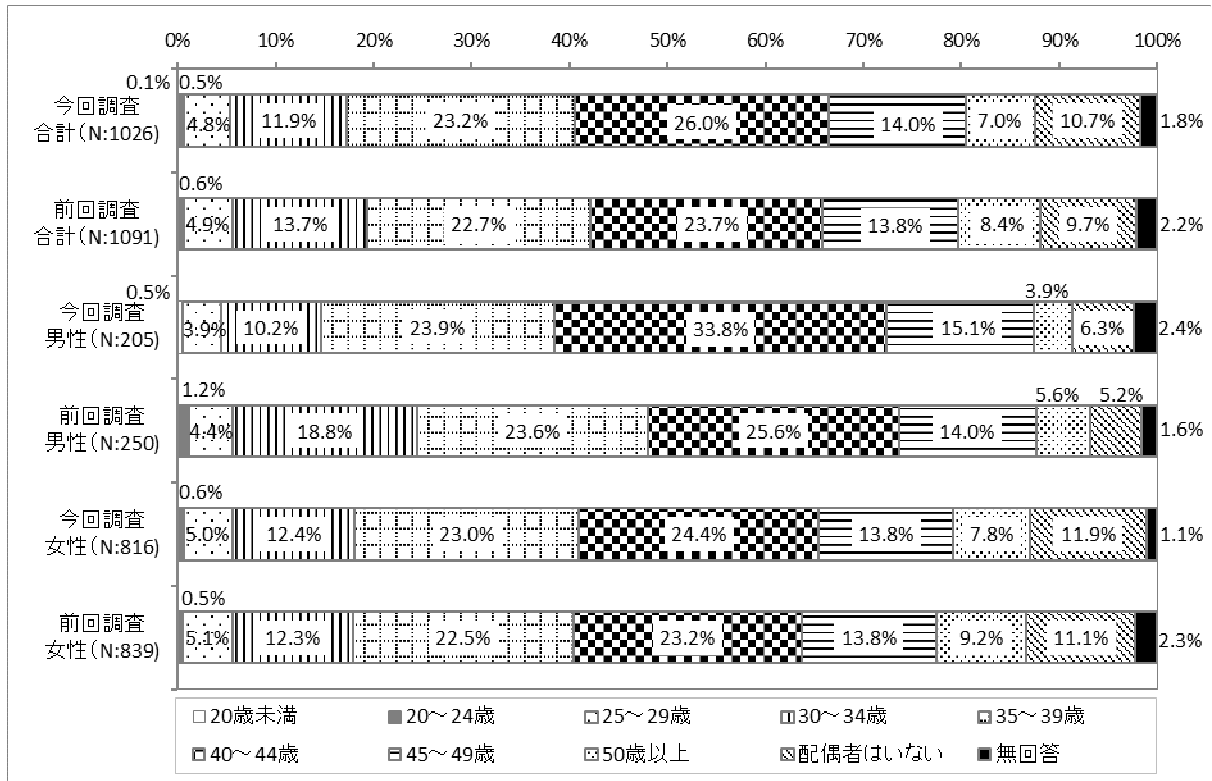
回答者本人の年齢は、「20歳未満」、「20～24歳」、「25～29歳」、「50歳以上」が10%未満、「30～34歳」、「45～49歳」が15%超、「35～39歳」、「40～44歳」が20%台となっている。「34歳以下」の割合で全体の25%となっており、前回調査と比べ、28ポイント減少している。

【男女別】

男性では「40～44歳」、「45～49歳」の40歳代で55%となっている。女性よりも「45～49歳」が12ポイント大きく、「30～34歳」が11ポイント小さい。前回調査と比べて「40～44歳」、「45～49歳」、「50歳以上」の割合が増加している。

女性では40歳未満が58%となっている。前回調査と比べて「35～39歳」、「40～44歳」、「45～49歳」、「50歳以上」の割合が増加している。

・配偶者の年齢



「20歳未満」、「20～24歳」、「25～29歳」、「50歳以上」が10%未満、「30～34歳」、「45～49歳」が10%台、「35～39歳」、「40～44歳」が20%台となっており、前回調査と比べて大きな差はない。

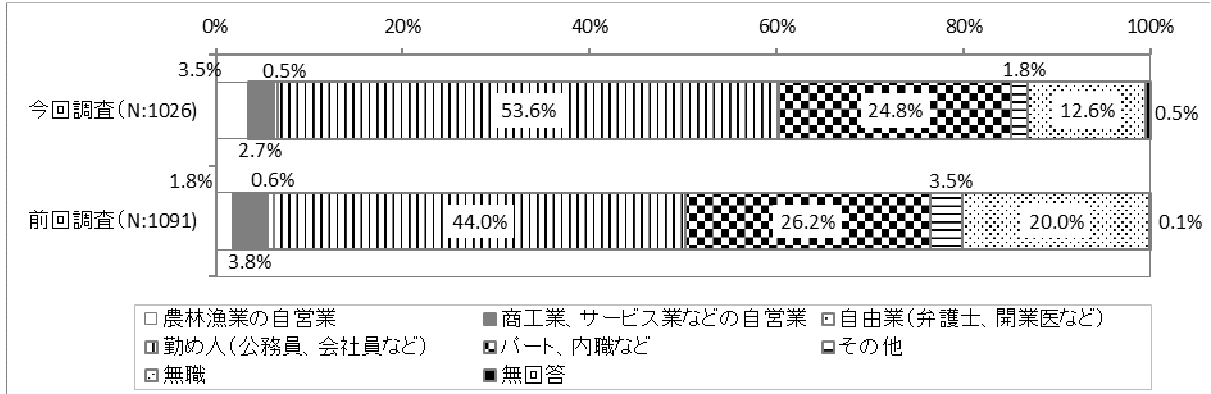
【男女別】

夫（グラフ中の女性）では、「40～44歳」の割合が妻（グラフ中の男性）よりも10ポイント小さく、他の年代では大きな差は見られない。

「配偶者はいない」の割合は女性の方が大きく、前回調査と比べて男性女性とも1ポイント増加している。

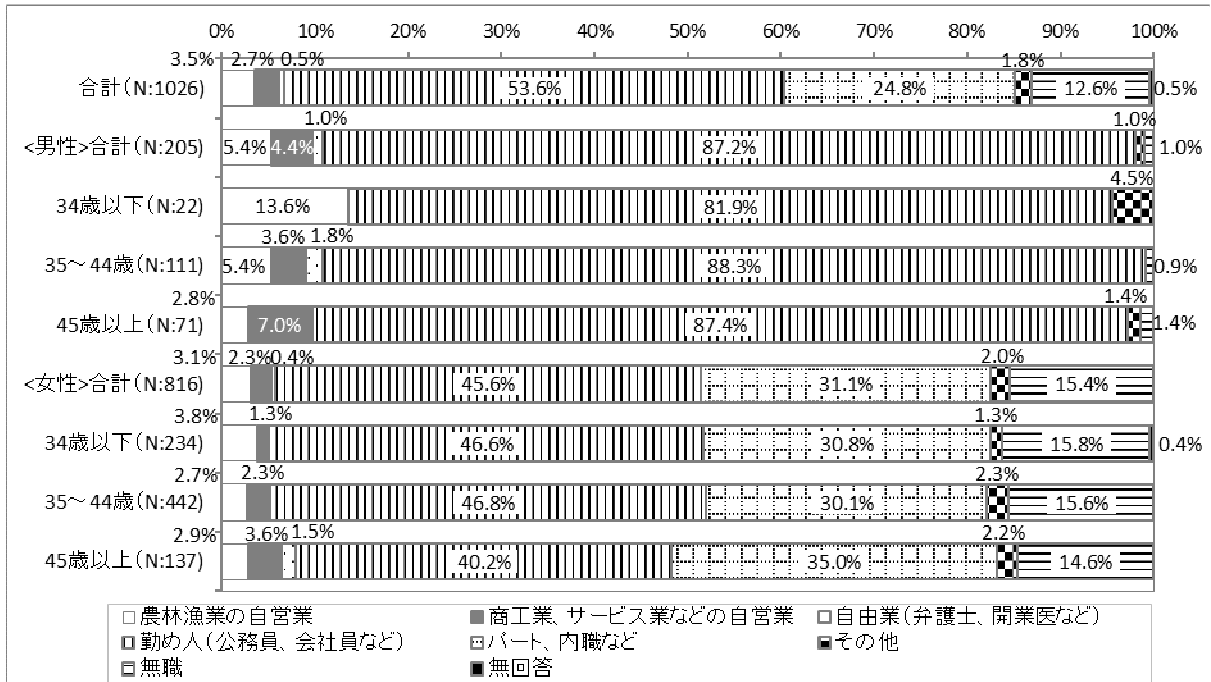
問4. あなたとあなたの配偶者のご職業をお答えください。

・ 本人の職業



「勤め人」が54%、「パート、内職」が25%、「無職」が13%を占めている。
 前回調査と比べて「勤め人」の割合が10ポイント増加、「無職」が7ポイント減少している。

・ 男女別、年齢別の本人の職業



【男女別】

男性では、「勤め人」が87%と最も多く、次いで「農林漁業の自営業」、「商工業、サービス業などの自営業」5%前後、「自由業(弁護士、開業医など)」、「無職」、「その他」1%の順となっている。

女性では、「勤め人」が46%と最も多く、次いで「パート、内職」31%、「無職」15%、「農林漁業の自営業」3%、「商工業、サービス業などの自営業」「その他」2%の順となっており、男性よりも「無職」、「パート、内職」の割合が大きく、「勤め人」が小さくなっている。

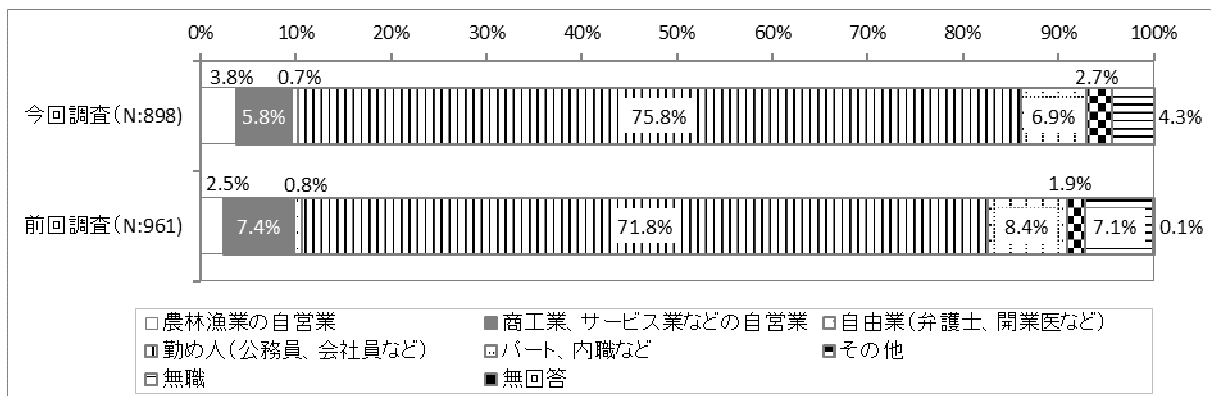
【男性年齢別】

「勤め人」の割合は、「35～44 歳」で 88%と最も大きくなっている。「34 歳以下」では「農林漁業の自営業」が 14%と他の年代より多く、「45 歳以上」では「商工業、サービス業などの自営業の割合」が他の年代より大きくなっている。

【女性年齢別】

「45 歳以上」については「勤め人」の割合が他の年代より小さく、「パート、内職」では他の年代より大きくなっているが、全体的に大きな差はない。「無職」は全年代で 15%前後となっている。

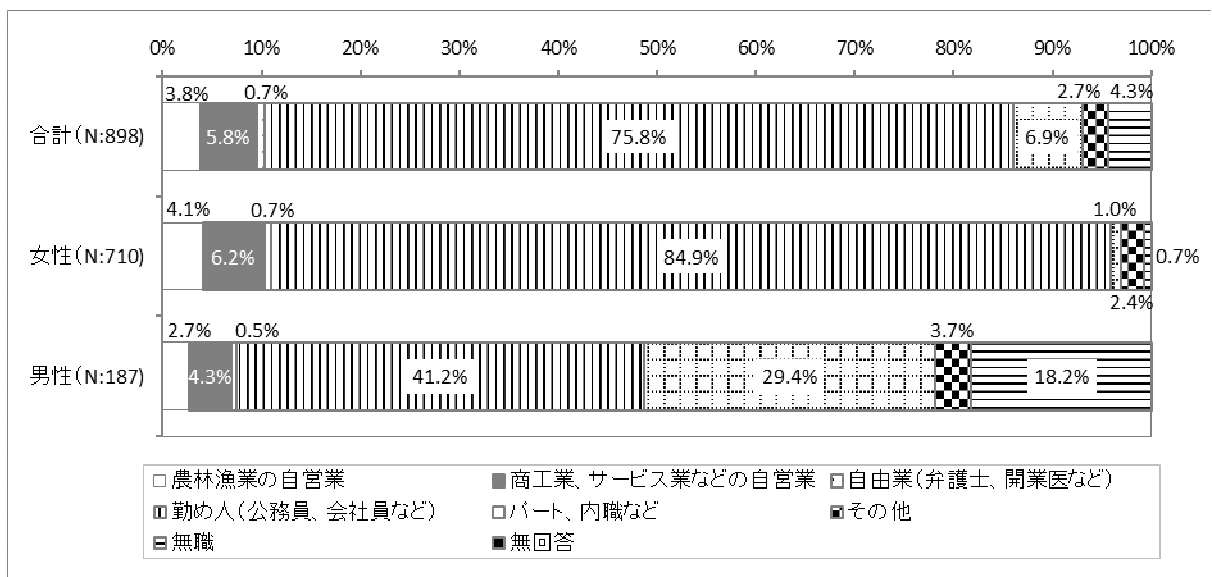
・配偶者の職業



「勤め人」が 76%、「パート、内職」が 7%、「商工業、サービス業などの自営業」が 6%、「無職」が 4%となっている。

前回調査と比べて、「勤め人」が 4ポイントの増加、「無職」が 3ポイント、「パート、内職」が 1ポイントの減少となっている。

・男女別の配偶者の職業

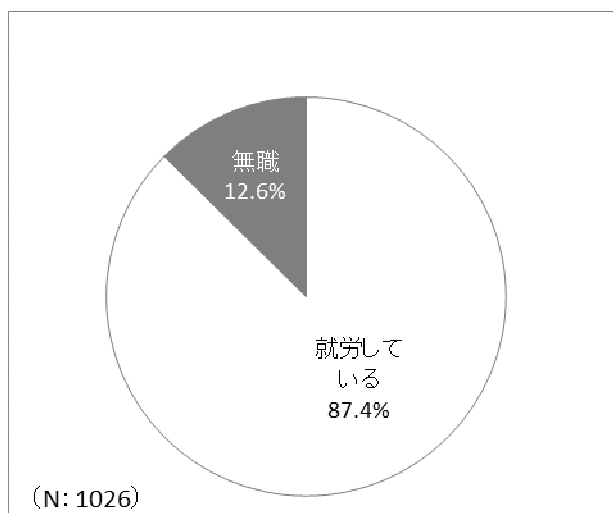


【男女別】

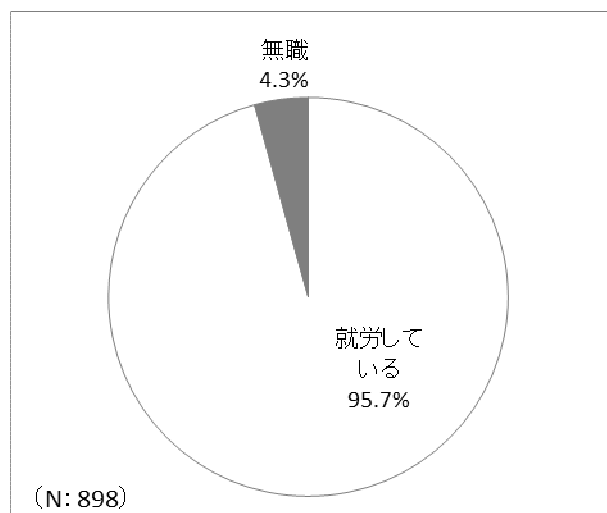
夫（グラフ中の女性）の職業では、「勤め人」が 85%と格段に大きく、次いで「商工業、サービス業などの自営業」 6%、「農林漁業の自営業」が 4%の順となっている。

妻（グラフ中の男性）の職業は、「勤め人」41%、「パート、内職」29%、「無職」18%、以下「商工業、サービス業などの自営業」 4%、「農林漁業の自営業」 3%の順となっている。

・就労の有無(回答者)



・就労の有無(配偶者)



【回答者】

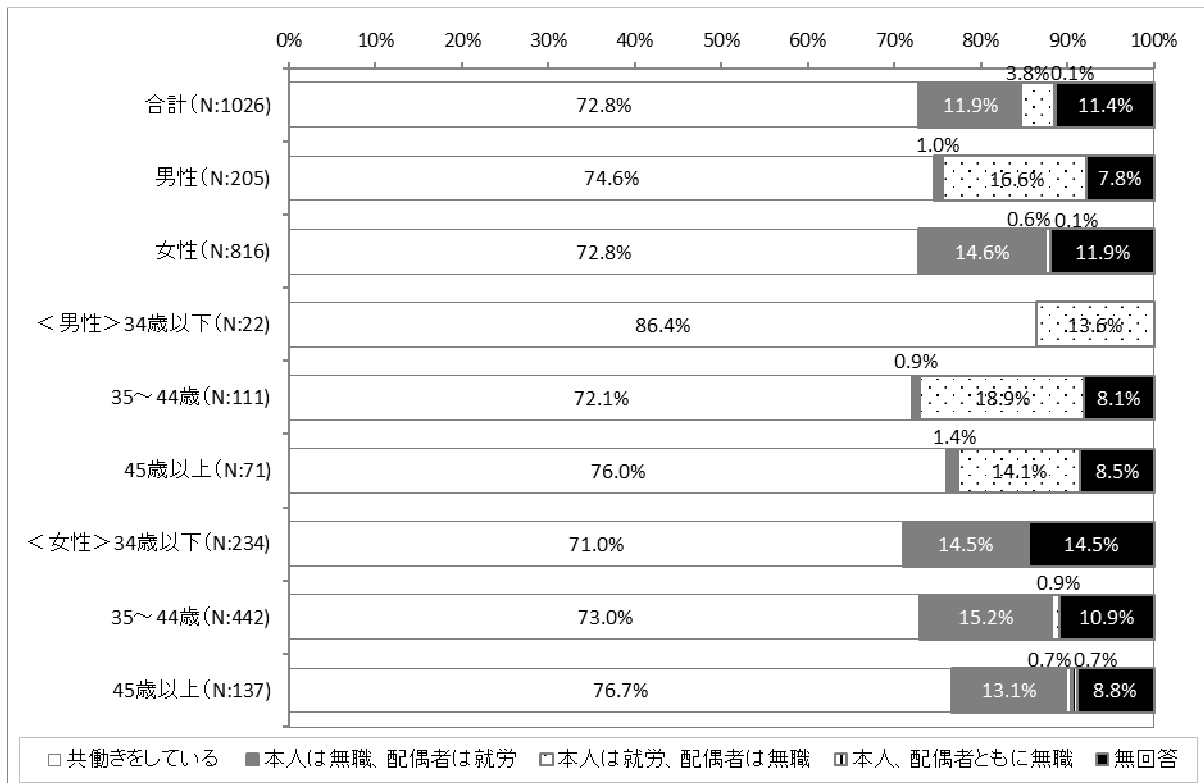
「就労」が 87%、「無職」が 13%となっている。

【配偶者】

「就労」が 96%、「無職」が 4%となっている。

女性回答者が約 8 割という今回調査の特性（配偶者の男性の割合が大きい）を反映して、「就労」の割合が回答者全体よりも大きくなっている。

・共働きの有無



「共働きをしている」が73%を占め、前回調査の64%と比べて割合が増加している。

「本人は無職、配偶者は就労」は12%、「本人は就労、配偶者は無職」は4%であり、前回調査(各々18%、6%)と比べて割合が減少している。

【男女別】

男性の「共働きをしている」の割合が75%と、女性(73%)よりもやや大きくなっている。

女性では「本人は無職、配偶者は就労」の割合が15%と、男性(1%)よりも大きくなっている。なお、「本人は就労、配偶者は無職」は、男性17%に対し女性1%と大きな差が見られる。

【男性年齢別】

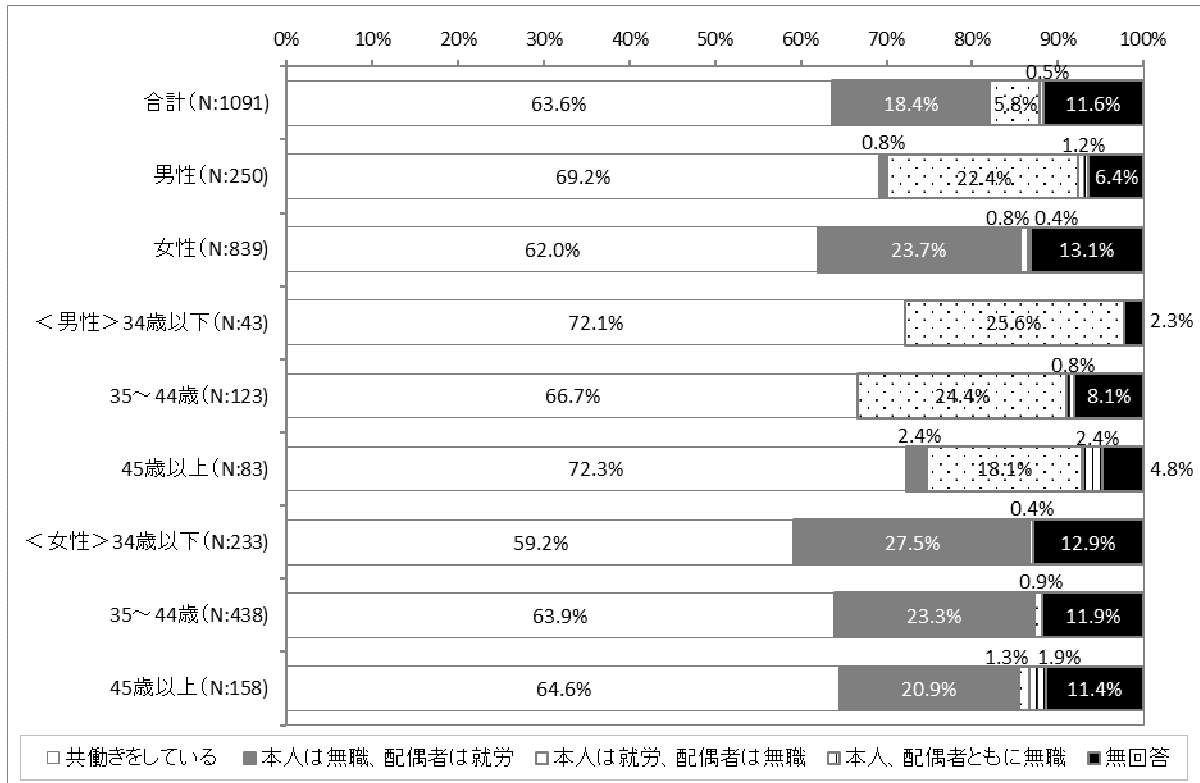
「共働きをしている」は、「34歳以下」の割合が86%と「35~44歳」「45歳以上」の割合より10ポイント以上大きくなっている。

「本人は就労、配偶者は無職」の割合は、「35~44歳」で19%と最も大きい。

【女性年齢別】

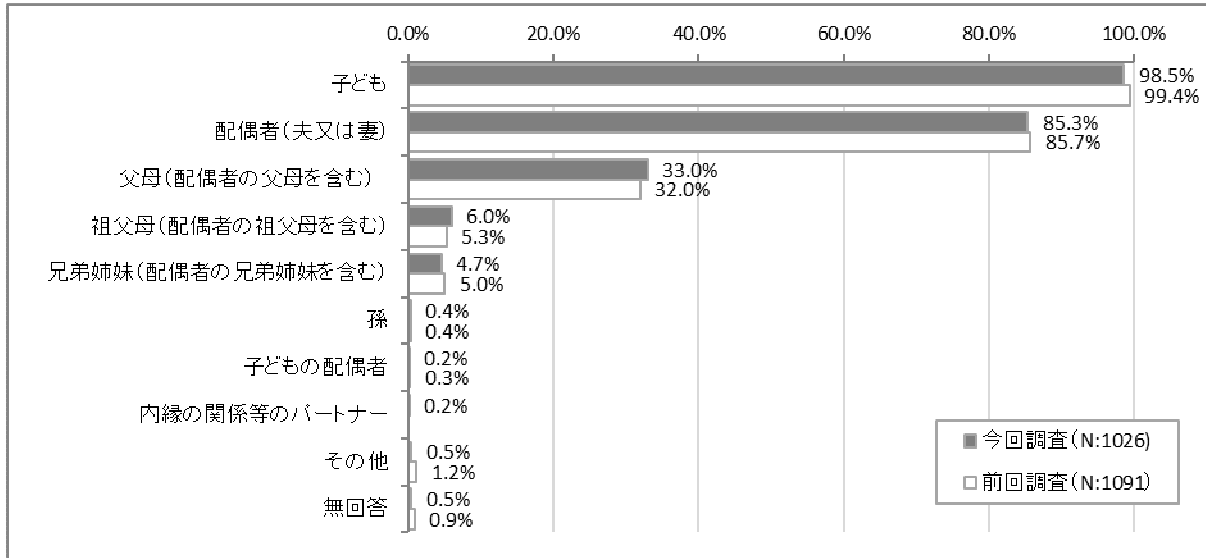
「共働きをしている」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で77%と最も大きい。一方、「本人は無職、配偶者は就労」の割合は、「35~44歳」で15%と最も大きい。

(参考) 前回調査



問5. 現在、あなたと同居している方を、次のうちからすべて選んでください。
 (あなたから見た続柄でお答えください。)(複数選択)

・同居している人



回答者のほぼ全員が「子ども」と、また85%が「配偶者」と同居しており、次いで「父母」との同居33%の順となっている。それ以外の続柄との同居の割合は小さく、「祖父母」、「兄弟姉妹」5%前後となっている。

前回調査と比べて、各項目ともほぼ同じ割合となっている。

・地区別、共働きの有無別の同居している人

	配偶者 (夫又は妻)	子ども	父母 (配偶者の父母を含む)	孫	祖父母 (配偶者の祖父母を含む)	子どもの配偶者	兄弟姉妹 (配偶者の兄弟姉妹を含む)	内縁の関係等のパートナー	その他	無回答
合計(N:1026)	85.3%	98.5%	33.0%	0.4%	6.0%	0.2%	4.7%	0.2%	0.5%	0.5%
青森地区(N:255)	84.7%	99.2%	20.8%	0.4%	3.5%	-	4.3%	0.4%	-	-
津軽地区(N:191)	85.9%	99.0%	48.7%	0.5%	13.1%	-	7.9%	-	1.6%	0.5%
西北五地区(N:98)	85.7%	99.0%	40.8%	-	8.2%	-	3.1%	-	1.0%	-
上十三地区(N:155)	82.6%	98.1%	38.1%	0.6%	5.8%	-	3.2%	0.6%	-	0.6%
八戸地区(N:272)	86.8%	99.6%	30.5%	0.4%	2.9%	0.4%	4.8%	-	-	-
下北地区(N:48)	91.7%	95.8%	18.8%	-	6.3%	-	2.1%	-	2.1%	-
共働きをしている(N:747)	95.7%	98.9%	32.5%	0.4%	6.2%	0.3%	3.6%	-	0.5%	0.1%
本人は無職、配偶者は就労(N:122)	95.1%	100.0%	18.0%	-	2.5%	-	3.3%	-	0.8%	-
本人は就労、配偶者は無職(N:39)	97.4%	100.0%	25.6%	-	2.6%	-	-	-	-	-
本人、配偶者ともに無職(N:1)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	-	-	-	-	-

【地区別】

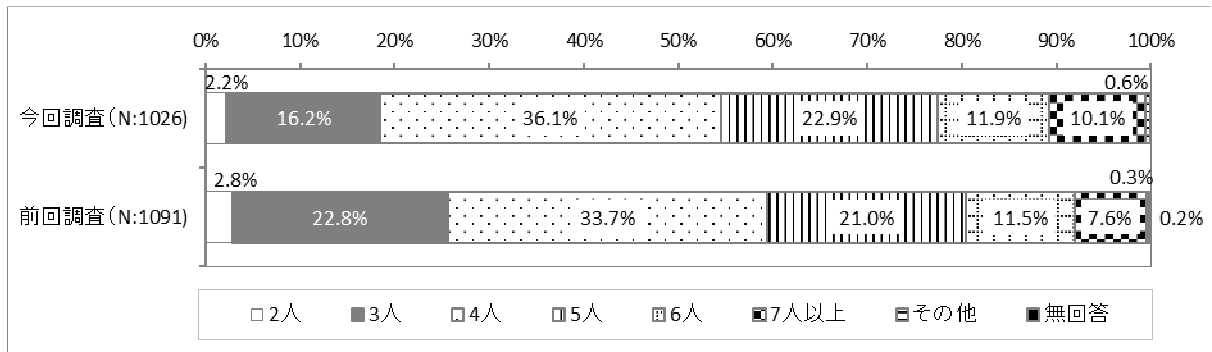
「配偶者」、「子ども」との同居については、地区で大きな違いは見られない。「父母」との同居については、「津軽地区」の割合49%が他地区（19～41%）よりも大きくなっている。

【共働きの有無別】

「配偶者」との同居については、「共働き」が96%と「非共働き」（95～97%）で大きな差は見られない。「子ども」との同居については、大きな違いは見られない。「父母」との同居については、「共働き」が33%と「非共働き」（18～26%）よりも大きくなっている。

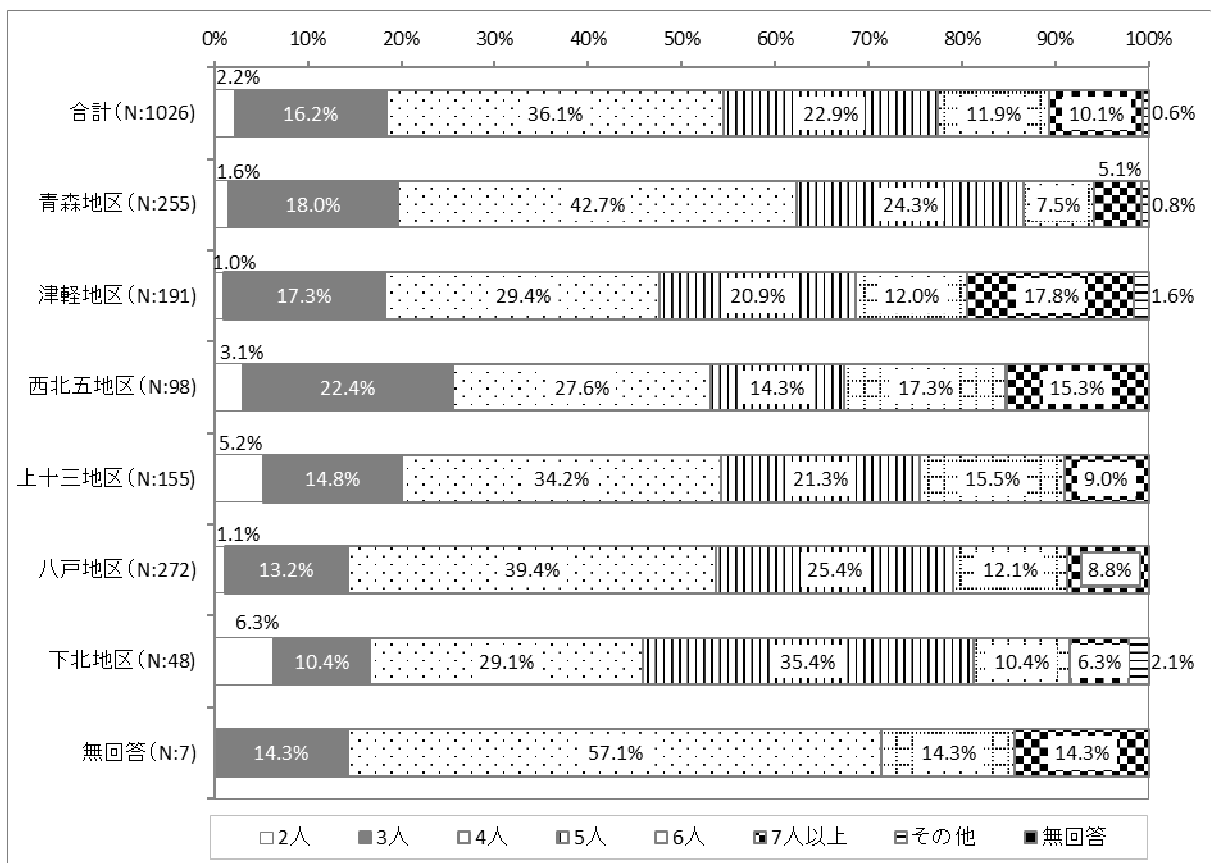
問6. 現在、あなたが一緒に暮らしている家族の人数は、あなたを含めて何人ですか。

・一緒に暮らしている家族の人数



「4人」が36%と最も多く、次いで「5人」23%、「3人」16%の順となっており、前回調査と比べて「3人」の割合が7ポイント減少、「4人」「5人」が2ポイント増加している。

・地区別の一様に暮らしている家族の人数

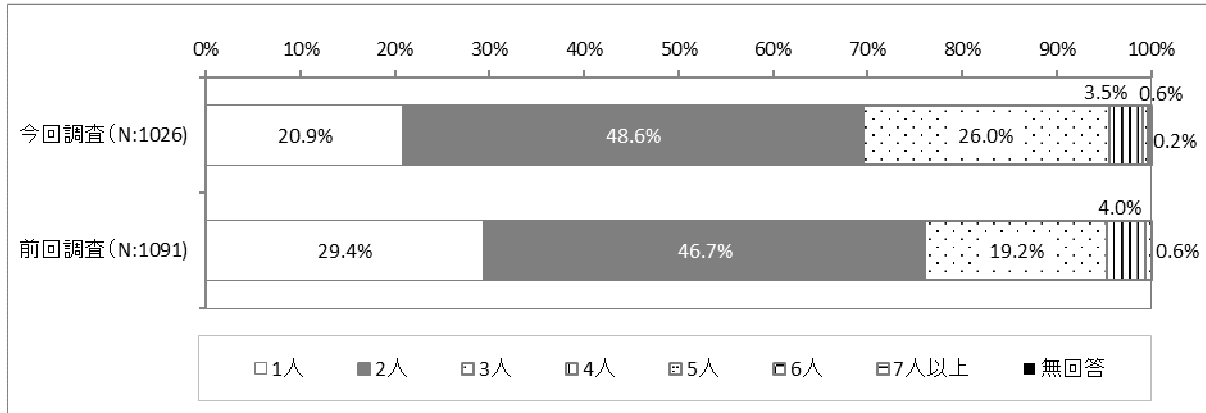


【地区別】

5人以上の割合は、「下北地区」、「津軽地区」（各々52%、51%）が他地区（37～47%）よりも大きくなっている。「4人」の割合は「青森地区」が43%、「3人」の割合は「西北五地区」が22%で、他地区（10～18%）よりも大きくなっている。

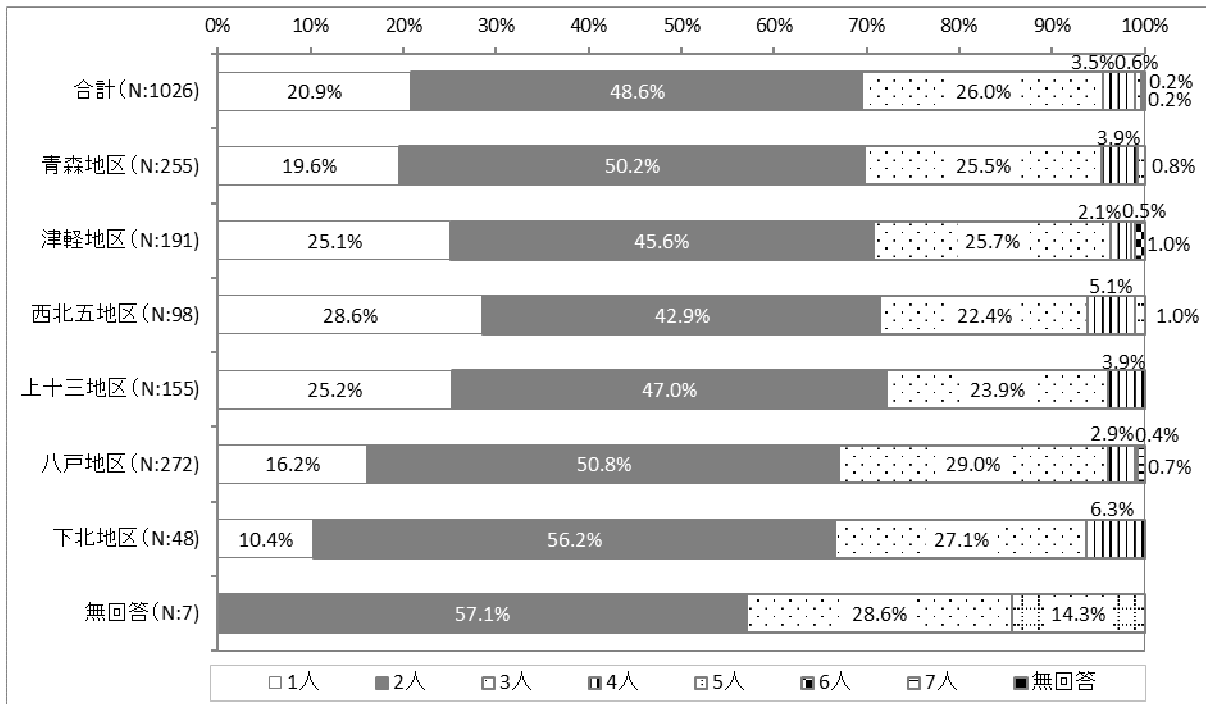
問7. お子さんは何人いらっしゃいますか。(別居中の子も含めてください)

・子どもの人数



「2人」が49%と最も多く、次いで「3人」26%、「1人」21%の順となっている。前回調査と比べて、「2人」、「3人」の割合が増加し、「1人」が減少している。

・地区別の子どもの人数



【地区別】

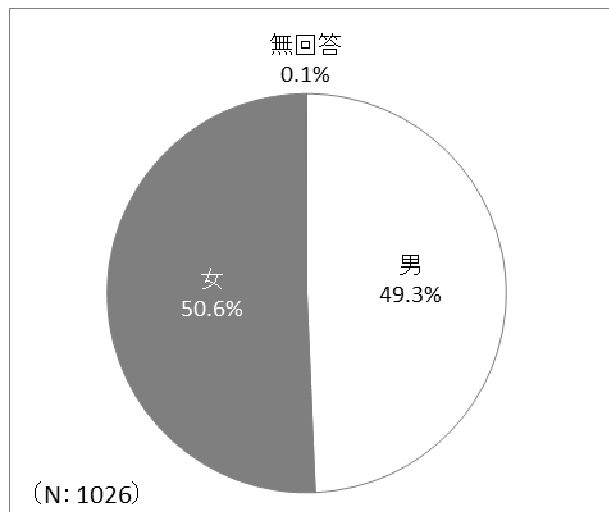
各地区で「2人」の割合が43～56%と最も大きくなっている。

「1人」については、「西北五地区」の割合が29%と、他地区の10～25%に比べて大きくなっており、「3人」については「八戸地区」の割合が29%と、他地区の22～27%に比べて大きくなっている。

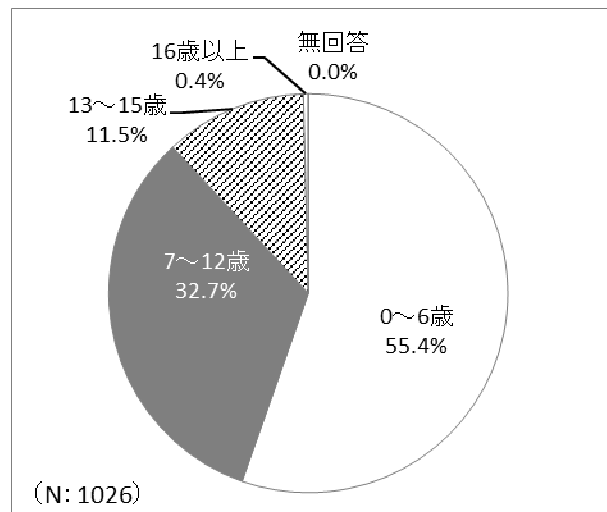
問8. お子さんの性別、年齢(平成 30 年 10 月 15 日現在)、就学状況についてお答えください。

(1) 一番下の子どもの状況

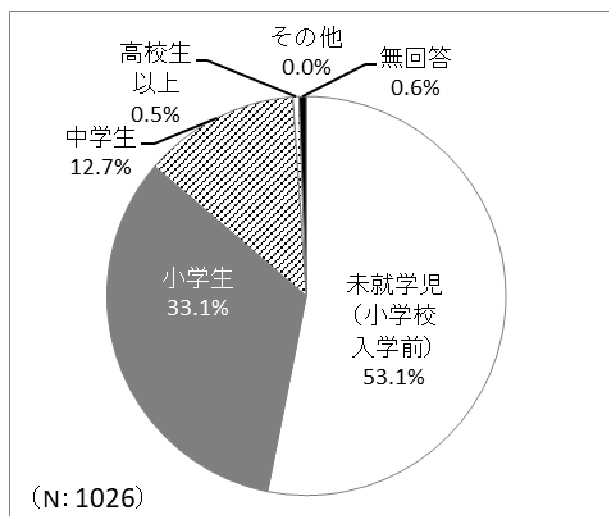
・性別



・年齢



・就学状況



【性別】

男 49%、女 51%でほぼ同率である。

前回調査では男 50%、女 49%となっており、今回調査の結果は前回とほぼ同じである。

【年齢別】

「0～6歳」が 55%と最も多く、次いで「7～12歳」33%、「13～15歳」12%の順となっている。

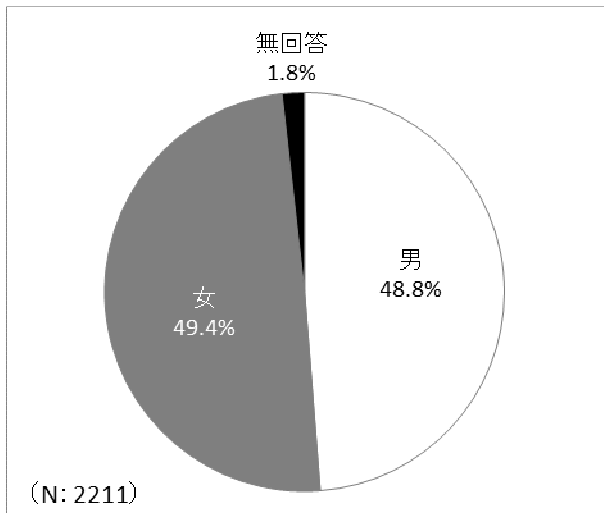
前回調査では「0～6歳」51%、「7～12歳」34%、「13～15歳」15%という割合、順位となっており、「0～6歳」が増加、「7～12歳」、「13～15歳」が減少しているが、年齢構成は前回とほぼ同じである。

【就学状況別】

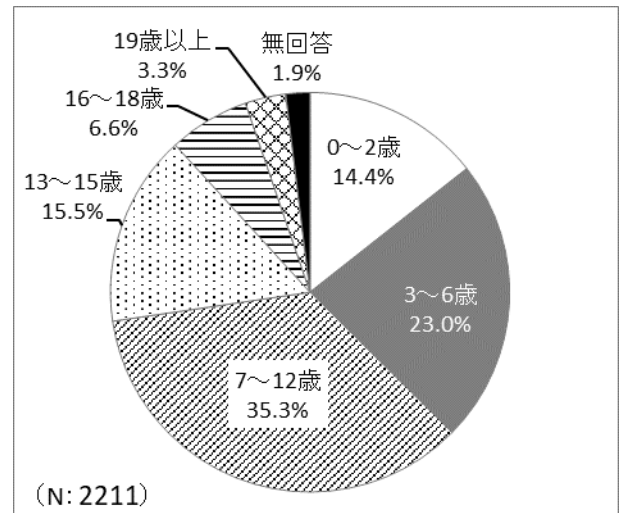
「未就学児」が53%と最も多く、次いで「小学生」33%、「中学生」13%の順となっている。
 前回調査では「未就学児」48%、「小学生」34%、「中学生」17%という割合、順位となっており、「未就学児」が5ポイント増加、「小学生」、「中学生」が1～4ポイント減少しているが前回とほぼ同じ構成となっている。

(2) 子ども全員の状況

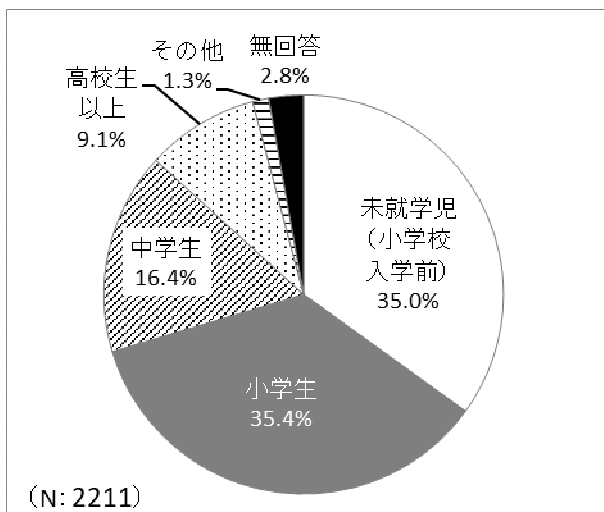
・性別



・年齢



・就学状況



【性別】

男女とも49%となっている。
 前回調査では男51%、女48%となっており、今回調査の結果は前回とほぼ同じである。

【年齢別】

「0～2歳」14%、「3～6歳」23%、「7～12歳」35%、「13～15歳」16%の年齢構成となっている。

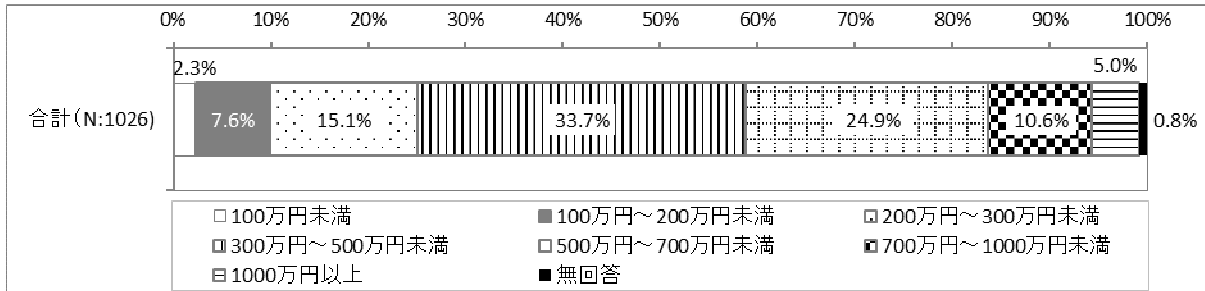
前回調査では、「0～2歳」14%、「3～6歳」21%、「7～12歳」35%、「13～15歳」15%の割合となっており、年齢構成はほぼ同じである。

【就学状況】

「未就学児」が35%、「小学生」が35%、「中学生」が16%、「高校生以上」が9%の構成となっている。前回調査では、「未就学児」33%、「小学生」34%、「中学生」17%、「高校生以上」11%の割合となっており、前回と構成はほぼ同じである。

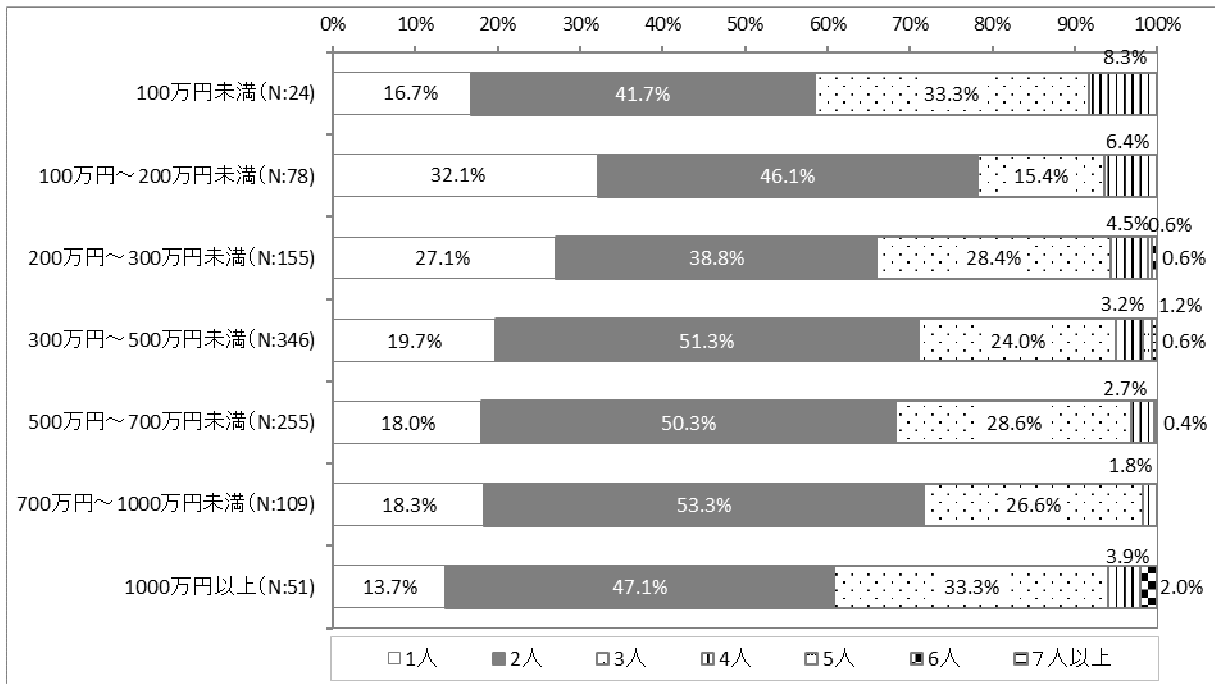
問9. あなたの世帯の年収についてお答えください。

・世帯の年収



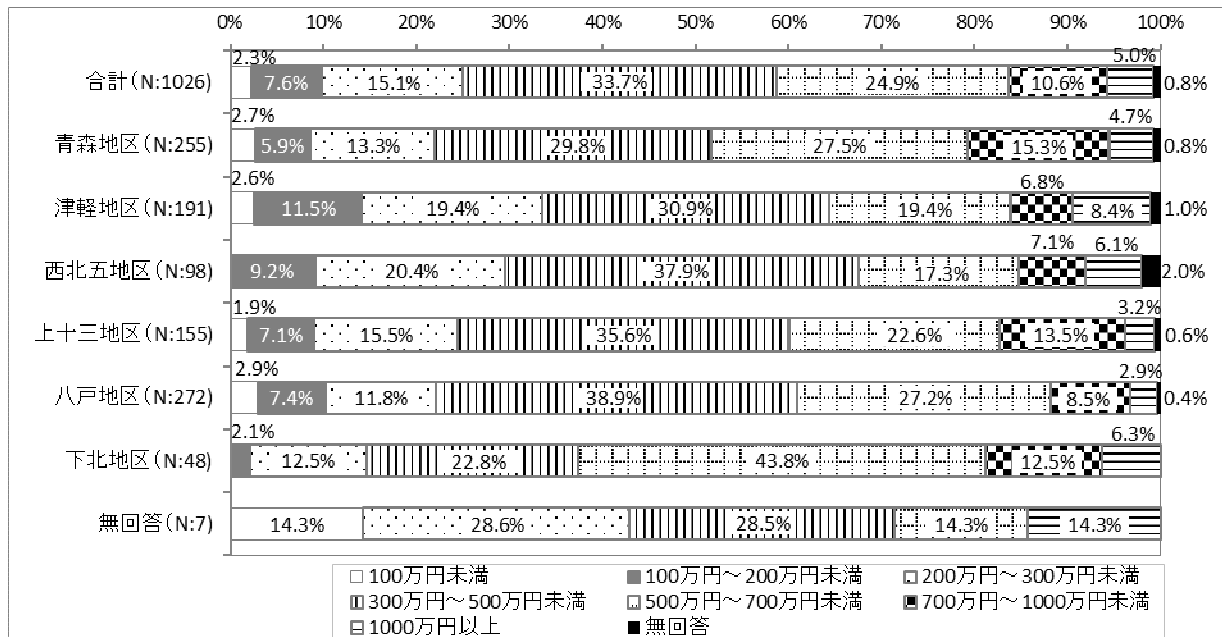
「300万円～500万円未満」が34%で最も多く、次いで「500万円～700万円未満」25%、「200万円～300万円未満」15%、「700万円～1000万円未満」が11%となっている。

・世帯年収別の子ども的人数



各年収で子ども「2人」が39～53%と最も大きくなっている。「1人」については「100万円～200万円未満」の割合が32%と最も大きく、年収が上がるにつれ少なくなっている。「3人」については「100万円未満」「1000万円以上」の割合が33%と最も大きくなっている。

・ 地区別の世帯年収

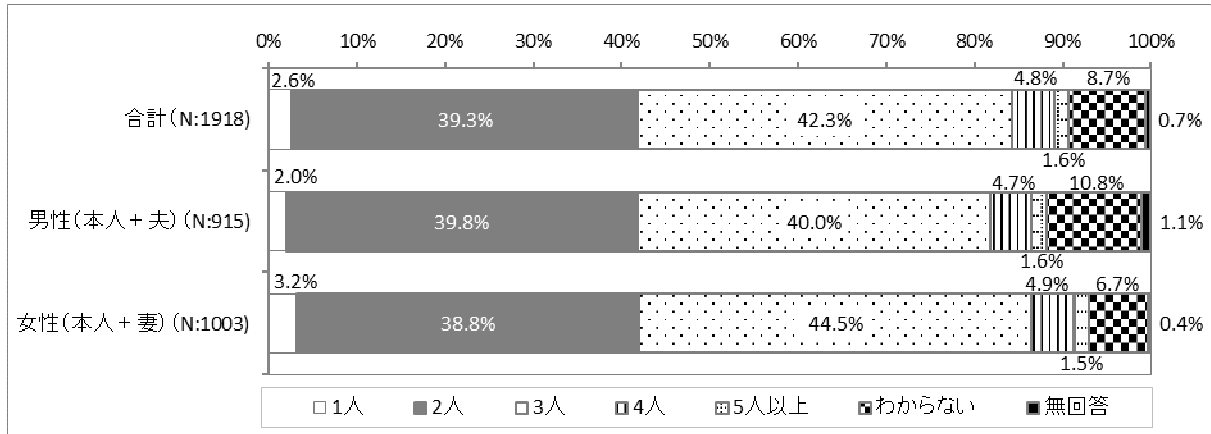


500万円以上の場合は、「下北地区」で62.5%と他地区（31～48%）よりも大きくなっている。「300万円～500万円未満」は「八戸地区」39%、「200万円～300万円未満」は「西北五地区」20%、「津軽地区」19%、「100万円～200万円未満」は「津軽地区」12%と、他地区より大きくなっている。

理想の子ども数・現実の子ども数について

問10. あなたとあなたの配偶者にとって理想的な子どもの数は何人ですか。

・理想とする子ども数（回答者と配偶者の合計）

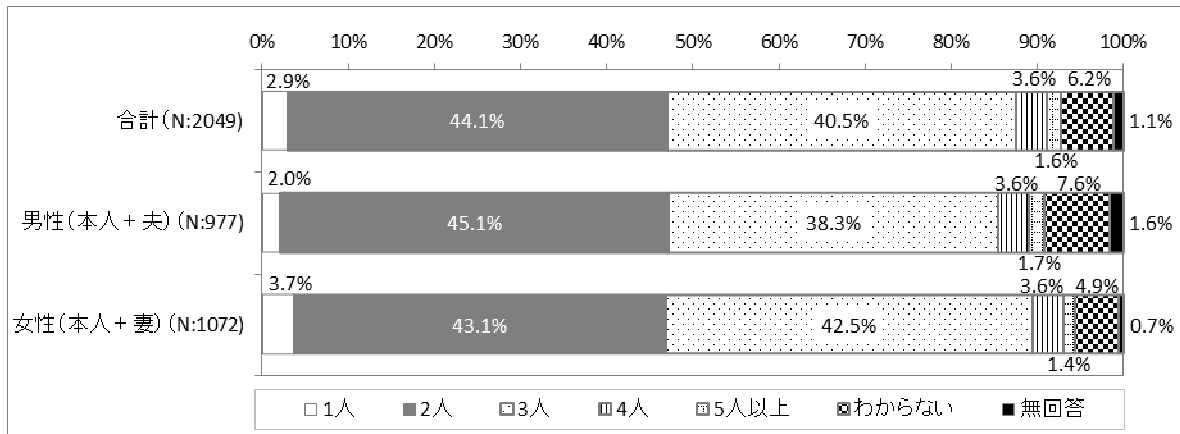


「3人」が42%で最も多く、次いで「2人」39%、「4人」5%の順となっている。前回調査では、「2人」44%、「3人」41%、「4人」4%の割合、順位となっており、前回と比べて「2人」と「3人」の順位が入れ替わり、「3人」が1ポイント増加、「2人」が5ポイント減少している。理想とする子ども数の平均値は2.60人であり、前回調査（2.54人）より増加している。

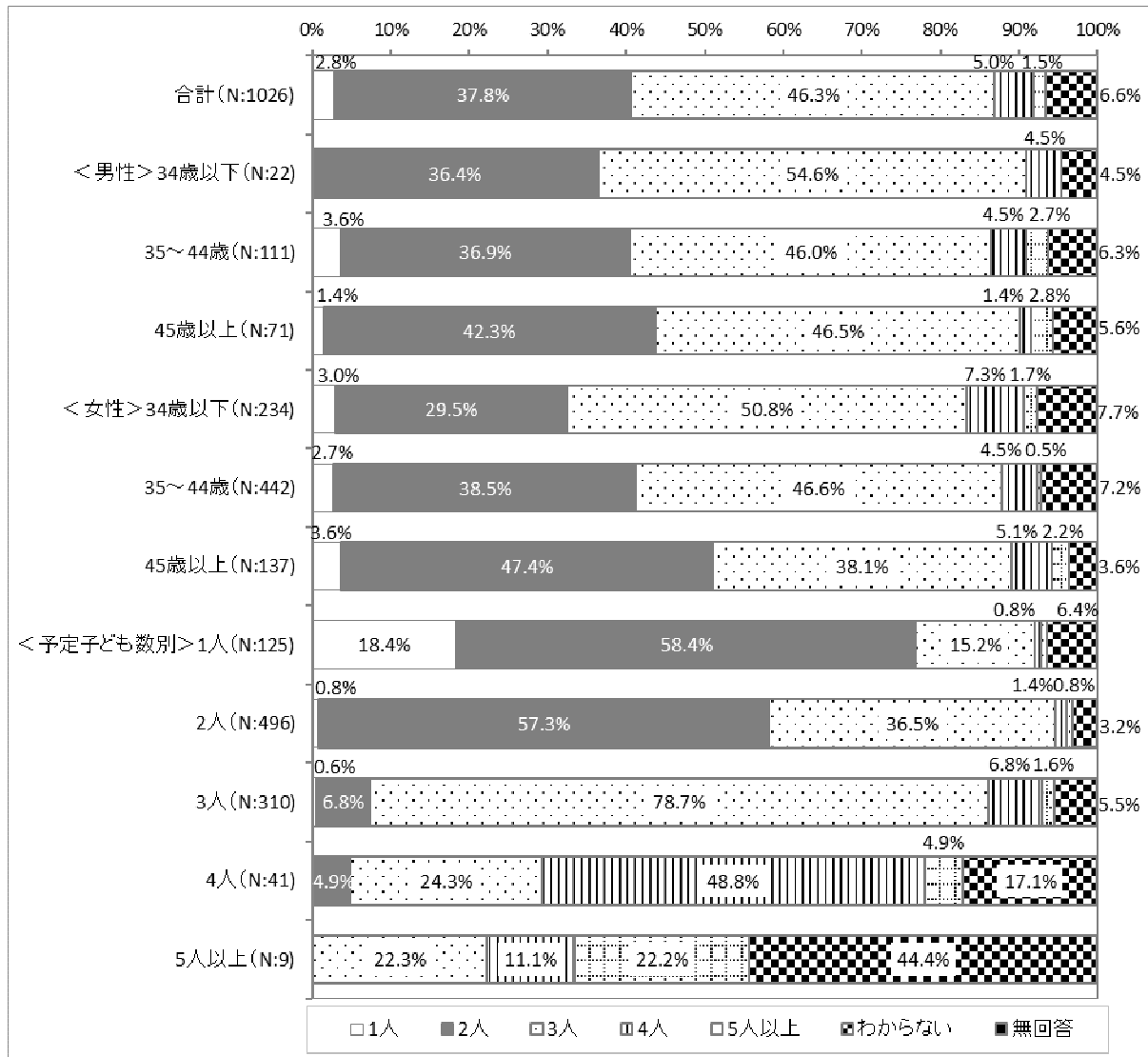
【男女別】

「3人」では女性の方が男性より5ポイント大きく、他項目は大きな差が見られない。

（参考）前回調査



・性・年齢別、予定子ども数別の理想とする子ども数（回答者本人）



【男性年齢別】

年代を問わず「3人」が46~55%と大きい。また、「2人」の割合は「45歳以上」で42%と、他の年代よりも大きくなっている。

【女性年齢別】

「3人」が「34歳以下」で51%と最も大きくなっており、「2人」の割合は「45歳以上」で47%と他の年代よりも大きくなっている。

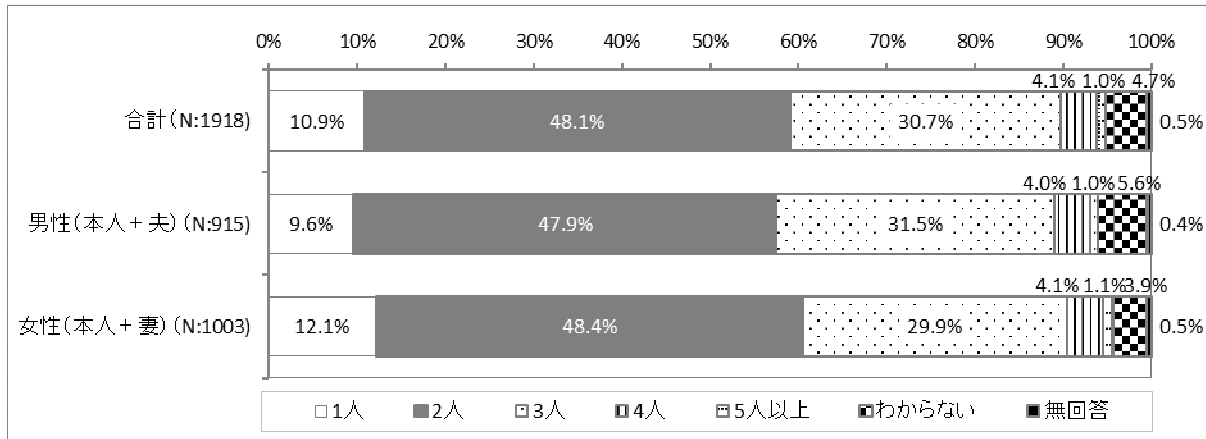
【予定子ども数との関連】

予定する子ども数が「4人」までは、予定する子ども数よりも理想とする子ども数が多くなっている。特に、予定する子ども数が「1人」で、理想とする子ども数を2人以上とする割合が75%と大きくなっている。一方、予定する子ども数が「5人以上」で、理想とする子ども数を5人以上とする割合は22%で、4人以下とする割合が33%を占めている。

予定する子ども数と理想とする子ども数の一致率は「3人」が79%と最も大きく、次いで「2人」が57%となっている。全体の一致率は62%で前回調査の58%より4ポイント大きくなっている。また、理想とする子ども数が予定する子ども数を上回る人の割合は32%で、前回(36%)より4ポイント減少している。

問11. あなたとあなたの配偶者は、現実は何人の子どもを持つ予定ですか。現在おられるお子さんも含めてお答えください。

・ 予定の子ども数（回答者と配偶者の合計）



「2人」が48%で最も多く、次いで「3人」31%、「1人」11%の順となっている。前回調査と比べて「3人」の割合が増加、「1人」「2人」が減少している。予定する子ども数の平均は2.33人で、前回調査2.17人より増加した。

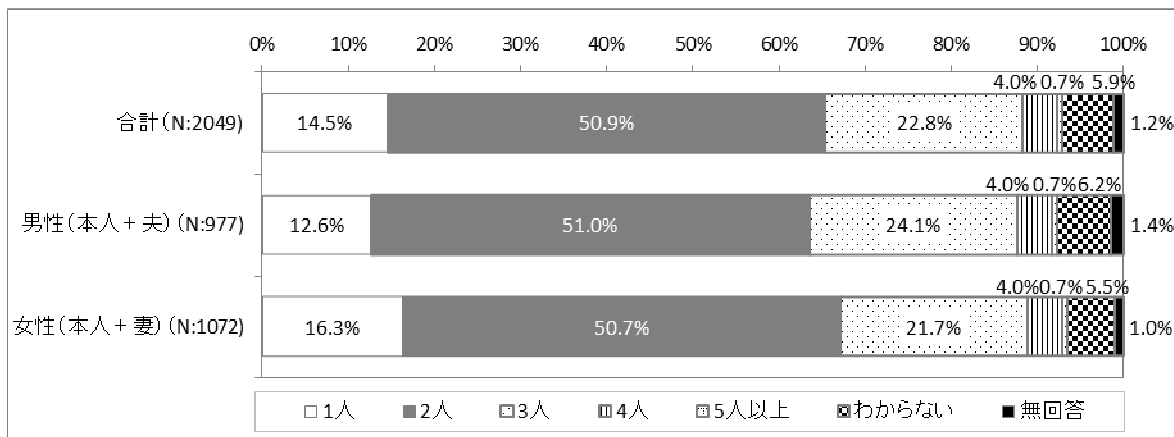
【男女別】

「1人」については、男性（本人+夫）の割合（10%）が女性（本人+妻）の割合（12%）よりもやや小さい。

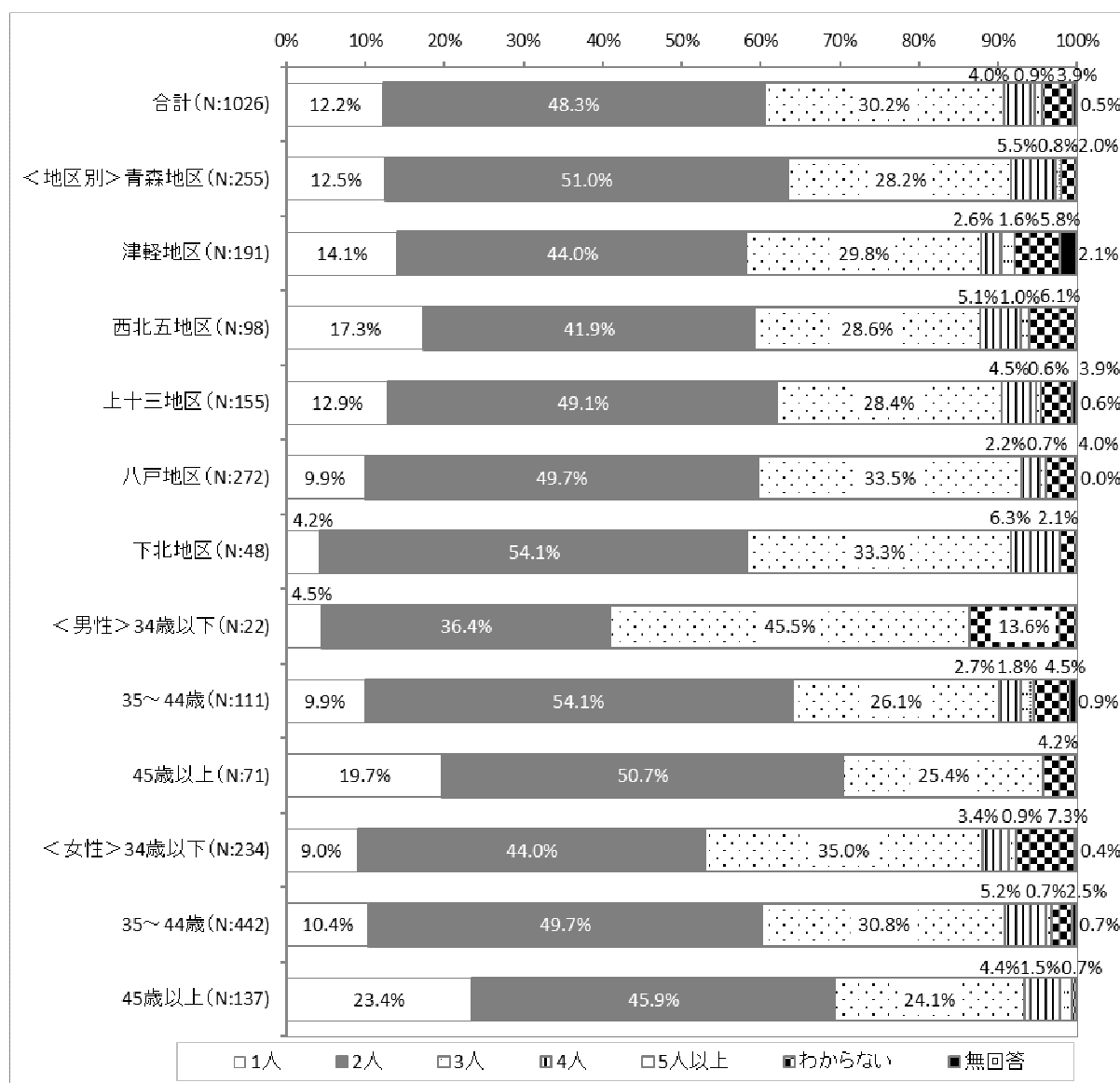
「2人」については、男性、女性ともほぼ同様の割合（48%、48%）となっている。

「3人」では男性の割合が2ポイント大きくなっている。

（参考） 前回調査



・ 地区別、性・年齢別の予定の子ども数（回答者本人）



【地区別】

「1人」については、「下北地区」の割合が4%と他地区（10～17%）よりも小さくなっている。「2人」については、「西北五地区」、「津軽地区」の割合（各々42%、44%）と他地区（49～54%）よりも小さくなっている。

「1人」と「2人」を合計した「2人以下」では、「青森地区」、「上十三地区」の割合が62～64%と他地区（58～60%）よりも大きくなっている。

3人以上については、「下北地区」の割合が40%と他地区（34～36%）よりも大きくなっている。

【男性年齢別】

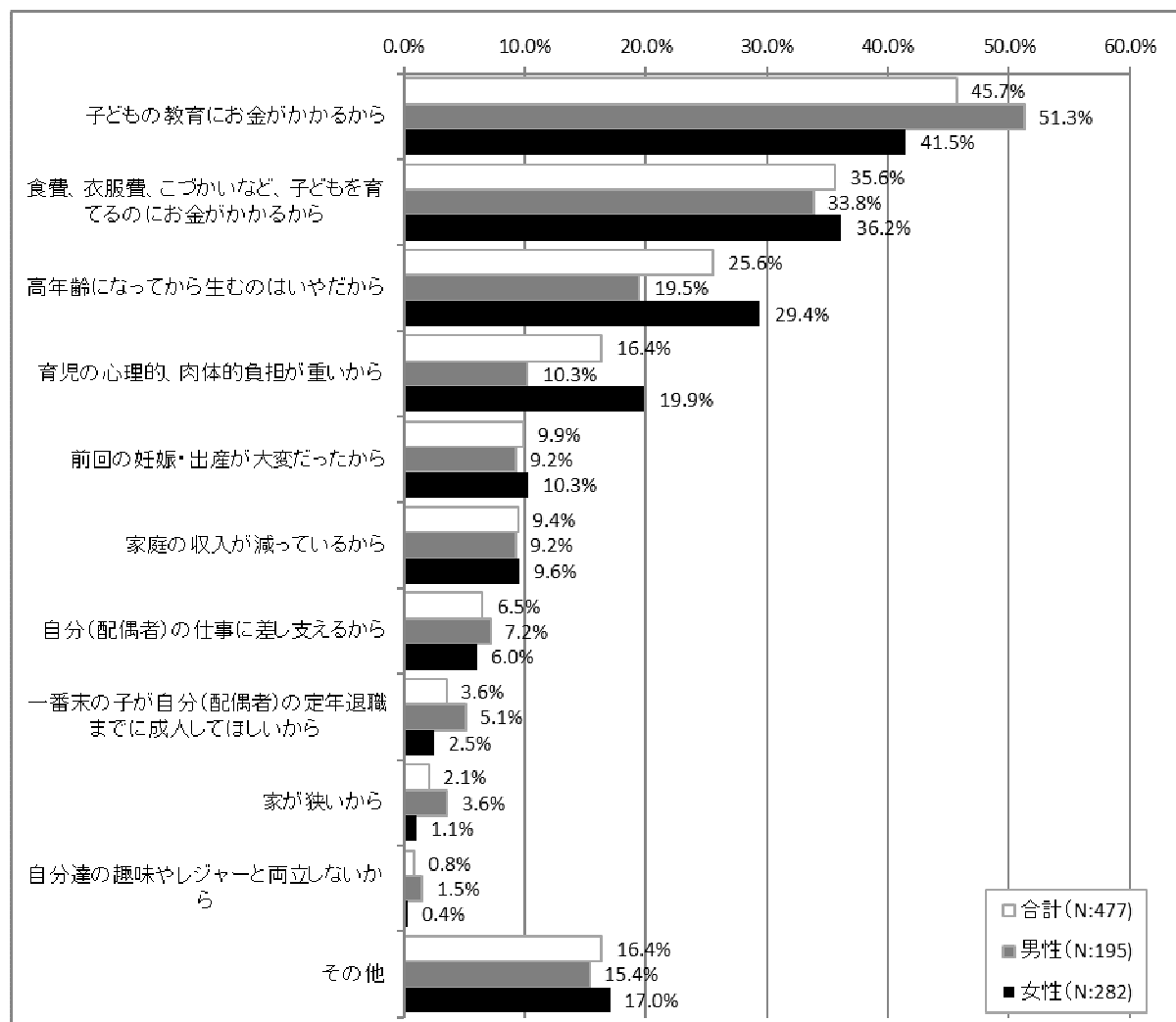
「1人」については、年代が上がるにつれて大きくなっており「45歳以上」で20%と最も大きくなっている。一方、「3人」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で46%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「1人」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で23%と最も大きくなっている。一方、「3人」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で35%と最も大きくなっている。

問12. (問10「理想とする子ども数」より問11「予定の子ども数」が少ない方にお聞きします)
「理想とする子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は何ですか。
(2つまで)

・ 予定の子ども数が少ない理由 (回答者と配偶者の合計)



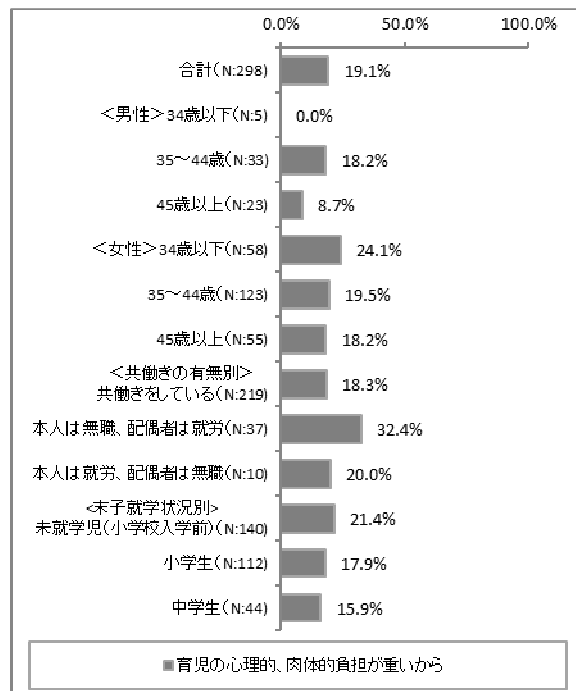
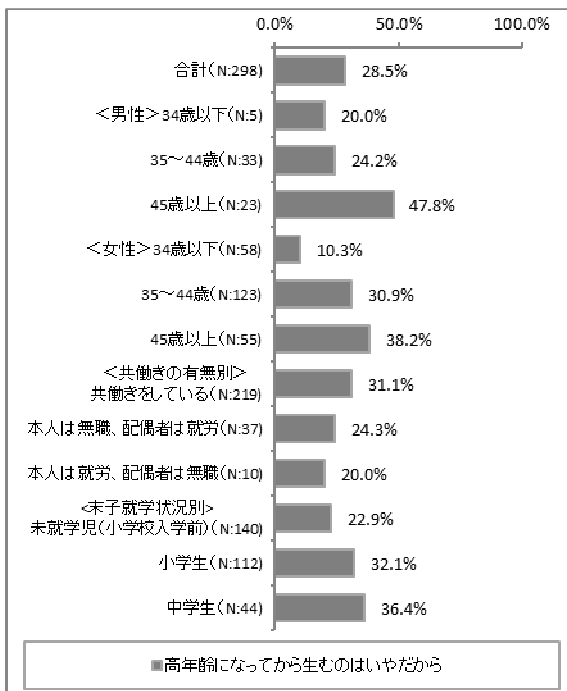
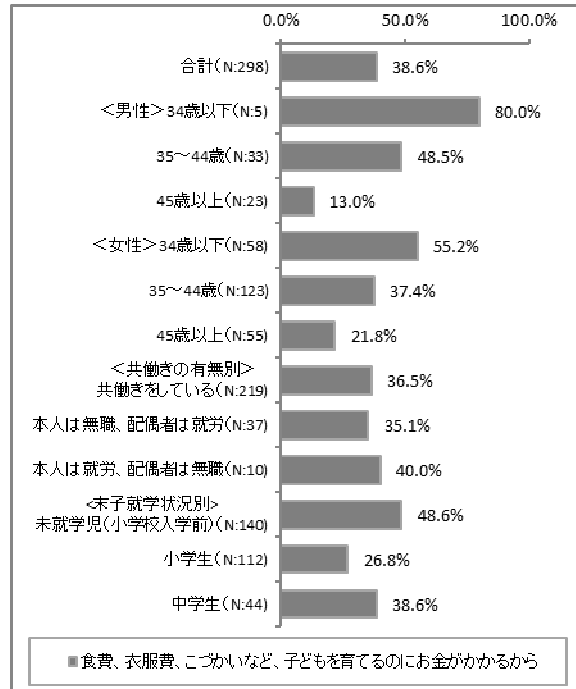
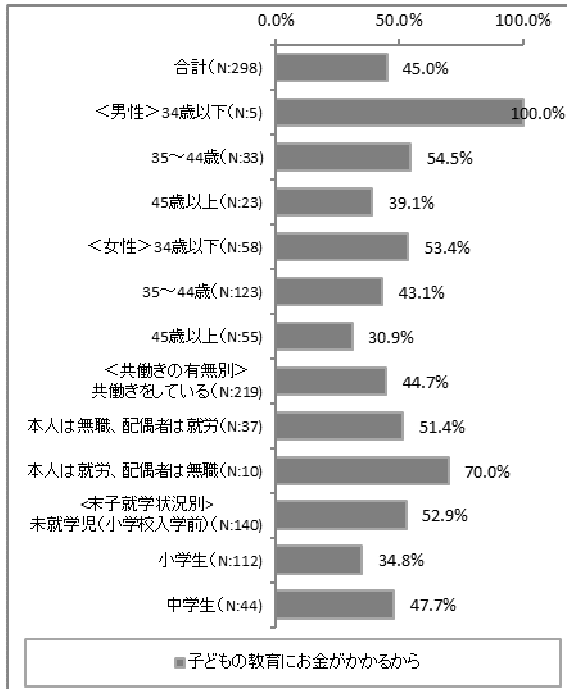
「子どもの教育にお金がかかるから」が46%と最も多く、次いで「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」36%、「高齢になってから産むのはいやだから」26%、「育児の心理的・肉体的負担が重いから」16%、「前回の妊娠・出産が大変だったから」10%の順となっている。

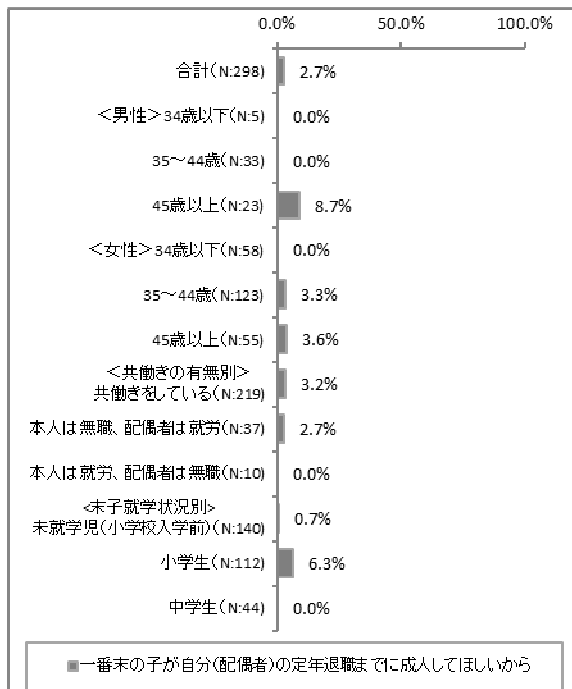
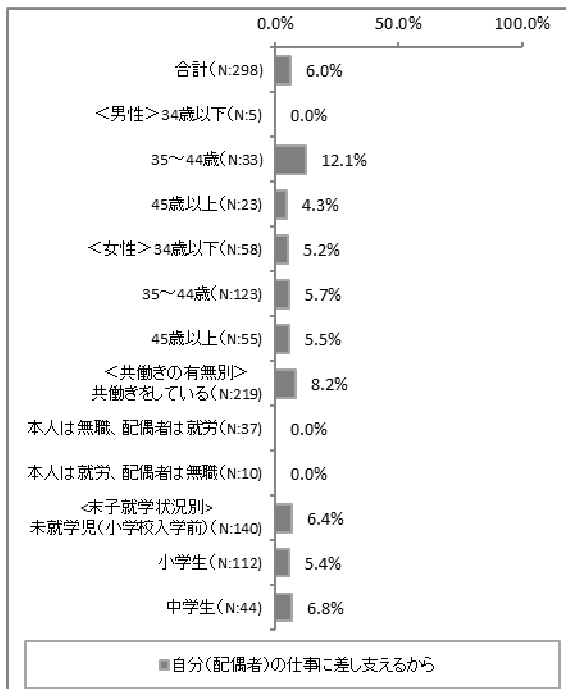
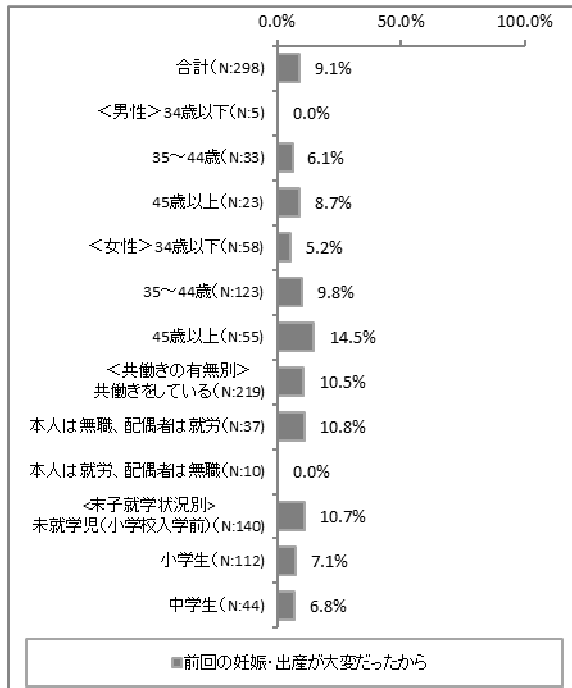
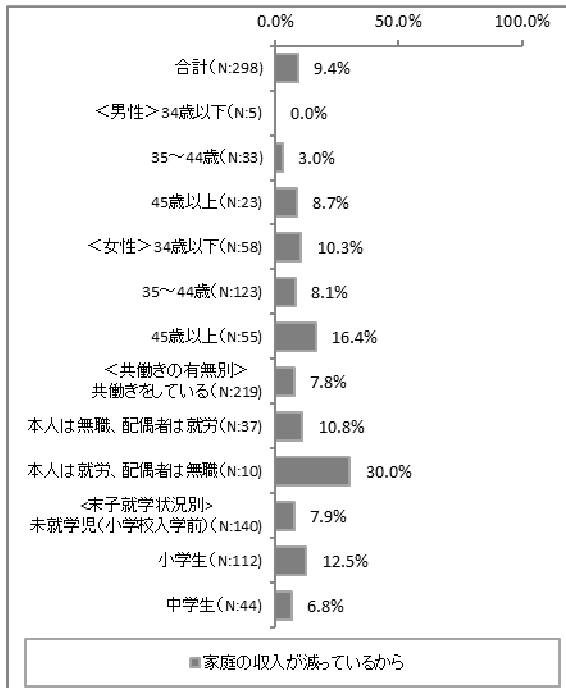
前回調査では、「子どもの教育にお金がかかるから」38%、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」34%、「家庭の収入が減っているから」23%、「高齢になってから産むのはいやだから」17%、「育児の心理的・肉体的負担が重いから」10%、「健康上の理由から」9%という割合、順位となっており、前回と比べて、「子どもの教育にお金がかかるから」が8ポイント、「高齢になってから産むのはいやだから」が9ポイント増加しており、「家庭の収入が減っているから」が14ポイント減少している。

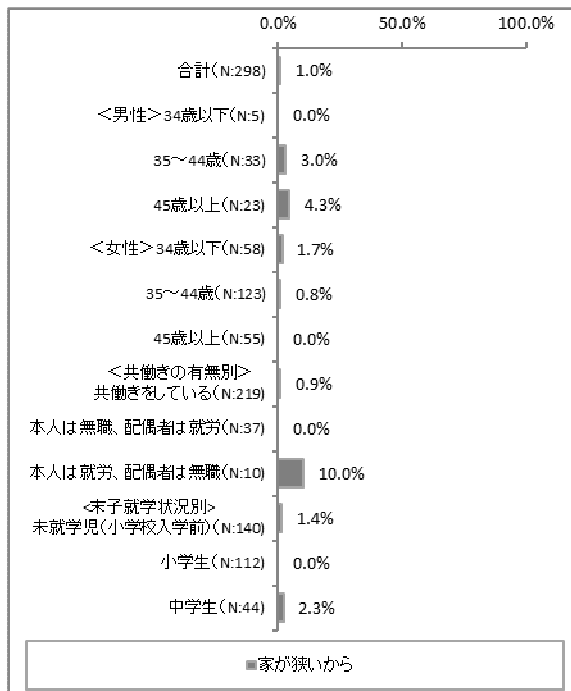
【男女別】

「子どもの教育にお金がかかるから」は男性 51%、女性 42%で男性が 9 ポイント多い。「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」については大きな差が見られない。「高年齢になってから産むのはいやだから」と「育児の心理的・肉体的負担が重いから」では、女性の割合が男性よりも 10 ポイント大きくなっている。

・ 性・年齢別、共働きの有無別、末子就学状況別の予定の子ども数が少ない理由（回答者本人）







【男性年齢別】

「子どもの教育にお金がかかるから」、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」については、「34歳以下」の割合（各々100%、80%）が最も大きい。

「高年齢になってから産むのはいやだから」については「45歳以上」の割合（48%）が、他の年代よりも大きい。

【女性年齢別】

「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」、「子どもの教育にお金がかかるから」、「育児の心理的、肉体的負担が重いから」については、「34歳以下」の割合（各々55%、53%、24%）が最も大きい。

一方、「高年齢になってから産むのはいやだから」については「45歳以上」の割合（38%）が他の年代よりも大きくなっており男性と同じ傾向である。

【共働きの有無別】

「共働きをしている」で「高年齢になってから産むのはいやだから」が31%と大きくなっており、「本人は無職、配偶者は就労」では「育児の心理的、肉体的負担が重いから」が32%と大きくなっている。「本人は就労、配偶者は無職」では「子どもの教育にお金がかかるから」、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」の割合（各々70%、40%）が大きくなっている。

【末子就学状況別】

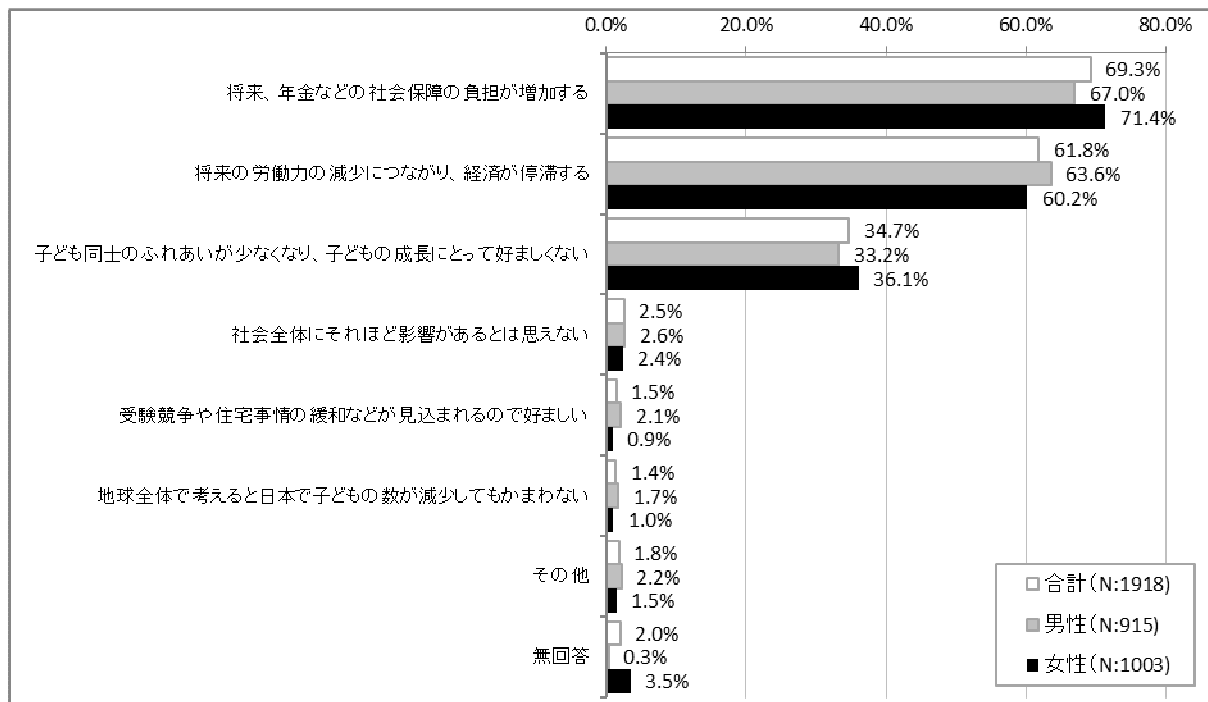
「未就学児」で「子どもの教育にお金がかかるから」、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」の割合（各々53%、49%）が大きくなっている。

「高年齢になってから産むのはいやだから」の割合は、「中学生」「小学生」で割合（各々36%、32%）と大きくなっている。

子ども数の減少について

問13. わが国では、近年、出生率が低下し、子どもの数が減少しています。あなたとあなたの配偶者は、子どもの数が減少することの影響についてどのように考えますか。(2つまで)

・子ども数減少の影響についての考え（回答者と配偶者の合計）



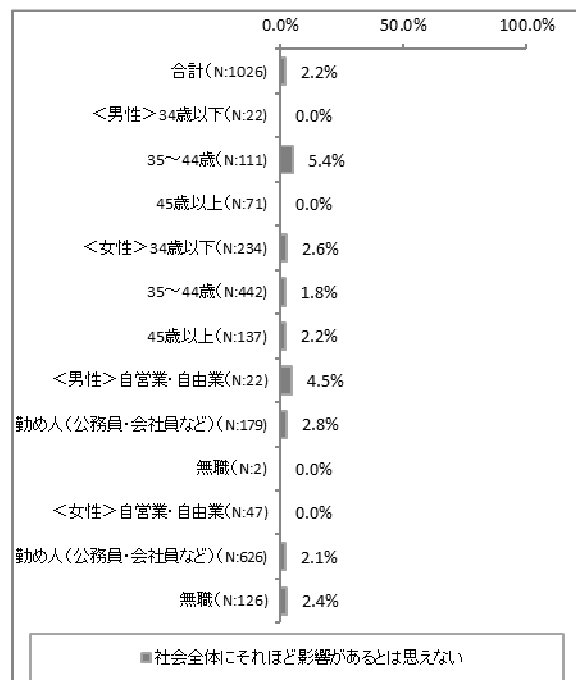
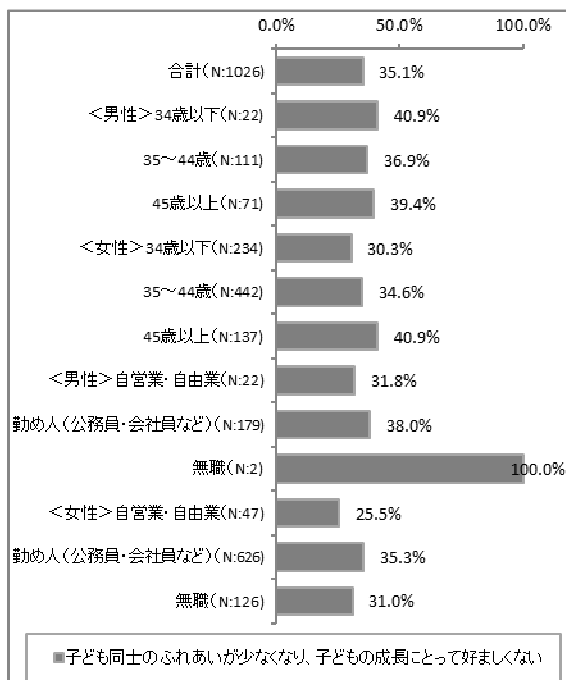
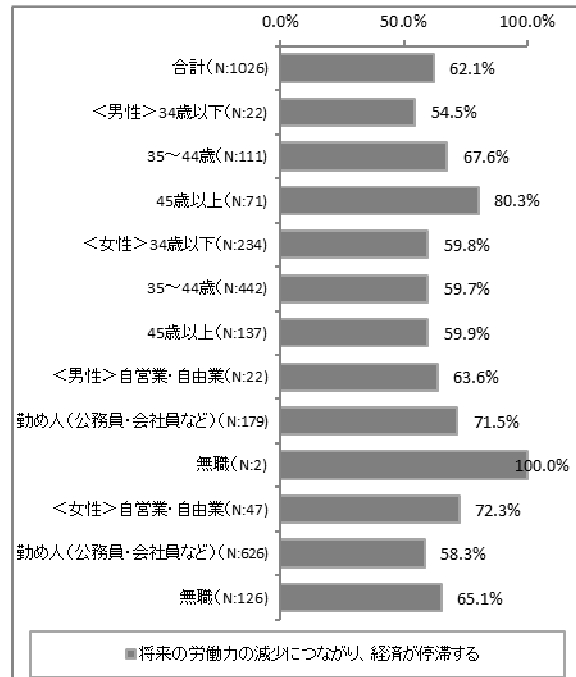
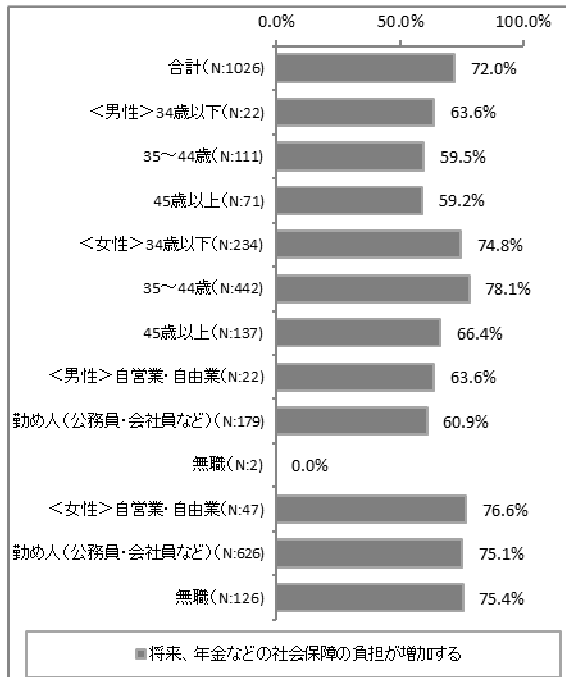
「将来、年金などの社会保障の負担が増加する」が69%と最も多く、次いで「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」62%、「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」35%の順となっており、これら3項目に回答が集中している。

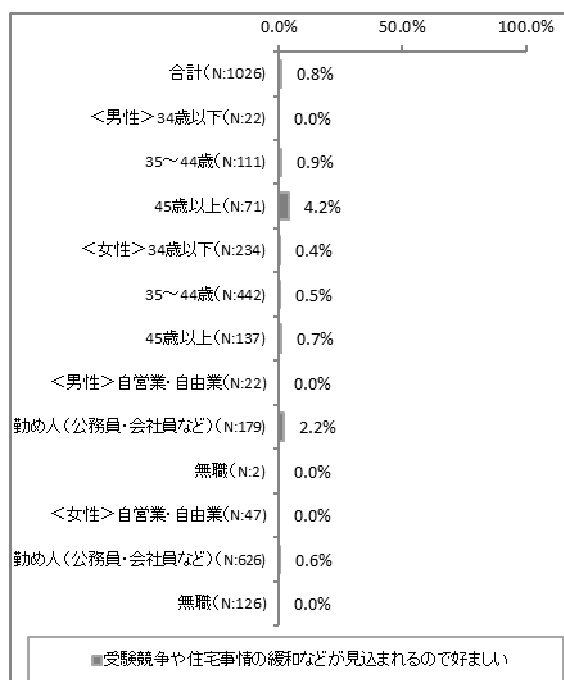
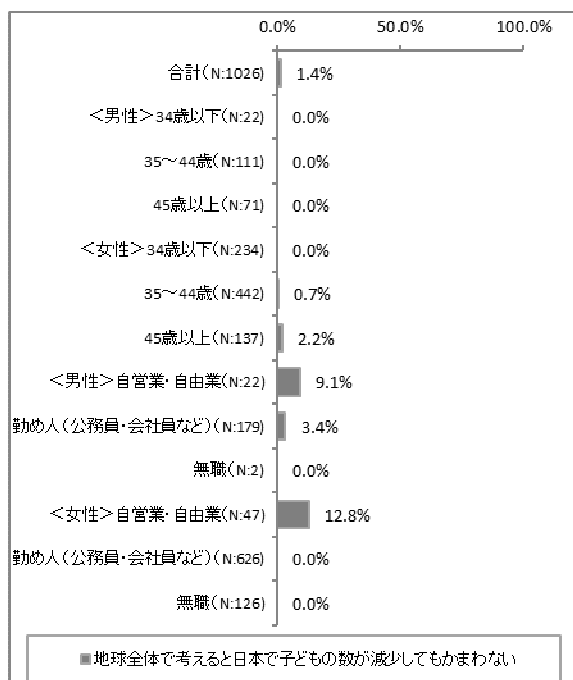
前回調査では、「将来、年金などの社会保障の負担が増加する」66%、「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」60%「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」44%、という割合、順位となっており、前回と同じ傾向である。

【男女別】

「将来、年金などの社会保障負担が増加する」は、女性（71%）の方が男性（67%）よりも大きくなっている。「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」は、男性（64%）の方が女性（60%）よりも大きくなっている。「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」の割合は、女性（36%）の方が男性（33%）よりも大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の子ども数減少の影響についての考え（回答者本人）





【男性年齢別】

「将来、年金などの社会保障負担が増加する」は、「34歳以下」(64%)が最も大きい。「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」は、「45歳以上」(80%)が他の年代よりも大きくなっている。「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」は、「34歳以下」で41%と大きくなっている。

【女性年齢別】

「将来、年金などの社会保障負担が増加する」は、「35~44歳」(78%)が最も大きい。「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」は、年代による差はなく60%となっている。「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」は、「45歳以上」で41%と大きくなっている。

【男性職業別】

「将来、年金などの社会保障負担が増加する」は、「自営業・自由業」(64%)で他の就業状況よりも大きくなっている。

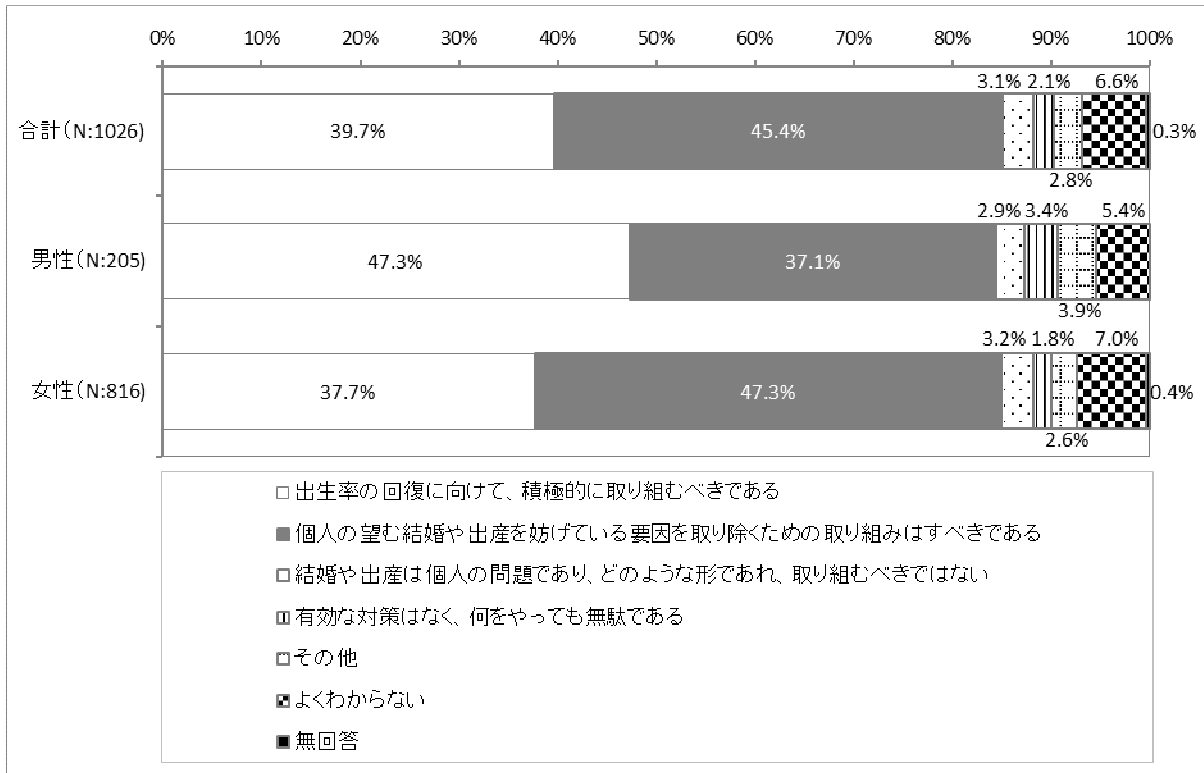
「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」、「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」の割合は、「勤め人」の割合(各々72%、38%)で「自営業・自由業」より大きくなっている。

【女性職業別】

「将来、年金などの社会保障負担が増加する」は各就業状況で75%~76%と就業状況による大きな差は見られない。「将来の労働力の減少につながり、経済が停滞する」の割合は、「自営業・自由業」72%と大きくなっており、「子ども同士のふれあいが少なくなり、子どもの成長にとって好ましくない」は「勤め人」が35%と大きくなっている。

問14. 少子化に対して、国・県・市町村はどのように取り組むべきだと考えますか。

・少子化に対して、国・県・市町村はどのように取り組むべきかの考え（本人回答）

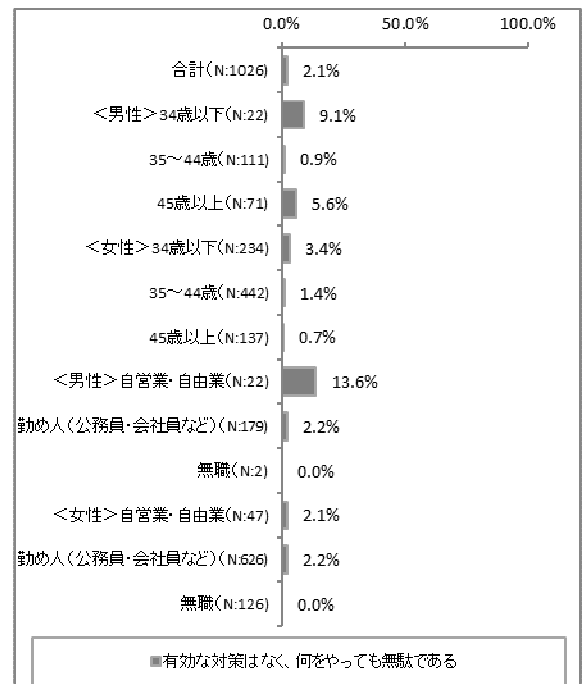
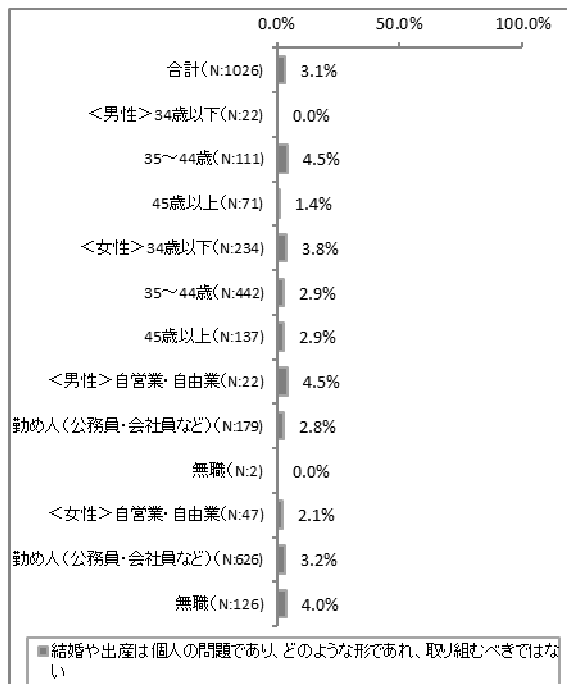
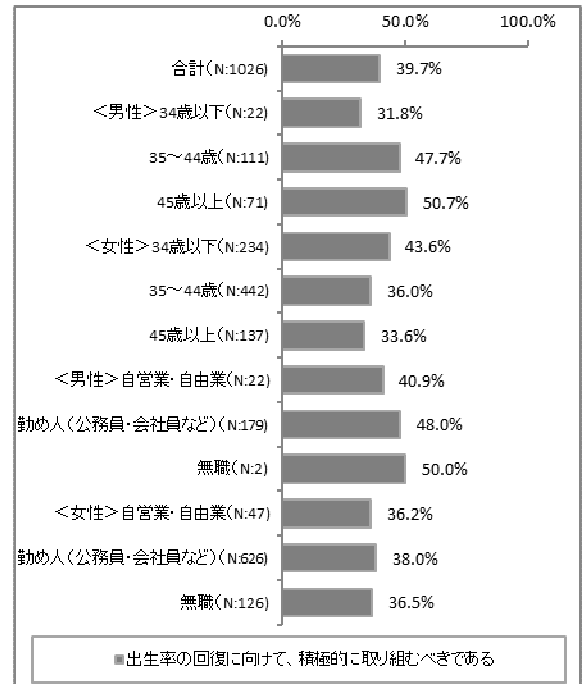
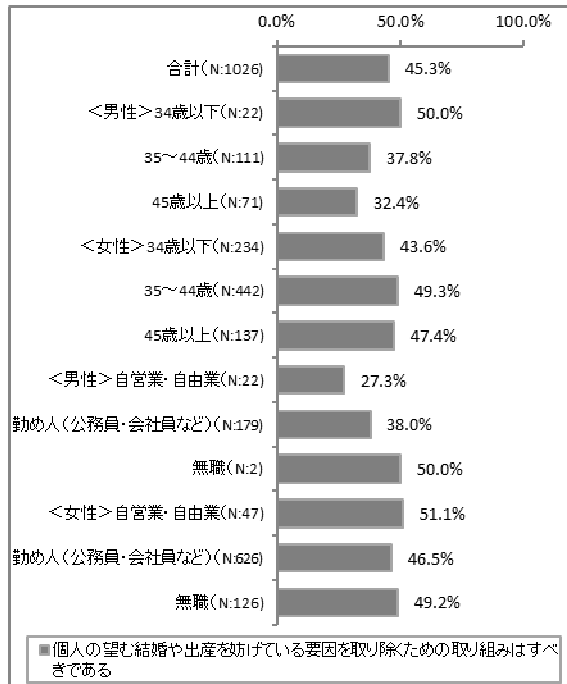


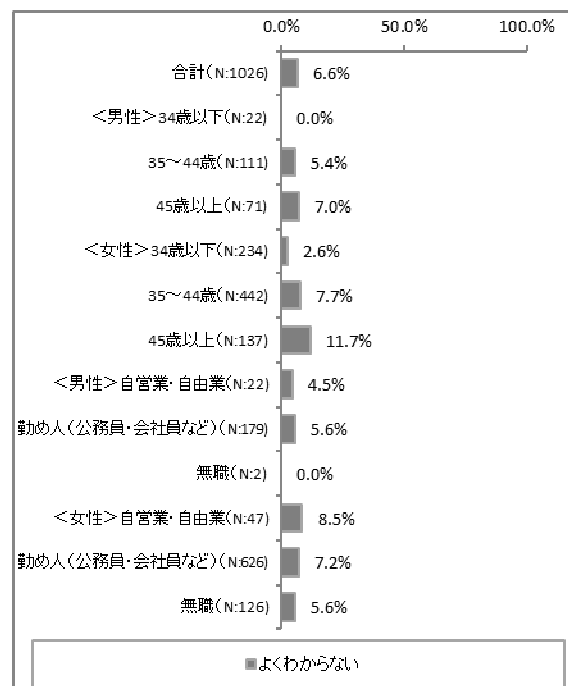
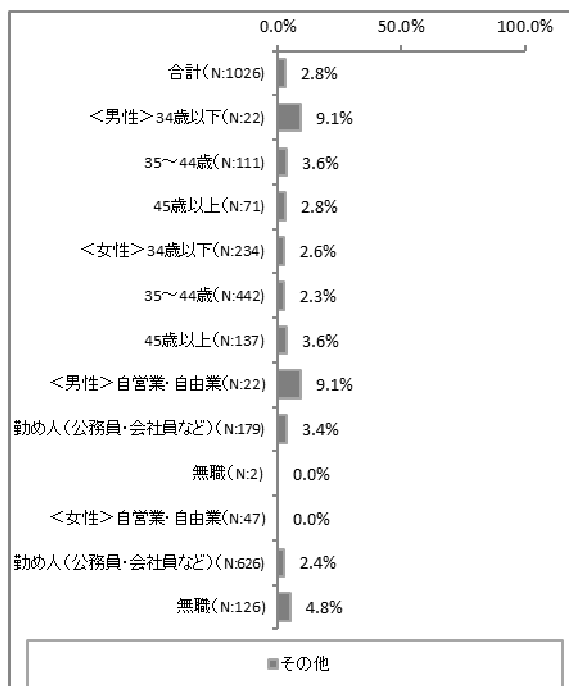
「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべきである」が45%、「出生率の回復に向けて積極的に取り組むべきである」が40%と、この2項目で全体の85%を占めている。その他の項目は、いずれも割合が小さい。

【男女別】

「出生率の回復に向けて積極的に取り組むべきである」で男性が女性よりも9ポイント大きくなっている一方、「個人の望む結婚や出産を妨げる要因を取り除くための取組はすべきである」で女性が男性よりも10ポイント大きくなっている。その他の項目について差はほとんど見られない。

・性・年齢別、性・職業別の少子化に対して、国・県・市町村はどのように取り組むべきかの考え（本人回答）





【男性年齢別】

「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべきである」は、「34歳以下」(50%)で他の年代よりも大きくなっている。

また、「出生率の回復に向けて積極的に取り組むべきである」の割合は、「45歳以上」(51%)で他の年代よりも大きくなっている。

【女性年齢別】

「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべきである」の割合は、「35~44歳」(49%)で最も大きい。

「出生率の回復に向けて積極的に取り組むべきである」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(44%)で最も大きい。

【男性職業別】

「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべきである」は、「勤め人」(38%)で「自営業・自由業」より11ポイント大きい。

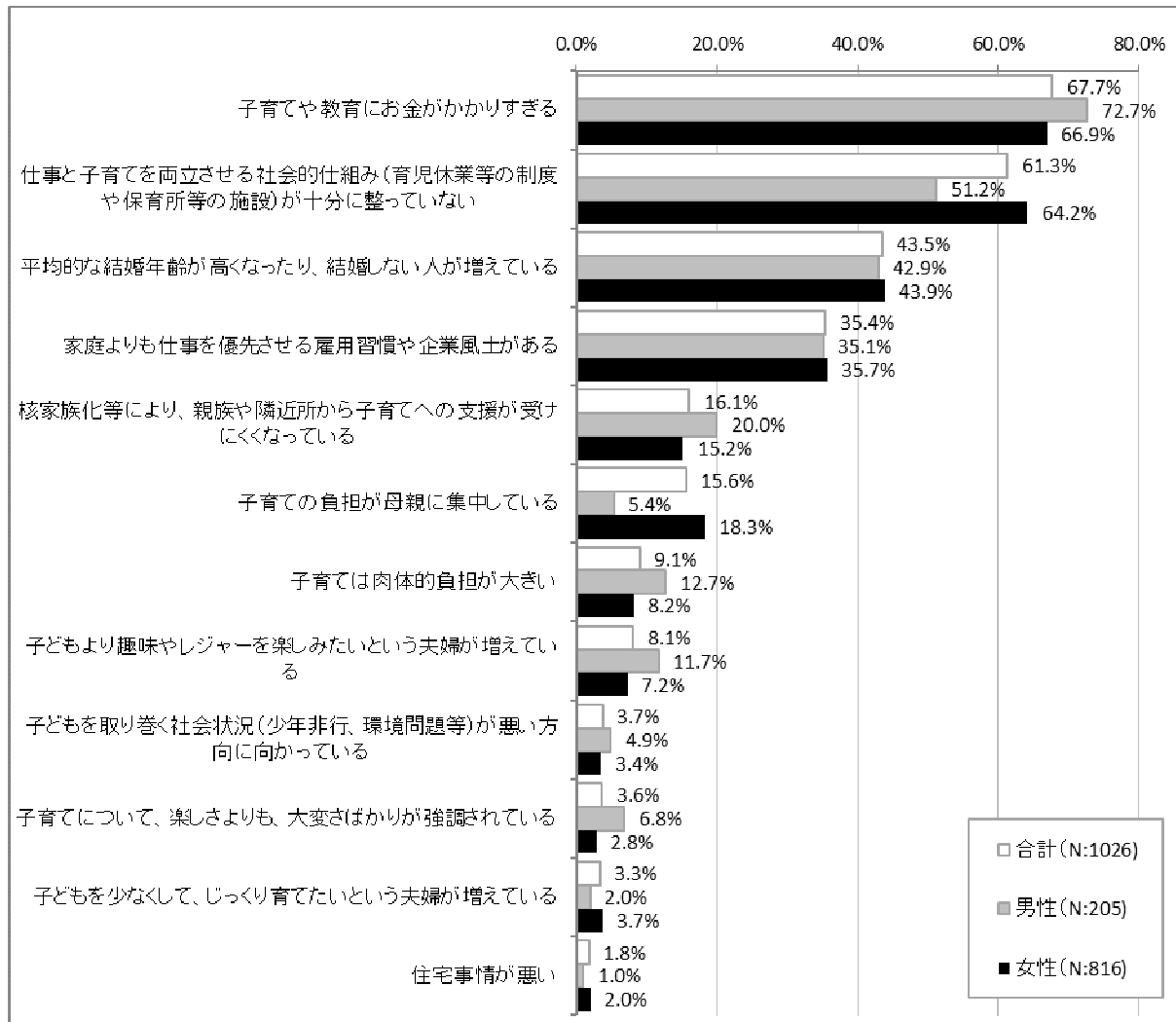
また、「出生率の回復に向けて積極的に取り組むべきである」については、「勤め人」の割合(48%)が大きくなっている。

【女性職業別】

「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取り組みはすべきである」は、「自営業・自由業」(51%)が最も大きい。「出生率の回復に向けて積極的に取り組むべきである」については、「勤め人」(38%)、「自営業・自由業」(36%)と差は小さくなっている。

問15. 出生率が低下している原因は何だと思いますか。(3つまで)

・出生率が低下している原因についての考え（本人回答）



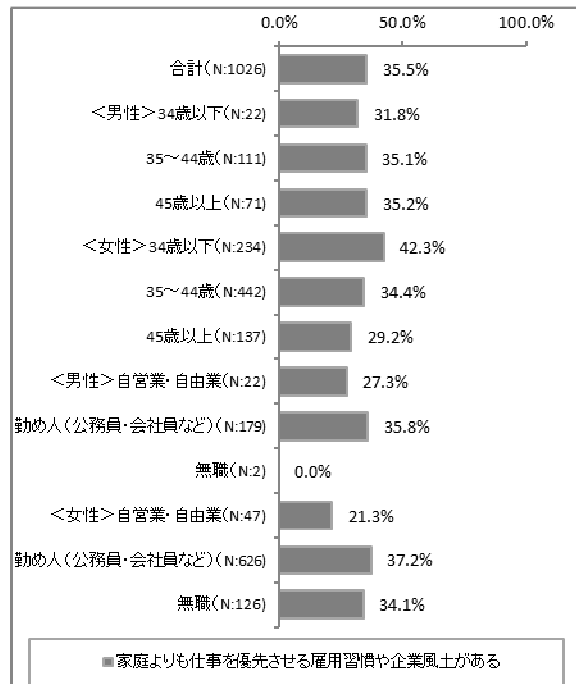
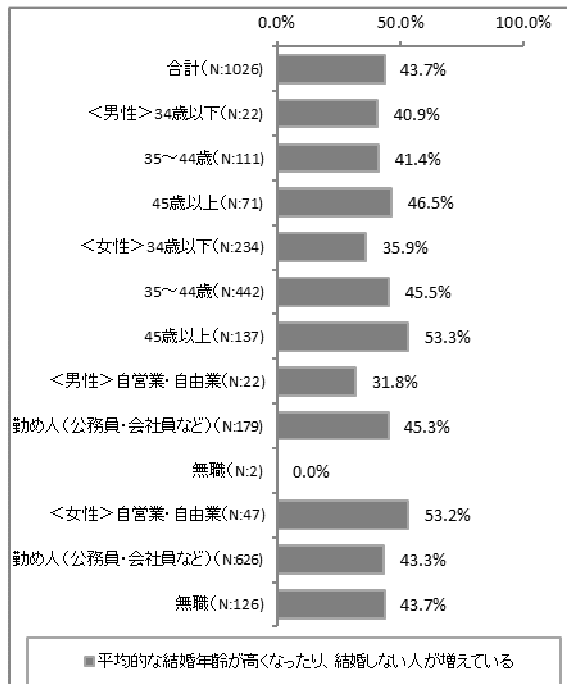
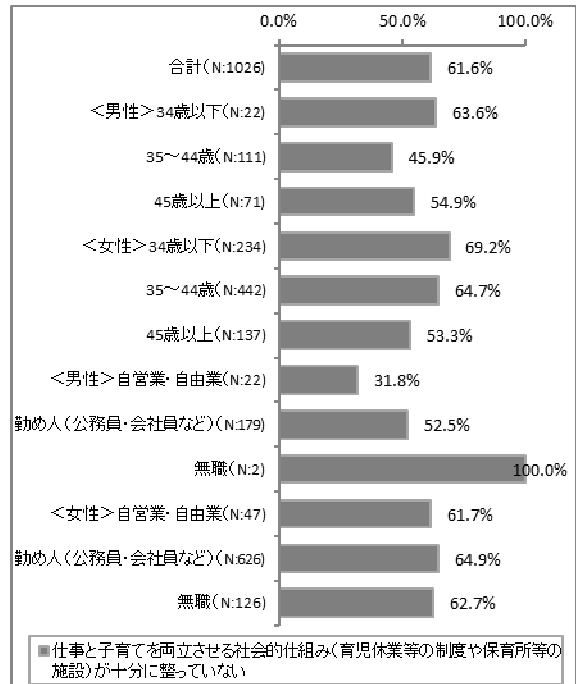
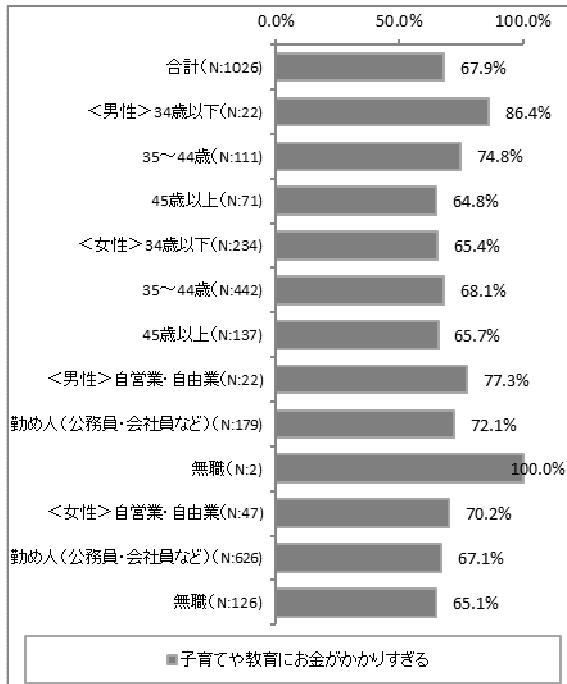
「子育てや教育にお金がかかるから」が68%と最も多く、次いで「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていないから」61%、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えているから」44%、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土があるから」35%の順となっている。

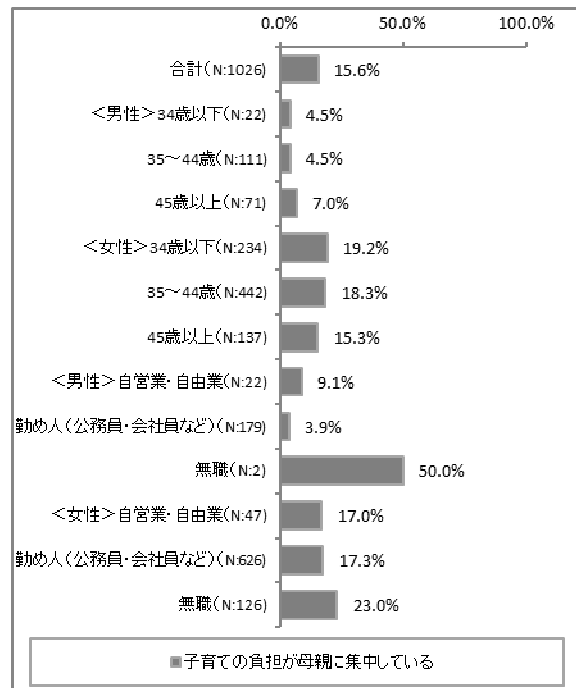
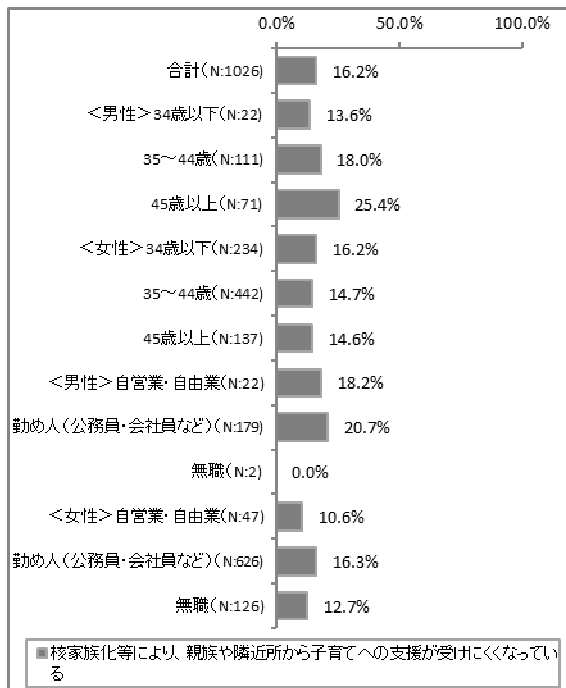
【男女別】

上位4項目の順位は男女とも同じであるが、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていないから」の割合は、女性（64%）の方が男性（51%）よりも大きく、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」は、男性（73%）の方が女性（67%）よりも大きくなっている。

その他の原因では、「子育ての負担が母親に集中しているから」は女性の方が大きく、「核家族化等により、親族や隣近所から子育てへの支援が受けにくくなっている」「子育ては肉体的負担が大きい」「子育てについて、楽しさよりも、大変さばかりが強調されている」は男性の方が大きくなっているが、それ以外ではほとんど差が見られない。

・性・年齢別、性・職業別の出生率が低下している原因についての考え（本人回答）





【男性年齢別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていないから」については、「34歳以下」（各々86%、64%）が他の年代よりも大きくなっている。

「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えているから」、「核家族化等により、親族や隣近所から子育てへの支援が受けにくくなっている」の割合は「45歳以上」（各々47%、25%）で、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土があるから」は「35~44歳」「45歳以上」（ともに35%）で、他の年代よりも大きくなっている。

【女性年齢別】

「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていないから」、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土があるから」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（各々69%、42%）で最も大きくなっている。

一方、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えているから」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で53%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は「自営業・自由業」の割合（77%）が「勤め人」よりも大きくなっている。また、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていないから」、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えているから」、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土があるから」は「勤め人」（各々53%、45%、36%）で「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

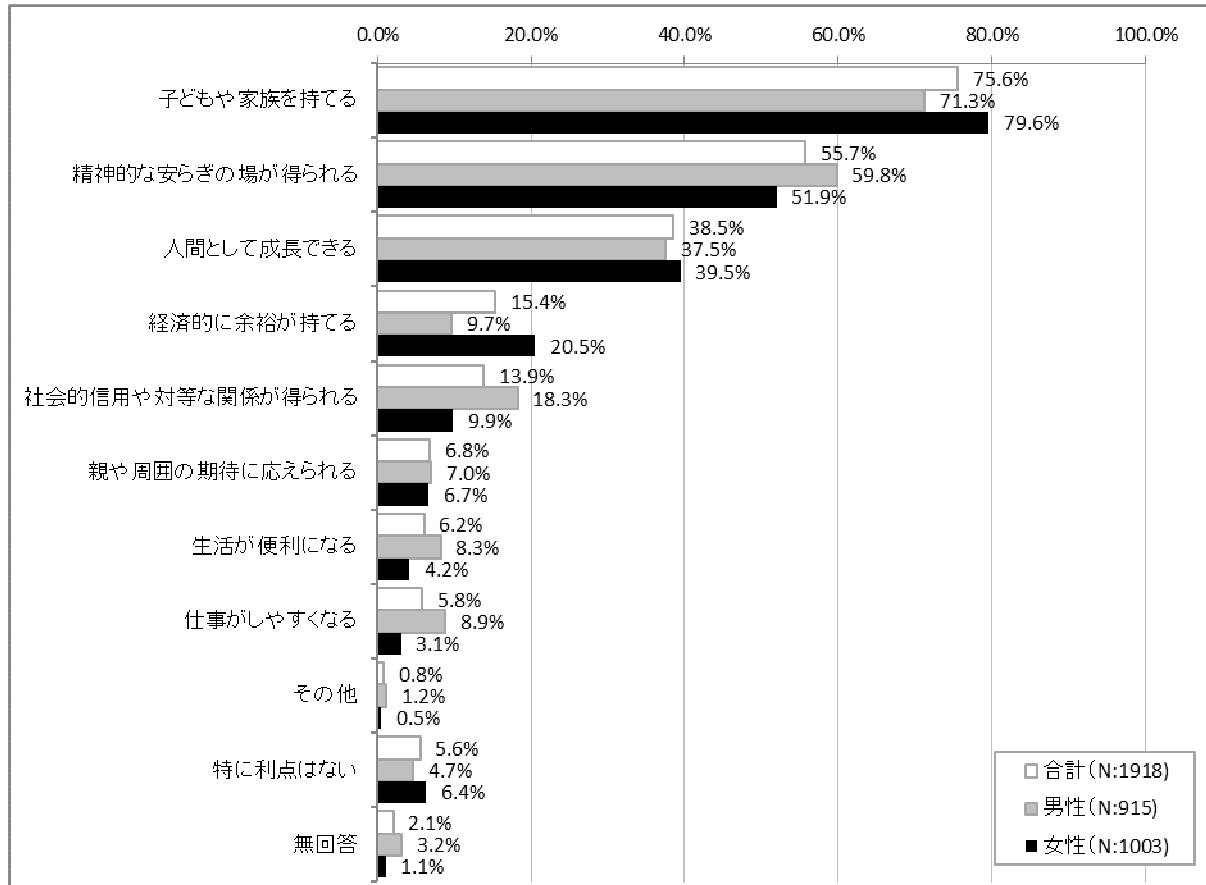
【女性職業別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えているから」については、「自営業・自由業」の割合（各々70%、53%）が「勤め人」よりも大きくなっている。一方、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていないから」、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土があるから」は、「勤め人」（各々65%、37%）が「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

結婚に対する意識について

問16. あなたとあなたの配偶者は、結婚することの利点はどのようなことだと思いますか。
(3つまで)

・結婚することの利点（回答者と配偶者の合計）

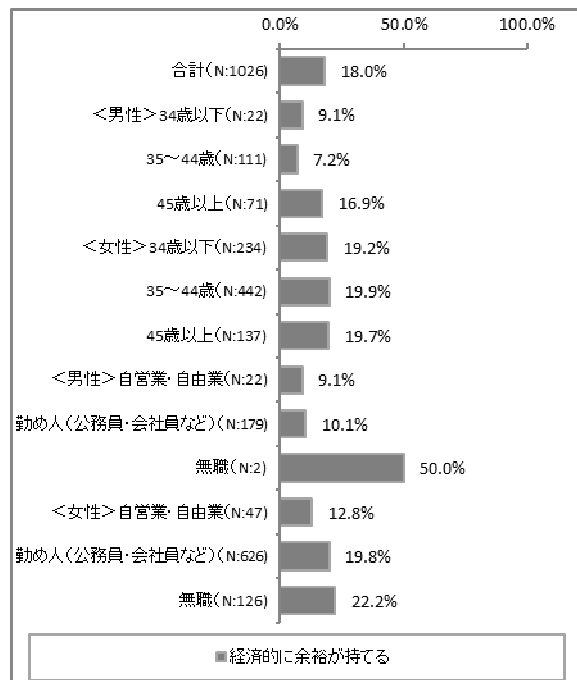
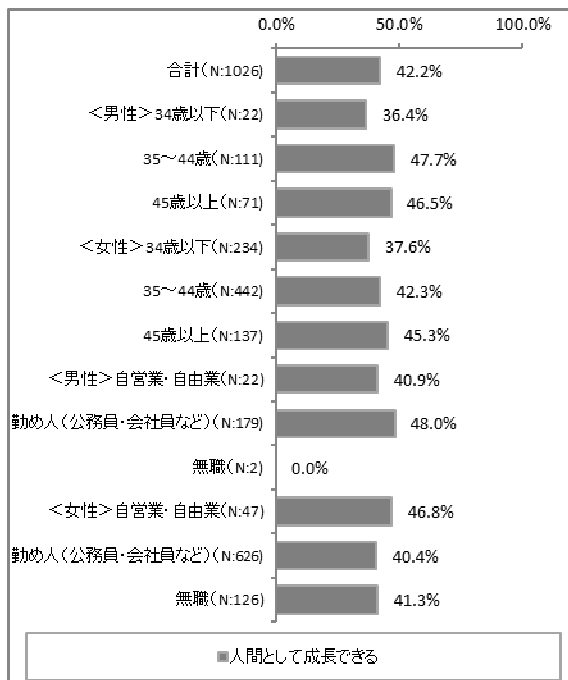
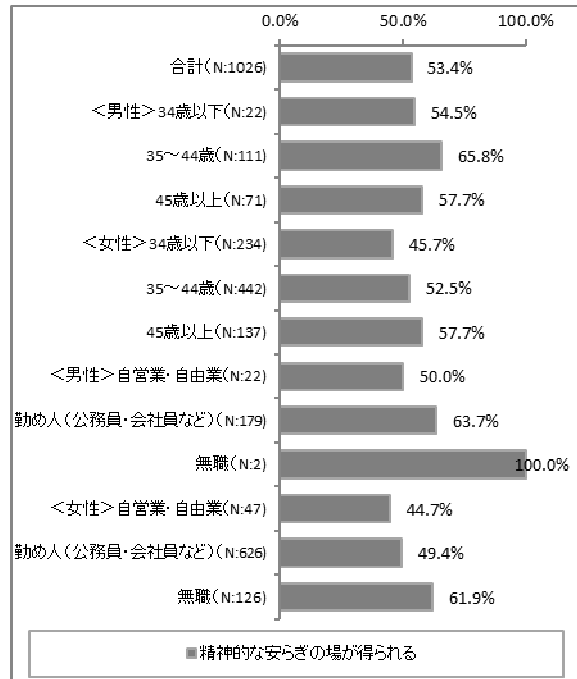
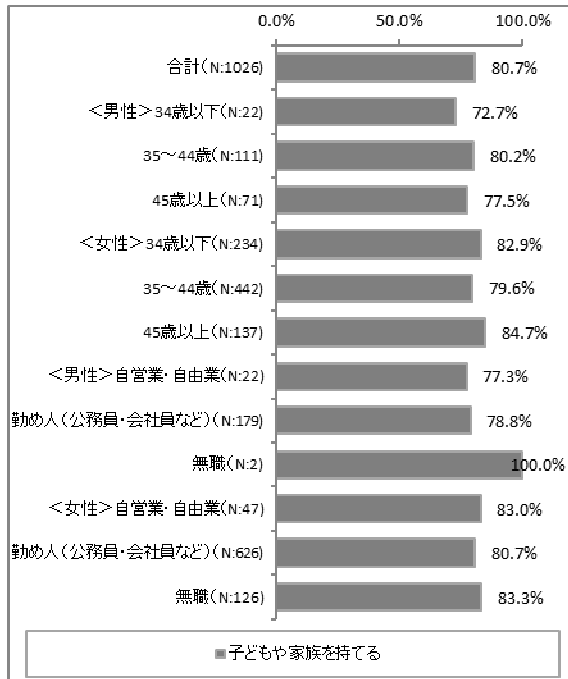


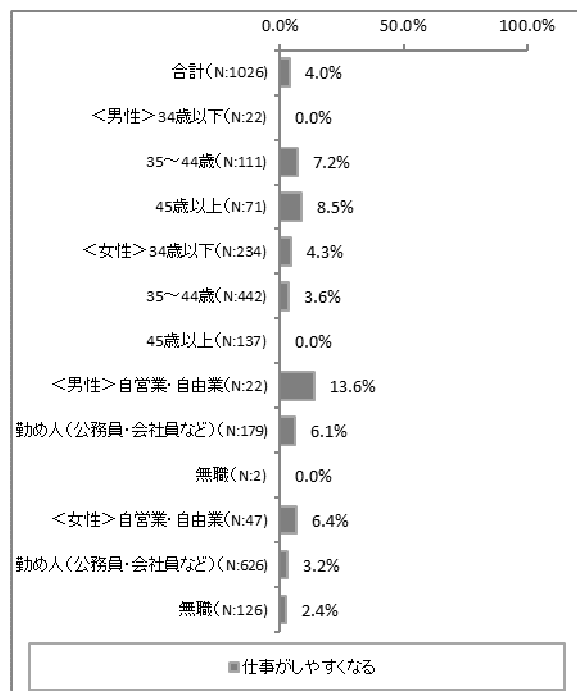
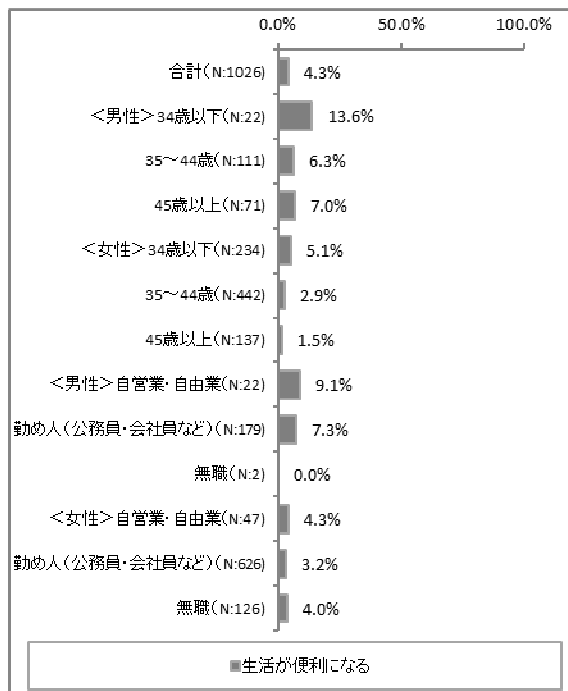
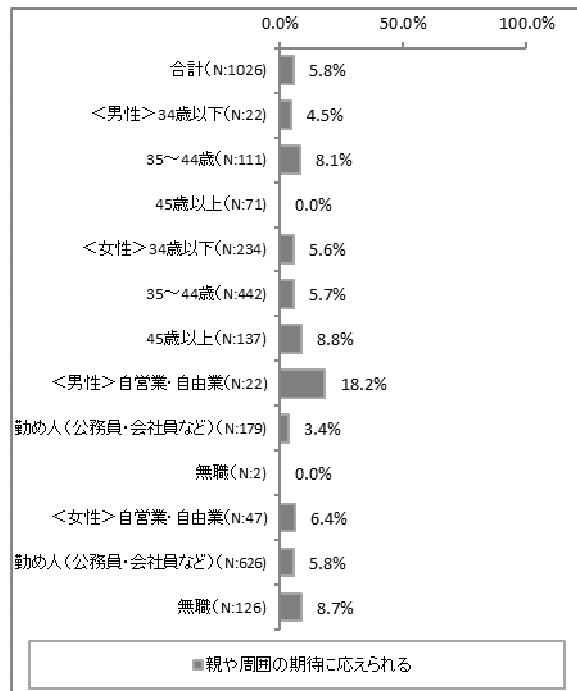
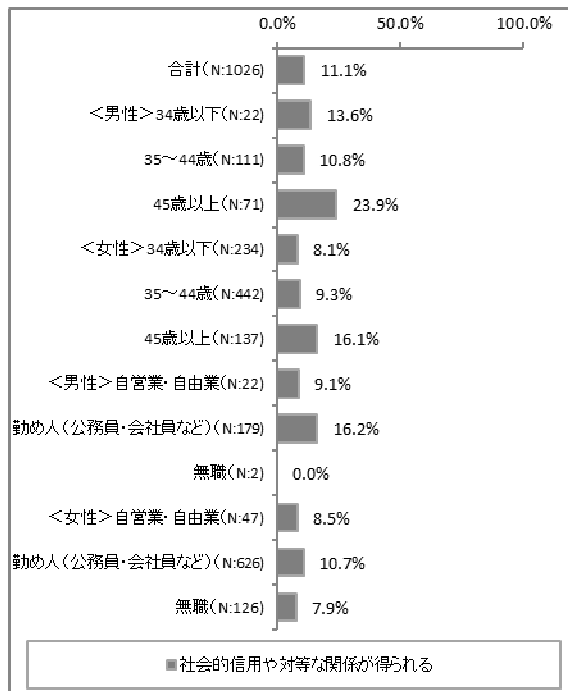
「子どもや家族を持てる」が76%と最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」56%、「人間として成長できる」39%、「経済的に余裕が持てる」15%、「社会的信用や対等な関係が得られる」14%の順となっており、他の項目は10%以下となっている。

【男女別】

「子どもや家族を持てる」、「人間として成長できる」については、女性の割合（各々80%、40%）が男性より大きい。また、「精神的な安らぎの場が得られる」、「社会的信用が得られる」は男性が女性より8ポイント大きく、「経済的に余裕が持てる」では女性が男性より11ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の結婚することの利点（回答者本人）





【男性年齢別】

「子どもや家族を持てる」、「精神的な安らぎの場が得られる」、「人間として成長できる」については、「35～44歳」の割合（各々80%、66%、48%）が大きくなっている。

「社会的信用や対等な関係が得られる」、「経済的に余裕が持てる」については、「45歳以上」の割合（各々24%、17%）が大きくなっている。

【女性年齢別】

「子どもや家族を持てる」、「精神的な安らぎの場が得られる」、「人間として成長できる」、「社会的信用や対等な関係が得られる」について、「45歳以上」の割合（各々85%、58%、45%、16%）が他の年代よりも大きくなっている。「経済的に余裕が持てる」の割合は、すべての年代で19%前後となっている。

【男性職業別】

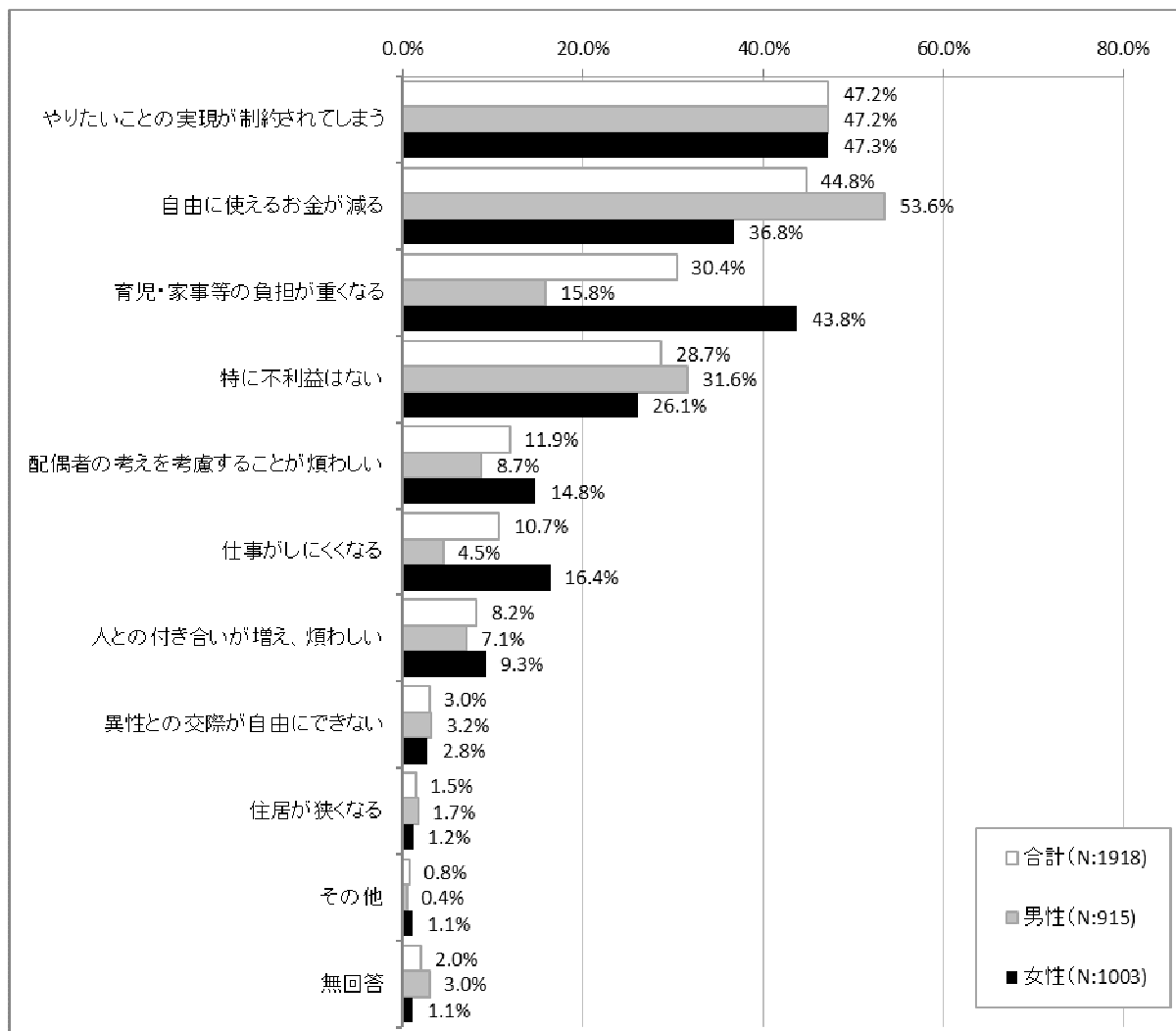
「子どもや家族を持てる」、「精神的な安らぎの場が得られる」、「人間として成長できる」の上位項目について、「勤め人」の割合（各々79%、64%、48%）が「自営業・自由業」より大きくなっている。

【女性職業別】

「子どもや家族を持てる」、「人間として成長できる」が「自営業・自由業」の割合（各々83%、47%）が「勤め人」より大きくなっている。「精神的な安らぎの場が得られる」、「経済的に余裕が持てる」、「社会的信用や対等な関係が得られる」については、「勤め人」の割合が「自営業・自由業」より大きくなっている。

問17. あなたとあなたの配偶者は、結婚することの不利益はどのようなことだと思いますか。
(3つまで)

・結婚することの不利益（回答者と配偶者の合計）

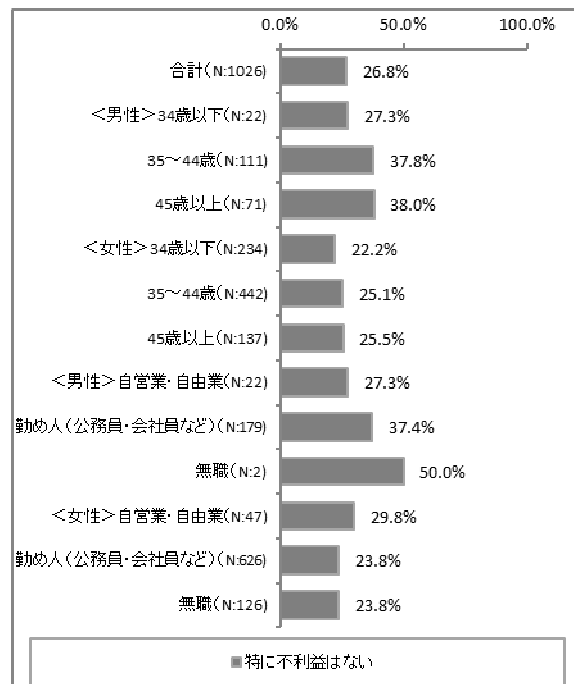
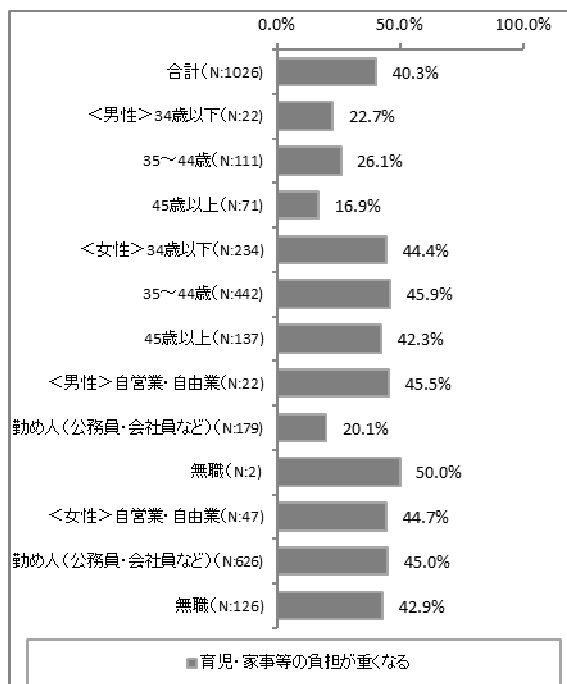
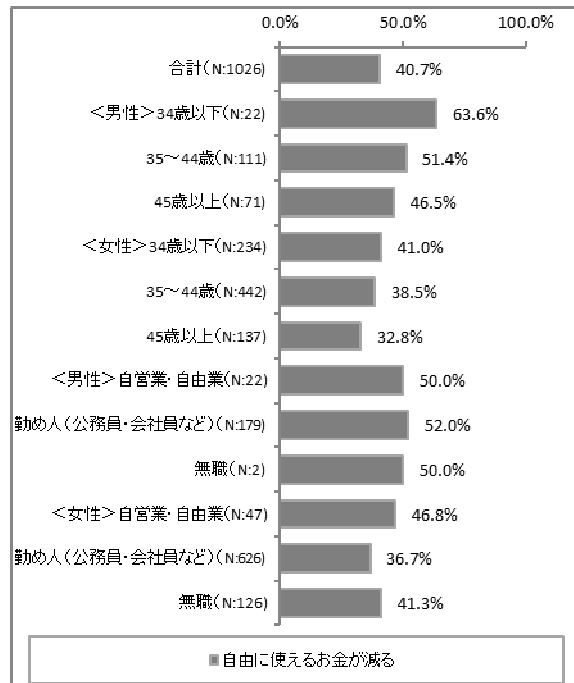
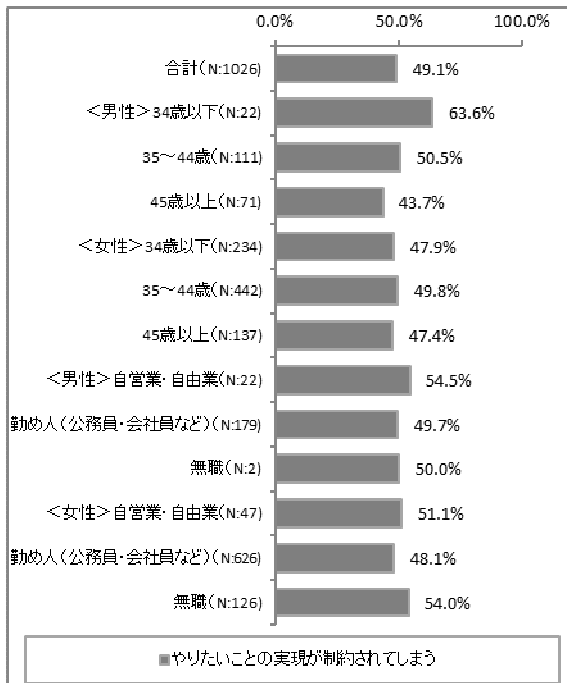


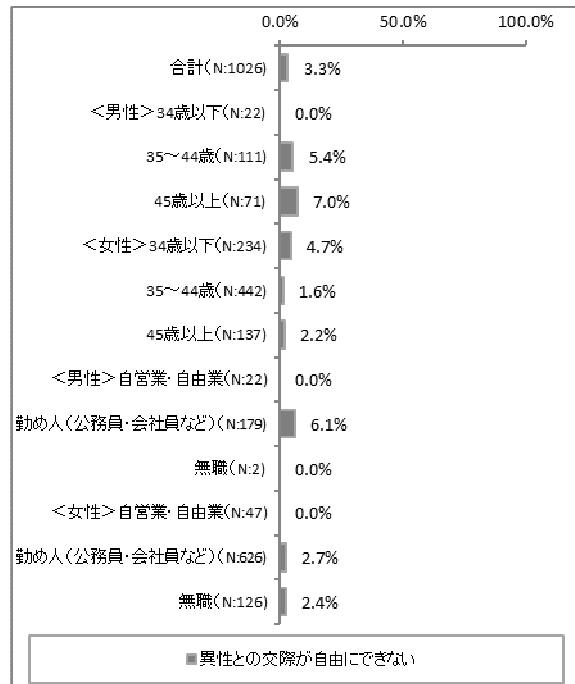
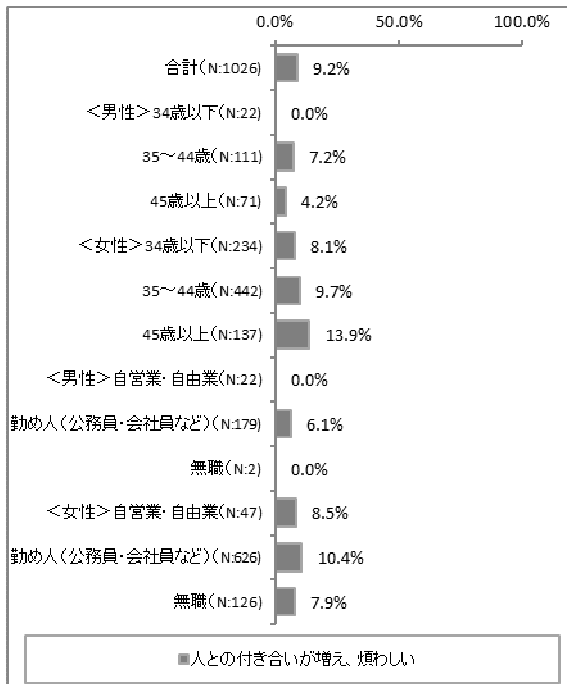
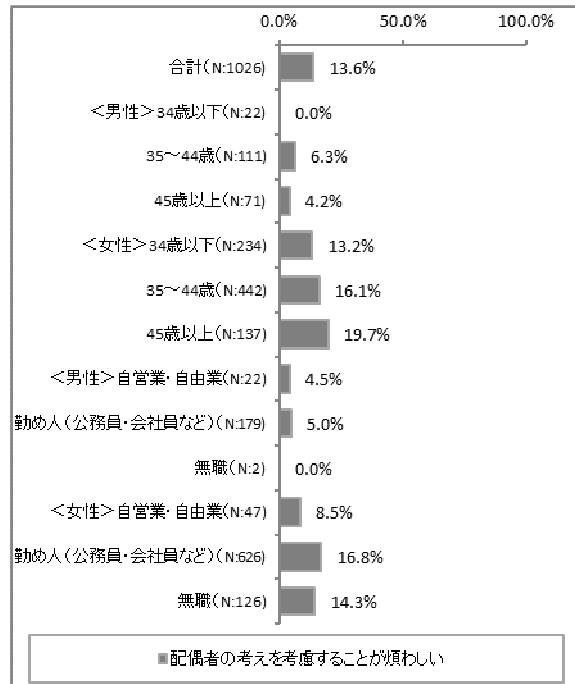
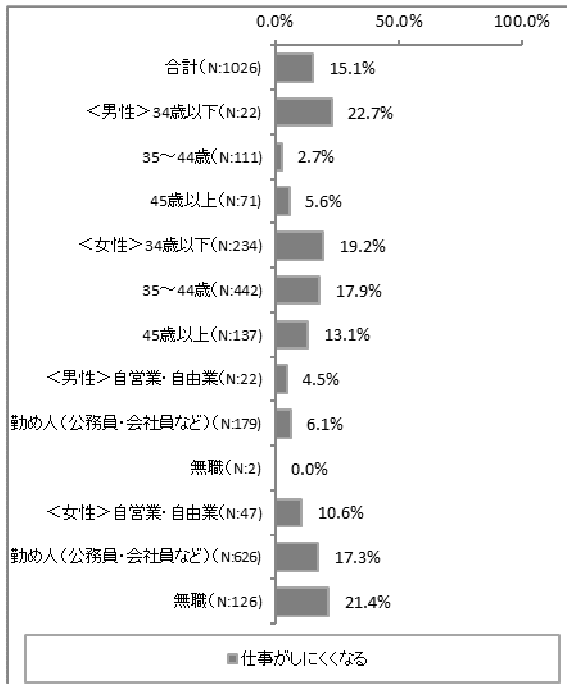
「やりたいことの実現が制約されてしまう」が47%と最も多く、次いで「自由に使えるお金が減る」45%、「育児・家事等の負担が重くなる」30%、「特に不利益はない」は29%の順となっている。

【男女別】

「やりたいことの実現が制約されてしまう」は男女とも差は見られないが、「自由に使えるお金が減る」は男性が女性より17ポイント大きくなっている。一方で、「育児・家事等の負担が重くなる」は女性が男性よりも28ポイント大きくなっており、男性と女性で不利益の考え方は大きく違っている。また、「特に不利益はない」は男性が女性より6ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の結婚することの不利益（回答者本人）





【男性年齢別】

「やりたいことの実現が制約されてしまう」、「自由に使えるお金が減る」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（各々64%、64%）が最も大きくなっており、他の年代より10ポイント以上大きい。「育児・家事等の負担が重くなる」については、「35～44歳」の割合（26%）が他の年代よりも大きくなっている。「特に不利益はない」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合（38%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「やりたいことの実現が制約されてしまう」、「育児・家事等の負担が重くなる」の割合は、「35～44歳」で（各々50%、46%）最も大きくなっている。「自由に使えるお金が減る」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で（41%）最も大きくなっている。「特に不利益はない」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合（26%）が最も大きくなっている。

【男性職業別】

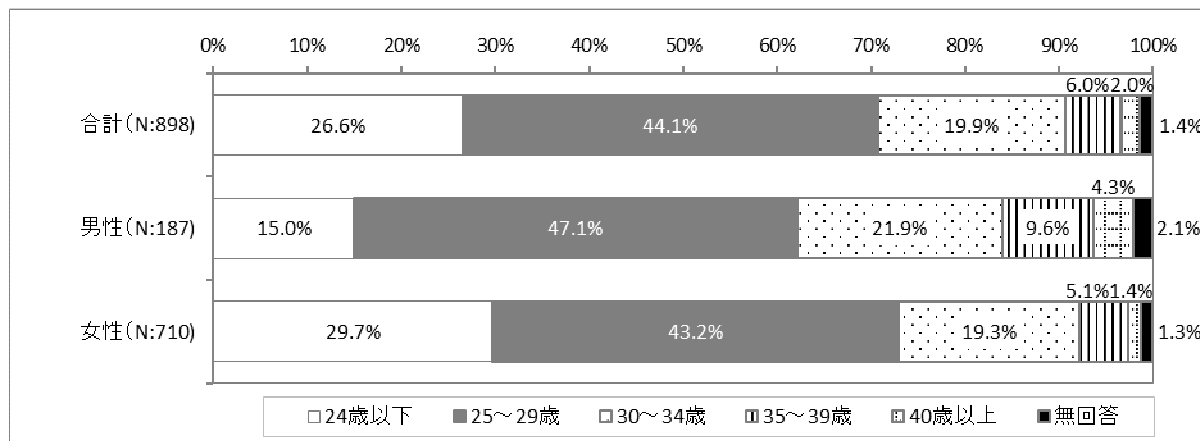
「やりたいことの実現が制約されてしまう」、「育児・家事等の負担が重くなる」については、「自営業・自由業」の割合（各々55%、46%）が「勤め人」より大きくなっている。「自由に使えるお金が減る」、「特に不利益はない」については、「勤め人」の割合（各々52%、37%）が「自営業・自由業」より大きくなっている。

【女性職業別】

「やりたいことの実現が制約されてしまう」は、「無職」の割合（54%）が他の就業状況より大きく、「自由に使えるお金が減る」、「特に不利益はない」については、「自営業・自由業」の割合（各々47%、30%）が他の就業状況より大きくなっている。「育児・家事等の負担が重くなる」については、「自営業・自由業」「勤め人」の割合（45%）は同じである。

問18. あなたが現在の配偶者と結婚した年齢をお答えください。(配偶者がいる方のみ)

・結婚した年齢



「25～29歳」が44%と最も大きくなっている。次いで、「24歳以下」が27%、「30～34歳」が20%の順になっている。

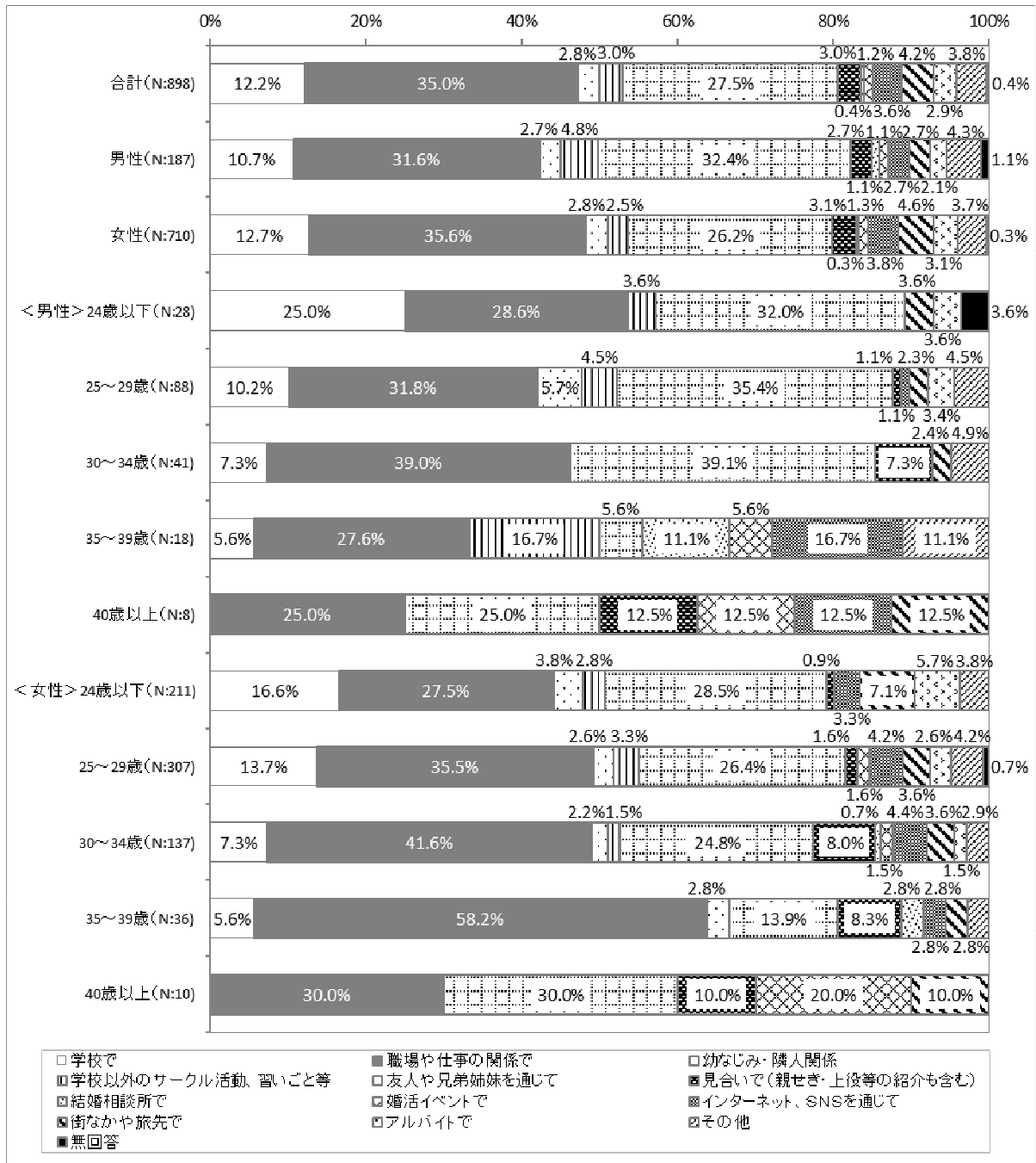
【男女別】

「25～29歳」が男性、女性の割合（各々47%、43%）と大きくなっている。「24歳以下」では男性15%に対して女性が30%と女性が15ポイント大きくなっており、「30～34歳」では男性22%に対して女性が19%と男性が3ポイント大きくなっている。

平均年齢では全体で27.4歳、男性が29.0歳、女性が26.9歳となっている。

問19. あなたが現在の配偶者と知り合った主なきっかけについてお答えください。
(配偶者がいる方のみ)

・結婚した年齢別の知り合ったきっかけ



「職場や仕事の関係で」の割合が35%と最も大きく、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が28%、「学校で」が12%の順となっている。他のきっかけについてはいずれも5%以下となっている。

【男女別】

「職場や仕事の関係で」、「学校で」は女性の割合（各々36%、13%）が男性（各々32%、11%）よりも大きくなっている。「友人や兄弟姉妹を通じて」は、男性の割合（32%）が女性（26%）より大きくなっている。

【男性年齢別】

「職場や仕事の関係で」、「友人や兄弟姉妹を通じて」は、「30～34歳」の割合（各々39%、39%）が最も大きくなっている。「学校で」は年齢が下がるについて大きくなっており、「24歳以下」で25%と最も大きくなっている。

また、「40歳以上」では、「婚活イベント」、「見合いで」、「街なかや旅先で」の割合（各々13%、13%、13%）が他年代より大きくなっている。「インターネット、SNSを通じて」は、「35～39歳」が17%、「40歳以上」が13%で他年代より大きくなっている。

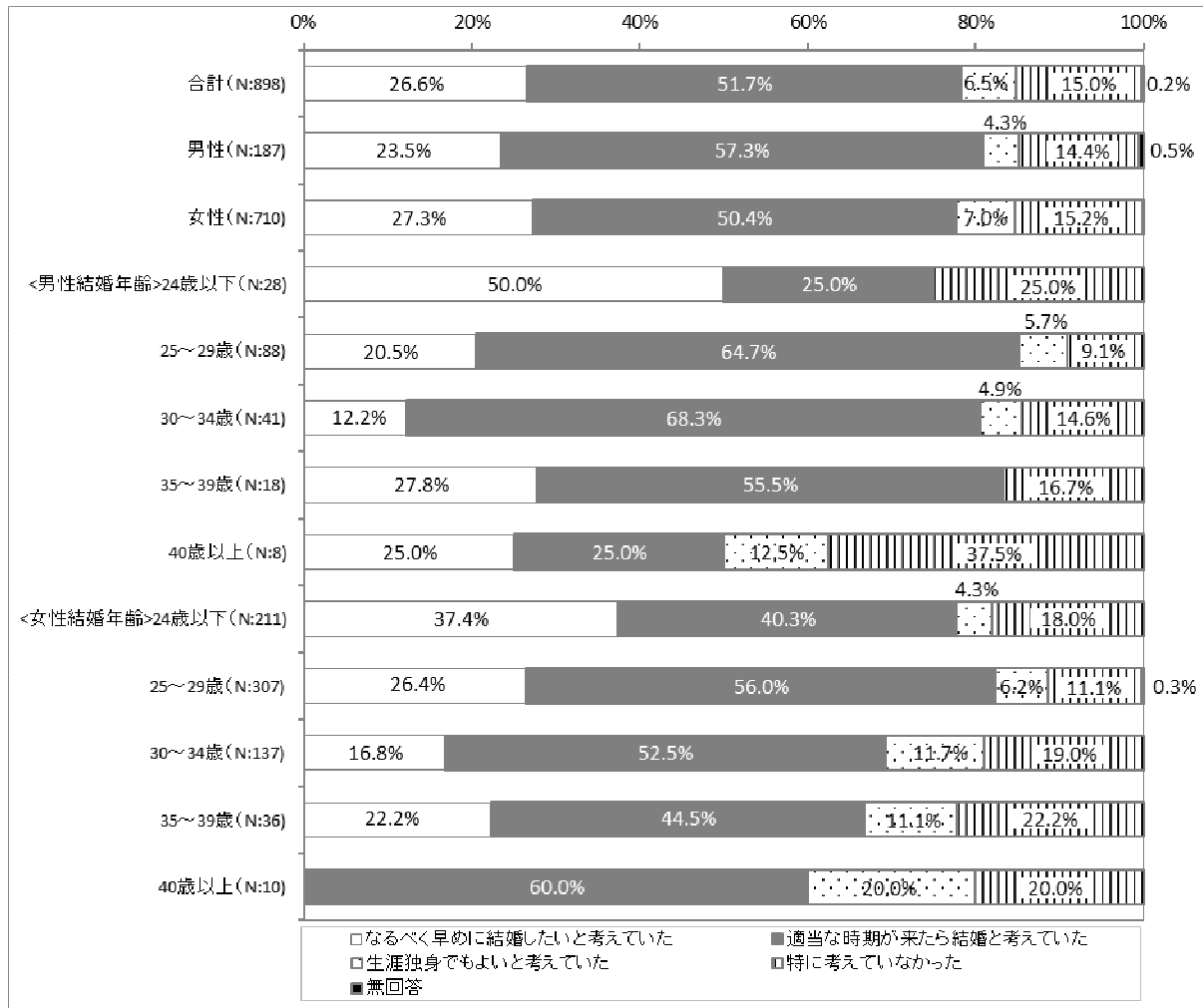
【女性年齢別】

「職場や仕事の関係で」は、「35～39歳」が58%で最も大きく、「友人や兄弟姉妹を通じて」は、「40歳以上」で30%と最も大きくなっている。「学校で」は男性と同様、年齢が下がるについて大きくなっており、「24歳以下」で17%と最も大きくなっている。

また、「40歳以上」では、「婚活イベント」、「見合いで」、「街なかや旅先で」の割合（各々20%、10%、10%）が他年代より大きくなっている。

問20. 現在の配偶者と交際する前のあなたの結婚に対する意識についてお答えください。
 (配偶者がいる方のみ)

・結婚した年齢別の意識



「適切な時期が来たら結婚と考えていた」が最も大きく 52%となっている。次いで、「なるべく早めに結婚したいと考えていた」が27%、「特に考えていなかった」が15%、「生涯独身でもよいと考えていた」が7%となっている。

【男女別】

「適切な時期が来たら結婚と考えていた」について、男性の割合（57%）が女性（50%）よりも7ポイント大きくなっている。「なるべく早めに結婚したいと考えていた」は男性が24%、女性が27%と女性が大きくなっている。

【男性結婚年齢別】

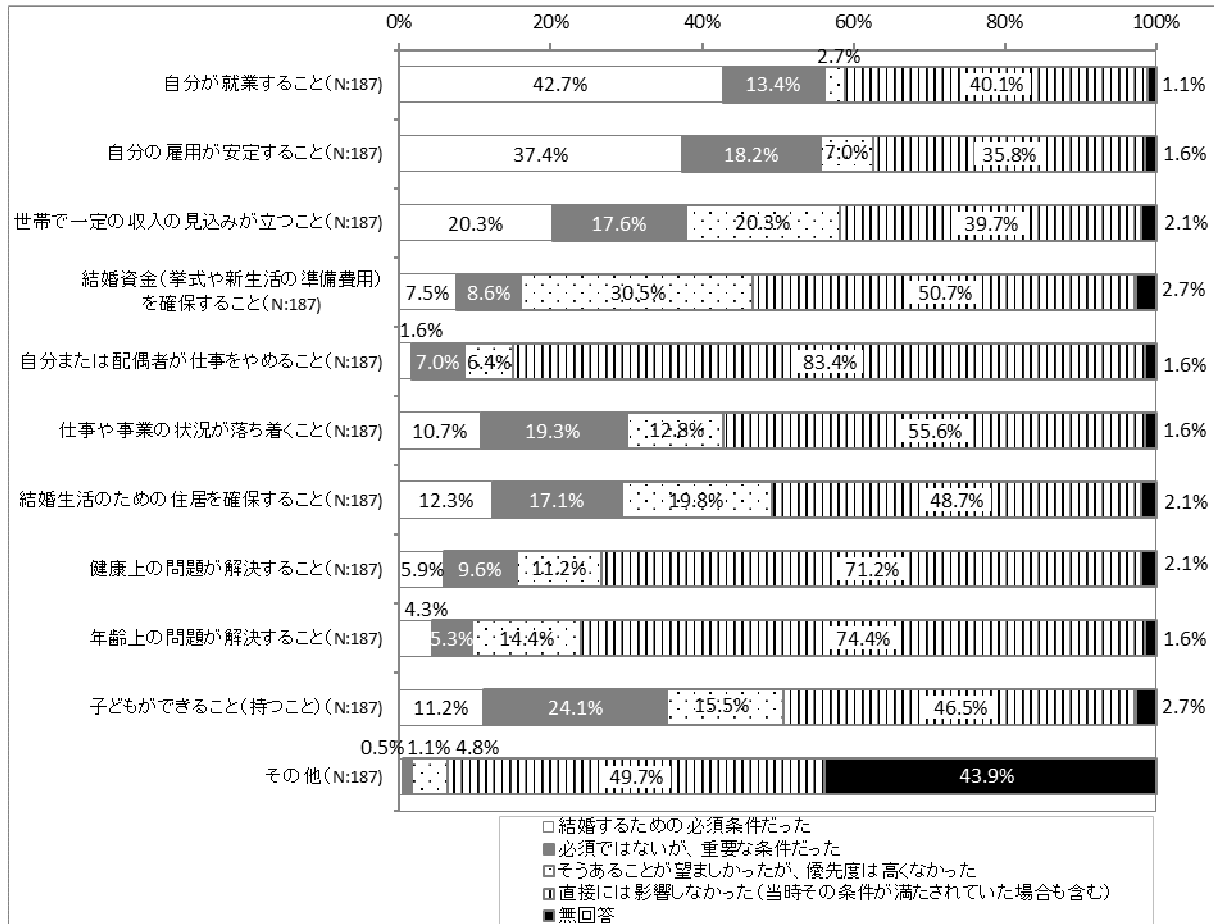
「適当な時期が来たら結婚と考えていた」が「30～34歳」が68%と最も大きく、「なるべく早めに結婚したいと考えていた」は「24歳以下」で50%と他年代より20ポイント以上大きくなっている。「生涯独身でもよいと考えていた」、「特に考えていない」が「40歳以上」の割合（各々13%、38%）と他年代より大きい。

【女性結婚年齢別】

「適当な時期が来たら結婚と考えていた」が「25～29歳」が56%と最も大きく、「なるべく早めに結婚したいと考えていた」が「24歳以下」で37%と他年代より大きくなっている。「生涯独身でもよいと考えていた」が「40歳以上」で20%と男性と同様、他年代より大きい。「特に考えていない」は「35～39歳」の22%が最も大きくなっている。

問21. あなたが現在の配偶者と結婚する前に考えていた結婚の条件についてお答えください。
(配偶者がいる方のみ)

・男女別の結婚条件
男性



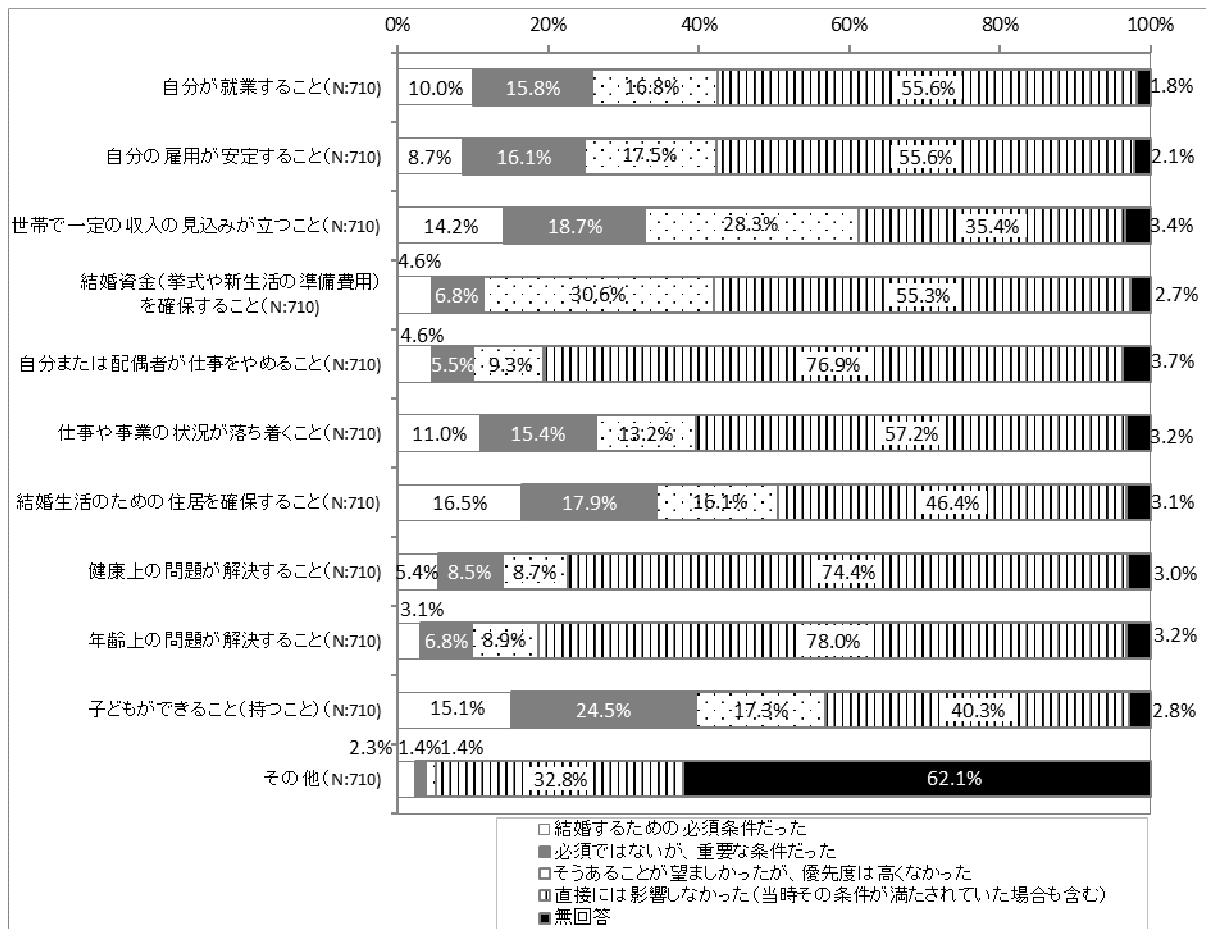
「結婚するための必須条件だった」は「自分が就業すること」が43%と最も大きく、次いで「自分の雇用が安定すること」37%「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」が20%となっている。

「必須ではないが、重要な条件だった」は「子どもができること(持つこと)」が24%、「仕事や事業の状況が落ち着くこと」が19%、「自分の雇用が安定すること」が18%となっている。

「そうあることが望ましかったが、優先度は高くなかった」は「結婚資金(挙式や新生活の準備費用)」が31%、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」、「結婚生活のための住居を確保すること」が20%であった。

「直接には影響しなかった」は「自分または配偶者が仕事をやめること」が83%、「年齢上の問題が解決すること」74%、「健康上の問題が解決すること」71%となっている。

女性



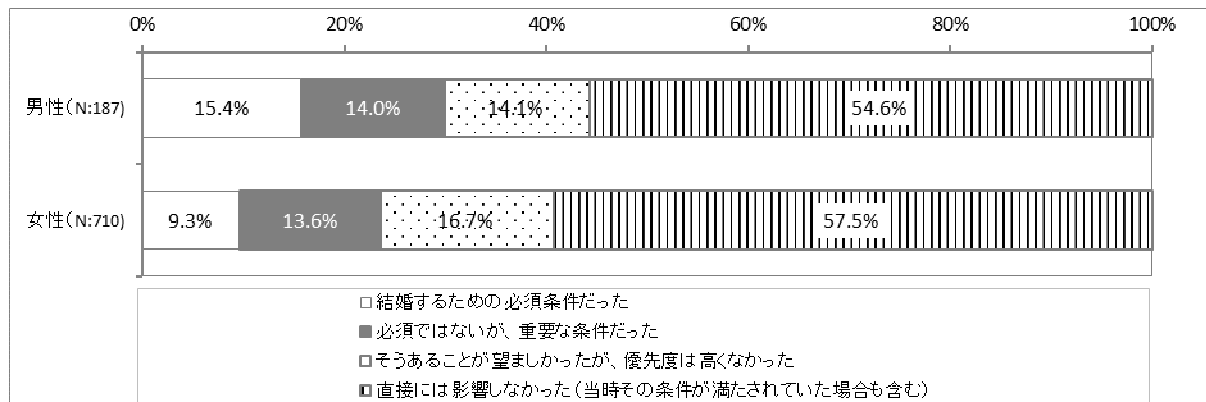
「結婚するための必須条件だった」は「結婚生活のための住居を確保すること」が17%と最も大きく、次いで「子どもができること(持つこと)」が15%、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」が14%となっている。

「必須ではないが、重要な条件だった」は「子どもができること(持つこと)」が25%、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」が19%、「結婚生活のための住居を確保すること」が18%となっている。

「そうあることが望ましかったが、優先度は高くなかった」は「結婚資金(挙式や新生活の準備費用)を確保すること」が31%、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」が28%、「自分の雇用が安定すること」が18%となっている。

「直接には影響しなかった」は「年齢上の問題が解決すること」が78%、「自分または配偶者が仕事をやめること」77%、「健康上の問題が解決すること」74%となっている。

・男女別必須割合



すべての設問の中で、「結婚するための必須条件だった」を回答した率は男性が15%、女性が9%と男性が6ポイント大きく、「必須ではないが、重要な条件だった」は男性、女性とも14%となっている。

また、「自分が就業すること」に「結婚するための必須条件だった」と回答した割合は、男性が女性より33ポイント大きくなっており、「自分の雇用が安定すること」に「結婚するための必須条件だった」と回答した割合は、男性が女性より29ポイント大きくなっている。他の項目では男女の差はあまり見られないが、この2項目について大きく差が見られる。

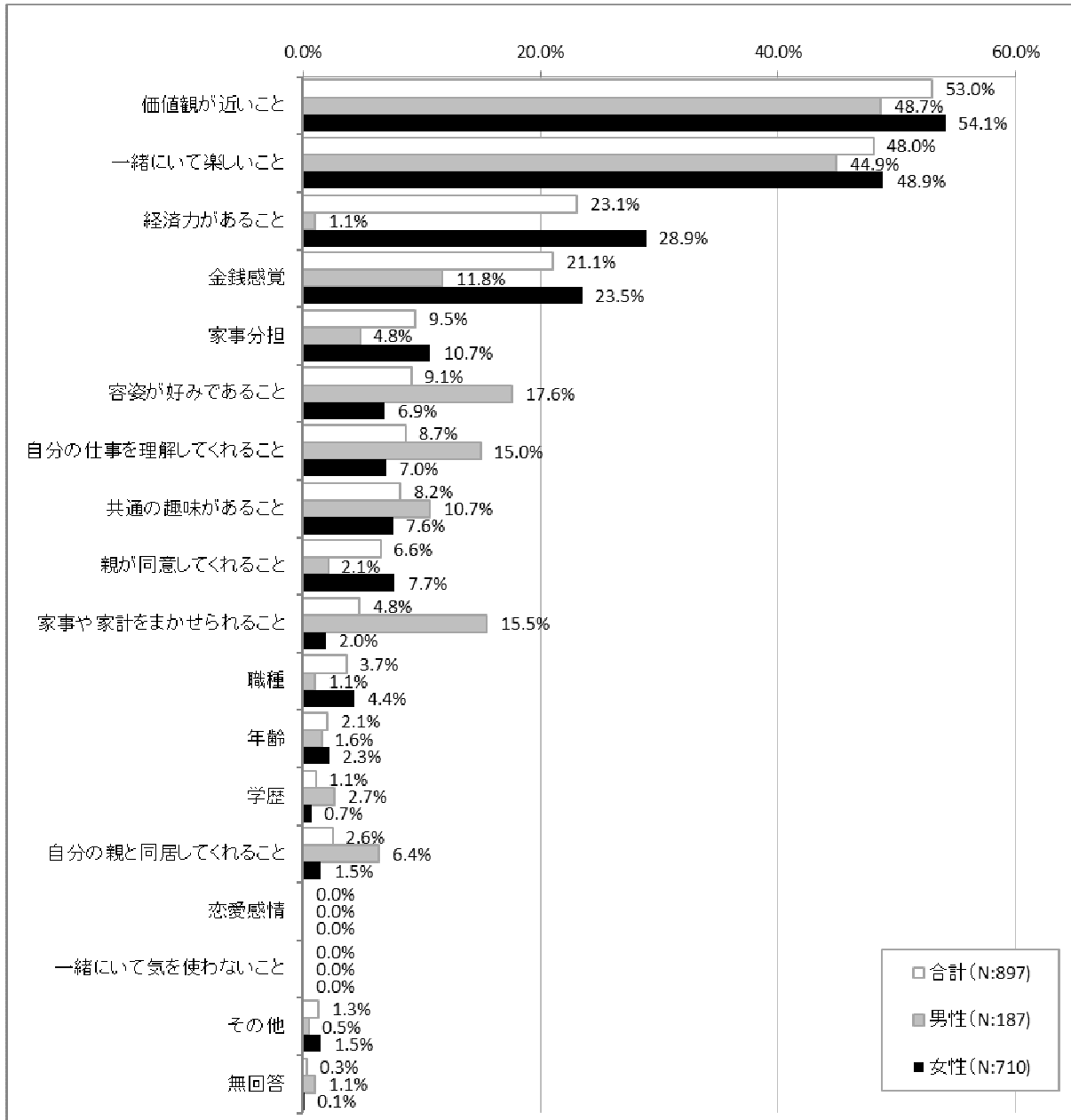
・男女別の必要とする年収及び結婚資金額

「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」において、「結婚するための必須条件だった」または「必須ではないが、重要な条件だった」と回答した時の目安となる年収についての平均額は男性が488万円、女性が460万円となっており、男性が28万円高くなっている。

「結婚資金（挙式や新生活の準備費用）」において、「結婚するための必須条件だった」または「必須ではないが、重要な条件だった」と回答した時の目安となる結婚資金についての平均額は男性が277万円、女性が276万円とほぼ同額となっている。

問22. あなたが現在の配偶者と結婚する前に考えていた結婚相手の条件についてお答えください。(配偶者がいるかたのみ)(3つまで)

・男女別結婚相手条件



「価値観が近いこと」が53%と最も大きく、次いで「一緒にいて楽しいこと」が48%、「経済力があること」が23%、「金銭感覚」が21%の順になっている。他の項目については全て10%以下となっている。

【男女別】

上位2項目で、「価値観が近いこと」は女性が男性より5ポイント大きく、「一緒にいて楽しいこと」も女性が男性より4ポイント大きくなっている。

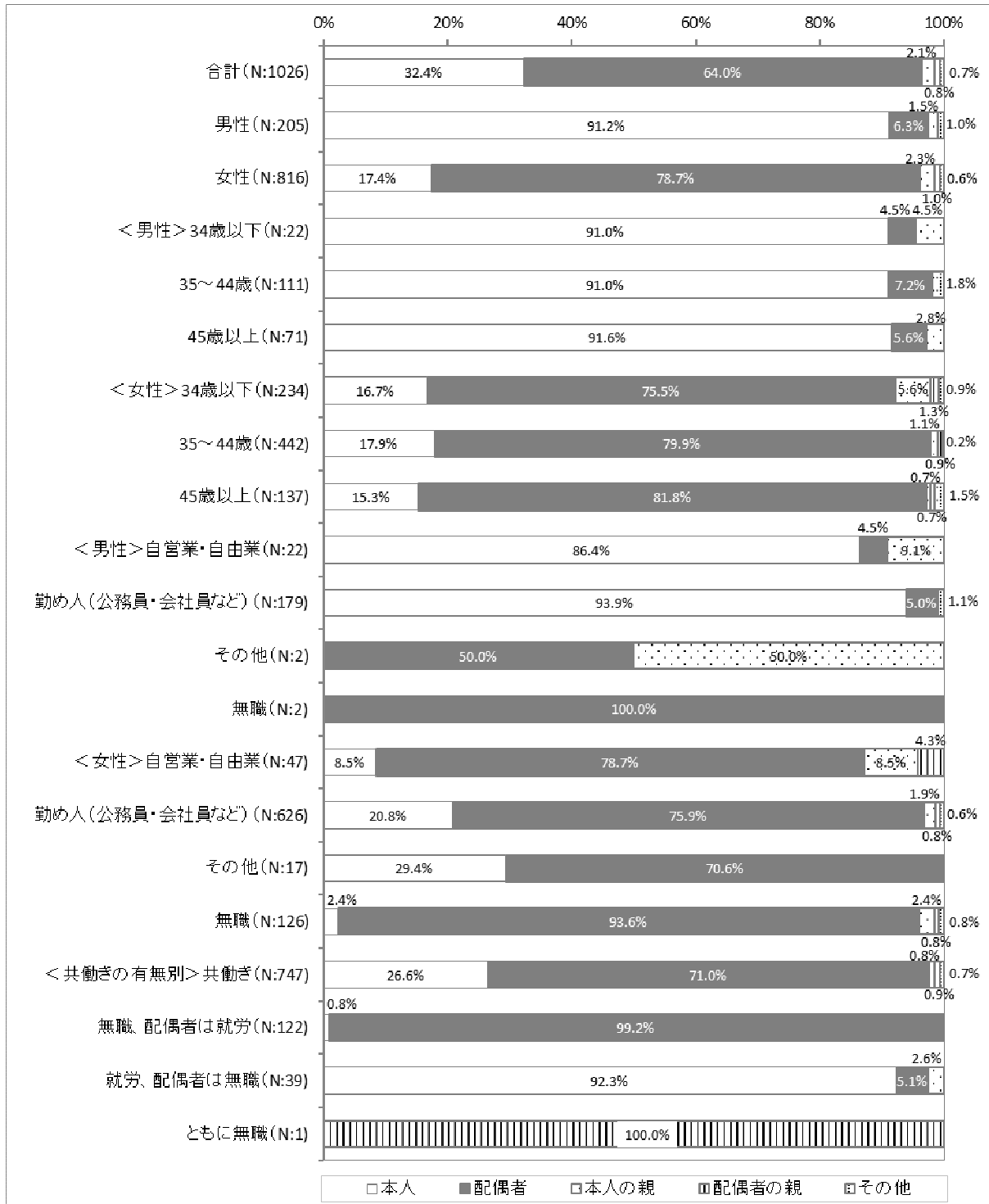
また、男性は「容姿が好みであること」が18%、「家事や家計をまかせられること」は16%、「自分の仕事を理解してくれること」が15%となっており、「家事や家計をまかせられること」は14ポイント、「容姿が好みであること」は11ポイント女性より大きくなっている。

女性は、「経済力があること」は29%となっており、男性の1%に対して28ポイント大きく、「金銭感覚」は24%となっており男性の12%に対して12ポイント大きくなっている。

仕事と子育ての両立について

問23. あなたのご家庭の生計の主たる担い手(稼ぎ手)はどなたですか。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の主たる担い手



「配偶者」が最も大きく64%となっている。次いで、「本人」が32%、「本人の親」が2%、「配偶者の親」が1%となっている。

【男女別】

男性は「本人」が91%と最も大きく、次いで「配偶者」が6%、女性は「配偶者」が79%で最も大きく、次いで「本人」が17%となっている。

【男性年齢別】

「本人」の割合は、各年代とも91%前後で、差は見られない。

「配偶者」については、「35～44歳」の割合（7%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「配偶者」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で82%と最も大きくなっている。

「本人」の割合は、「35～44歳」で18%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「本人」について、「勤め人」が94%、「自営業・自由業」で86%となっている。「配偶者」では、「自営業・自由業」、「勤め人」ともに5%となっている。

【女性職業別】

「配偶者」について、「無職」が94%で最も大きく、「自営業・自由業」が79%、「勤め人」が76%となっている。「本人」では、「勤め人」21%、「自営業・自由業」で9%となっている。

【共働きの有無別】

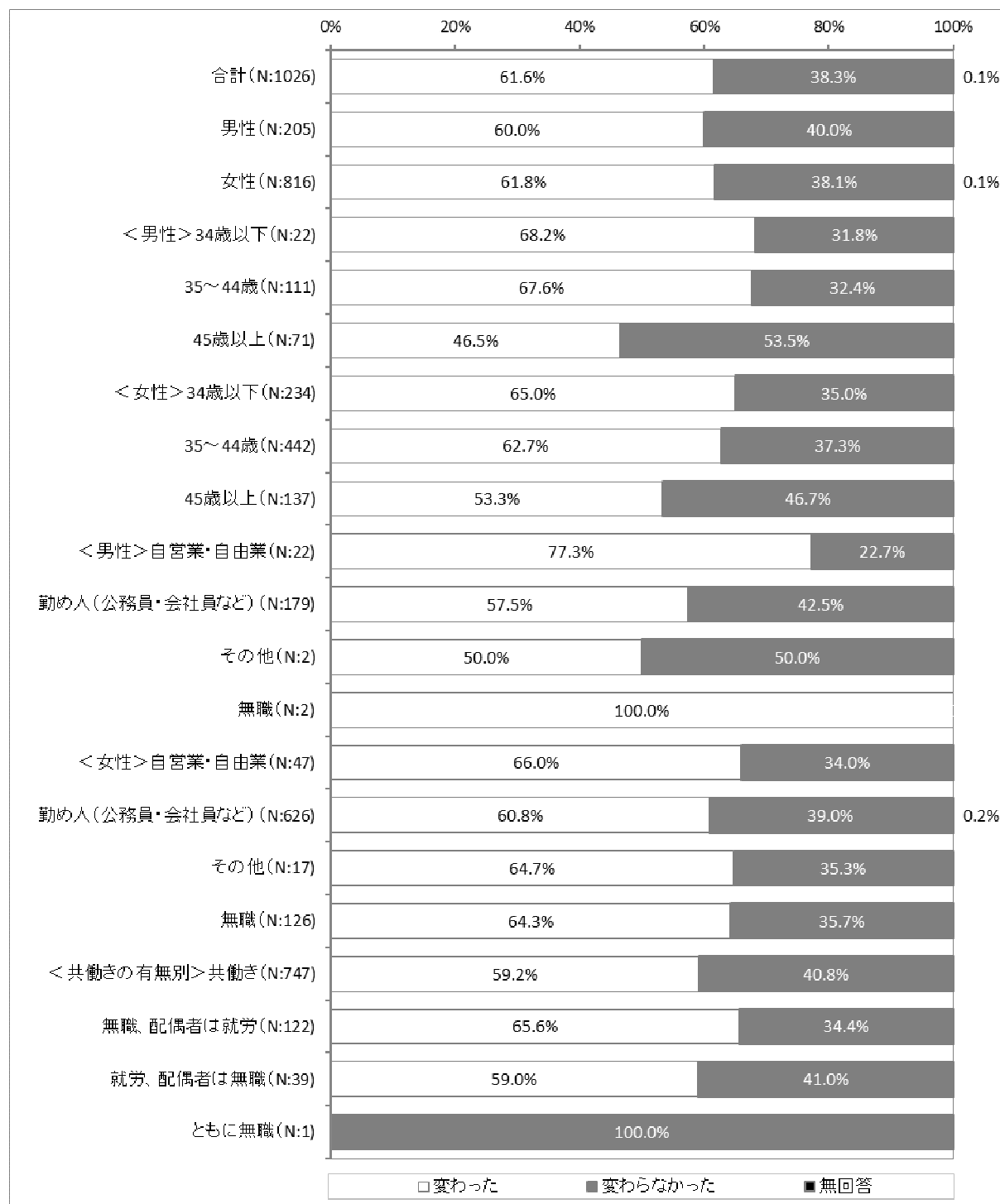
「共働き」では「本人」が27%、「配偶者」が71%となっている。

「本人は就労、配偶者は無職」では「本人」が92%、「配偶者」が5%となっている。

「本人は無職、配偶者は就労」では「本人」が1%、「配偶者」が99%となっている。

問24. あなたのご家庭では、結婚・妊娠・出産・子育てをきっかけにして、あなた又はあなたの配偶者の仕事のしかたが変わりましたか。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の仕事の仕方の変化



全体では「変わった」が62%、「変わらなかった」が38%となっており、「変わった」が「変わらなかった」より24ポイント大きくなっている。

【男女別】

「変わった」は、男性が60%、女性が62%となっている。

「変わらなかった」は男性が40%、女性が38%となっている。

【男性年齢別】

「変わった」は、「34歳以下」の割合（68%）が最も大きく、年代が下がるにつれ大きくなっている。

「変わらなかった」は、「45歳以上」の割合（54%）が最も大きく、年代が上がるにつれ大きくなっている。

【女性年齢別】

「変わった」は、「34歳以下」の割合（65%）が最も大きく、年代が下がるにつれ大きくなっている。

「変わらなかった」は、「45歳以上」の割合（47%）が最も大きく、年代が上がるにつれ大きくなっている。

【男性職業別】

「変わった」は、「自営業・自由業」が77%、「勤め人」で58%となっており、「自営業・自由業」の割合が19ポイント大きくなっている。

【女性職業別】

「変わった」は、「自営業・自由業」が66%と最も大きくなっており、「無職」、「勤め人」の割合（各々64%、61%）に大きな差はない。

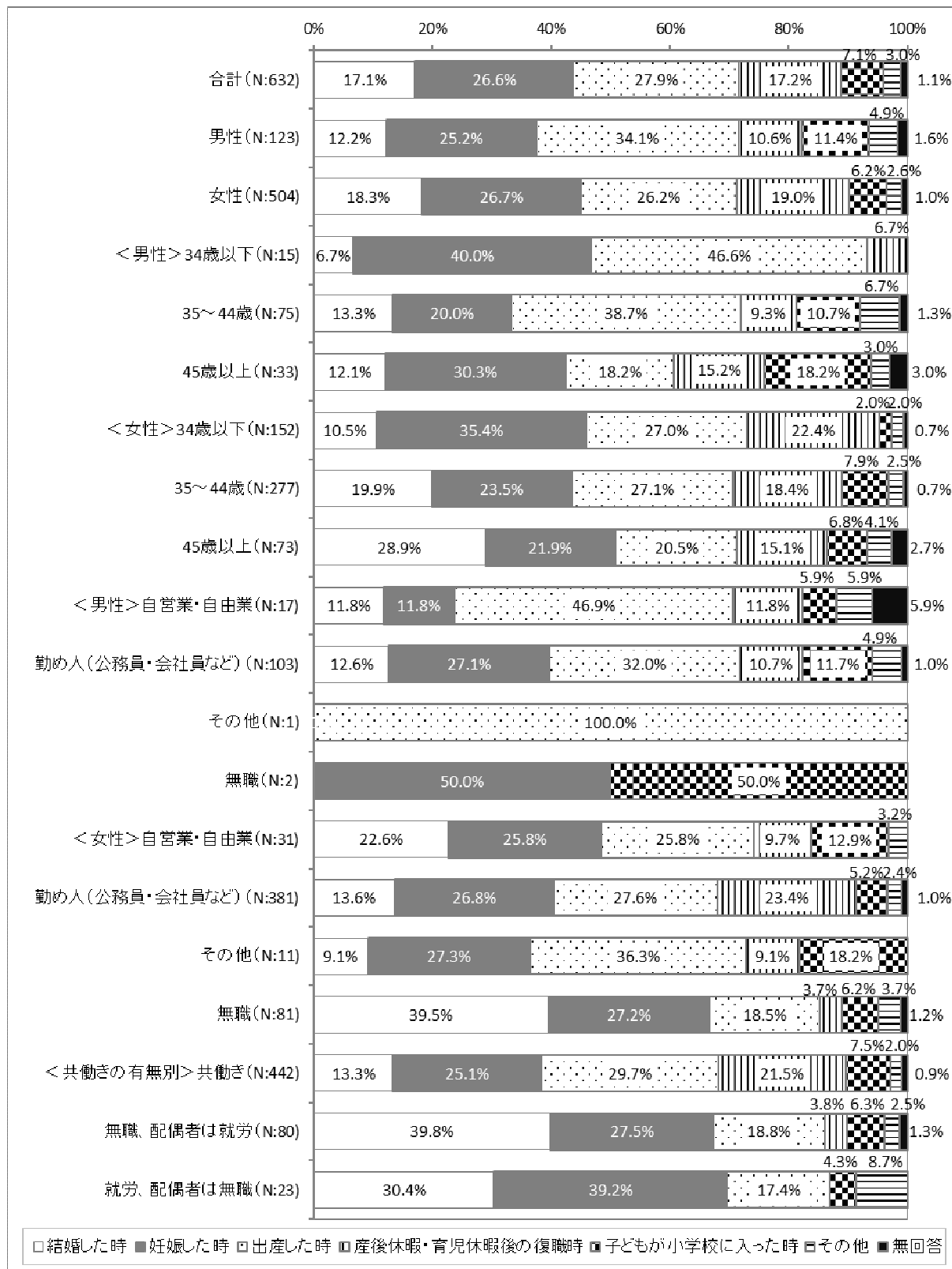
【共働きの有無別】

「変わった」について、「本人は無職、配偶者は就労」で66%となっており、「共働き」「本人は就労、配偶者は無職」（各々59%、59%）より大きくなっている。

問24-1. (問24で「1. 変わった」とお答えの方にお聞きします)

もっとも大きく仕事の仕方が変わったのはいつですか。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の仕事のしかたの変化時期



仕事の仕方が変わった時期については、「出産した時」が28%で最も大きく、次いで、「妊娠した時」が27%、「産後休暇・育児休暇後の復職時」「結婚した時」がともに17%となっている。

【男女別】

男性については、「出産した時」が34%と最も大きくなっており、「妊娠した時」が25%となっている。女性については、全体の動向と大きな差はない。

【男性年齢別】

「出産した時」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で47%と最も大きくなっている。「妊娠した時」は「34歳以下」で40%と最も大きくなっている。

「子どもが小学校に入った時」、「産後休暇・育児休暇後の復職時」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で（各々18%、15%）最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「妊娠した時」、「産後休暇・育児休暇後の復職時」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で（各々35%、22%）最も大きくなっている。「出産した時」については「34歳以下」、「35～44歳」がともに27%と最も大きくなっている。

「結婚した時」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で29%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「出産した時」、「産後休暇・育児休暇後の復職時」について、「自営業・自由業」の割合（各々47%、12%）と「勤め人」より大きくなっている。「妊娠した時」、「結婚した時」については「勤め人」の割合（各々27%、13%）が「自営業・自由業」より大きくなっている。

【女性職業別】

「妊娠した時」は、「無職」の割合（27%）が最も大きくなっているが、他の就業状況も26～27%で就業状況による差はない。「出産した時」の割合は「勤め人」28%、「自営業・自由業」26%で大きな差はない。「産後休暇・育児休暇後の復職時」は「勤め人」が23%となっており、「自営業・自由業」より13ポイント大きくなっている。「結婚した時」について、「無職」で40%と大きくなっている。

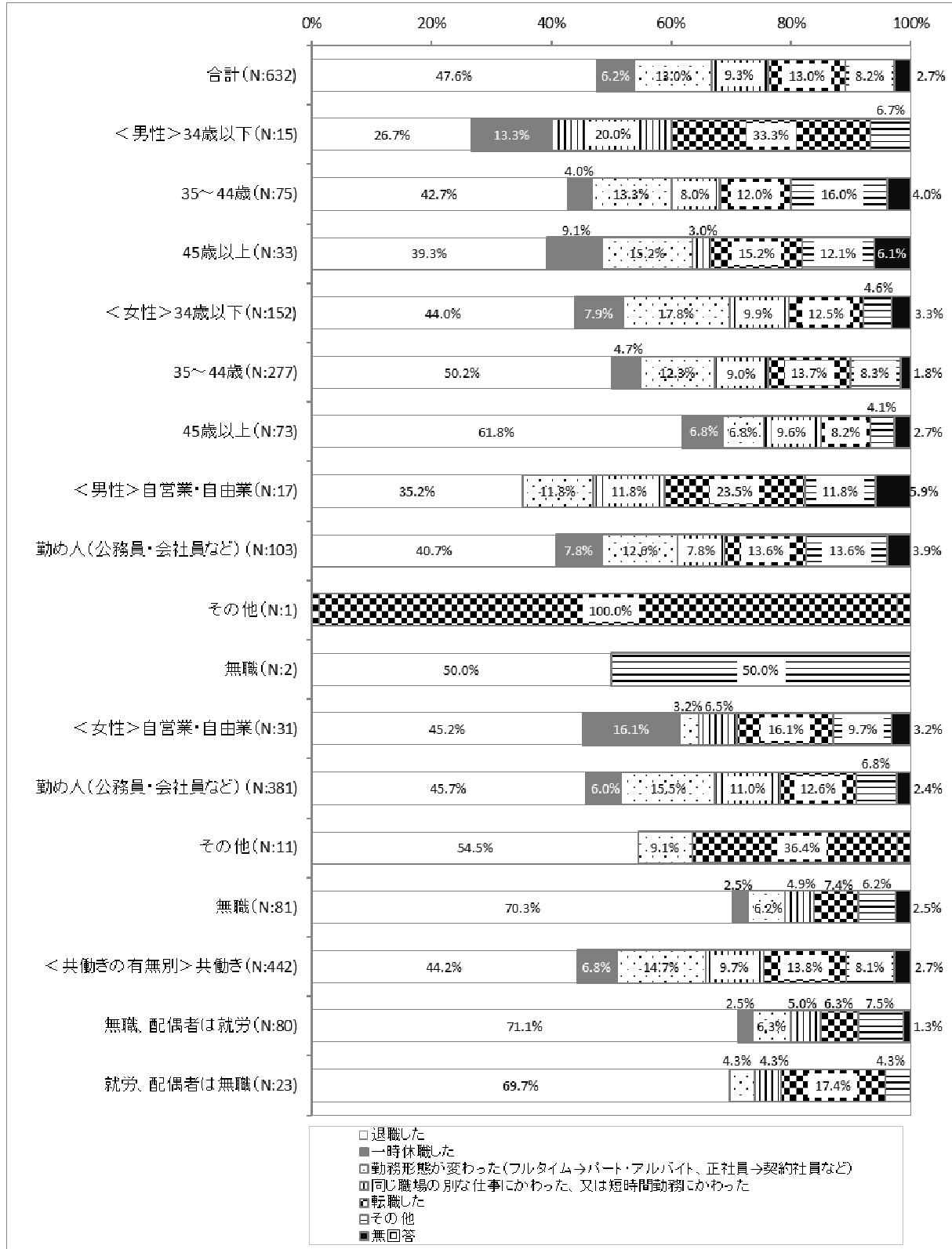
【共働きの有無別】

「共働き」について、「結婚した時」の割合が他の就業状況より小さく、「出産した時」、「産後休暇・育児休暇後の復職時」の割合（各々30%、22%）が他の就業状況より大きくなっている。

問24-2. (問24で「1. 変わった」とお答えの方にお聞きします)

問24-1の時点で、どのように仕事のしかたが変わりましたか？

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の仕事のしかたの変化



結婚・妊娠・出産・子育てをきっかけとする仕事の変化については、「退職した」が48%、「一時休職した」が6%で、両者を合わせた就労中止は54%となっている。

一方、「勤務形態が変わった」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」、「転職した」を合わせた就労継続は35%となっている。

前回調査では、「退職した」58%、「一時休職した」5%を合わせた就労中止が63%、就労継続が27%となっており、前回調査と比べて、「退職した」が10ポイント減少し、一時休職と合わせた就労中止も11ポイント減少している。就労継続の割合は8ポイント増加している。

【男性年齢別】

「退職した」の割合は、「35～44歳」が43%と最も大きくなっている。「転職した」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」、「一時休職した」は、「34歳以下」の割合（各々33%、20%、13%）が最も大きくなっている。

「勤務形態が変わった」については、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合（15%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「退職した」は年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で62%と最も大きくなっている。「一時休職した」、「勤務形態が変わった」は年代による差が小さい。「転職した」については、「35～44歳」の割合（14%）が他の年代よりも大きくなっている。

【男性職業別】

「退職した」の割合は「勤め人」の割合（41%）が「自営業・自由業」の割合（35%）より大きくなっている。

「転職した」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」については、「自営業・自由業」の割合（各々24%、12%）で「勤め人」よりも大きくなっている。

【女性職業別】

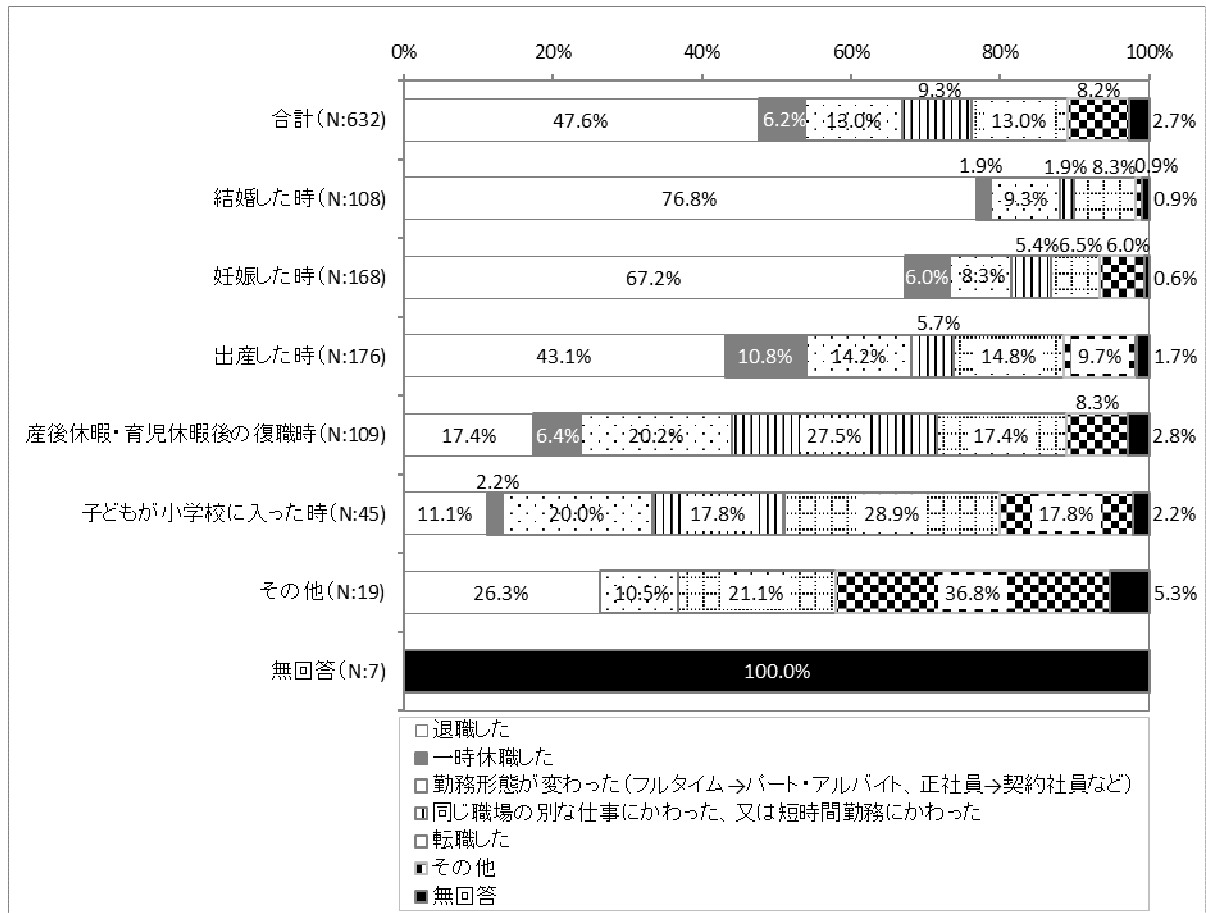
「退職した」の割合は「無職」で70%と格段に大きくなっている。

「転職した」、「一時休職した」については、「自営業・自由業」の割合（各々16%、16%）で他の就業状況よりも大きくなっている。

【共働きの有無別】

「退職した」の割合は、「共働き」（44%）の方が「非共働き」（70～71%）よりも小さくなっている。「勤務形態が変わった」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」、「一時休職した」は、「共働き」の方が「非共働き」よりも大きくなっている。

・ 仕事の変化の時期としかた



【時期別仕事変化】

「結婚した時」、「妊娠した時」については、60%以上が「退職した」の割合となっている。「出産した時」においても「退職した」の割合（43%）が最も大きい。

「産後休暇・育児休暇後の復職時」は、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」の割合（28%）が最も大きい。

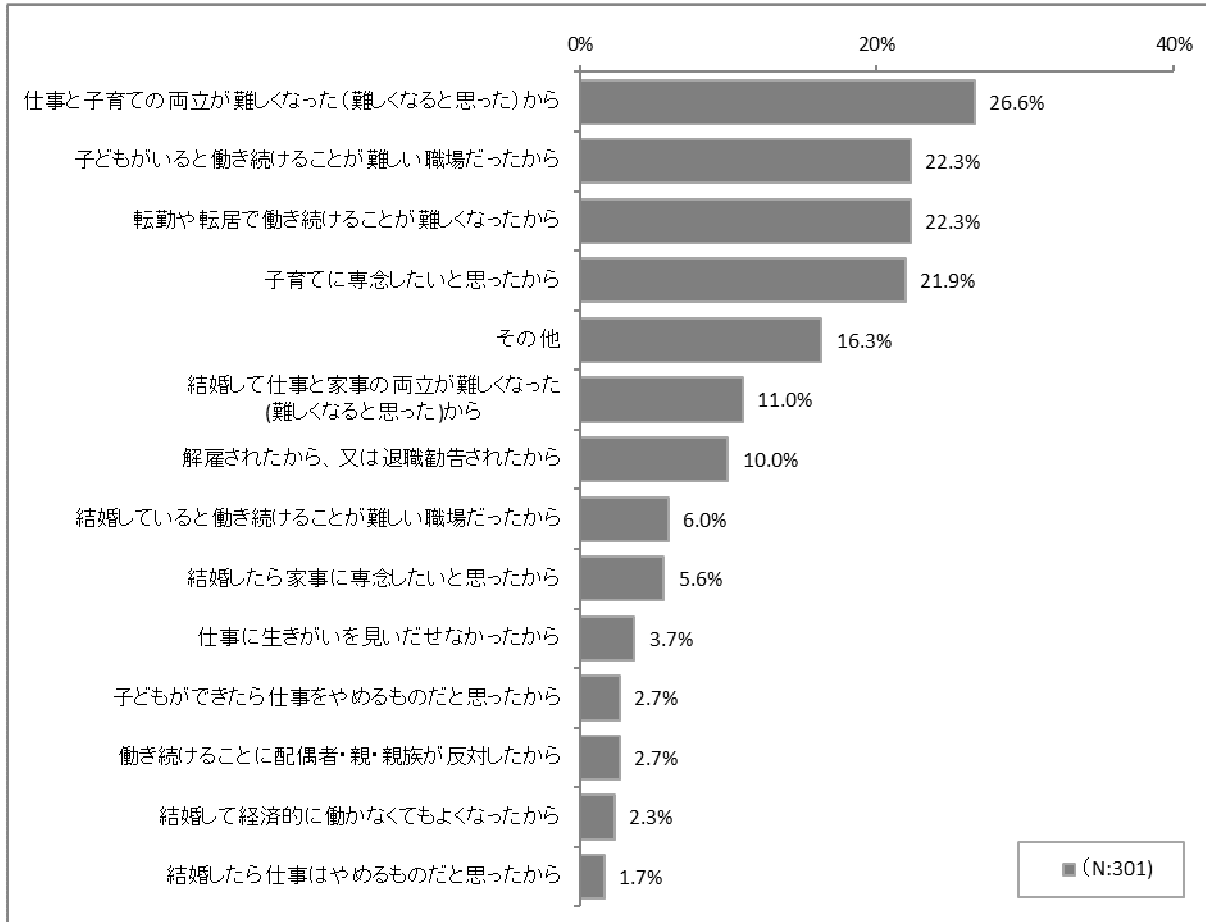
「子どもが小学校に入った時」については、「転職した」の割合（29%）が最も大きく、次いで、「勤務形態が変わった」が20%となっている。

また、「退職した」「一時休職した」を合わせた就労中止は「結婚した時」79%、「妊娠した時」73%、「出産した時」54%で就労継続より大きくなっており、一方で、「勤務形態が変わった」から「転職した」までの就労継続は「産後休暇・育児休暇後の復職時」65%、「子どもが小学校に入った時」67%で就労中止より大きくなっている。

問24-3. (問24-2で「1. 退職した」とお答えの方にお聞きします)

あなた又はあなたの配偶者が仕事をやめた理由は何ですか。(3つまで)

・仕事をやめた理由

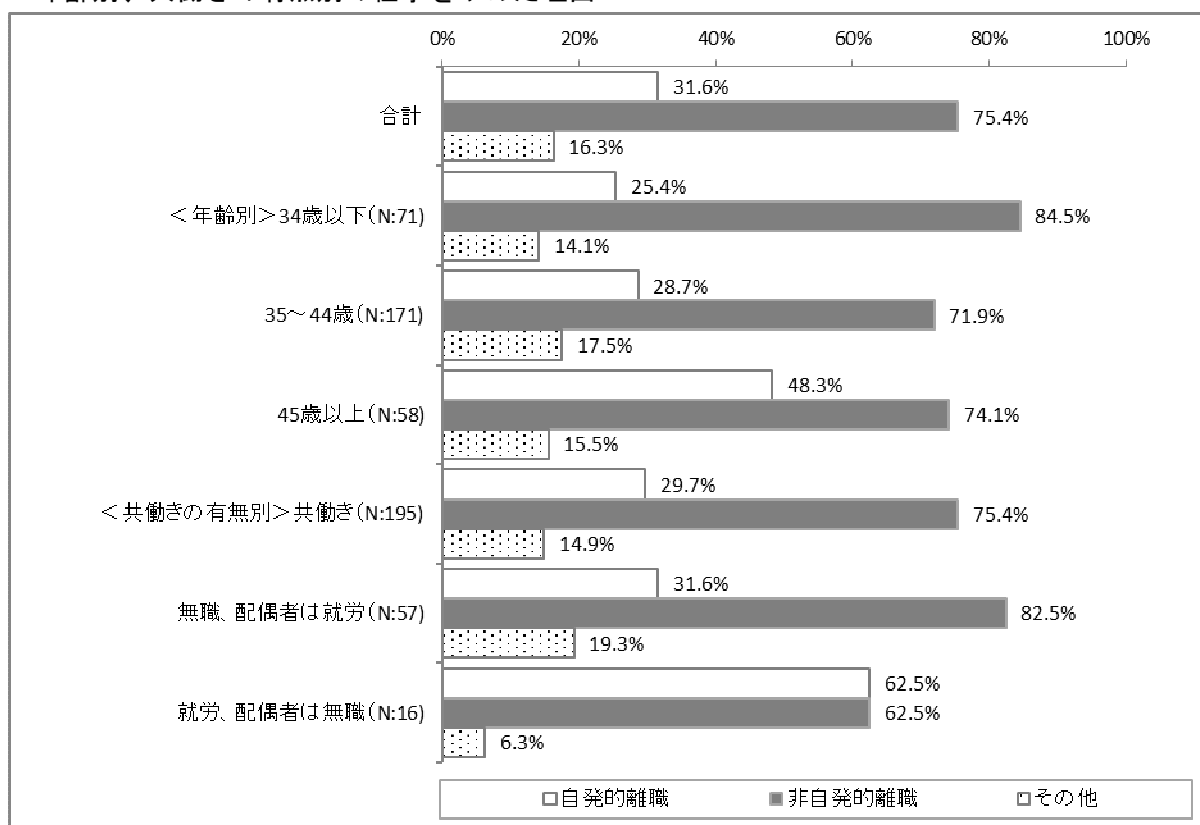


「仕事と子育ての両立が難しくなったから」が27%と最も多く、次いで「子どもがいると働き続けることが難しい職場だったから」22%、「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから」22%、「子育てに専念したいと思ったから」22%の順となっている。

前回調査では、「仕事と子育ての両立が難しくなったから」32%、「子育てに専念したいと思ったから」25%、「子どもがいると働き続けることが難しい職場だったから」24%、「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから」22%の割合、順位となっており、前回と比べて1位は同じだが、今年の3位が2位に、4位が3位に上がっており、2位が4位に下がっている。

上位項目では、「仕事と子育ての両立が難しくなったから」が5ポイント、「子どもがいると働き続けることが難しい職場だったから」が2ポイント、「子育てに専念したいと思ったから」が3ポイント減少しており、「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから」が同じである。

・年齢別、共働きの有無別の仕事をやめた理由



退職の理由を「自発的離職」と「非自発的離職」に区分すると、「非自発的離職」が75%と、前回調査（77%）より2ポイント減少した。

自発的離職	非自発的離職
子育てに専念したいと思ったから 子どもが出来たら仕事はやめるものと思ったから 結婚したら家事に専念したいと思ったから 仕事に生きがいを見出せなかったから 結婚したら仕事はやめるものだと思ったから 結婚して経済的に働かなくてもよくなったから	仕事と子育ての両立が難しくなったから 子どもがいると働き続けることが難しい職場だったから 転勤や転居で働き続けることが難しくなったから 結婚して仕事と家事の両立が難しくなったから 結婚していると働き続けることが難しい職場だったから 解雇されたから、又は退職勧告されたから 働き続けることに配偶者・親・親族が反対したから

【年齢別】

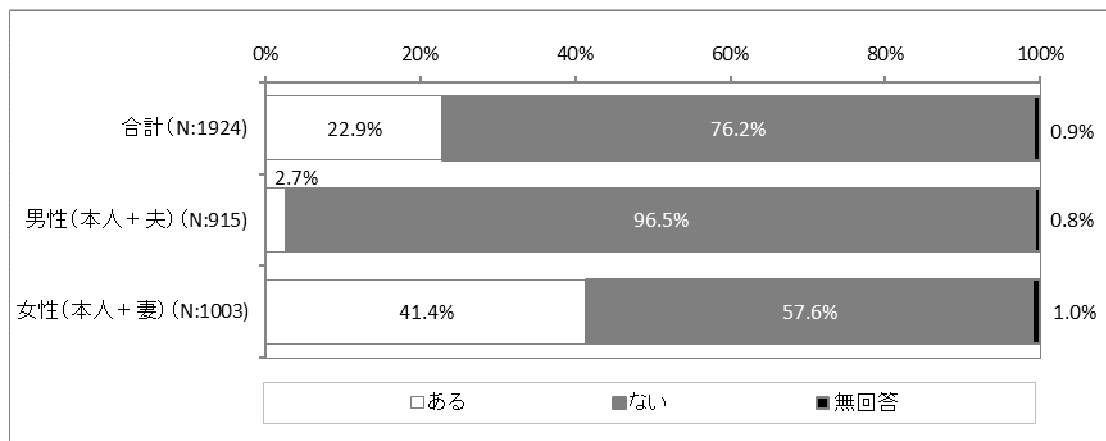
各年代で「非自発的離職」が「自発的離職」を大きく上回っている。「非自発的離職」の割合は「34歳以下」で85%、「35~44歳」で72%、「45歳以上」では74%となっている。「自発的離職」は年代上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で48%と最も大きい。

【共働きの有無別】

「自発的離職」について、「共働き」30%、「本人は無職、配偶者は就労」が32%であるのに対し、「本人は就労、配偶者は無職」63%となっている。

問25. あなたは、今までに育児休業を取得したことがありますか。
 問26. あなたの配偶者は、今までに育児休業を取得したことがありますか。

・ 育児休業制度の利用の有無（回答者と配偶者の合計）



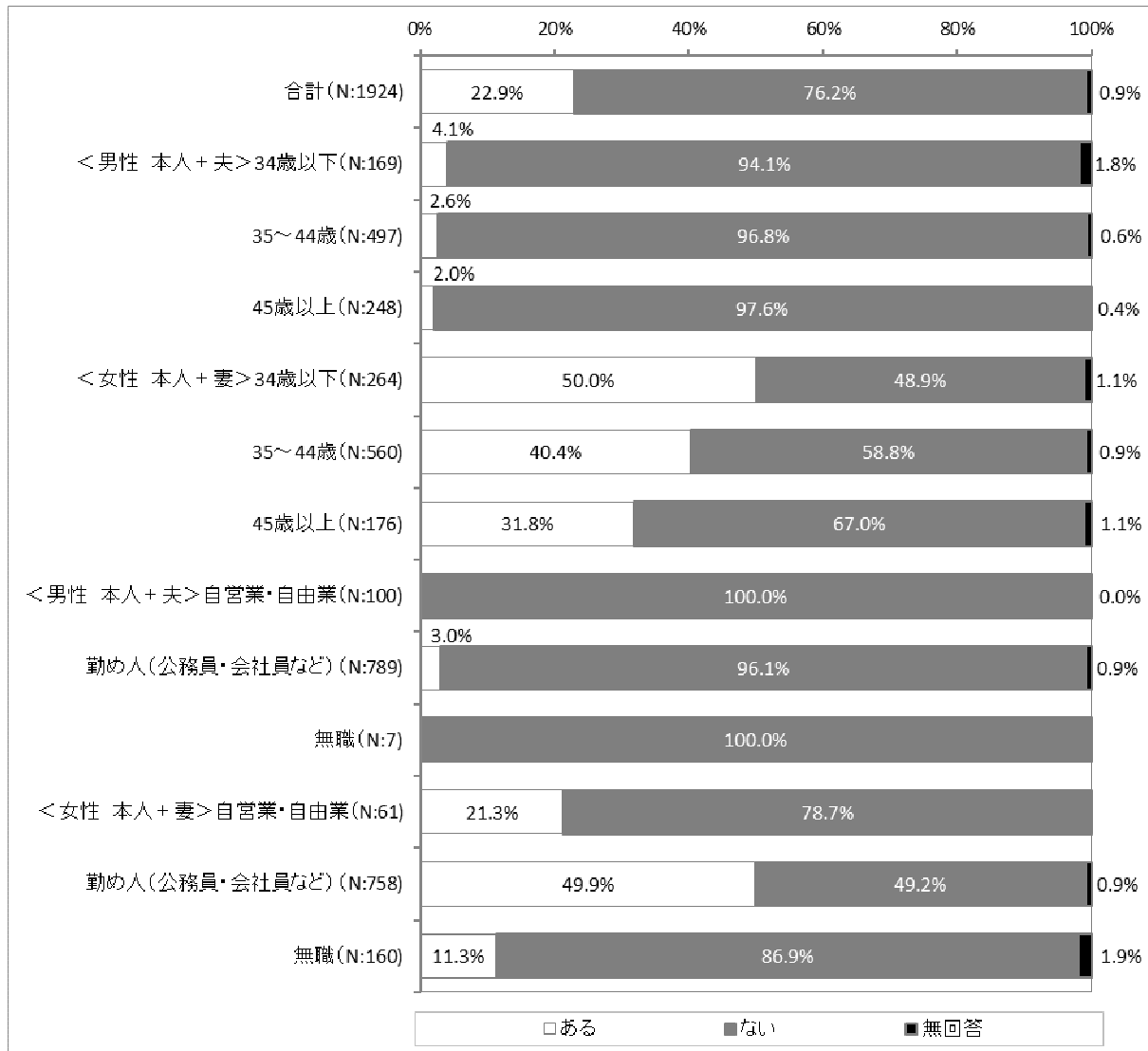
回答者と配偶者の合計で、今までに育児休業を取得したことが「ある」人の割合は 23%、「ない」人が 76%となっている。

【男女別】

男性（本人+夫）で育児休業を取得したことが「ある」人は 3%と、ほとんど取得していない状況となっている。

女性（本人+妻）で育児休業を取得したことが「ある」人は 41%と、男性よりも育児休業制度が利用されている様子が見られる。

・性・年齢別、性・職業別の育児休業制度利用の有無（回答者と配偶者の合計）



【男性年齢別】

育児休業を取得したことが「ある」の割合は、すべての年代で2～4%と極めて小さい。

【女性年齢別】

育児休業を取得したことが「ある」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で50%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

育児休業を取得したことが「ある」のは「勤め人」のみであり、他の就業状況では利用されていない。ただし、「勤め人」の「ある」の割合も3%と極めて小さい。

【女性職業別】

育児休業を取得したことが「ある」の割合は、「勤め人」で50%、「自営業・自由業」で21%、「無職」で11%となっており、就業状況による差が見られる。

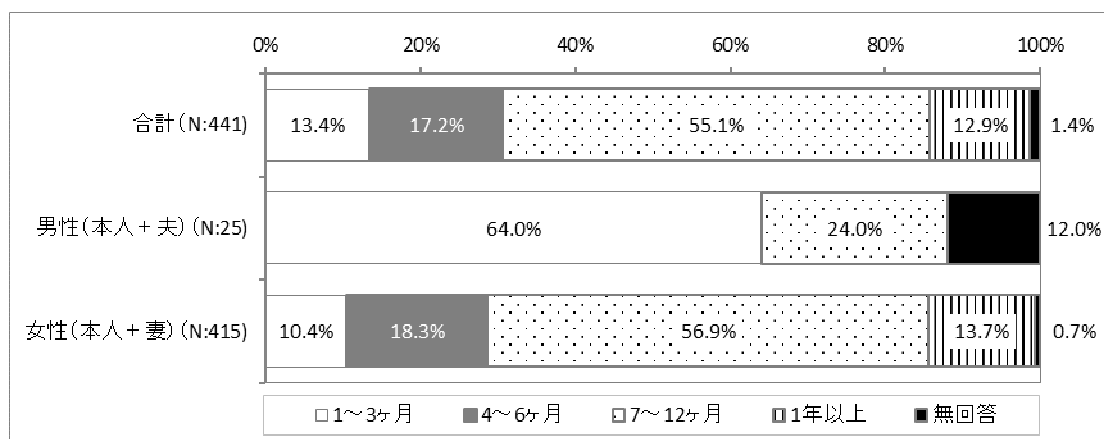
問25-1. (問25で1.「ある」とお答えの方にお聞きます)

取得した期間はどのくらいですか。

問26-1. (問26で1.「ある」とお答えの方にお聞きます)

取得した期間はどのくらいですか。

・取得期間 (回答者と配偶者の合計)



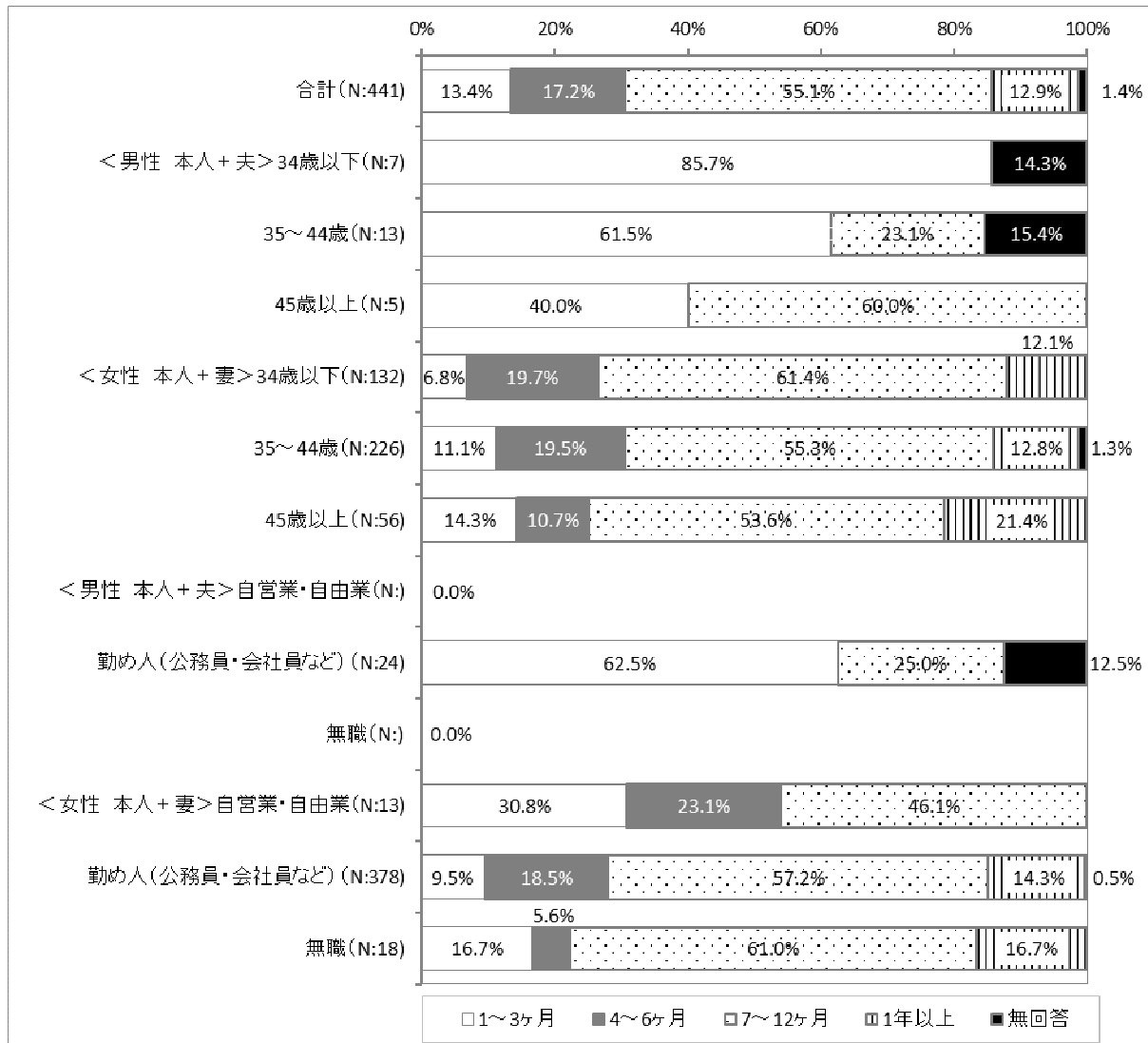
回答者と配偶者の合計で「7～12ヶ月」(55%)が最も多く、次いで「4～6ヶ月」17%、「1～3ヶ月」、「1年以上」がともに13%の順となっている。

【男女別】

男性は「1～3ヶ月」(64%)が最も多く、次いで「7～12ヶ月」(24%)となっている。

女性は、「7～12ヶ月」(57%)が全体の半数以上を占め、次いで「4～6ヶ月」18%、「1年以上」14%、「1～3ヶ月」10%の順となっている。

・性・年齢、性・職業別の育児休業取得期間（回答者と配偶者の合計）



【男性年齢別】

「1～3ヶ月」の割合は年代が下がるにつれ大きくなっており、「34歳以下」の86%が最も大きい。「7～12ヶ月」では、「45歳以上」60%、「35～44歳」23%となっている。

【女性年齢別】

各年代で「7～12ヶ月」の割合が最も大きい。

短期間の取得割合が小さく、「34歳以下」では6ヶ月以下が27%、7ヶ月以上が74%、「35～44歳」は、6ヶ月以下が31%、7ヶ月以上が68%、「45歳以上」では6ヶ月以下が25%、7ヶ月以上が75%となっている。

【男性職業別】

取得者がすべて「勤め人」で、「1～3ヶ月」が63%で最も大きく、次いで「7～12ヶ月」25%となっている。

【女性職業別】

「勤め人」では、「7～12ヶ月」の割合が57%と最も大きく、次いで「4～6ヶ月」19%、「1年以上」14%、「1～3ヶ月」10%の順となっている。

「自営業・自由業」では、「7～12ヶ月」の割合が46%と最も大きく、次いで「1～3ヶ月」31%、「4～6ヶ月」23%、「1年以上」0%の順となっている。

「無職」では、「7～12ヶ月」が61%、「1～3ヶ月」、「1年以上」がともに17%となっている。

また、6ヶ月以下では「自営業・自由業」が54%、「勤め人」が28%、7ヶ月以上が68%、「45歳以上」では6ヶ月以下が25%、7ヶ月以上は「自営業・自由業」が46%、「勤め人」が71%で「勤め人」の方が長期間取得している。

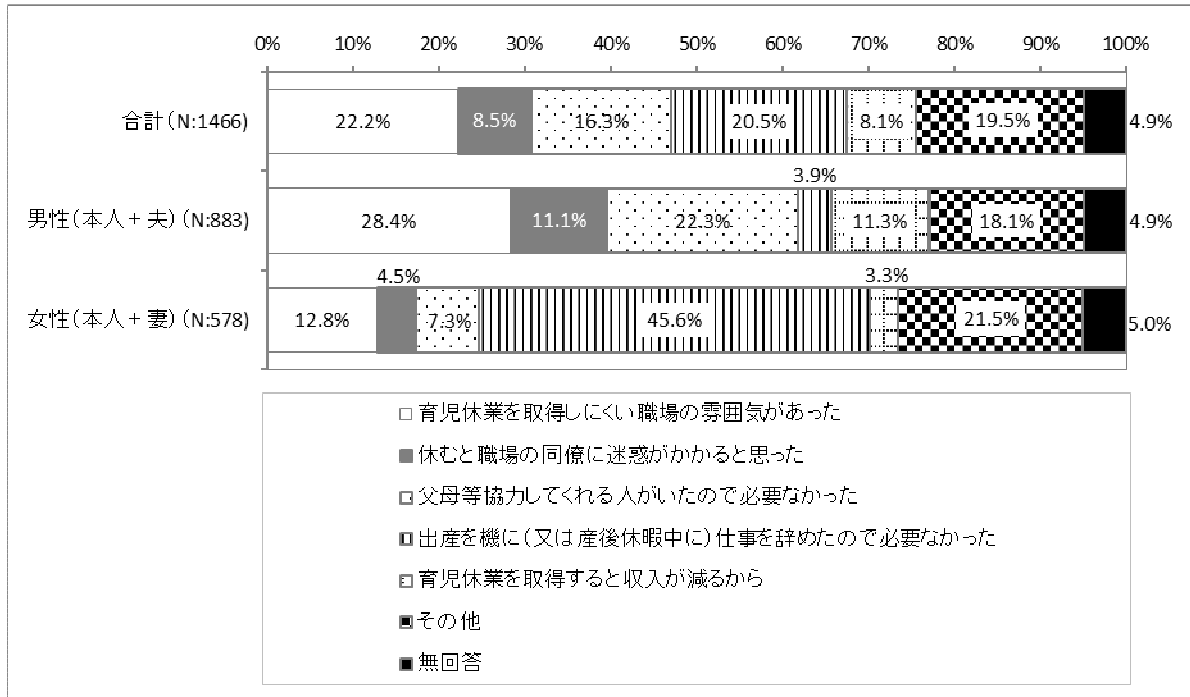
問25-2. (問25で2.「ない」とお答えの方にお聞きします)

育児休業を取得しなかった理由は何ですか。

問26-2. (問26で2.「ない」とお答えの方にお聞きします)

育児休業を取得しなかった理由は何ですか。

・未取得理由（回答者と配偶者の合計）



「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があったから」が22%と最も大きく、次いで「出産を機に（又は産後休暇中に）あなた又は配偶者が仕事を辞めたので必要なかった」21%、「その他」20%、「父母等協力してくれる人がいたので必要なかった」16%の順となっている。

なお、「その他」の理由としては「会社に育児休業制度がない」、「自営業なので無理」、「結婚を機に仕事をやめた」などがあげられている。

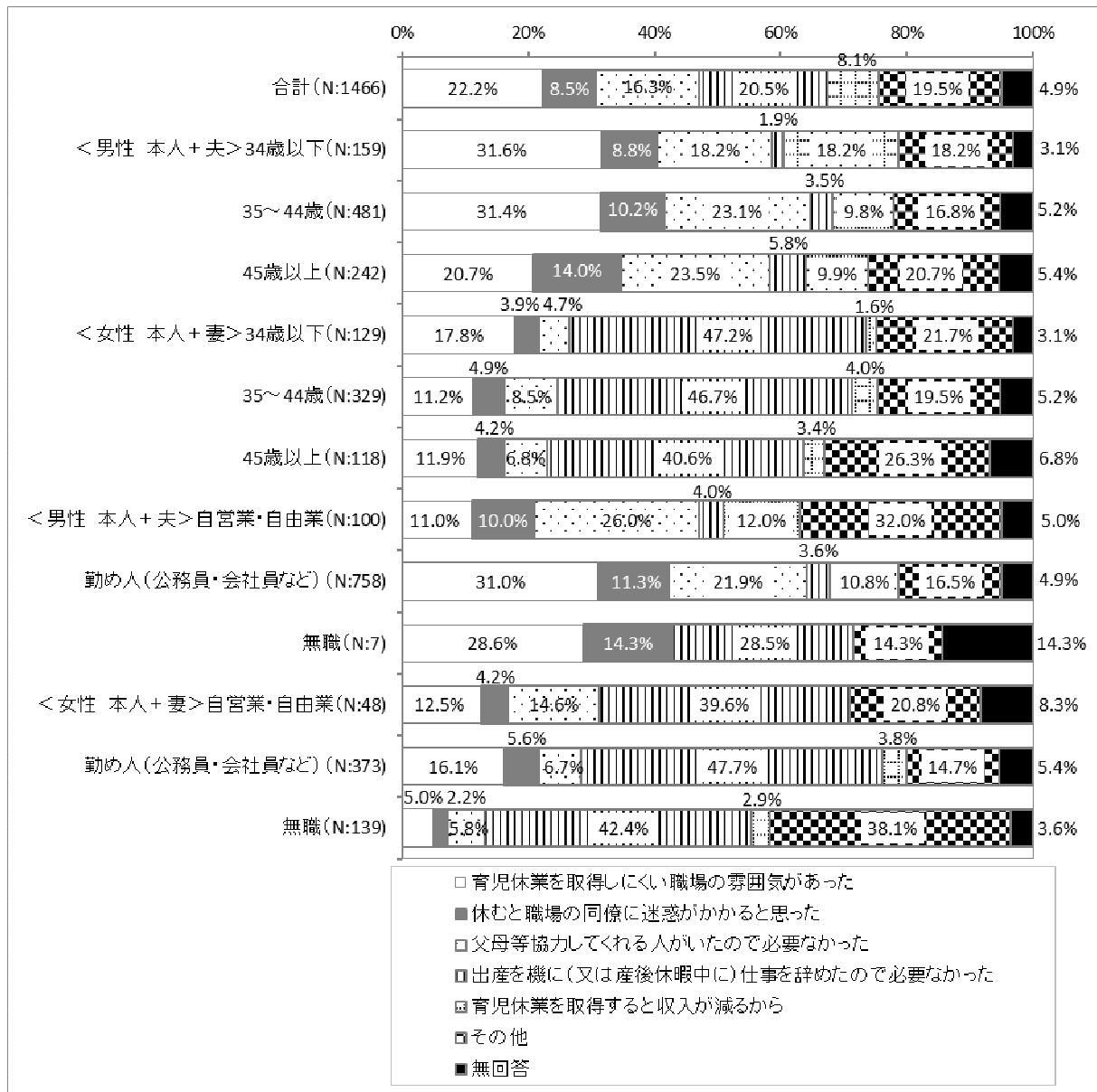
前回調査と比較すると、「父母等協力してくれる人がいたので必要なかった」が前回8%から8ポイント増加し、「出産を機に（又は産後休暇中に）あなた又は配偶者が仕事を辞めたので必要なかった」が前回28%から7ポイント減少している。

【男女別】

男性では、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった」が28%、「父母等協力してくれる人がいたので必要なかった」22%、「その他」18%の割合となっている。

女性では、「出産を機に（又は産後休暇中に）あなた又は配偶者が仕事を辞めたので必要なかった」の割合が46%と最も大きく、次いで「その他」22%、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった」13%の順となっている。

・性・年齢、性・職業別の育児休業制度を利用しない理由（回答者と配偶者の合計）



【男性年齢別】

「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった」は「34歳以下」、「35～44歳」の割合（各々32%、31%）で大きく、「父母等協力してくれる人がいたので必要なかった」の割合は、「45歳以上」で24%と大きくなっている。

【女性年齢別】

「出産を機に（又は産後休暇中に）あなた又は配偶者が仕事を辞めたので必要なかった」の割合は、「34歳以下」で47%と最も大きくなっており、年代が下がるにつれ大きくなっている。「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった」は「34歳以下」で18%と大きくなっており、他の項目については年代による大きな差は見られない。

【男性職業別】

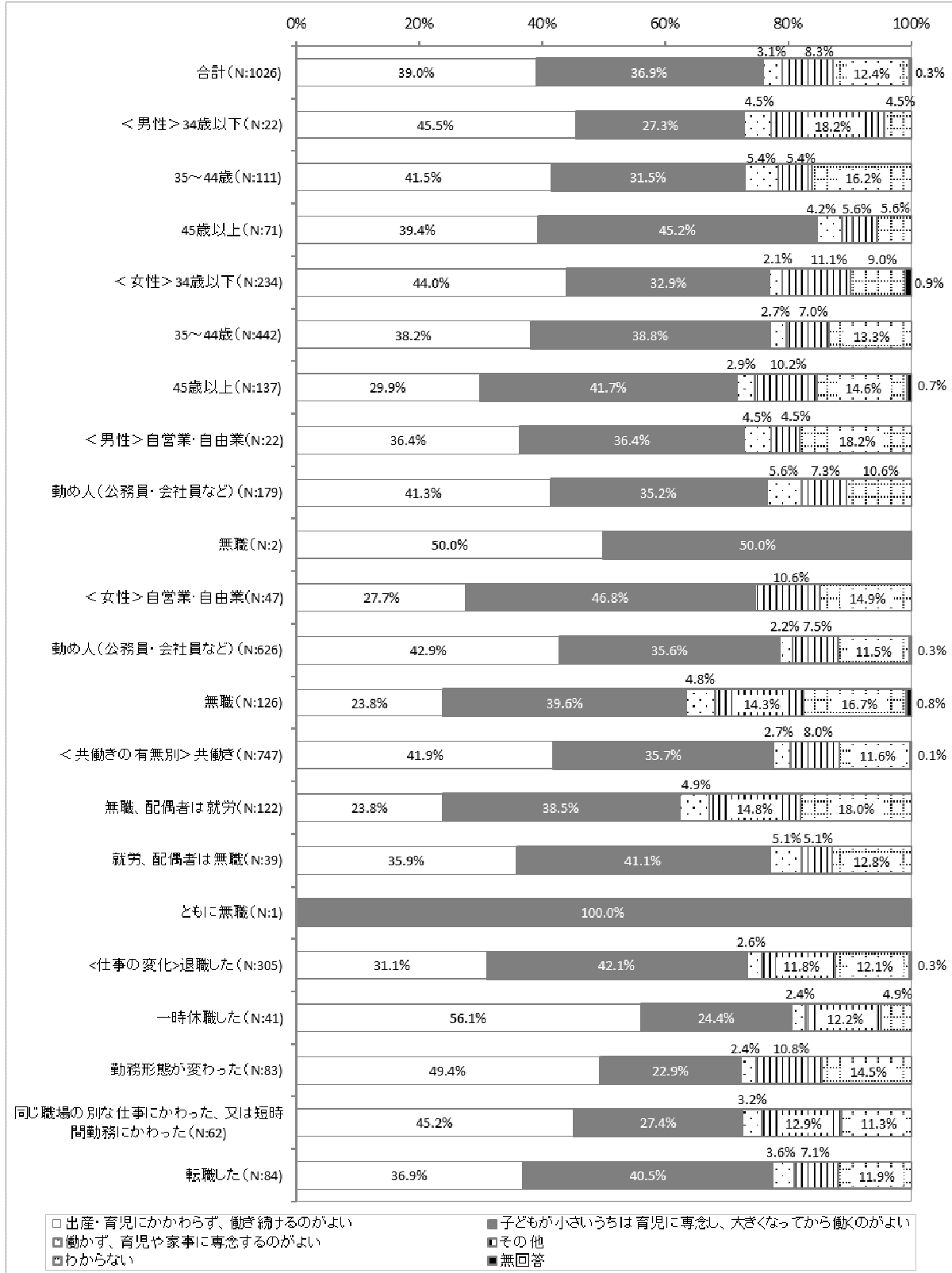
「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった」は「勤め人」の割合（31%）が、「自営業・自由業」の割合（11%）より大きくなっており、「父母等協力してくれる人がいたので必要なかった」については、「自営業・自由業」の割合（26%）が「勤め人」の割合（22%）がよりも大きくなっている。

【女性職業別】

「出産を機にあなた又は配偶者が仕事を辞めたので必要なかった」、「育児休業を取得しにくい職場の雰囲気があった」については、「勤め人」の割合（各々48%、16%）が、「自営業・自由業」の割合（各々40%、13%）より大きくなっており、「父母等協力してくれる人がいたので必要なかった」は、「自営業・自由業」（15%）で他の就業状況よりも大きくなっている。

問27. あなたは、女性が働きながら子育てすることについてどのように思いますか。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別、仕事の変化別の働きながら子育てすることについての考え方



「出産・育児にかかわらず、働き続けるのがよい」が39%と最も大きく、次いで「子どもが小さいうちは育児に専念し、大きくなってから働くのがよい」が37%となっている。

前回調査では、「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」50%、「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」29%という割合、順位となっており、前回調査と比べて1位と2位が入れ替わっており、「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」が13ポイントの減少、「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」が10ポイントの増加となっている。

【男性年齢別】

「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」は、年代が下がるにつれ大きくなっており、「34歳以下」(46%)が最も大きい。一方で、「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」の割合は、年代が上がるにつれ大きくなっており、「45歳以上」(45%)が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」は、年代が下がるにつれ大きくなっており、「34歳以下」(44%)が最も大きい。一方で、「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」の割合は、年代が上がるにつれ大きくなっており、「45歳以上」(42%)が最も大きくなっており、男性と同じ傾向にある。

【男性職業別】

「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」の割合は、「勤め人」で41%と大きくなっている。「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」は「自営業・自由業」(36%)、「勤め人」(35%)で就業状況による差はない。

【女性職業別】

「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」は、「勤め人」が43%と大きくなっており、他の就業状況より15ポイント以上大きい。「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」の割合は、「自営業・自由業」(47%)で他の就業状況(36~40%)よりも大きくなっている。

【共働きの有無別】

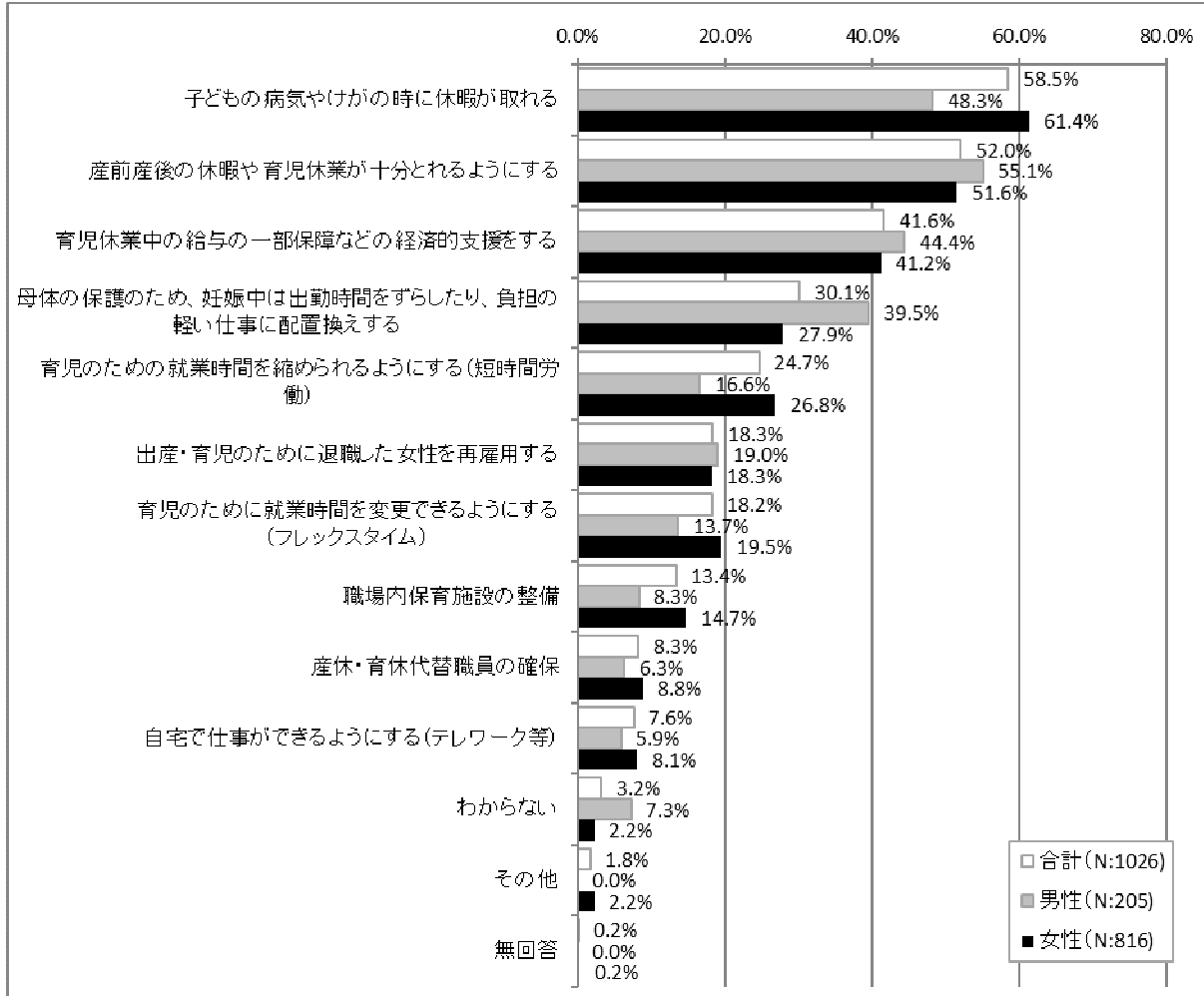
「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」は、「共働き」(42%)に対し「非共働き」(24~36%)と差が見られる。「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」の割合は、「共働き」が36%で最も小さいのに対し、「非共働き」は39%以上となっている。

【結婚・出産による母親の仕事の変化の有無別】

「出産・育児にかかわらず働き続けるのがよい」の割合は、「一時休職した」(56%)で他の仕事の変化よりも大きくなっている。また、「子どもが小さいうちは子育てに専念し、大きくなってから働くのがよい」は、「退職した」、「転職した」の割合(各々42、41%)が大きくなっている。

問28. 仕事を持っている女性が、子育てと仕事を両立しやすくするためには、職場にどのような制度が必要だと思いますか。(3つまで)

・両立する上で必要な職場の制度



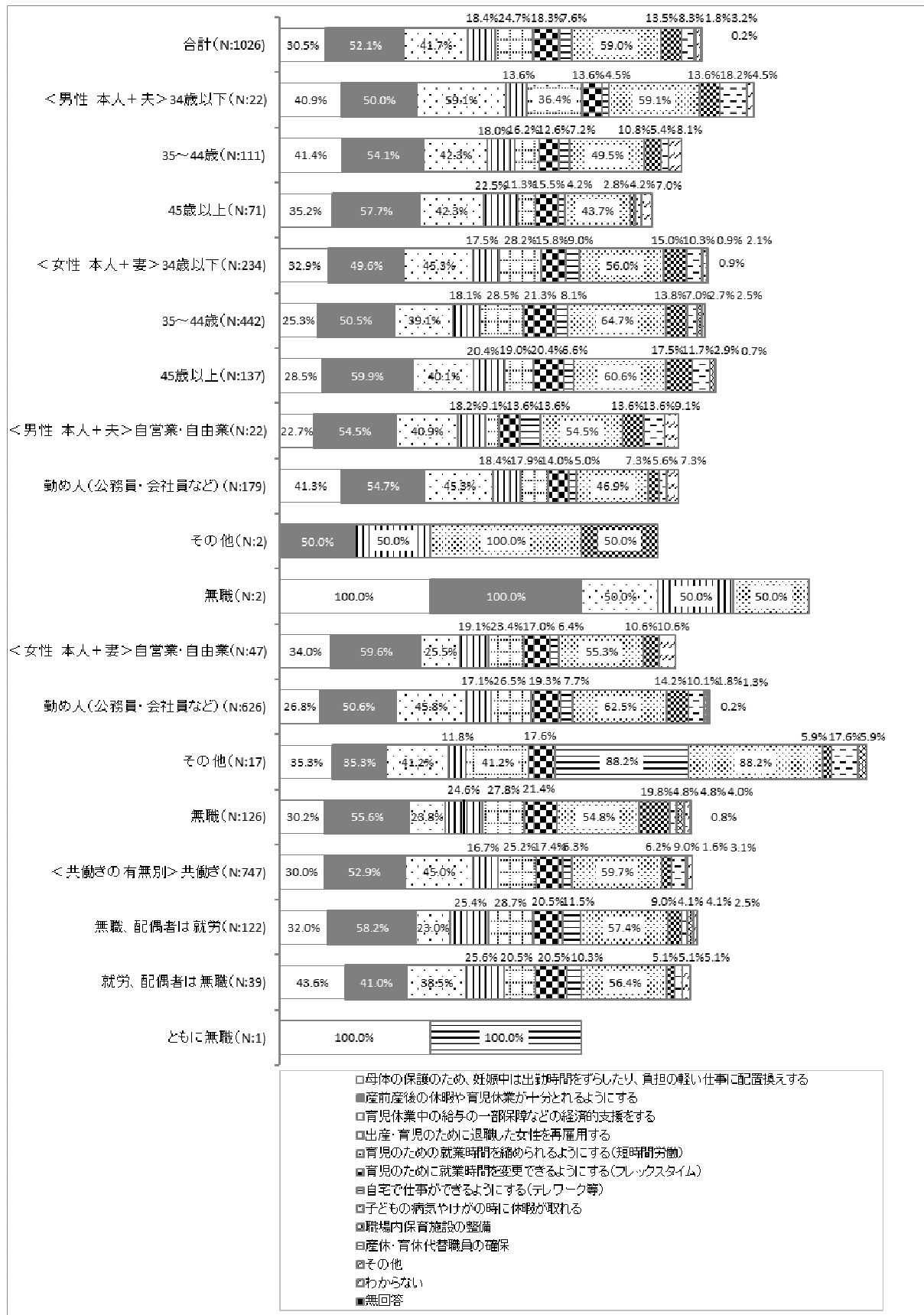
「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」が59%と最も多く、次いで「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」52%、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」42%の順となっている。

前回調査では、「子どもの病気やけがの時に休暇が取れるようにする」59%、「産前産後の休暇や育児休業が十分とれるようにする」57%、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」45%という割合、順序となっており、前回と比べて大きな差はない。

【男女別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」は、女性(61%)の方が男性(48%)よりも大きく、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」は、男性(55%)の方が女性(52%)よりも大きくなっている。その他、「母体保護のため、妊娠中は出勤時間をずらしたり、負担の軽い仕事への配置替えする」は男性の方が大きく、「育児のための短時間勤務制度を十分活用できるようにする」は女性の方が大きい。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の両立する上で必要な職場の制度



【男性年齢別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」の上位3項目については、各年代で大きな割合を占めている。

また、「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で59%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」の上位3項目については、各年代で大きな割合を占めている。

また、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で60%と最も大きくなっている。「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」の割合は、「35～44歳」(65%)で他の年代よりも大きくなっている。

【男性職業別】

「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」、「母体の保護のため、妊娠中は出勤時間をずらしたり、負担の軽い仕事に配置換えする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」について、「勤め人」の割合が「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

【女性職業別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」の割合は、「勤め人」で「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

【共働きの有無別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」の割合は、「共働き」で他の就労状況よりも大きくなっている。

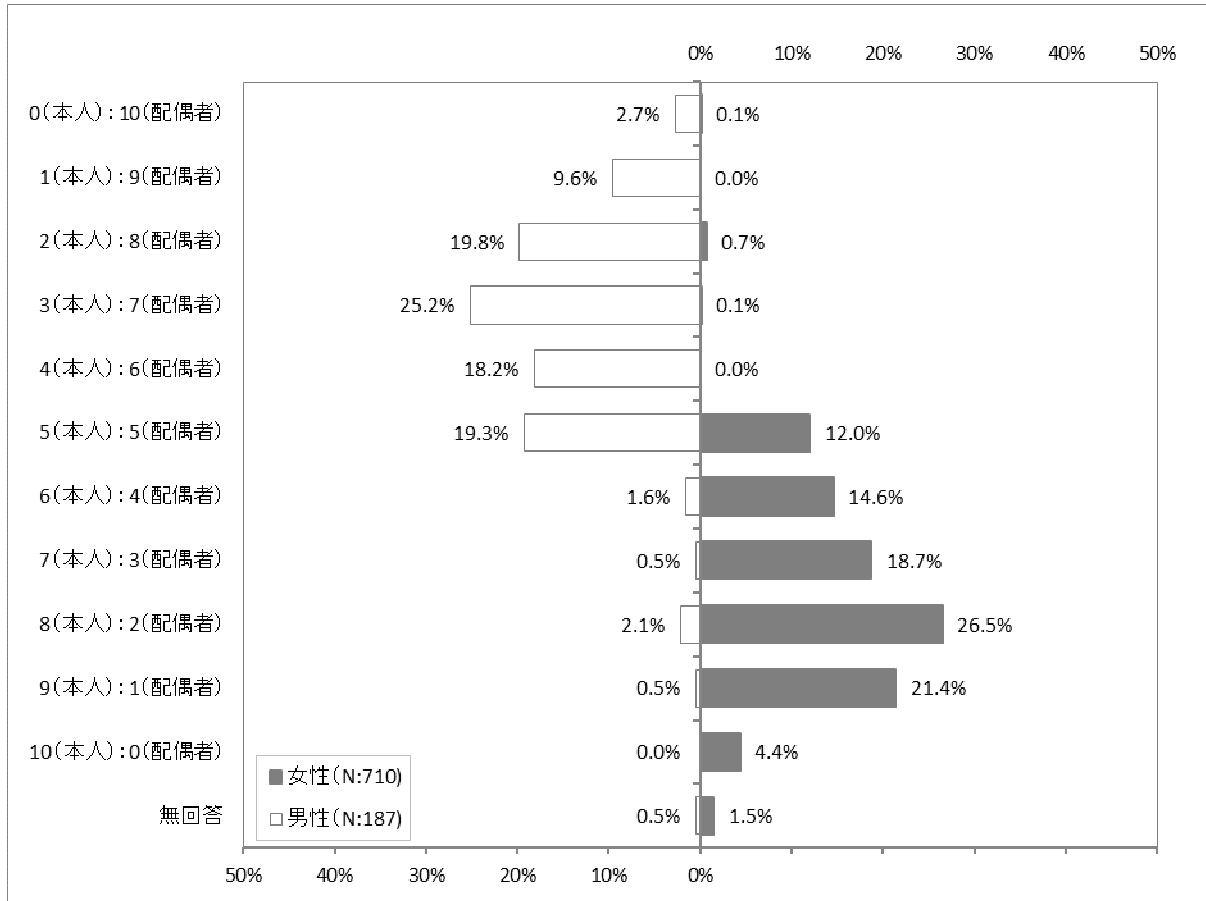
【自由回答より】

- ・ 上司・会社が子育ての大変さを理解してしていないので理解してほしい。
- ・ 育ボス(イクボス)宣言などあるが、実際の企業、上司はそうになっていない。フォローアップなど徹底して取り組んでもらいたい。
- ・ 会社や労働条件、周囲の考え方など、仕事と育児の両立ができる環境に至っていない。

夫婦の家事・育児参加について

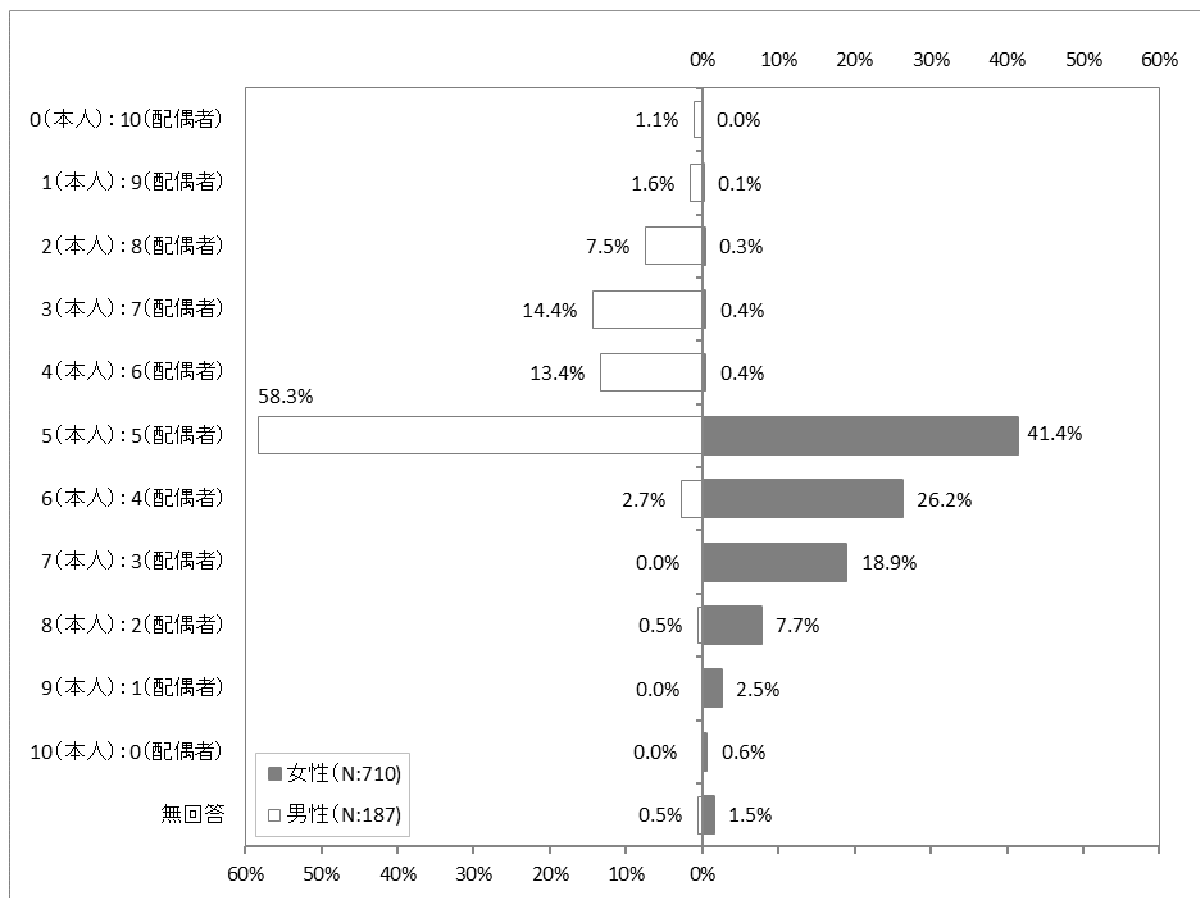
問29. (配偶者のいらっしゃる方にお聞きします)
 子育てと家事に関するご夫婦の役割分担についてお答えください。

・男女別の子育て役割分担の実態



夫婦間の子育てについての役割分担の実態について全体を10として配分してもらった結果、男性は自分の役割分担が4以下と感じている人が全体の76%を占めている。
 女性は「8」が26%と最も割合が多く、6以上で全体の86%を占めている。

・ 男女別の子育て役割分担の期待



期待としてどの程度の分担割合が適切と考えているかについては、男女ともに「5」の割合が大きいですが、男性は6以上がほとんどなく、3～5に全体の86%が集中している。女性は、5～7に全体の87%が集まっている。

・ 育児負担の実態と期待の平均

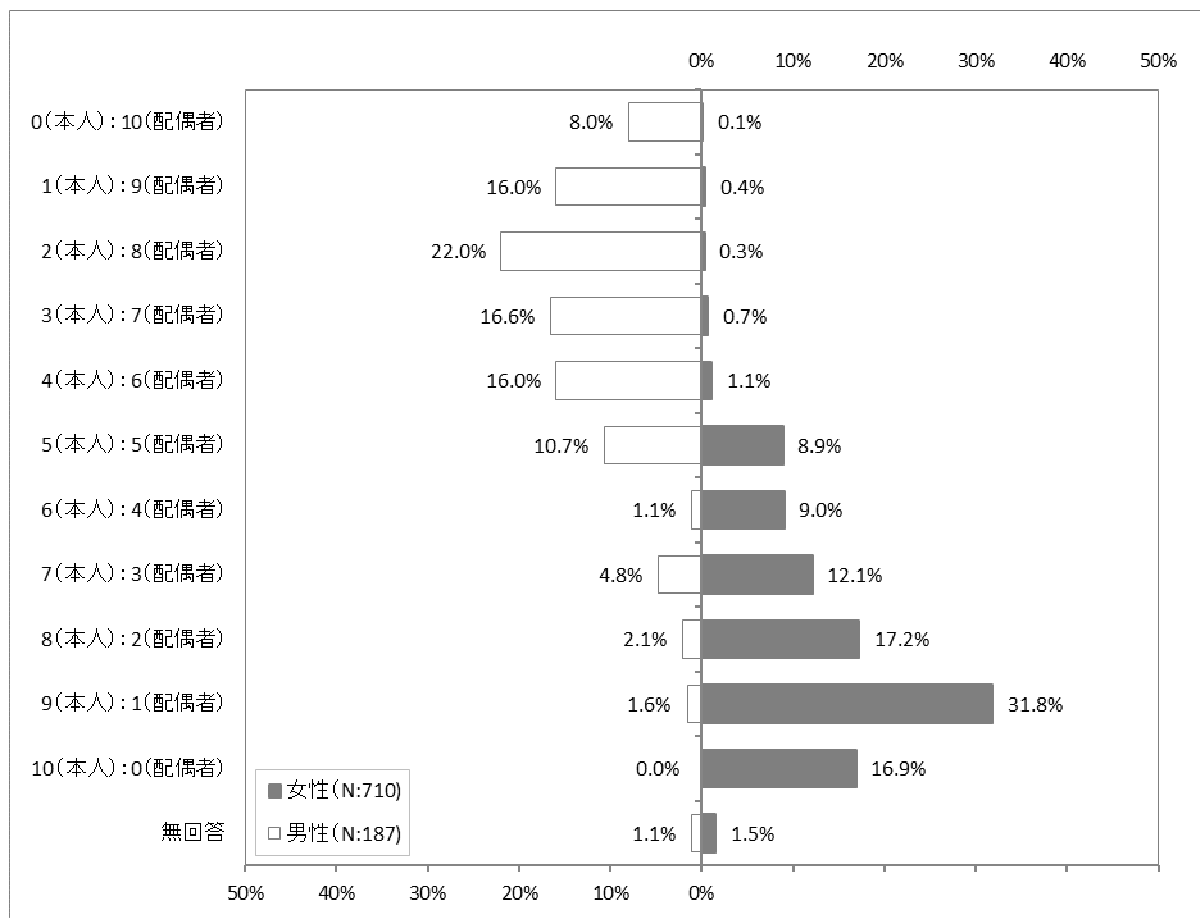
子育て	共働き状況	実態	期待
女性の考え	共働き	7.3	5.9
	総数	7.4	6.0
男性の考え	共働き	3.5	4.4
	総数	3.3	4.3

夫婦それぞれの分担割合について平均値を出すと、女性の考えでは実態が7.3～7.4、期待が5.9～6.0となり、男性の考えでは実態が3.5～3.3、期待が4.3～4.4となっている。男性、女性とも共働きと総数で実態・期待の数値に大きな乖離は見られない。

女性は、実態が期待を、共働き、総数ともに 1.4 上回っており、女性の負担感が重くなっている状況がうかがわれる。

前回調査では、女性の考えで実態が共働き 6.9、総数 7.0、期待が共働き 5.6、総数 5.7、男性の考えで実態が共働き 3.2、総数 3.0、期待が共働き 5.1、総数 4.1 となっている。前回と比べて、男性、女性とも共働き・総数で実態が大きくなっている。

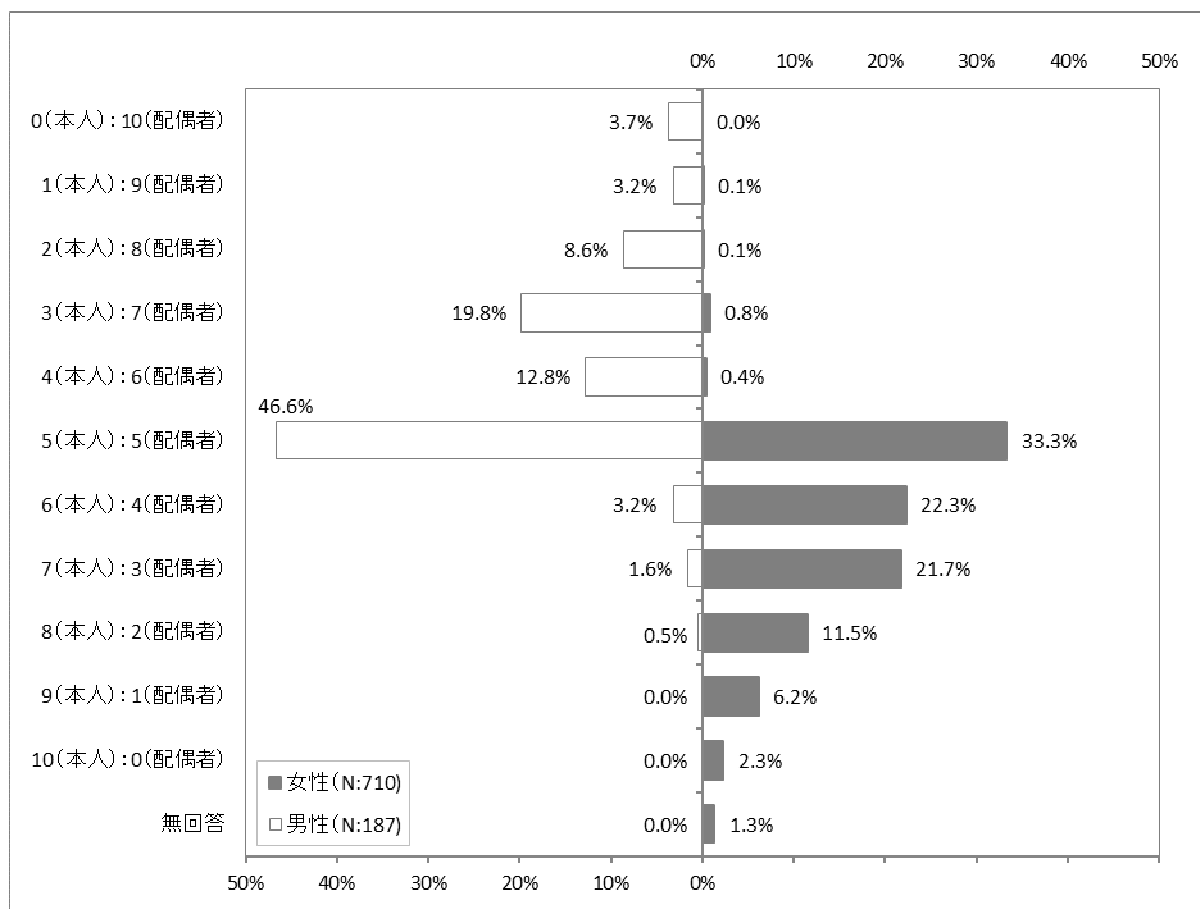
・男女別の家事役割分担の実態



夫婦間の家事に関する役割分担の実態について全体を 10 として配分してもらった結果、男性は「2」が 22%と最も多く、0～5 で全体の 89%を占めている。

女性は「9」が 32%と最も多く、6 以上で全体の 87%を占めている。

・男女別の家事役割分担の期待



期待としてどの程度の分担割合が適切と考えているかについては、男性では、自分の分担が妻よりも少ない4以下で全体の48%を占めている。女性では、自分の分担を4以下とする回答はほとんどなく、6以上が全体の64%を占めている。性別に関係なく、女性が多く分担することが適切と考えている人が多くなっている。

・家事負担の実態と期待の平均

家事負担	共働き状況	実態	期待
女性の考え	共働き	7.8	6.2
	総数	7.9	6.3
男性の考え	共働き	3.2	4.1
	総数	3.0	4.0

夫婦それぞれの分担割合について平均値を出すと、女性の考えでは実態が7.8~7.9、期待が6.2~6.3、男性の考えでは実態が3.0~3.2、期待が4.0~4.1となっている。女性の負担が子育て以上に大きい状況がうかがえる。

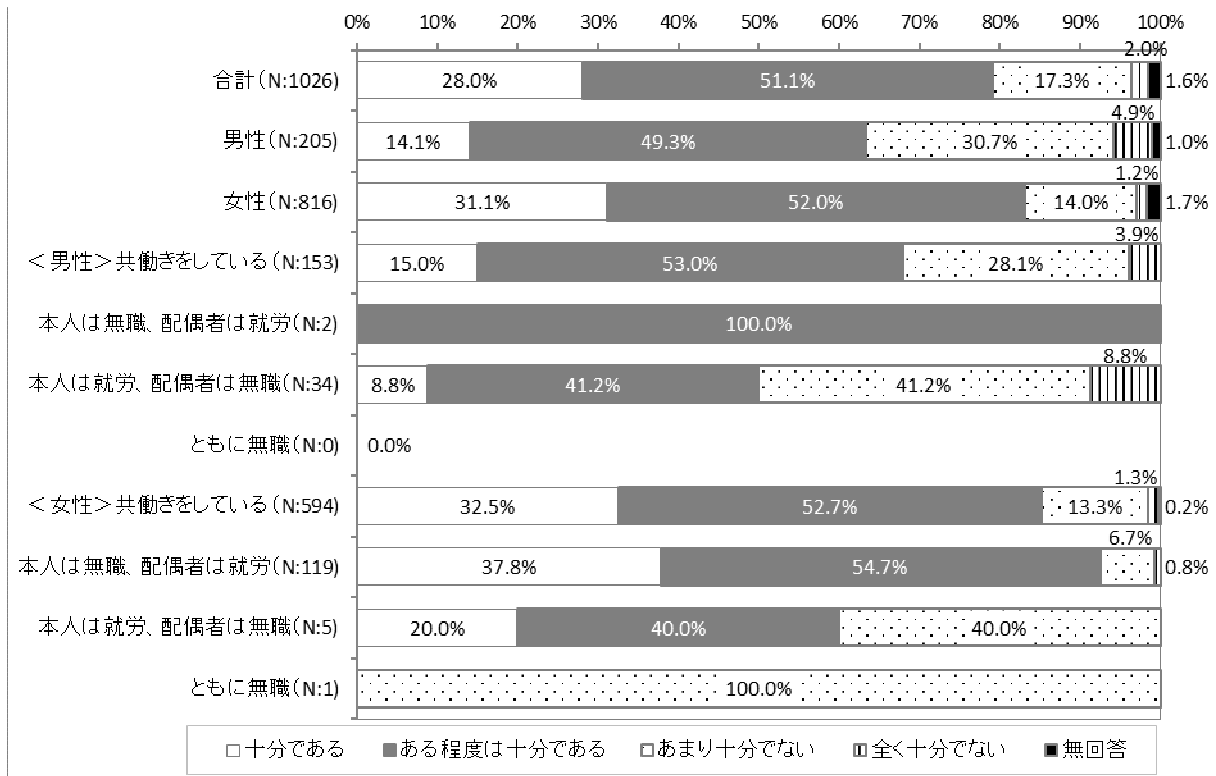
なお、女性、男性ともに、共働きと総数で数値に大きな乖離は見られない。

前回調査では、女性の考えで実態が共働き 7.9、総数 8.0、期待が共働き 6.3、総数 6.5、男性の考えで実態が共働き 2.4、総数 2.3、期待が共働き 3.6、総数 3.4 となっている。

前回と比べて、女性の共働き・総数で実態・期待全てにおいて 0.1～0.2 小さくなっているのに対して男性は 0.5～0.8 大きくなっている。

問30. あなたの子育てへの関わりは十分だと思いますか。

・男女別、性・共働きの有無別の子育てへの関わり



自分自身の子育てへの関わりについては、「十分である」と「ある程度は十分である」の合計で79%を占めている。

【男女別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、男性63%に対して女性83%となっている。特に、「十分である」の割合は、女性(31%)が男性(14%)となっており2倍以上の差が見られる。

【男性の共働きの有無別】

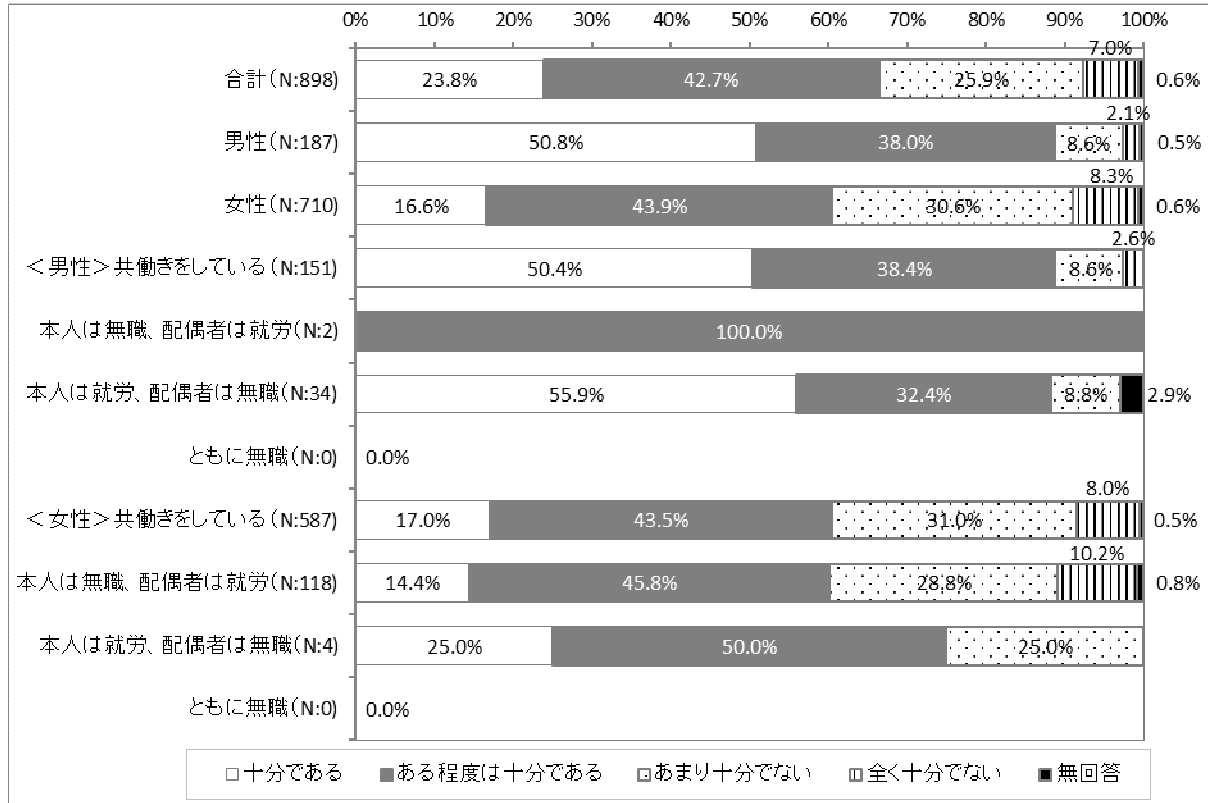
「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働き」(68%)の方が「本人は就労、配偶者は無職」よりも大きくなっている。「あまり十分でない」は「本人は就労、配偶者は無職」(41%)の方が「共働きをしている」(28%)よりも大きくなっている。

【女性の共働きの有無別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働きをしている」(85%)の方が「本人は無職、配偶者は就労」(93%)よりも小さくなっている。

問31. (配偶者のいらっしゃる方にお聞きします)
あなたの配偶者の子育てへの関わりは十分だと思いますか。

・男女別、性・共働きの有無別の配偶者の子育てへの関わり



配偶者の子育てへの関わりについての評価は、「十分である」、「ある程度は十分である」が合計で67%を占めている。

【男女別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、男性（89%）の方が女性（61%）よりも格段に大きくなっている。特に、「十分である」の割合が、男性51%に対し女性17%となっており、夫の妻に対する評価が高い反面、妻の夫に対する評価が低い状況がうかがわれる。

【男性共働きの有無別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働きをしている」（89%）、「本人は就労、配偶者は無職」（88%）で大きな差は見られない。

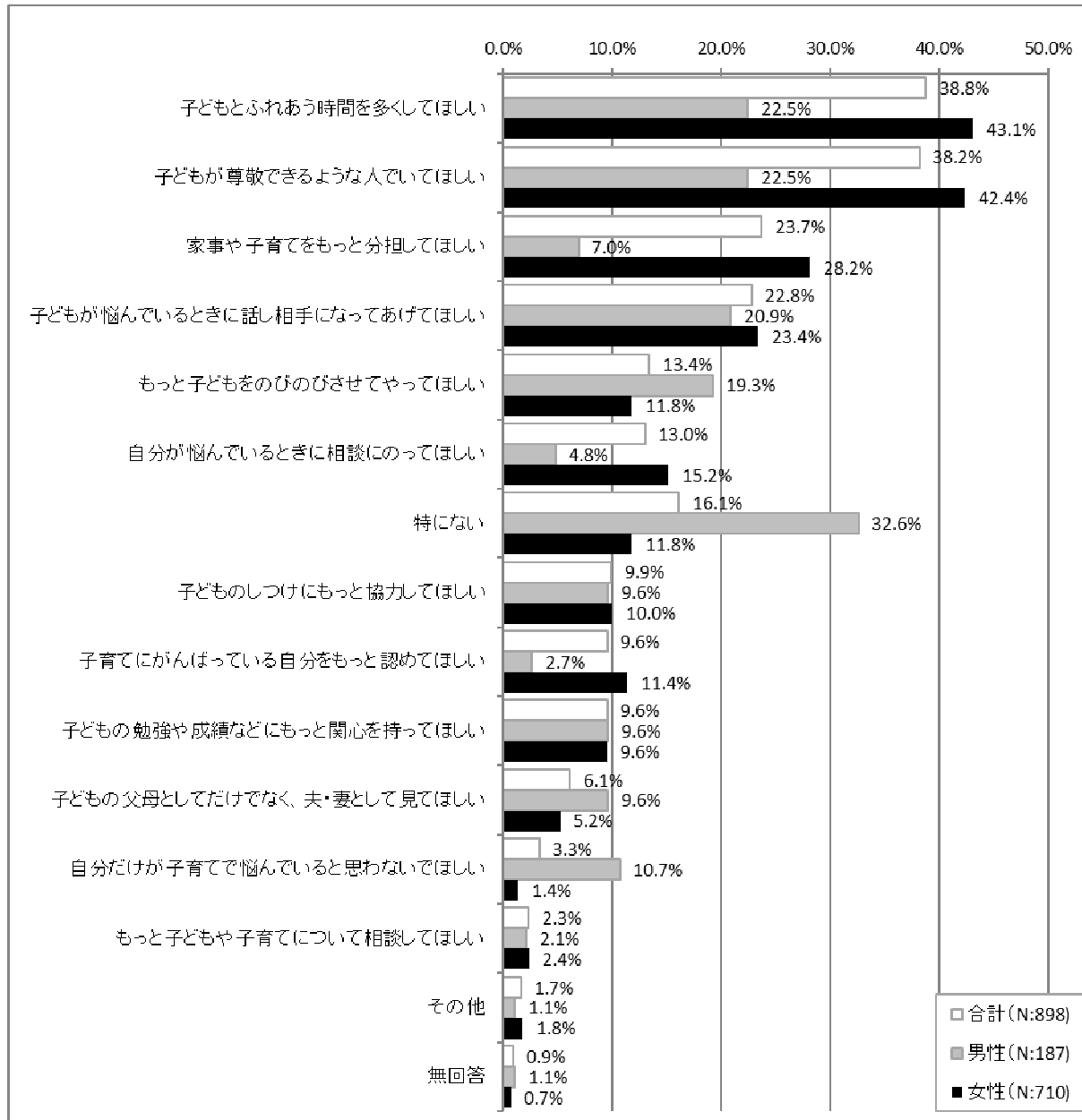
【女性共働きの有無別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働きをしている」（61%）、「本人は無職、配偶者は就労」（60%）で大きな差は見られない。

問32. (配偶者のいらっしゃる方にお聞きします)

あなたは、子育てに関して配偶者にどのようなことを望みますか。(3つまで)

・子育てに関して配偶者に望むこと



「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」が39%と最も多く、次いで「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」38%、「家事や子育てをもっと分担してほしい」24%、「子どもが悩んでいるときに話し相手になってあげてほしい」23%の順となっている。

【男女別】

男性では、「特にない」33%、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」ともに23%、「子どもが悩んでいる時に話し相手になってあげてほしい」21%、「もっと子どもをのびのびさせてやってほしい」19%の割合、順位となっている。

女性では、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」43%、「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」42%、「家事や子育てをもっと分担してほしい」28%、「子どもが悩んでいる時に話し相手になってあげてほしい」23%、「自分が悩んでいる時に相談にのってほしい」15%の割合、順位となっている。

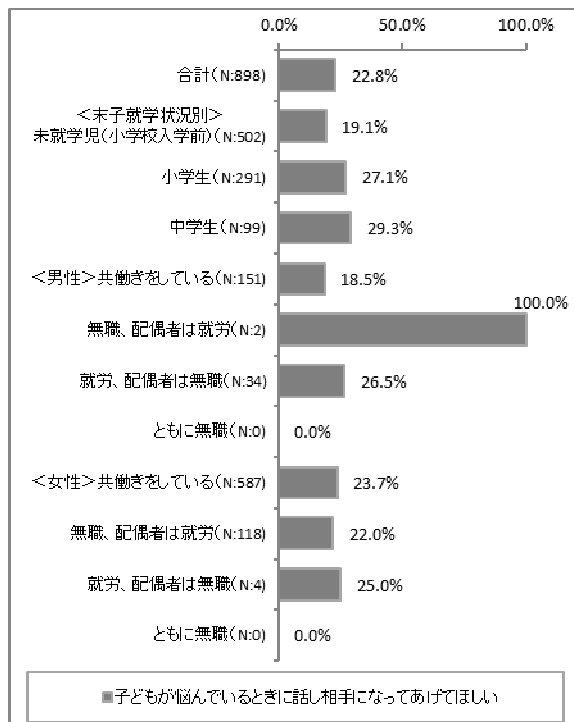
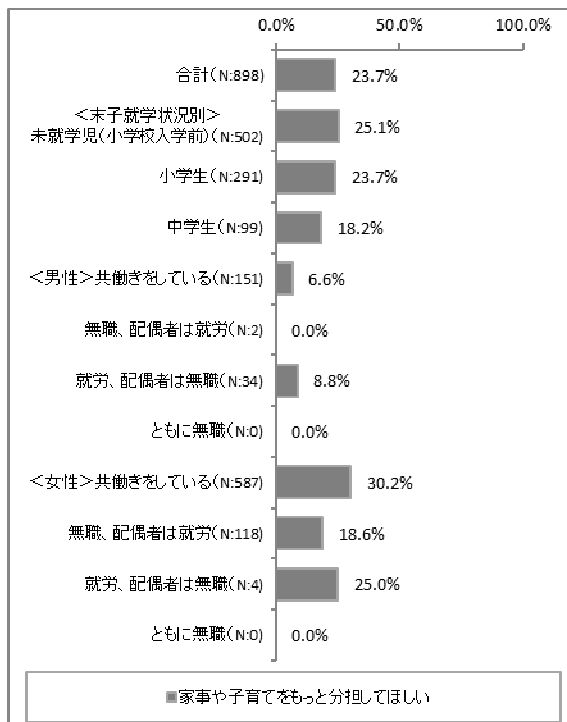
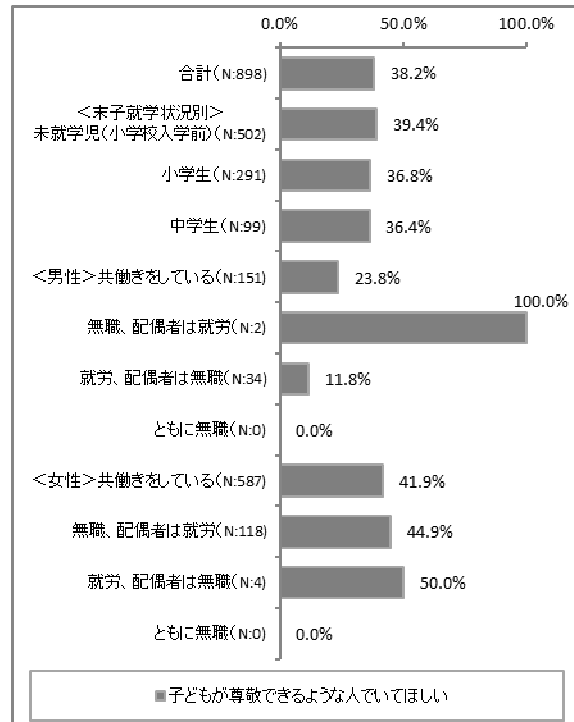
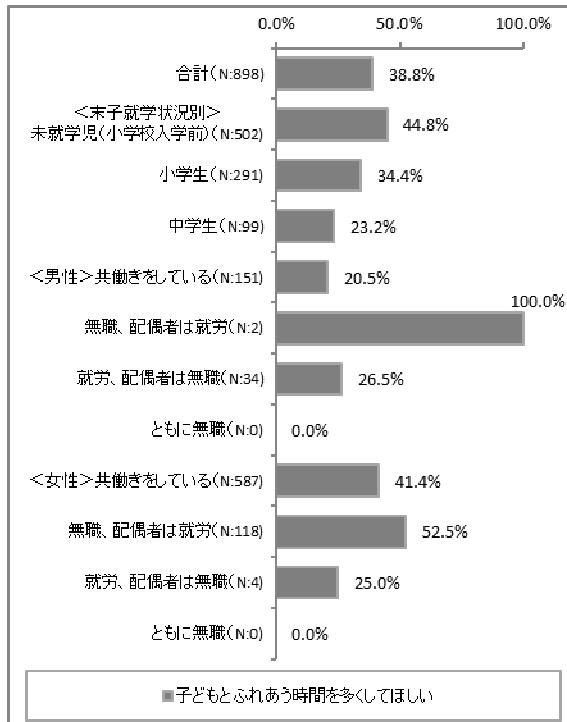
総じて、妻の夫への要望の割合が夫の妻への要望よりも大きくなっており、子育てに関する女性の負担感の重さがうかがわれる。

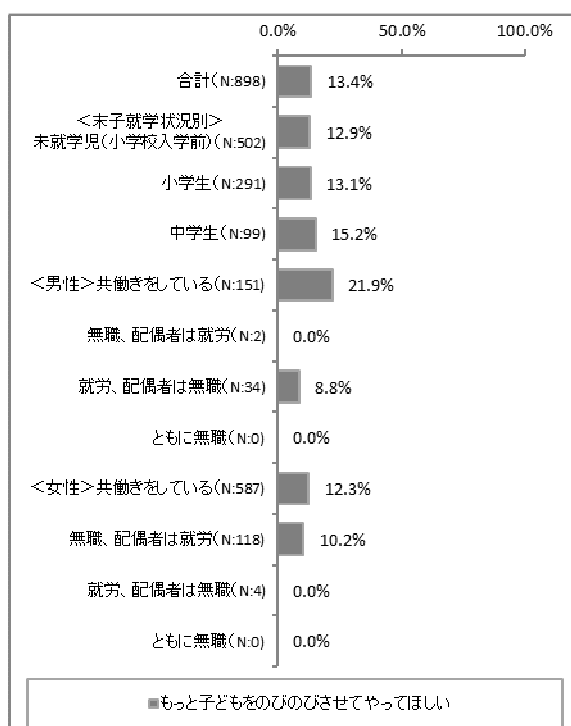
妻が夫に求めているのは、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「家事や子育てをもっと分担してほしい」、「自分が悩んでいる時に相談にのってほしい」、「子育てに頑張っている自分をもっと認めてほしい」など、子育てへの関与や役割分担の強化、自分への相談相手としての役割であることがうかがわれる。

一方、夫が妻に求めているのは、「もっと子どもをのびのびさせてやってほしい」、「自分だけが子育てで悩んでいると思わないでほしい」、「子どもの父母としてだけでなく、夫・妻として見てほしい」など、自分への信頼等、バランスのとれたものの見方であることがうかがわれる。

なお、「特にない」の割合は、男性33%に対し女性12%と、大きな差が見られる。

・末子就学状況別、性・共働きの有無別の配偶者に望むこと（上位5位）





【末子の就学状況別】

「子どもが悩んでいる時に話し相手になってあげてほしい」、「もっと子どもをのびのびさせてやってほしい」は、年代が上がるにつれ大きくなっており、「中学生」の割合（各々29%、15%）が最も大きくなっている。一方、他の項目は、「未就学児」の割合が最も大きくなっている。「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」、「家事や子育てをもっと分担してほしい」は、年代が下がるにつれ大きくなっている。

【男性共働きの有無別】

「子どもが悩んでいる時に話し相手になってあげてほしい」、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「家事や子育てをもっと分担してほしい」の割合は、「本人は就労、配偶者は無職」の方が「共働きをしている」よりも大きくなっている。「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」、「もっと子どもをのびのびさせてやってほしい」は、「共働きをしている」の方が大きくなっている。

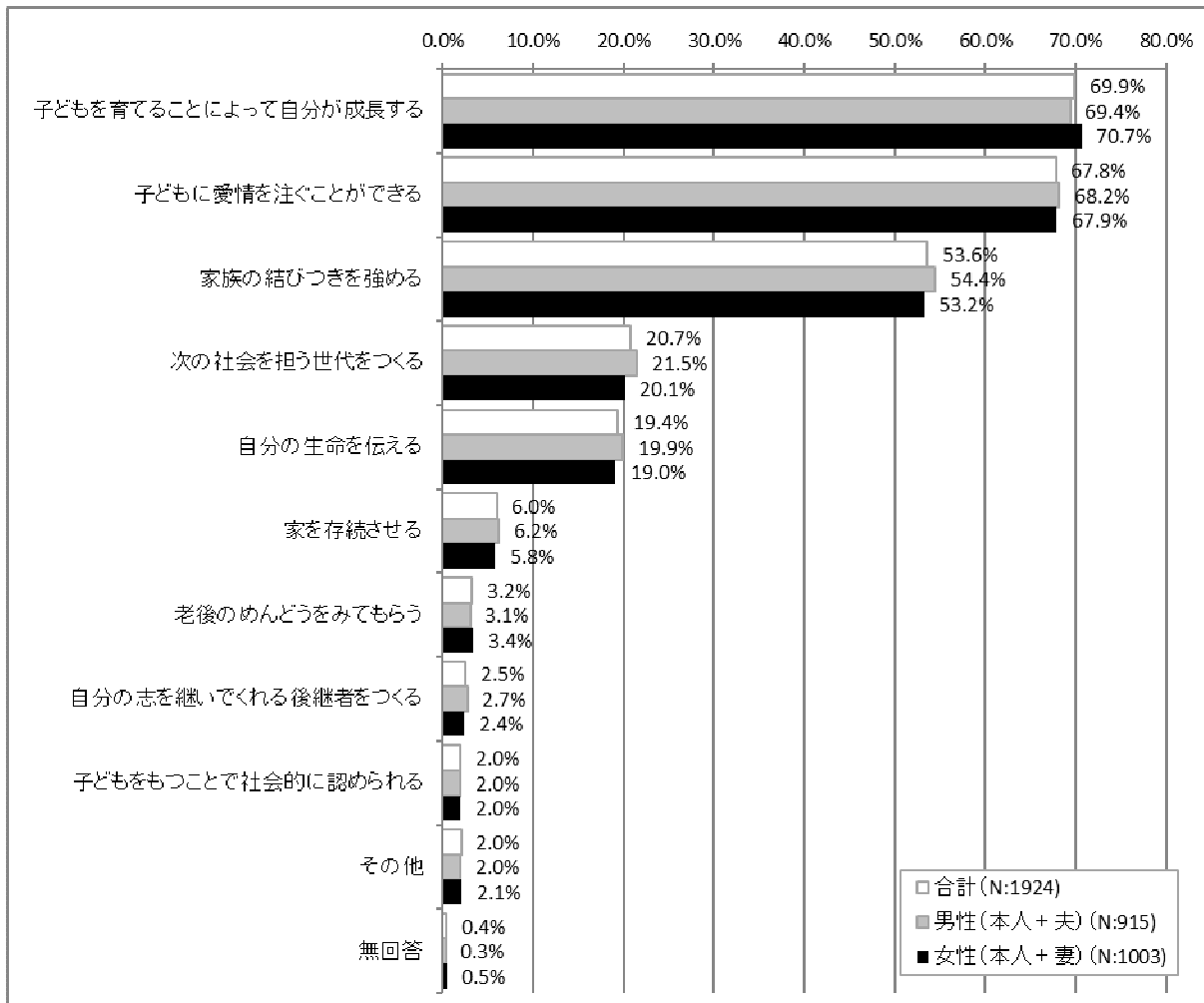
【女性共働きの有無別】

「家事や子育てをもっと分担してほしい」、「子どもが悩んでいるときに話し相手になってあげてほしい」、「もっと子どもをのびのびさせてやってほしい」の割合は、「共働きをしている」の方が「本人は無職、配偶者は就労」よりも大きくなっている。

育児に関する意識について

問33. あなたとあなたの配偶者は、子どもを産み育てることの喜びや良さはどのようなことだと思いますか。(3つまで)

・子どもを生み育てることの喜びや良さ（回答者と配偶者の合計）



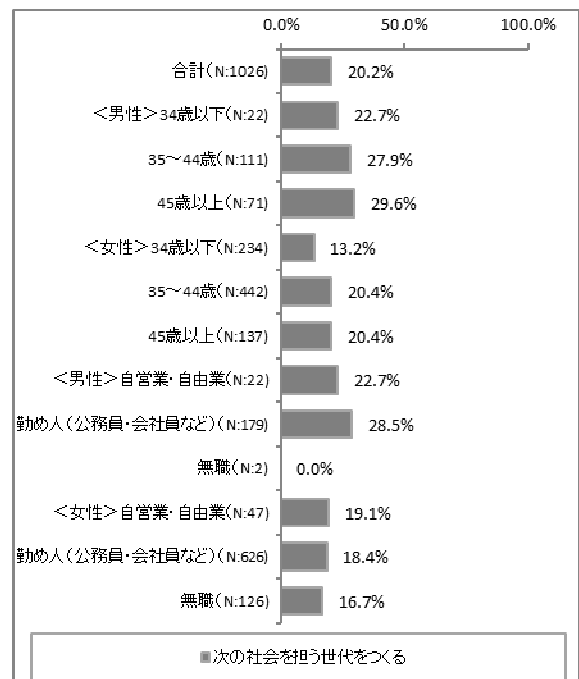
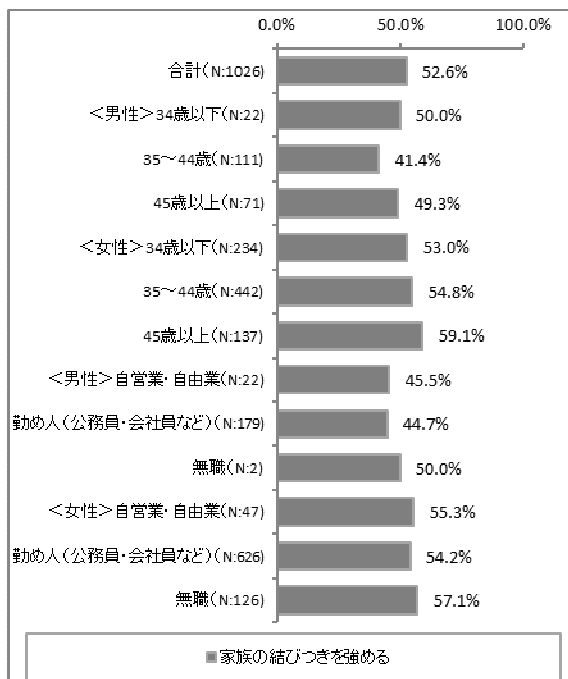
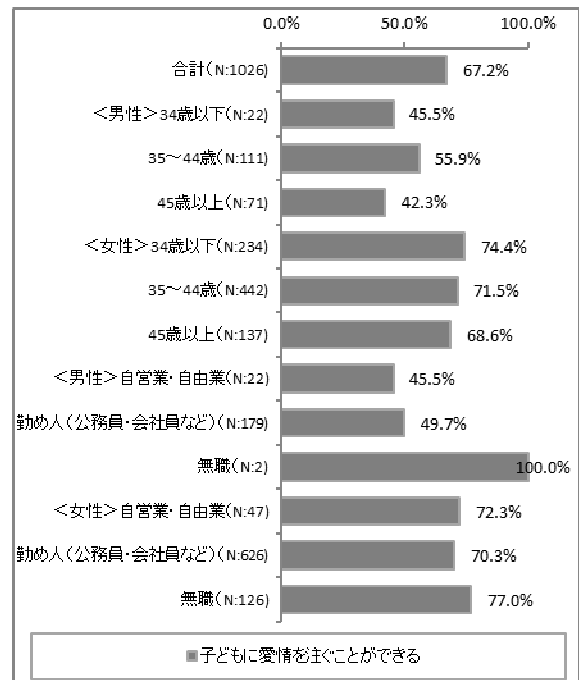
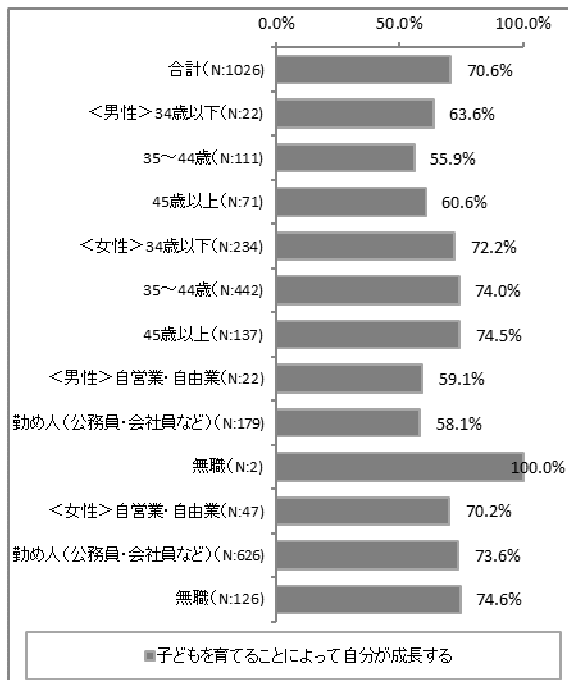
「子どもを育てることによって自分が成長する」が70%と最も多く、次いで「子どもに愛情を注ぐことができる」68%、「家族の結びつきを強める」54%、「次の社会を担う世代をつくる」21%、「自分の生命を伝える」19%の順となっている。

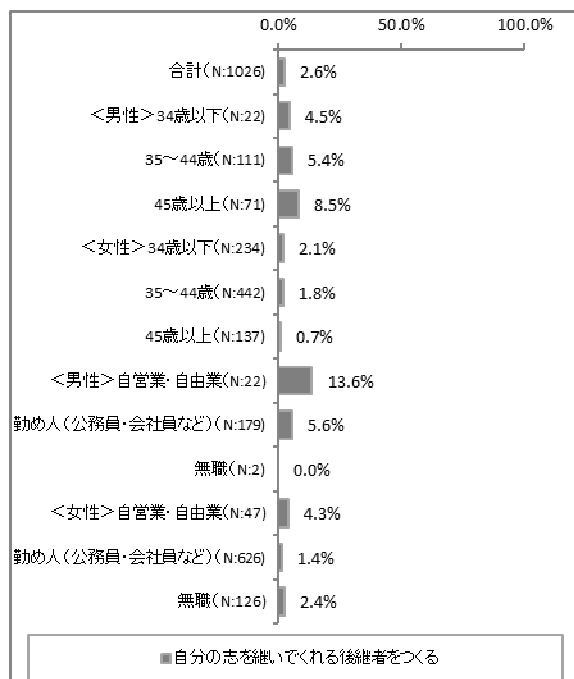
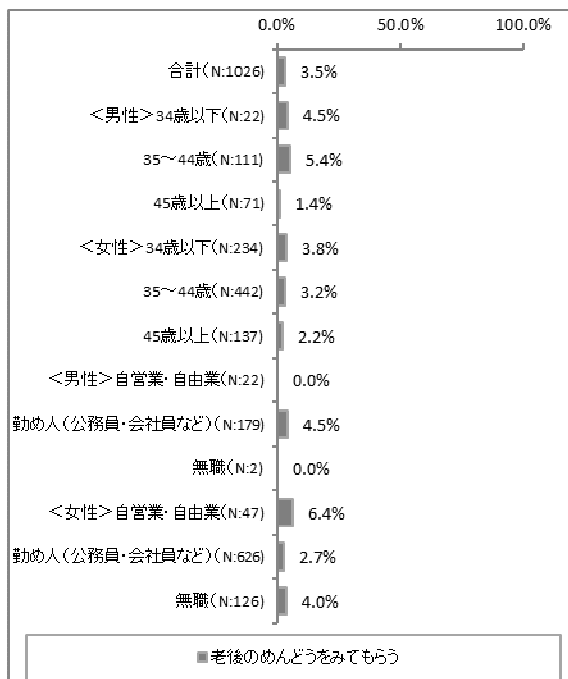
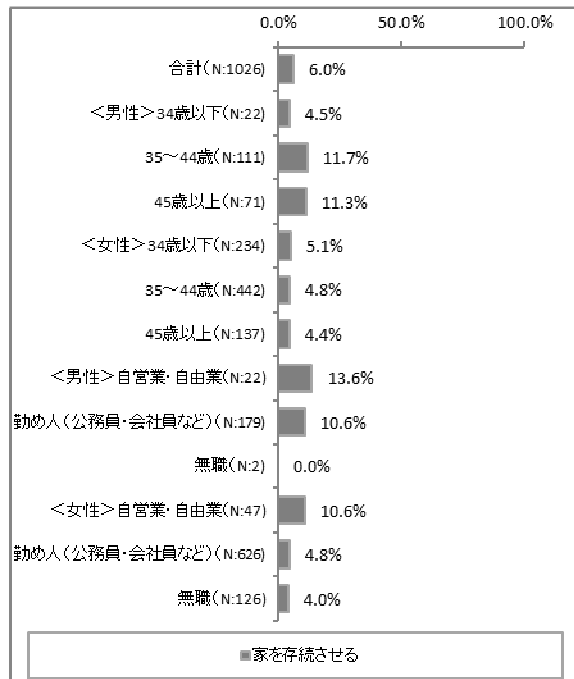
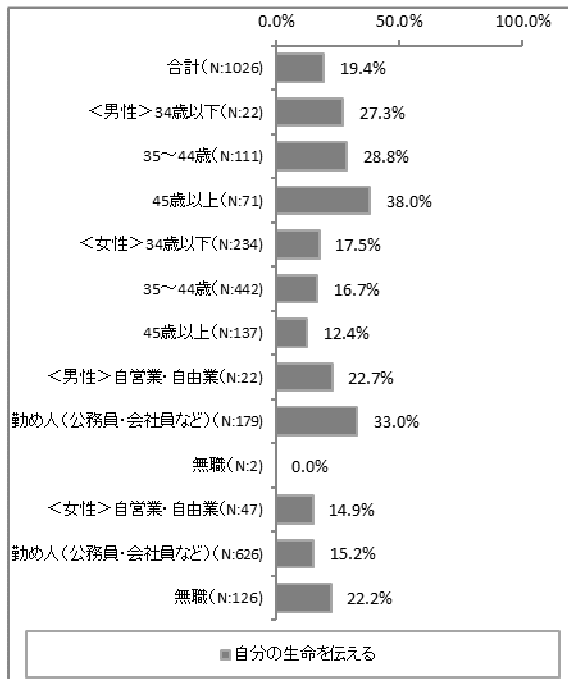
前回調査では、「子どもを育てることによって自分が成長する」が59%、「家族の結びつきを強める」56%、「子どもを育てることは楽しい」39%、「次の社会を担う世代をつくる」31%、「自分の生命を伝える」27%の順位となっている。前回調査と比べて「子どもを育てることによって自分が成長する」が11ポイント増加、「次の社会を担う世代をつくる」が10ポイント減少している。「子どもに愛情を注ぐことができる」は今回調査から回答に追加されたため、前回調査はない。

【男女別】

全ての項目について男性と女性に大きな差は見られない。

・性・年齢別、性・職業別の子どもを育てることの喜びや良さ（回答者本人）





【男性年齢別】

「子どもを育てることによって自分が成長する」、「家族の結びつきを強める」については、「34歳以下」の割合（各々64%、50%）が他の年代よりも大きくなっている。「子どもに愛情を注ぐことができる」の割合は、「35～44歳」（56%）で大きくなっている。

また、「自分の生命を伝える」、「次の社会を担う世代をつくる」については、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合（各々38%、30%）が最も大きくなっている

【女性年齢別】

「子どもに愛情を注ぐことができる」、「自分の生命を伝える」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で（各々74%、18%）最も大きくなっている。

「子どもを育てることによって自分が成長する」、「家族の結びつきを強める」、「次の社会を担う世代をつくる」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で（各々75%、59%、20%）と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「子どもを育てることによって自分が成長する」、「家族の結びつきを強める」については、「自営業・自由業」の割合（各々59%、46%）が「勤め人」よりも大きくなっているが、差はほとんどない。

「子どもに愛情を注ぐことができる」、「自分の生命を伝える」、「次の社会を担う世代をつくる」については、「勤め人」の割合（各々50%、33%、29%）が「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

【女性職業別】

各就業状況で「子どもに愛情を注ぐことができる」が70～77%、「子どもを育てることによって自分が成長する」が70～75%と、大きな割合を占めている。

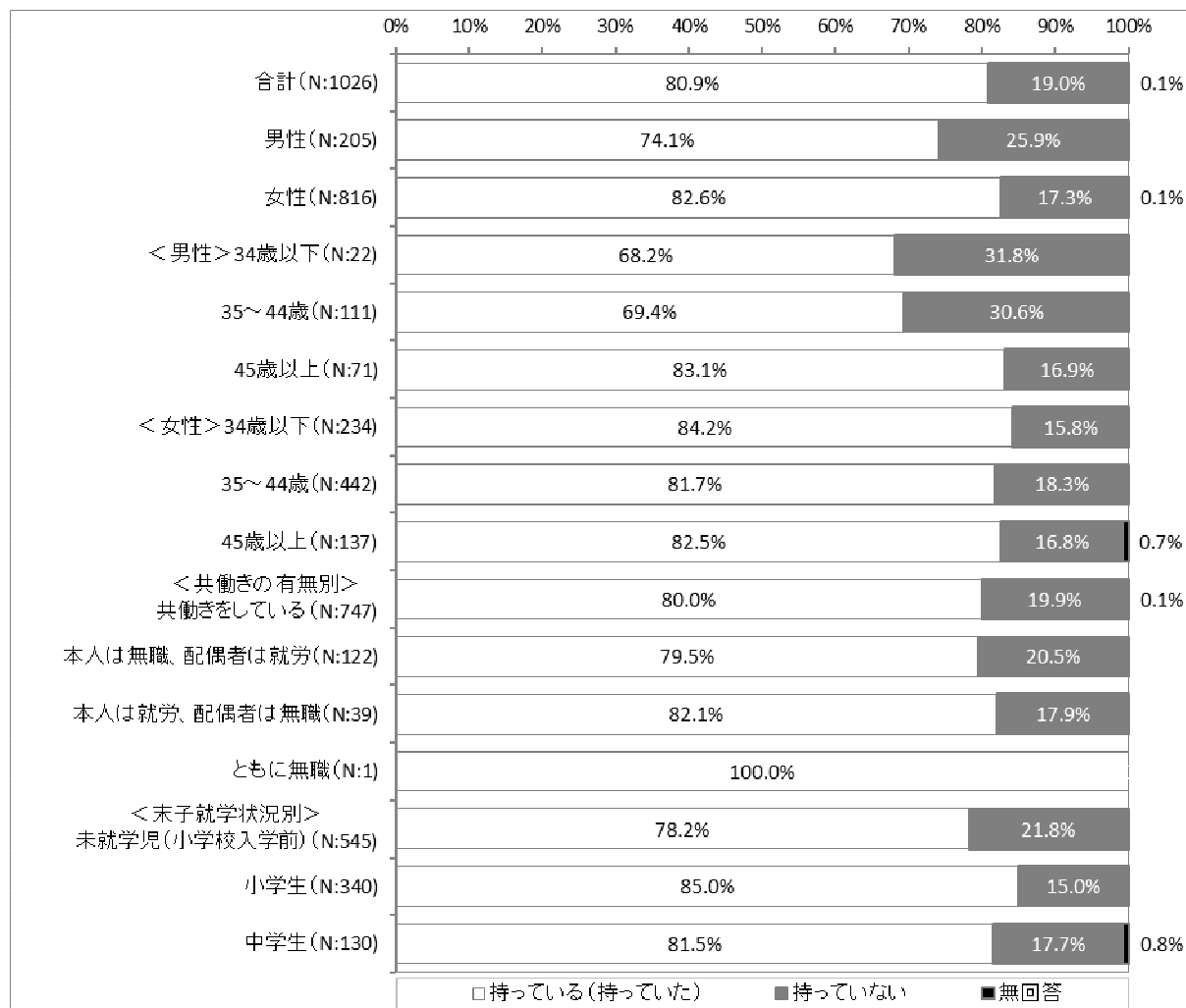
また、就業状況による差はあまり見られない。

【自由回答から】

- ・子供がいることだけで幸せであり 自分への特段の見返りは期待しない。
- ・子どもを通じて交流が広がる
- ・自分の目線だけではなく、さまざまな視点で物事を考えるようになる。
- ・子どもの存在が、自分の生きる力となる。

問34. あなたは子育てをする上で、不安や悩み、あるいは辛さを持っていますか。
(持っていましたか)

・ 性、年齢別、共働きの有無別、就学状況別の子育てをする上での不安・悩み・辛さ



「持っている(持っていた)」が81%、「持っていない」が19%となっている。

【男女別】

「持っている(持っていた)」で女性が83%、男性が74%となっており、女性が男性より9ポイント大きい。

【男性年齢別】

「持っている(持っていた)」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で83%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「持っている（持っていた）」の割合は、「34歳以下」で84%と最も大きくなっているが、年代による差はほとんど見られない。

【共働きの有無別】

「持っている（持っていた）」について、「本人は就労、配偶者は無職」が82%で最も大きく、「本人は無職、配偶者は就労」、「共働きをしている」がともに80%となっており、就業状況による差はほとんど見られない。

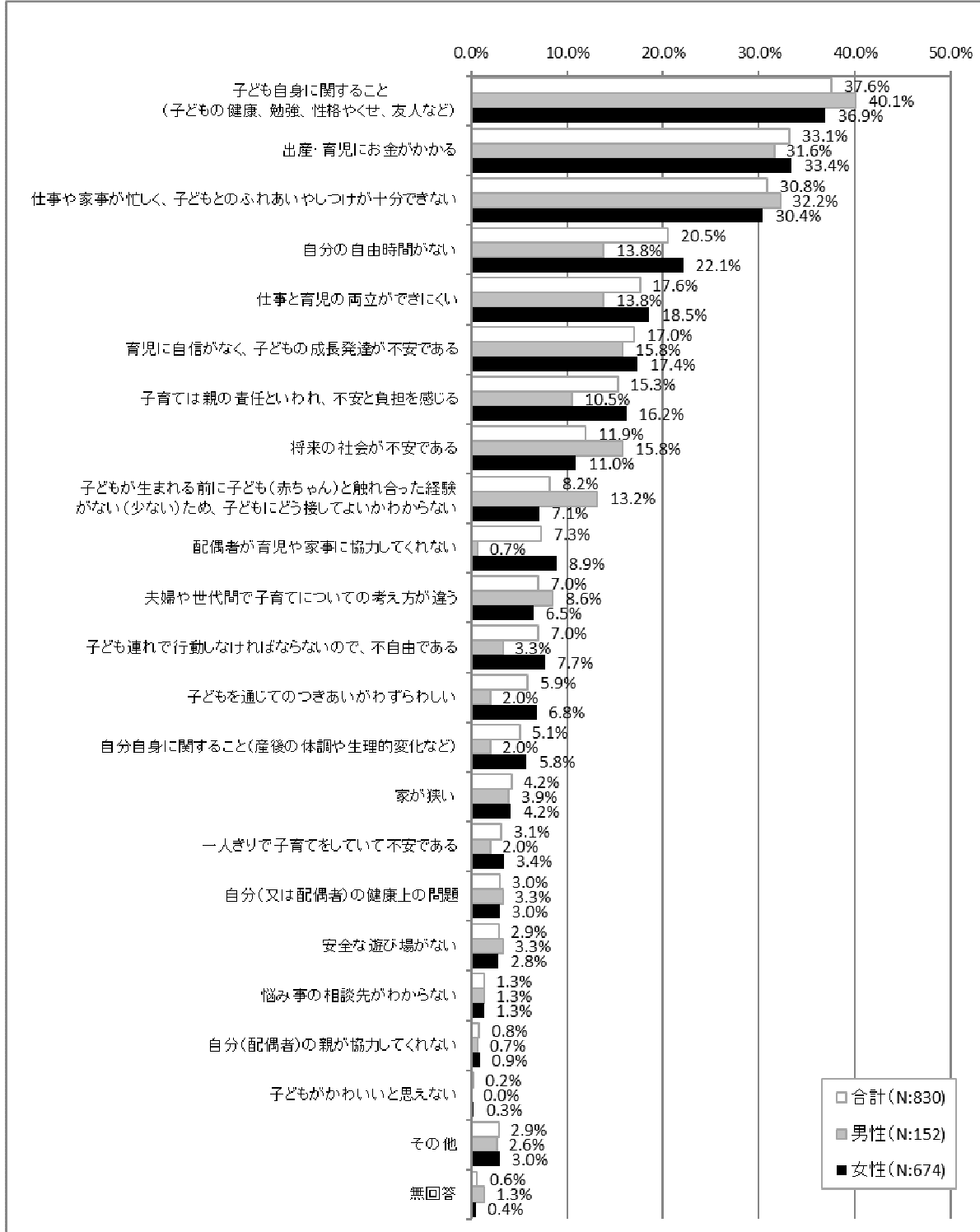
【末子就学状況別】

「持っている（持っていた）」の割合は、「小学生」で85%と最も大きくなっている。

問34-1. (問34で「1. 持っている」とお答の方にお聞きします)

あなたは、子育てをする上で、どのようなことに辛さ・不安・悩みを持ちましたか。(持っていますか)(3つまで)

・子育てをする上での辛さ・不安・悩み



「子ども自身に関すること」が38%と最も多く、次いで「出産・育児にお金がかかる」33%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」31%、「自分の自由時間がない」21%、「仕事と育児の両立ができてにくい」18%の順となっている。

前回調査では、「子ども自身に関すること」が43%と最も多く、次いで「出産・育児にお金がかかる」37%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」25%、「自分の自由時間がない」20%、「将来の社会が不安である」19%という割合、順位となっている。

前回と比べて、「子ども自身に関すること」が5ポイント、「出産・育児にお金がかかる」が4ポイント減少している。他、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」が6ポイント、「自分の自由時間がない」が1ポイントの増加、「仕事と育児の両立ができてにくい」は5ポイント増加し8位から5位となっている。

【男女別】

男性では、「子ども自身に関すること」40%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」32%、「出産・育児にお金がかかる」32%、「育児に自信がなく、子どもの成長発達が不安である」、「将来の社会が不安である」ともに16%の割合、順位となっている。

女性では、「子ども自身に関すること」37%、「出産・育児にお金がかかりすぎる」33%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」30%、「自分の自由時間がない」22%、「仕事と育児の両立ができてにくい」19%の割合、順位となっている。

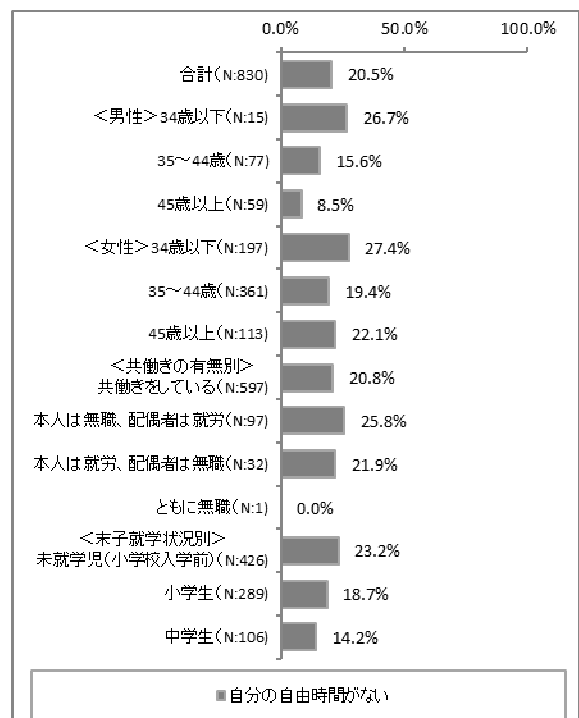
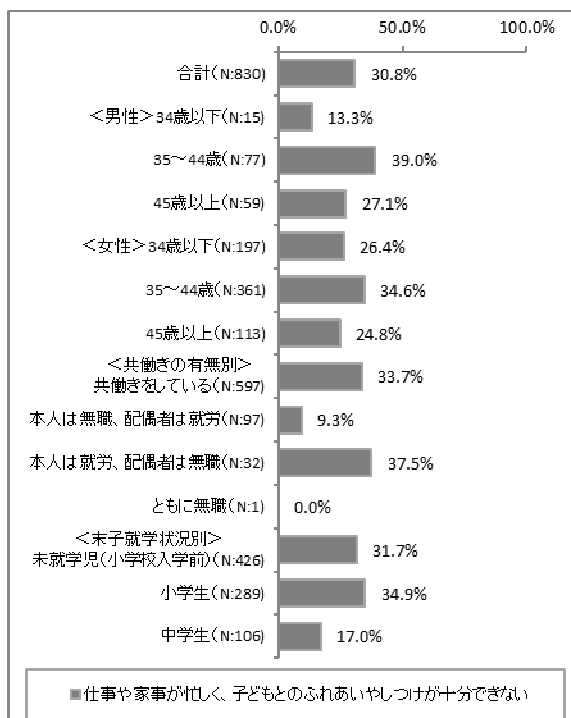
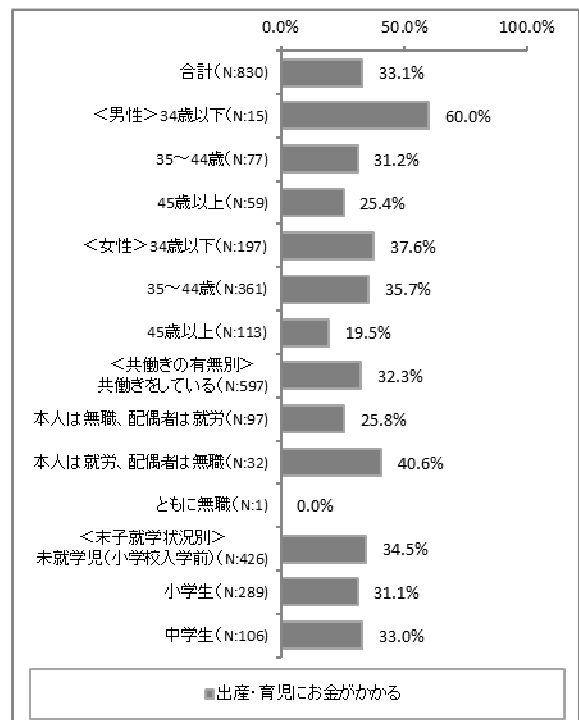
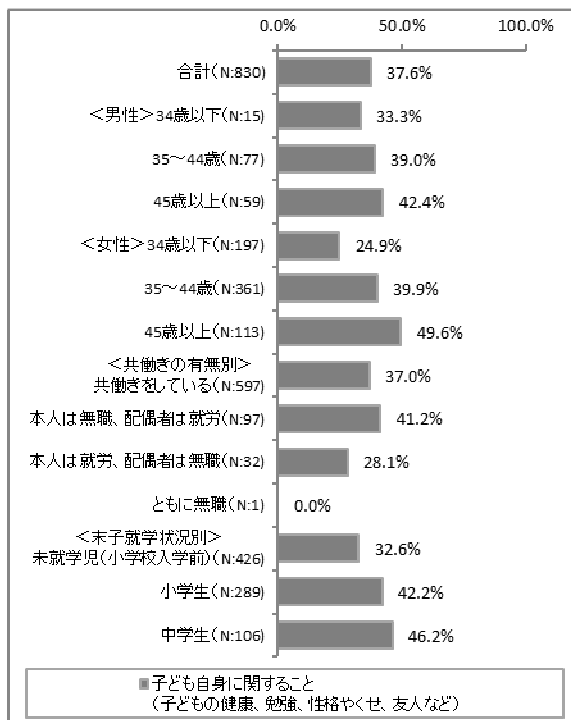
「子ども自身に関すること」、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」、「将来の社会が不安である」の割合は、男性の方が女性よりも大きく、順位も上になっている。

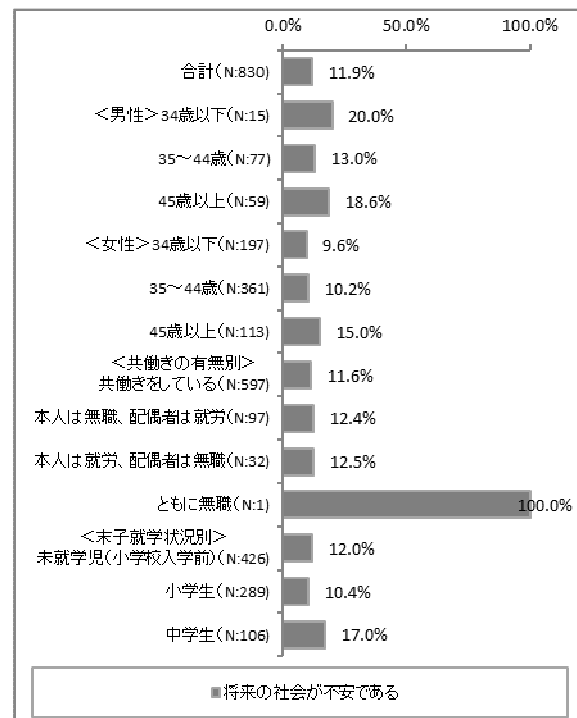
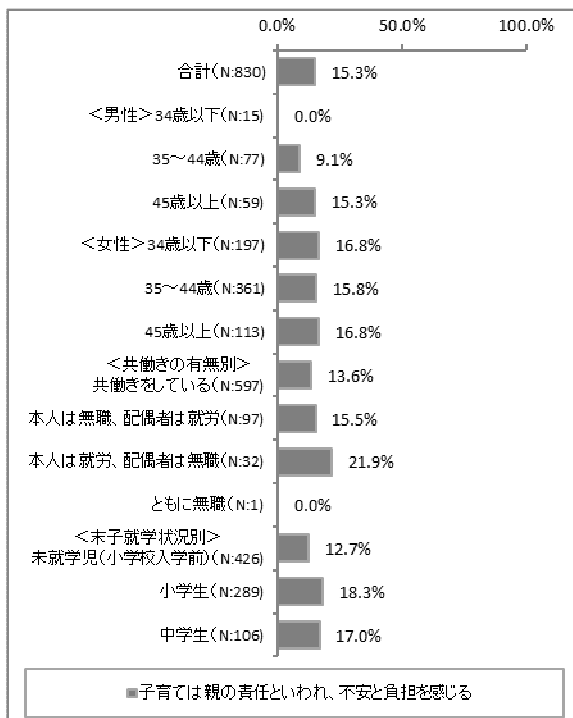
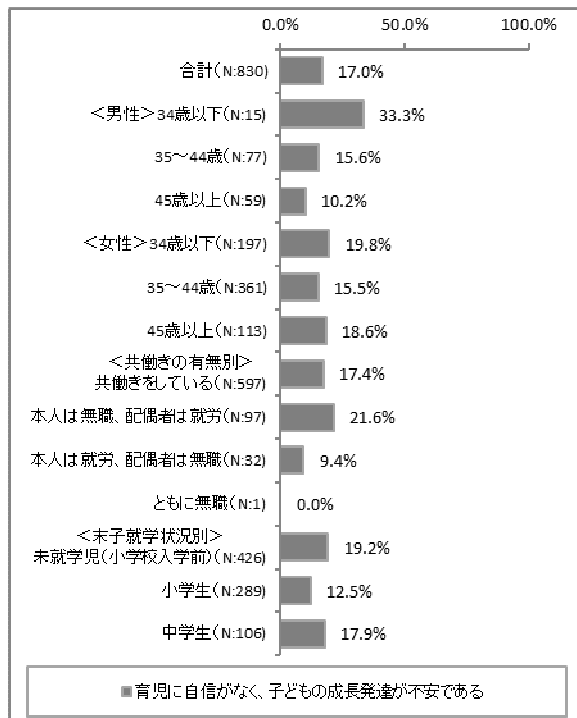
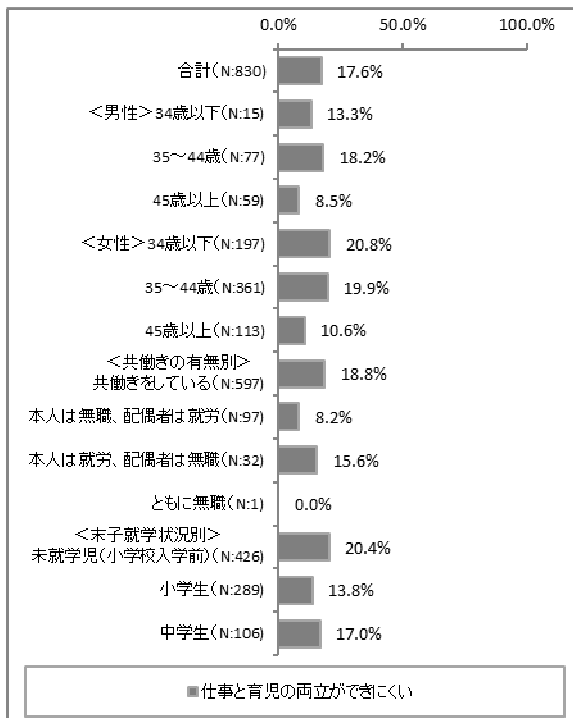
一方、「出産・育児にお金がかかりすぎる」、「自分の自由時間がない」、「仕事と育児の両立ができてにくい」の割合は、女性の方が男性よりも大きく、順位も上になっている。

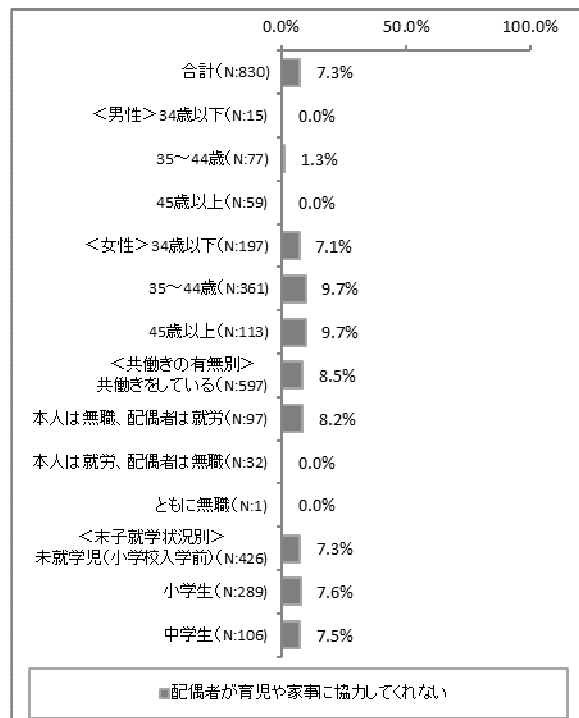
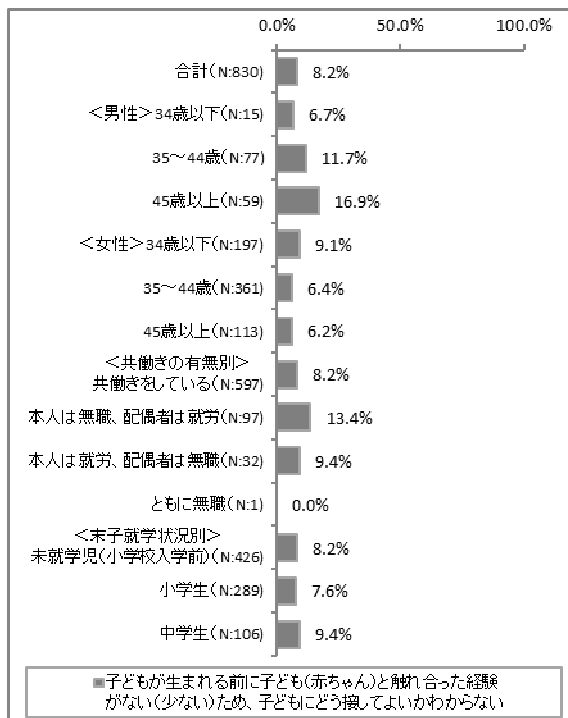
【自由回答から】

- ・子どもと一緒に生活する幸せの半分は不安で、1人で悩む事もあり、気軽に相談できれば違うと思う。子育て以外の悩みも、気軽にバネずに相談できれば気持ちが楽になると思う。
- ・世の中の変化のスピードが早く、子育ての正解がわからない。上の子のときと下の子のときですでに違う。多様化する社会を大人達も善しとするか悪いとするのか正解に迷っている中、子どもにどう伝えるべきか難しい。
- ・重度知的障がい児を育てているので様々な辛さ、不安、悩みがある。
- ・子供のことを思うと、意見はたくさんある。とくに母親は、仕事、子育て、たくさん抱えている。「仕事は休みでも、心も身体も休まらないのが現実だ。」と思う。

・性・年齢別、共働きの有無別、末子就学状況別の辛さ・不安・悩み







【男性年齢別】

「子ども自身に関すること」は、年代が上がるにつれ大きくなり、「45歳以上」で42%と最も大きい。

「出産・育児にお金がかかる」、「自分の自由時間がない」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(各々60%、27%)が最も大きくなっており、特に「出産・育児にお金がかかる」は他年代より29ポイント以上大きい。

【女性年齢別】

「子ども自身に関すること」、「将来の社会が不安である」は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」(各々50%、15%)で最も大きくなっている。

「出産・育児にお金がかかりすぎる」、「自分の自由時間がない」、「仕事と育児の両立ができていない」、「育児に自信がなく、子どもの成長発達が不安である」は、「34歳以下」(各々38%、27%、21%、20%)で最も大きくなっている。

【共働きの有無別】

総じて、「非共働き」の方が「共働き」よりも割合が大きくなっている。

「出産・育児にお金がかかる」、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」、「子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる」、「仕事と育児の両立ができていない」の割合は、「本人は就労、配偶者は無職」で他の就労状況よりも大きくなっている。

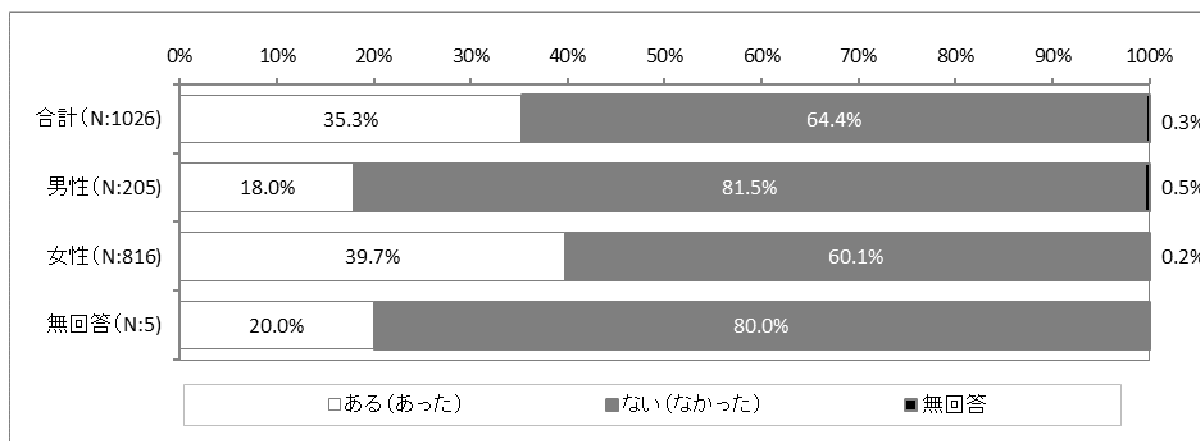
【末子の就学状況】

「出産・育児にお金がかかる」、「自分の自由時間がない」、「仕事と育児の両立ができてにくい」、「育児に自信がなく、子どもの成長発達が不安である」の割合は、「未就学児」で最も大きくなっている。

「子ども自身に関すること」は、年代が上がるにつれて大きくなっている。「中学生」で46%と最も大きく、「未就学児」の33%と13ポイントの差が見られる。

問35. あなたは、子育てをする中で、ご自分が子どもを虐待しているのではないかと感じたことはありますか(ありましたか)。

・子どもに対する虐待の認識



回答者本人が子どもを虐待しているのではないかとの認識は、男女合計で「ある(あった)」が35%、「ない(なかった)」が64%となっている。

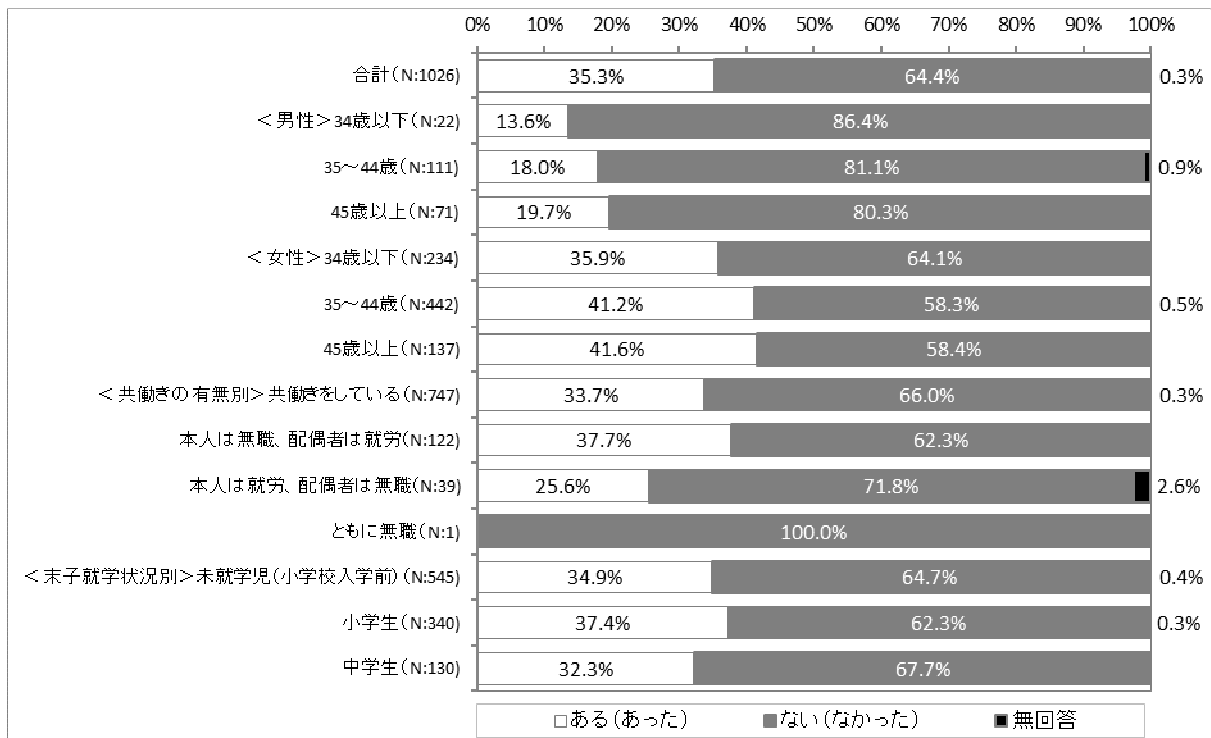
前回調査では、「ある(あった)」33%、「ない(なかった)」66%となっており、前回より「ある(あった)」が2ポイント増加し、「ない(なかった)」が2ポイント減少している。

【男女別】

「ある(あった)」の割合は、男性18%、女性40%となっており、女性の方が虐待の認識が大きい。

前回調査では、「ある(あった)」が男性19%、女性37%となっており、前回より男性が減少、女性が増加している。

・性・年齢別、共働きの有無別、末子就学状況別の子どもに対する虐待の意識



【男性年齢別】

「ある(あった)」の割合は年代が上がるにつれ大きくなり「45歳以上」が20%と最も大きい。

【女性年齢別】

「ある(あった)」の割合は年代が上がるにつれ大きくなり「45歳以上」が42%と最も大きい。

【共働きの有無別】

「ある(あった)」の割合は、「本人は無職、配偶者は就労」の割合が38%で最も大きい。次いで、「共働きをしている」が34%、「本人は就労、配偶者は無職」が26%となっている。

【末子の就学状況別】

「ある(あった)」の割合は、「小学生」(37%)で最も大きい、「未就学児」、「中学生」(各々35%、32%)と大きな差はない。

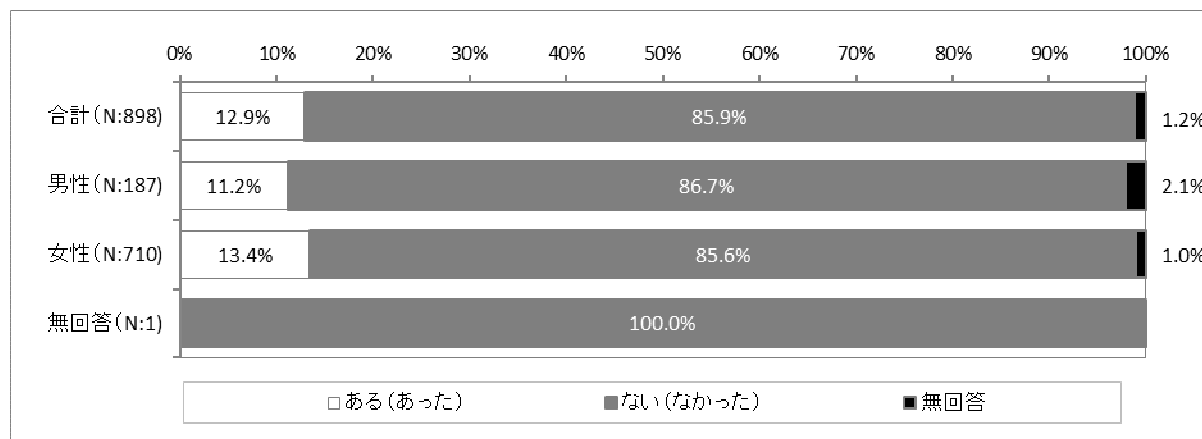
【自由回答から】

・以前は虐待のニュースを見て心を痛めていたが、自分自身の子育ての際にはっとさせられる(これは虐待では？と感じる)場面があった。周りの友人もそのように話す人がいて、紙一重だと感じた。子供がいくらかわいくても自分自身に余裕がない時(精神的・肉体的・経済的)にまずいような気がする。イヤイヤ期のことだが、今は子供と過ごす時間が本当に幸せだ。

問36. (配偶者のいらっしゃる方にお聞きします)

あなたは、子育てをする中で、配偶者が子どもを虐待しているのではないかと感じたことはありますか(ありましたか)。

・ 配偶者による子どもに対する虐待の認識



配偶者による子どもの虐待についての認識は、男女合計で「ある(あった)」が13%、「ない(なかった)」が86%となっている。

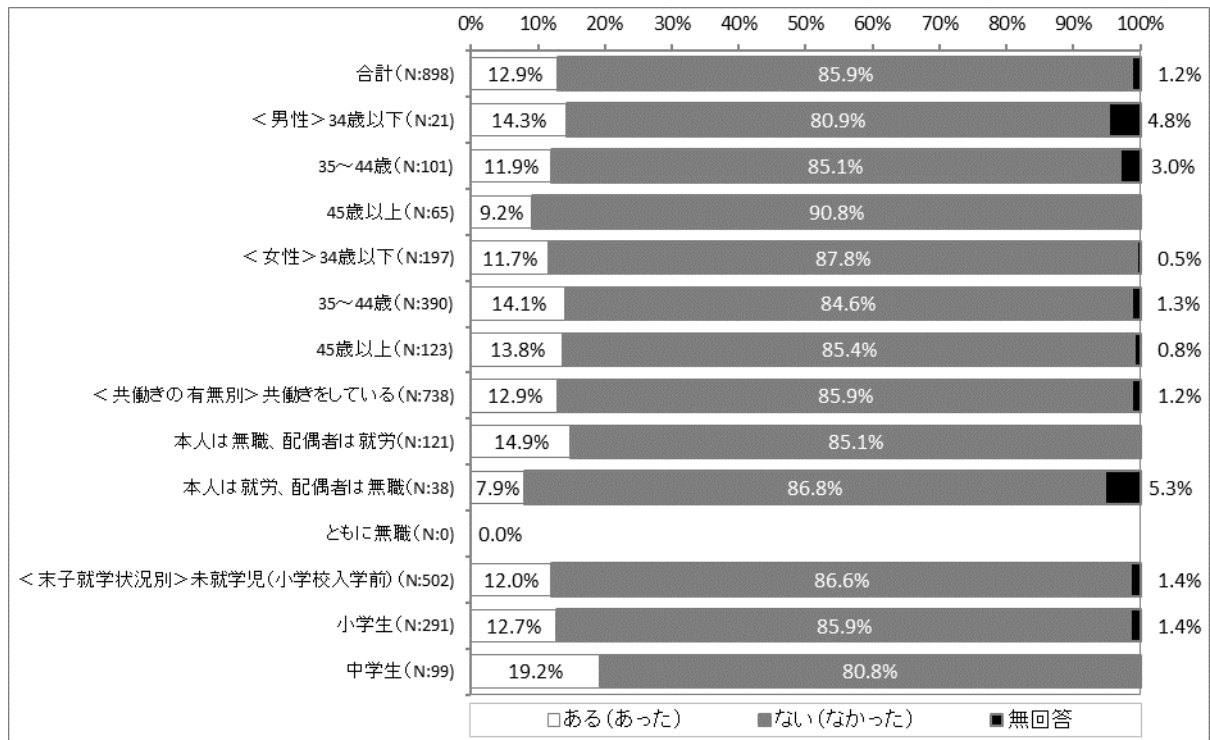
前回調査では、「ある(あった)」11%、「ない(なかった)」87%となっており、前回より「ある(あった)」が2ポイント増加している。

【男女別】

回答者本人の場合と異なり、性別による認識の差はわずかである。

前回調査では、「ある(あった)」が男性11%、女性11%となっており、前回と比べて女性が2ポイント増加している。

・性・年齢別、共働きの有無別、末子就学状況別の配偶者の子どもに対する虐待の意識



【男性年齢別】

「ある(あった)」の割合は、年代が下がるにつれ大きくなり「34歳以下」で14%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「ある(あった)」の割合は、「35~44歳」で14%と、他年代より大きくなっている。

【共働きの有無別】

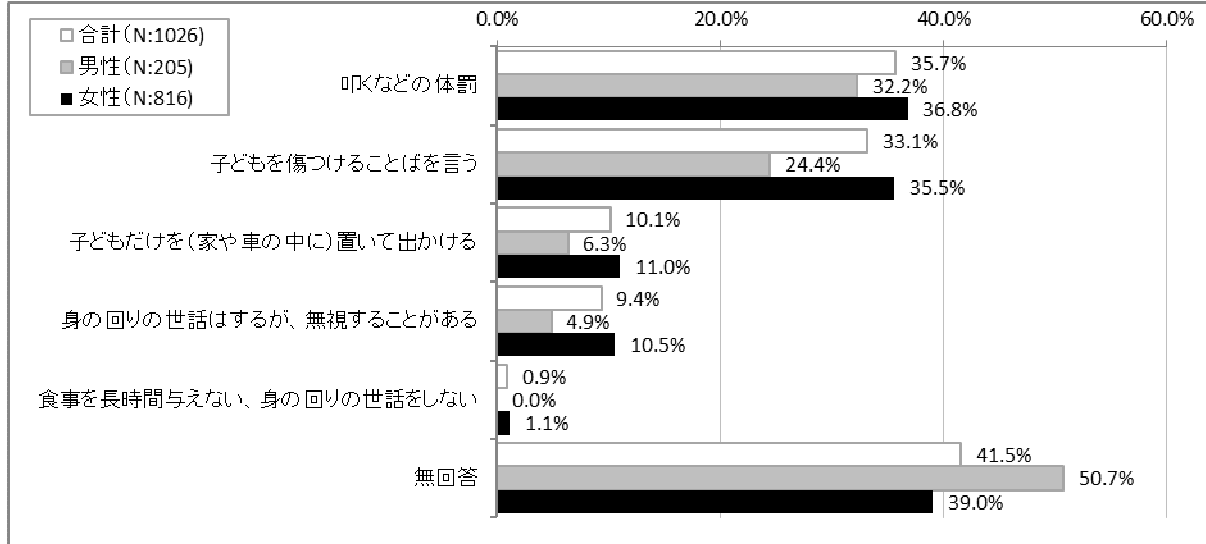
「ある(あった)」の割合は、「本人は無職、配偶者は就労」で15%と、他年代より大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「ある(あった)」の割合は、「中学生」で19%と他就学状況より大きくなっている。

問37. あなたは、お子さんに次のようなことをしてしまうことがありますか。(あてはまるものすべて)

・子どもにしてしまうこと



「叩くなどの体罰」が36%、「子どもを傷つけることばを言う」が33%と、この2項目に回答が集中しており、「子どもだけを(家や車の中に)置いて出かける」は10%、「身の回りの世話はするが、無視することがある」は9%、「食事を長時間与えない、身の回りの世話をしない」は1%と割合が小さくなっている。

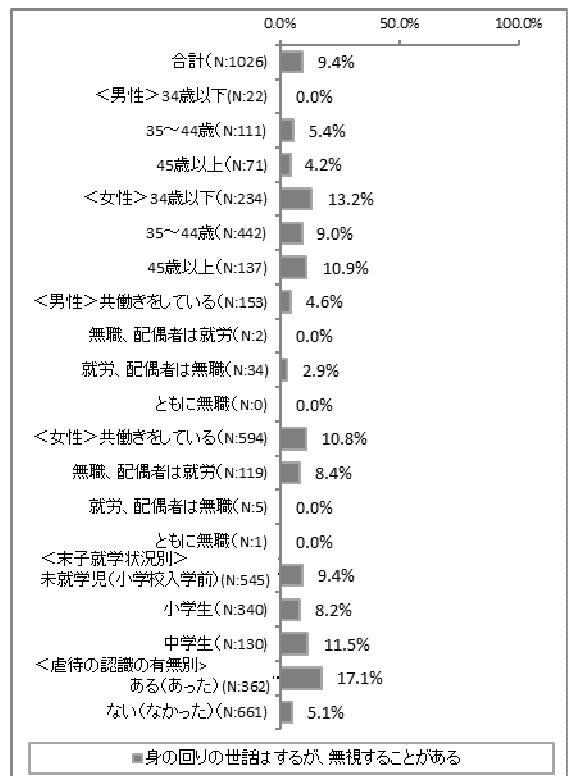
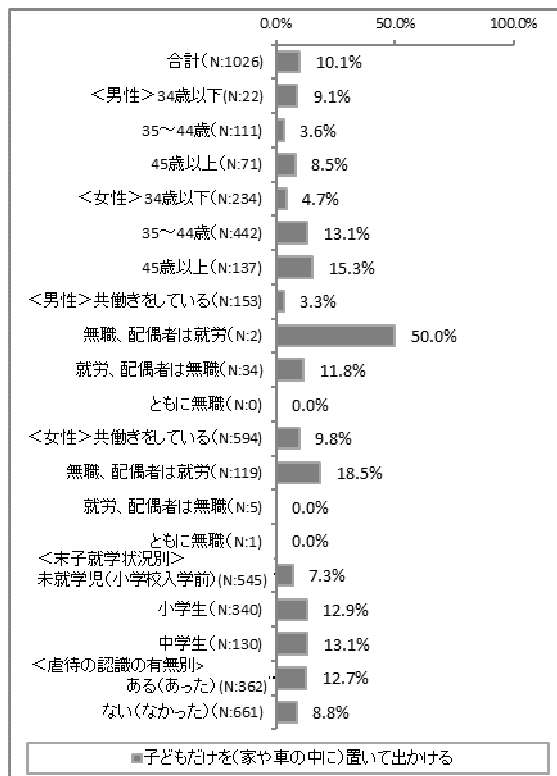
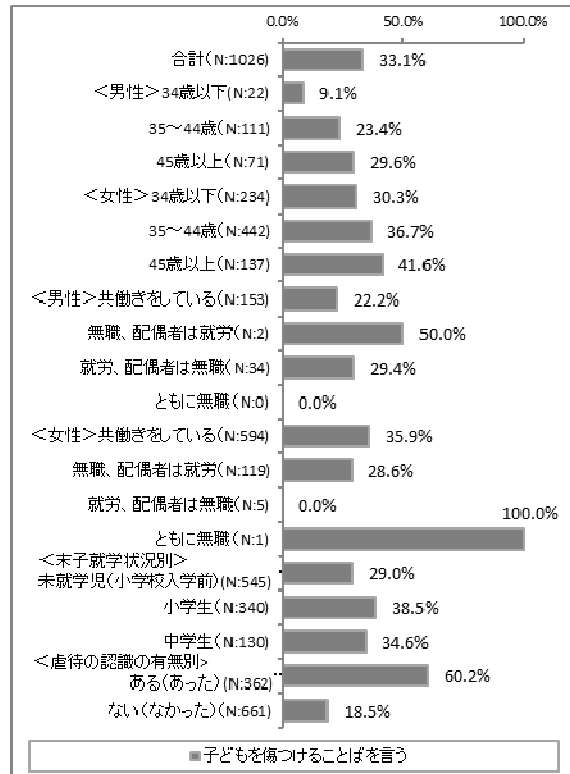
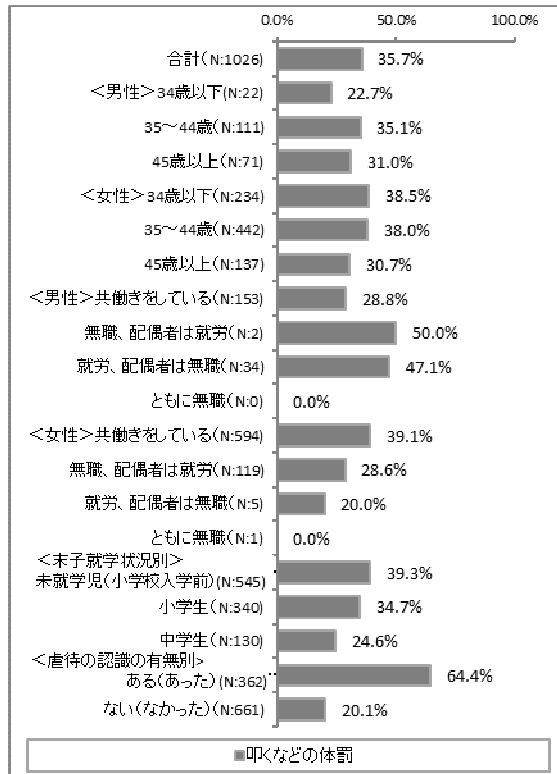
前回調査では、「叩くなどの体罰」38%、「子どもを傷つけることばを言う」35%、「子どもだけを(家や車の中に)置いて出かける」9%、「食事を長時間与えない、身の回りの世話をしない」1%という割合、順位となっている。前回と比べて上位2項目で減少している。

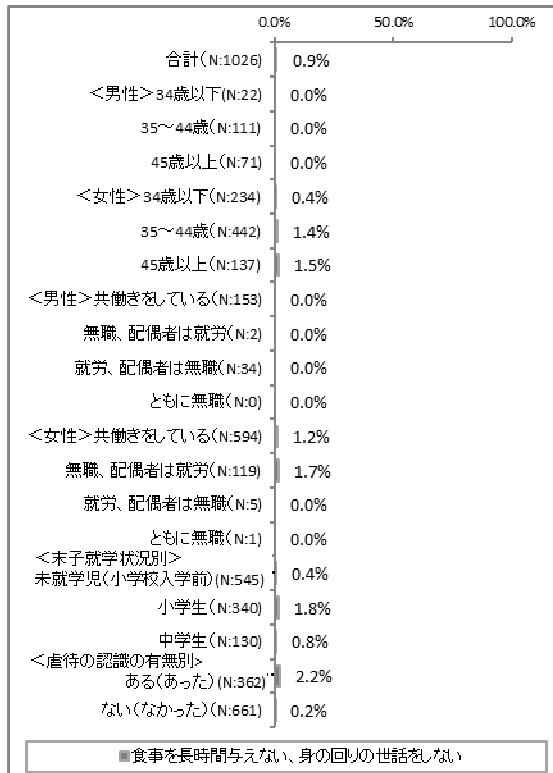
なお、「身の回りの世話はするが、無視することがある」は今回調査から追加された回答である。

【男女別】

各項目で女性の割合が大きくなっているが、特に「子どもを傷つけることばを言う」で、女性36%に対し男性24%と、大きな差が見られる。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別、虐待意識の有無別の子どもにしてしまうこと





【男性年齢別】

「叩くなどの体罰」の割合は、「35～44歳」が35%と最も大きくなっている。

「子どもを傷つけるようなことばを言う」は、年代が上がるにつれ大きくなっており「45歳以上」(30%)で最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「叩くなどの体罰」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で39%と最も大きくなっている。一方、「子どもを傷つけることばを言う」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で42%と最も大きくなっている。

【男性共働きの有無別】

「叩くなどの体罰」、「子どもを傷つけるような言葉を言う」、「子どもだけを(家や車の中に)置いて出かける」は、「本人は就労、配偶者は無職」が「共働き」より割合が大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

「叩くなどの体罰」、「子どもを傷つけるような言葉を言う」において「共働き」の割合(各々39%、36%)が「本人は就労、配偶者は無職」より大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「叩くなどの体罰」は年代が下がるにつれ大きくなっており、「未就学児」の割合（39%）が最も大きく、最も小さい「中学生」（25%）と14ポイントの差が見られる。

「子どもを傷つけるような言葉を言う」は「小学生」の割合が39%と最も大きくなっている。「子どもだけを（家や車の中に）置いて出かける」、「身の回りの世話はするが、無視することがある」は、「中学生」（各々13%、12%）で最も大きくなっている。

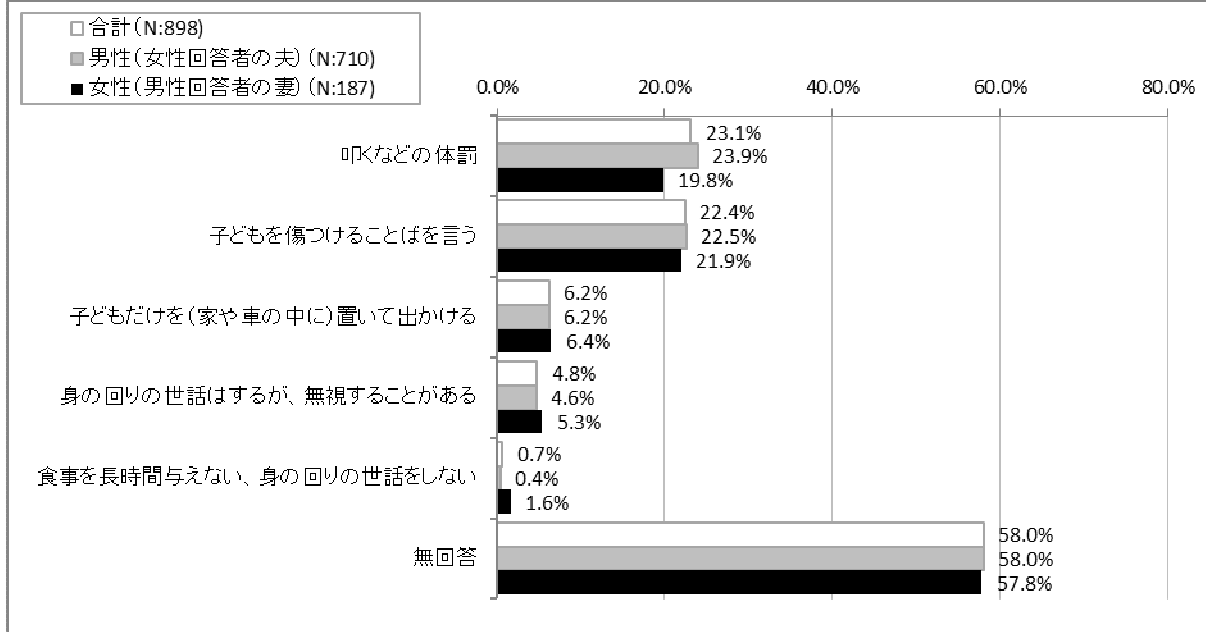
【虐待の認識の有無別】

全ての項目において虐待の意識が「ある」の方が「ない」よりも大きい。特に、「叩くなどの体罰」、「子どもを傷つけるような言葉を言う」の割合は、虐待の意識が「ない」に比べ、各々44ポイント、41ポイントの差が見られる。

問38. (配偶者のいらっしゃる方にお聞きます)

あなたの配偶者は、お子さんに次のようなことをしてしまうことがありますか。
(あてはまるものすべて)

・子どもにしてしまうこと



回答者本人と同様、「叩くなどの体罰」が23%、「子どもを傷つけることばを言う」が22%と、この2項目に回答が集中しているが、回答者本人の割合と比べて6割強と小さくなっている。

その他、「子どもだけを(家や車の中に)置いて出かける」は6%、「身の回りの世話はするが、無視することがある」は5%、「食事を長時間与えない、身の回りの世話をしない」は1%と割合が小さい。

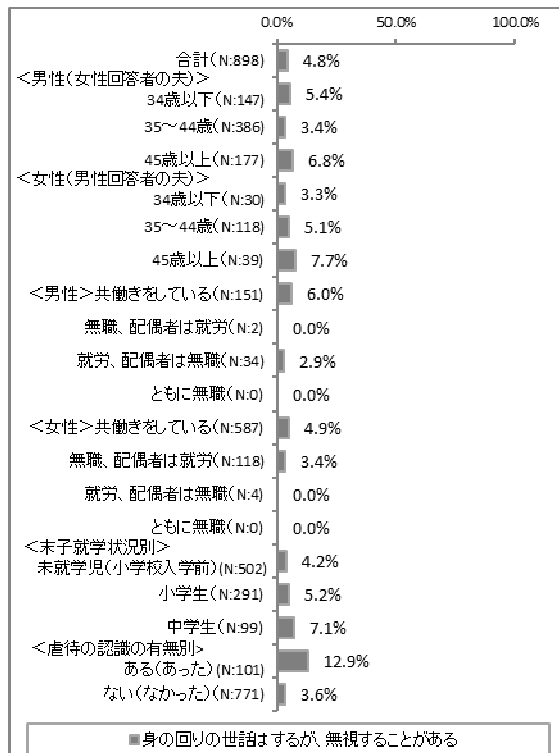
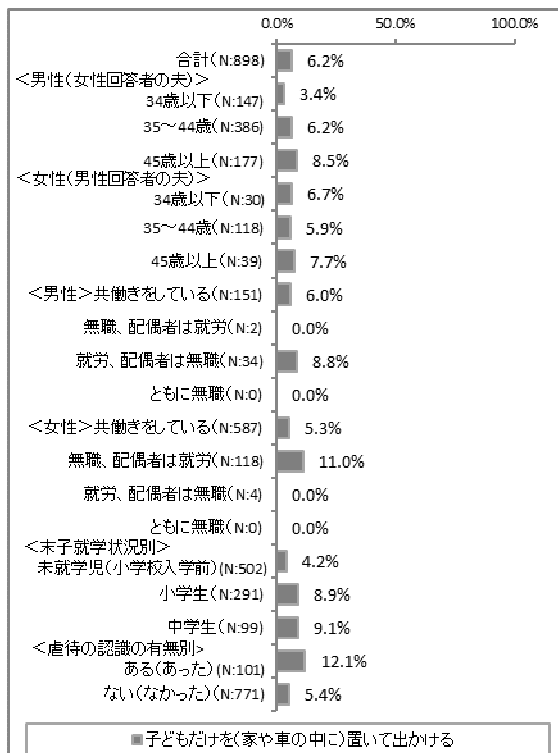
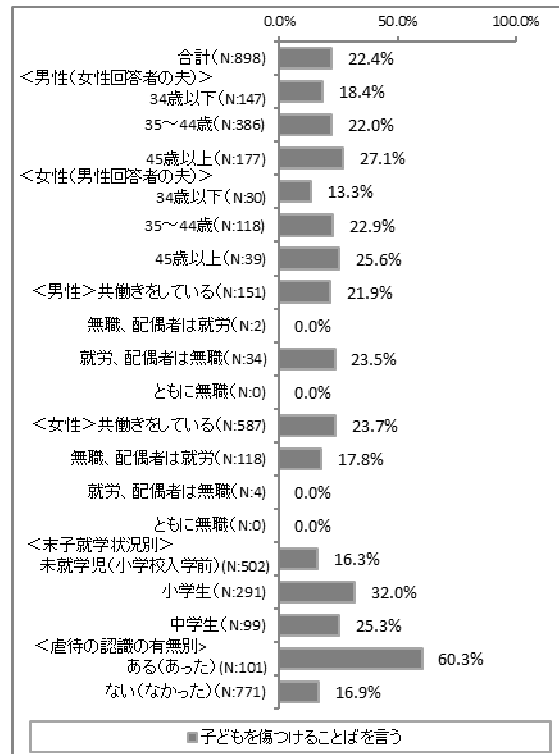
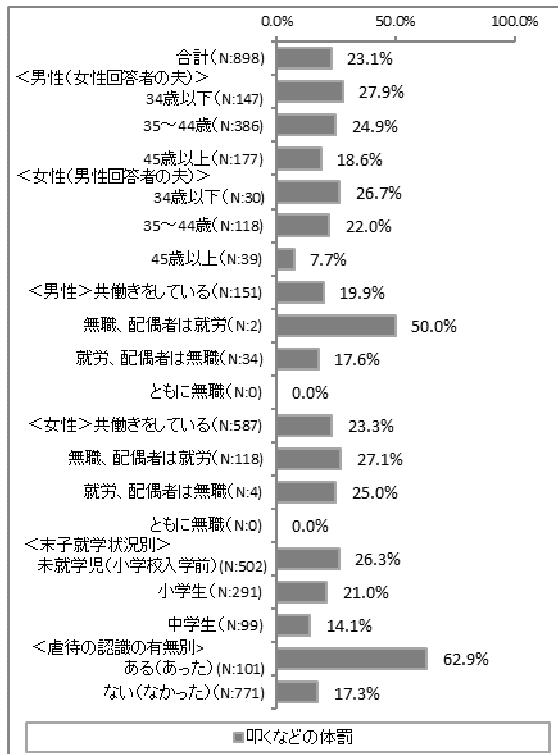
前回調査では、「叩くなどの体罰」22%、「子どもを傷つけることばを言う」20%、「子どもだけを(家や車の中に)置いて出かける」6%、「食事を長時間与えない、身の回りの世話をしない」1%という割合、順位となっている。前回と比べて「叩くなどの体罰」、「子どもを傷つけることばを言う」の割合がやや減少している。

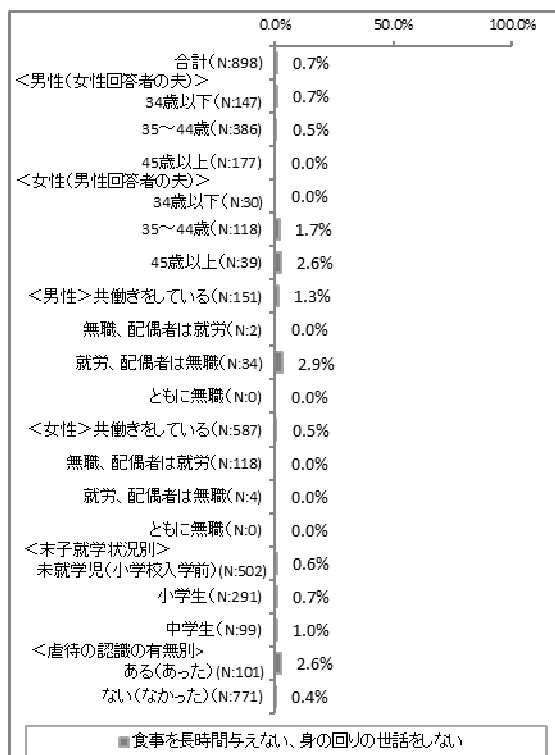
なお、「身の回りの世話はするが、無視することがある」は今回調査から追加された回答である。

【男女別】

「叩くなどの体罰」は、男性(女性回答者の夫)が女性(男性回答者の妻)より4ポイント大きい。他の項目については、性別による差はほとんど見られない。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別、虐待意識の有無別の配偶者が子どもにしてしまうこと





【男性年齢別】

「叩くなどの体罰」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で28%と最も大きくなっている。また、「子どもを傷つけることばを言う」の割合は、年代が上がるにつれて割合が大きくなっており、「45歳以上」が最も大きく、27%となっている。

【女性年齢別】

「叩くなどの体罰」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で27%と最も大きくなっている。また、「子どもを傷つけることばを言う」の割合は、年代が上がるにつれて割合が大きくなっており、「45歳以上」が最も大きく、26%となっており男性と同じ傾向にある。

【男性共働きの有無別】

「叩くなどの体罰」は、「共働き」の割合が20%と最も大きい。「子どもを傷つけることばを言う」は、「本人は就労、配偶者は無職」の割合が24%と大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

「叩くなどの体罰」は、「本人は無職、配偶者は就労」の割合が27%と最も大きい。「子どもを傷つけることばを言う」は、「共働き」の割合が24%と大きくなっている。

【末子の就学状況別】

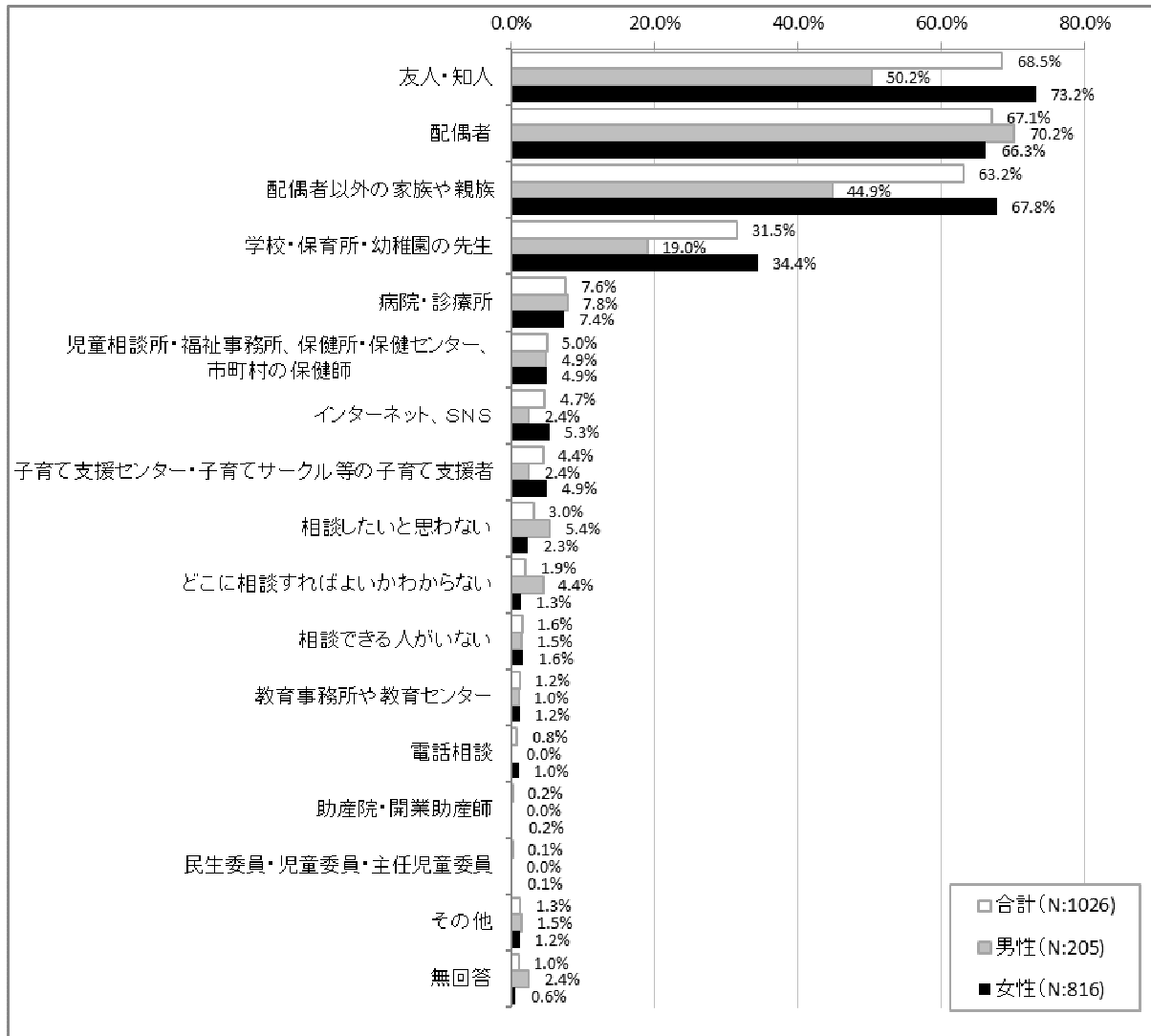
「叩くなどの体罰」の割合は、「未就学児」で26%と大きくなっている。また、「子どもを傷つけるような言葉を言う」は、「小学生」で32%と大きくなっている。

【虐待の認識の有無別】

全ての項目において、回答者本人の場合と同様、虐待の意識が「ある」の方が「ない」よりも大きい。特に、「叩くなどの体罰」、「子どもを傷つけるような言葉を言う」の割合は、虐待の意識が「ない」に比べ、各々46ポイント、43ポイントの差が見られる。

問39. あなたは、子育ての不安や悩みをどなた(どこ)に相談していますか。(あてはまるものすべて)

・子育ての不安や悩みの相談先



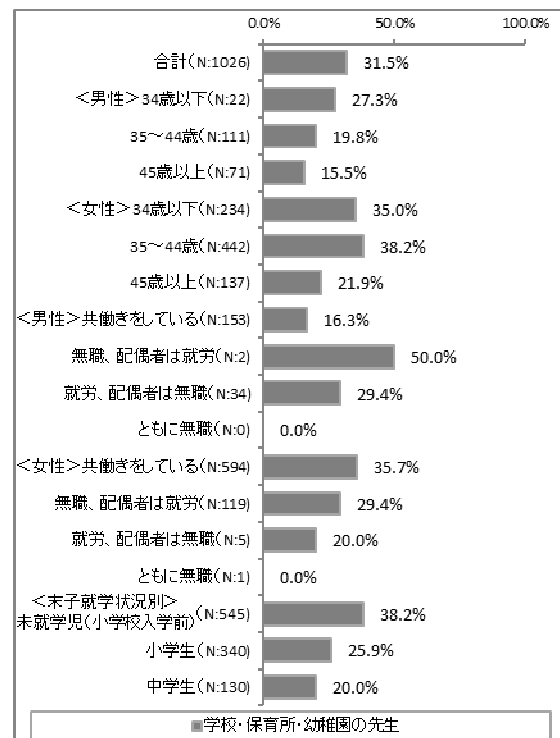
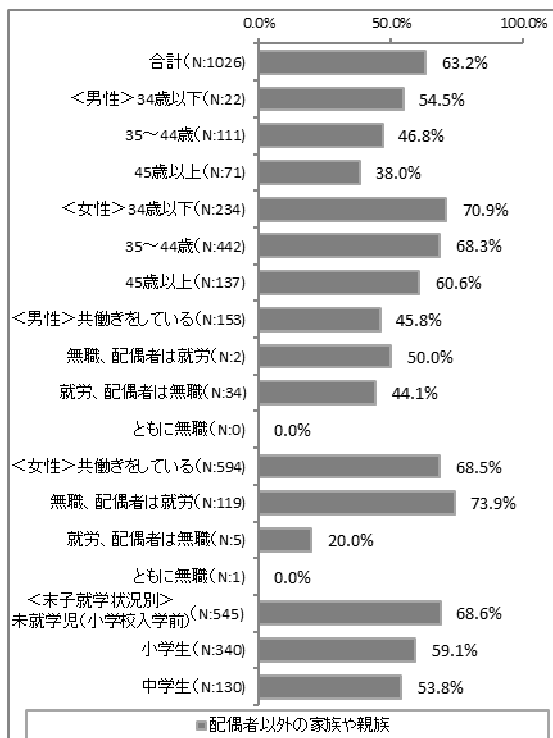
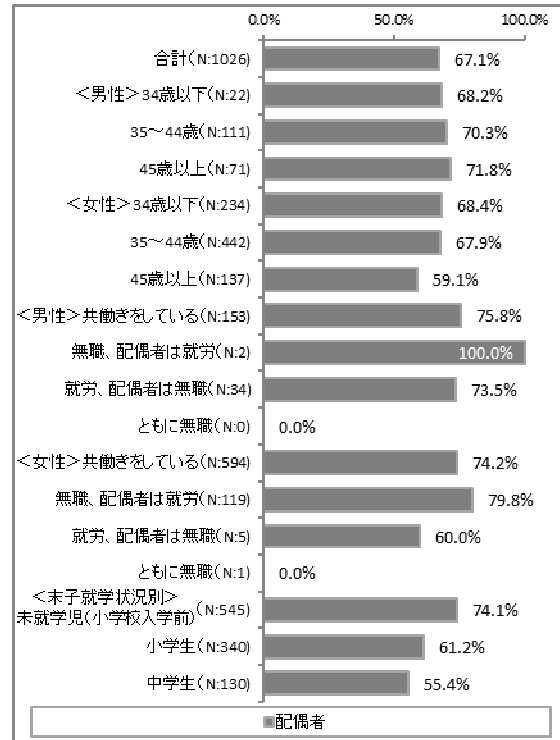
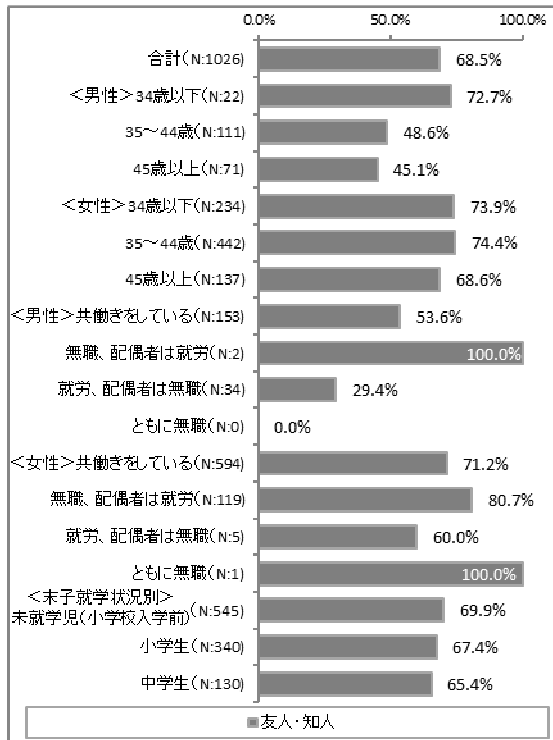
「友人・知人」が69%、「配偶者」が67%と多く、次いで「配偶者以外の家族や親族」63%、「学校・保育所・幼稚園の先生」32%の順となっている。

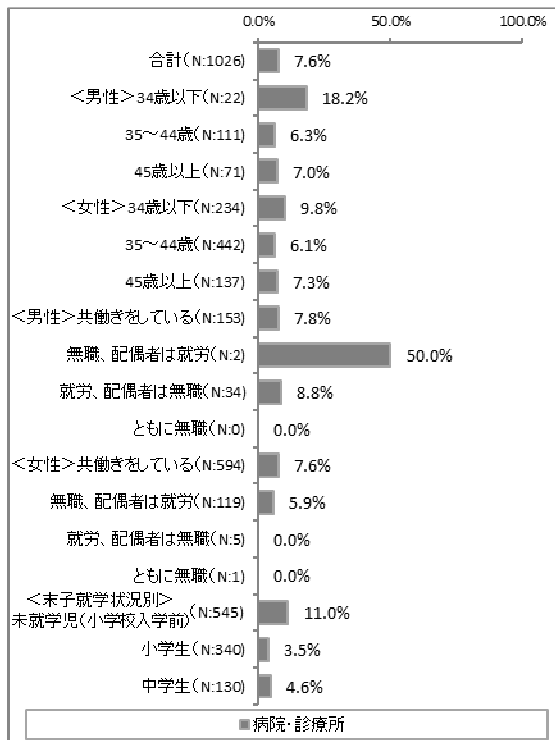
前回調査では、「友人・知人」が72%、「配偶者」が71%、「配偶者以外の家族や親族」61%、「学校・保育所・幼稚園の先生」31%という割合、順位となっている。前回と比べて、順位は変わらず、「友人・知人」3ポイント、「配偶者」4ポイントの減少、「配偶者以外の家族や親族」が2ポイント増加、「学校・保育所・幼稚園の先生」が1ポイント増加している。

【男女別】

男性では「配偶者」の割合が70%と最も大きくなっており、「友人・知人」の50%より20ポイント大きい。女性は「友人・知人」の割合が73%と最も大きく、次いで「配偶者以外の家族や親族」、「配偶者」となっている。また、「友人・知人」、「配偶者以外の家族や親族」がともに23ポイント、「学校・保育所・幼稚園の先生」15ポイント、女性の方が男性よりも大きくなっている。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の不安や悩みの相談先（上位5項目）





【男性年齢別】

「配偶者」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合が72%で最も大きい。他の項目において年代が下がるにつれて大きくなっており「34歳以下」が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「配偶者以外の家族や親族」、「配偶者」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており「34歳以下」の割合（各々71%、68%）が最も大きい。「友人・知人」、「学校・保育所・幼稚園の先生」の割合は、「35～44歳」（各々74%、38%）が他の年代よりも大きくなっている。

【男性共働きの有無別】

「配偶者」、「友人・知人」、「配偶者以外の家族や親族」の割合は、「共働き」（各々76%、54%、46%）で「本人は就労、配偶者は無職」より大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

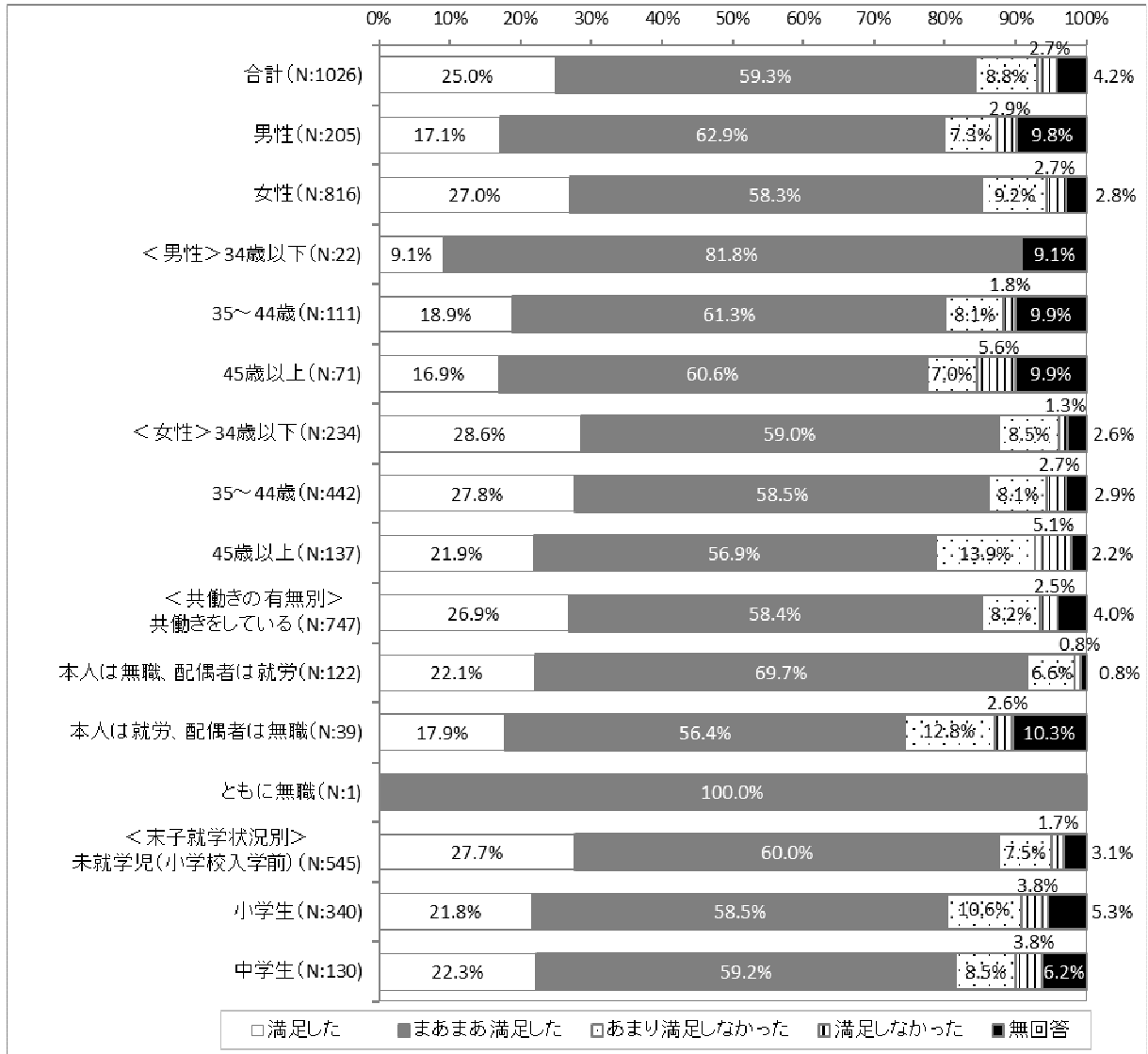
「友人・知人」、「配偶者」、「配偶者以外の家族や親族」の割合は、「本人は無職、配偶者は就労」（各々81%、80%、74%）が他就業状況より大きい。「学校・保育所・幼稚園の先生」は「共働き」（36%）が大きくなっている。

【末子の就学状況別】

全ての項目で年代が下がるにつれて大きくなっており、「未就学児」の割合が最も大きくなっている。

問40. 相談の結果、子育ての不安や悩みが解決するなど、満足しましたか。

・子育ての不安や悩みの相談結果の満足度



「満足した」が25%、「まあまあ満足した」が59%で、合計すると84%が満足している。「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計は12%となっている。

【男女別】

「満足した」で男性が17%、女性が27%で女性が10ポイント大きくなっている。「満足した」、「まあまあ満足した」の合計では、男性が80%、女性が85%となっており、女性の方が5ポイント大きくなっている。

【男性年齢別】

「満足した」は「35～44歳」で19%と大きく、「まあまあ満足した」は「34歳以下」で82%と最も大きくなっている。「満足した」と「まあまあ満足した」の合計では、「34歳以下」が91%と最も大きくなっている。一方で、「45歳以上」で「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計が13%と大きくなっている。

「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」は「34歳以下」でともに0%である。

【女性年齢別】

「満足した」、「まあまあ満足した」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（各々29%、59%）で最も大きくなっている。「満足した」と「まあまあ満足した」の合計でも、年代が下がるにつれ大きくなっており、「34歳以下」が88%で最も大きくなっている。

「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計は、男性と同様「45歳以上」で19%と最も大きくなっている。

【共働きの有無別】

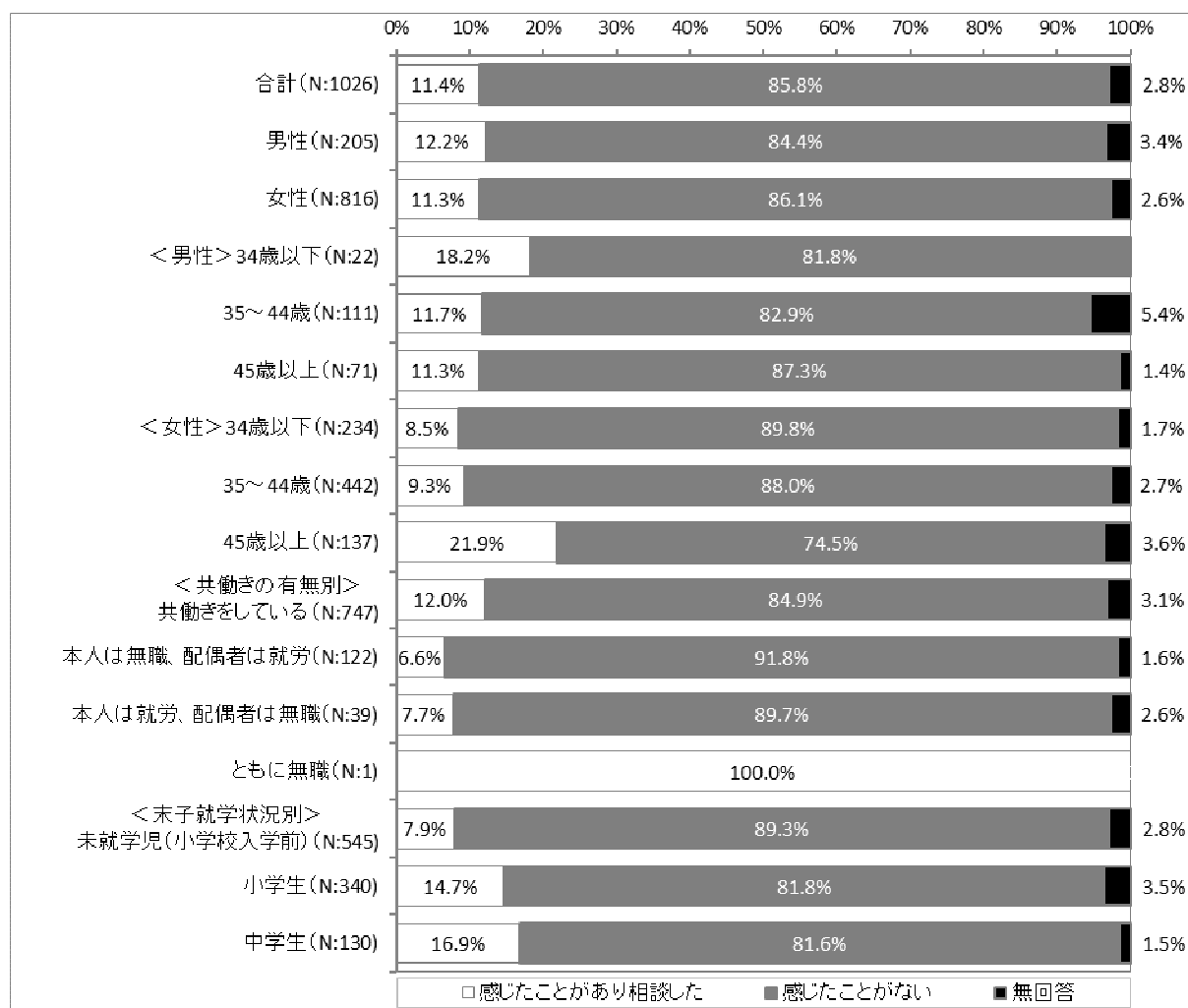
「満足した」は「共働き」で27%と最も大きくなっている。「まあまあ満足した」は「本人は無職、配偶者は就労」で70%と最も大きくなっている。「満足した」と「まあまあ満足した」の合計では、「本人は無職、配偶者は就労」で92%と最も大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「満足した」、「まあまあ満足した」の割合は、「未就学児」（各々28%、60%）で最も大きくなっている。「満足した」と「まあまあ満足した」の合計では、「未就学児」が88%で最も大きくなっている。「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計は、「小学生」で14%と最も大きくなっている。

問41. あなたは、自分の子ども以外の周りの子ども(近所や同じ学校、幼稚園等)が虐待を受けているのではないかと感じたことはありますか。
 感じたことがある方はその際の相談先について全てお答えください。

・周りの子どもに対する虐待の認識



「感じたことがあり相談した」は11%、「感じたことがない」が86%となっている。

【男女別】

「感じたことがあり相談した」は、男性12%、女性11%、「感じたことがない」は男性86%、女性84%で大きな差は見られない。

【男性年齢別】

「感じたことがあり相談した」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で18%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「感じたことがあり相談した」は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45 歳以上」で 22%と最も大きくなっており、他の年代より 13 ポイント以上大きくなっている。

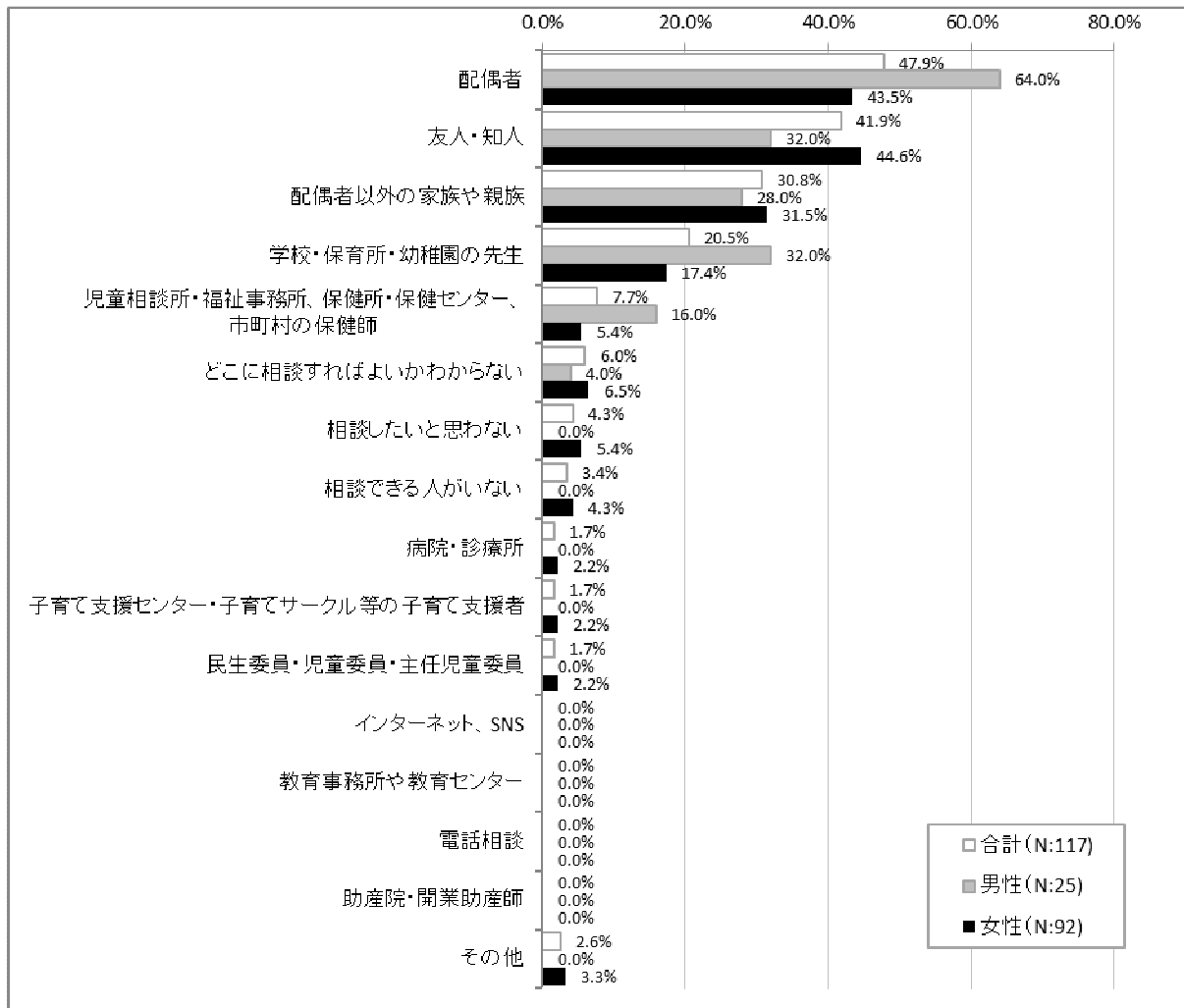
【共働きの有無別】

「感じたことがあり相談した」は「共働き」が 12%で他の就労状況より大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「感じたことがあり相談した」は、子どもの年代が上がるにつれて大きくなっており、「中学生」で 17%となっている。

・周りの子どもに対する虐待を認識した際の相談先



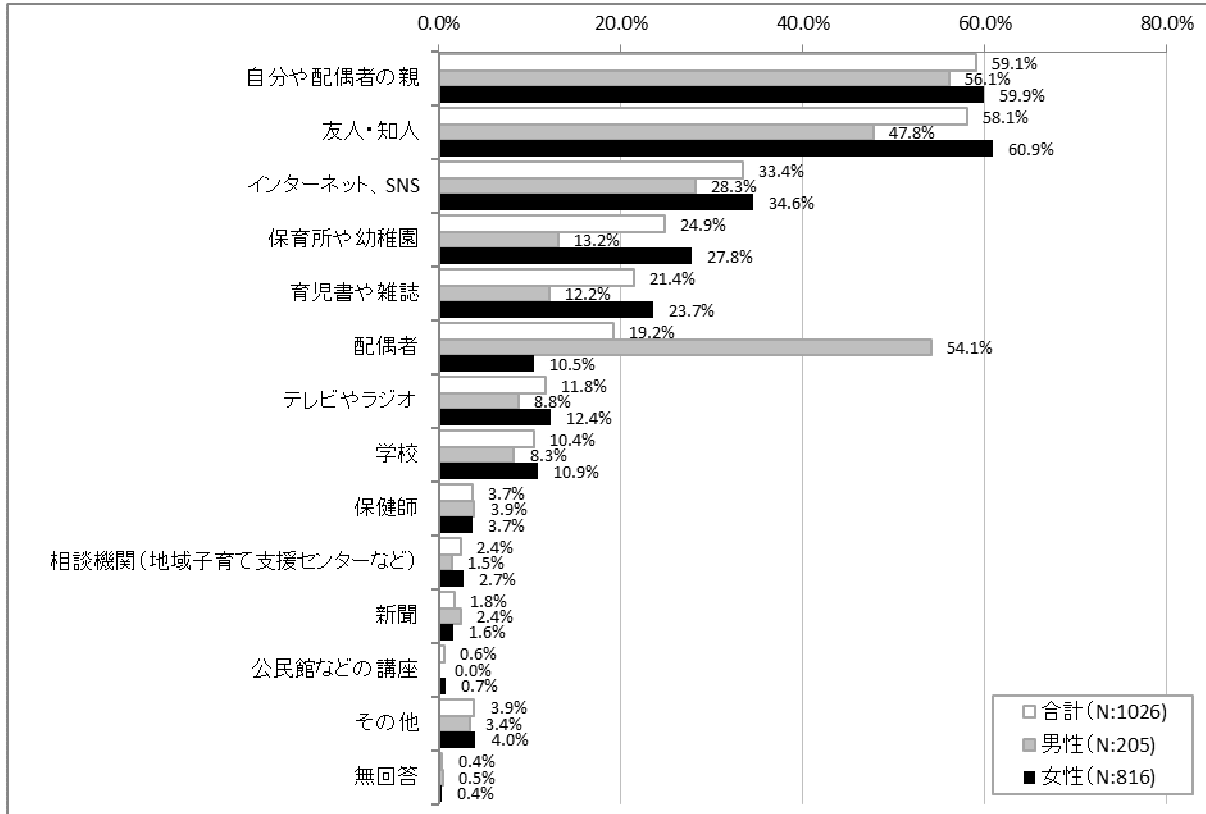
「配偶者」が48%で最も多く、次いで「友人・知人」が42%、「配偶者以外の家族や親族」31%、「学校・保育所・幼稚園の先生」が21%となっており、他の項目は10%以下である。また、「どこに相談すればよいかわからない」、「相談したいと思わない」、「相談できる人がいない」の認識しながら相談していない合計は、14%となっている。

【男女別】

「配偶者」、「学校・保育所・幼稚園の先生」は、男性の割合（各々64%、32%）が女性より多く、大きな差（各々20ポイント、15ポイント）が見られる。「友人・知人」、「配偶者以外の家族や親族」は女性の割合（45%、32%）が男性より大きくなっている。

問42. あなたは、子育ての知識を主にどなた(どこ)から得ていますか。(3つまで)

・子育ての知識の情報源



「自分や配偶者の親」が59%と最も多く、次いで「友人・知人」58%、「インターネット、SNS」33%の順となっている。以下、「保育所や幼稚園」、「育児書や雑誌」、「配偶者」、「テレビやラジオ」が続いている。

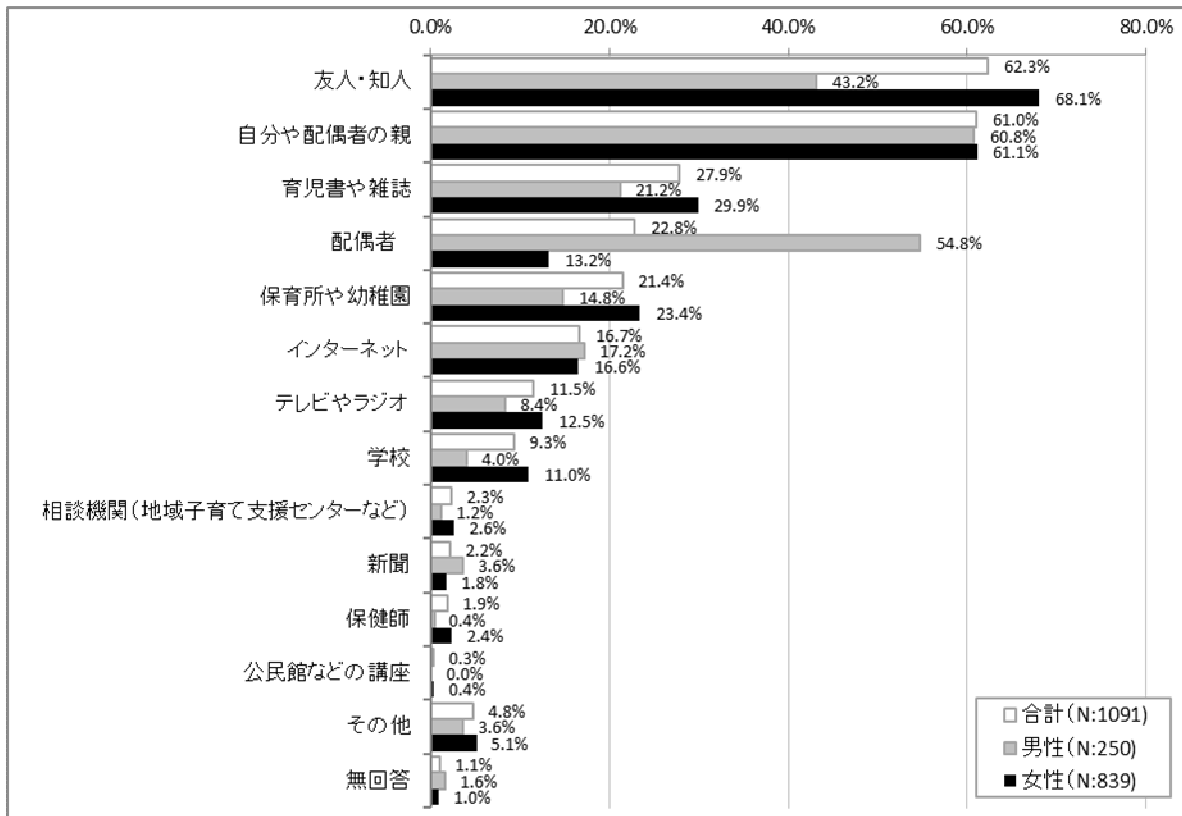
前回調査では、「友人・知人」62%、「自分や配偶者の親」61%、「育児書や雑誌」28%の割合、順位で、以下、「配偶者」、「保育所や幼稚園」、「インターネット」、「テレビやラジオ」、「学校」が続いている。前回と比べて、「自分や配偶者の親」が2ポイント、「友人・知人」が4ポイント減少している。他、「インターネット、SNS」が16ポイント増加しているが、「育児書や雑誌」が7ポイント減少している。

【男女別】

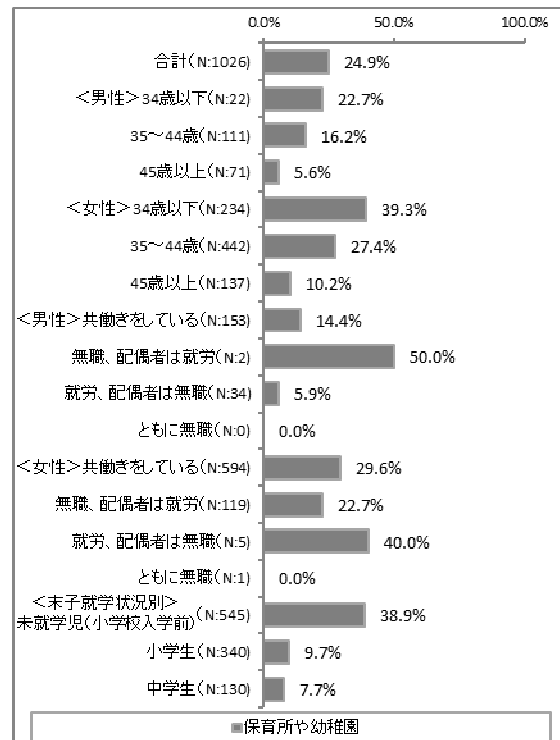
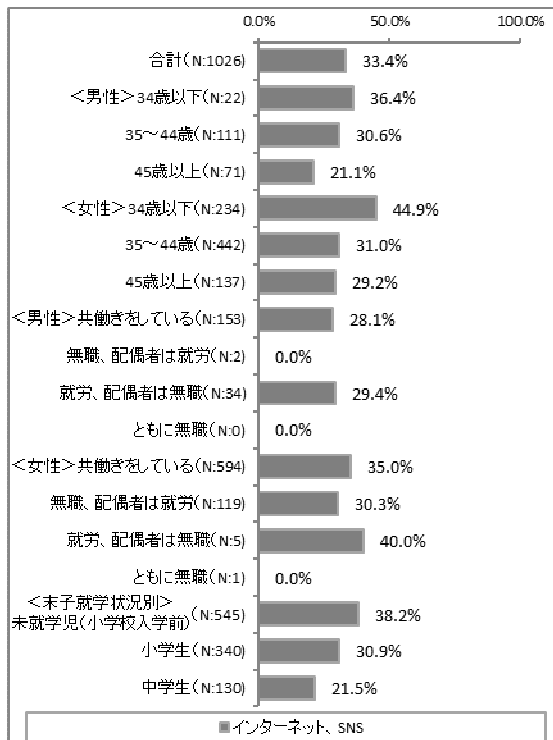
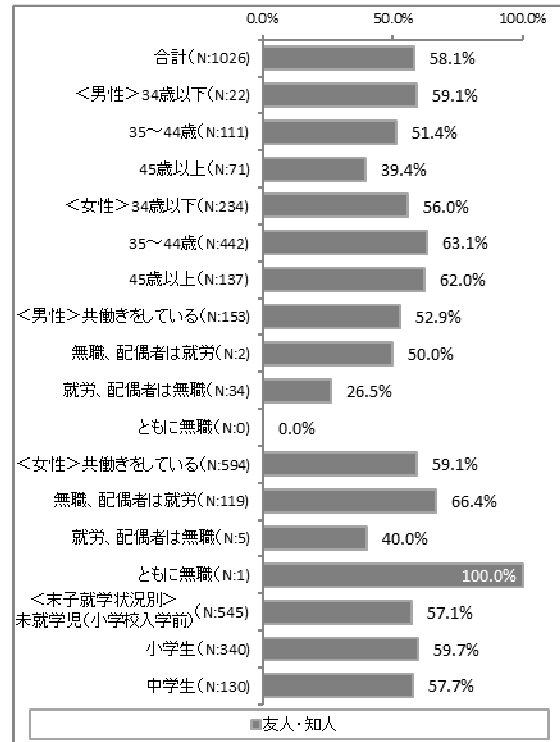
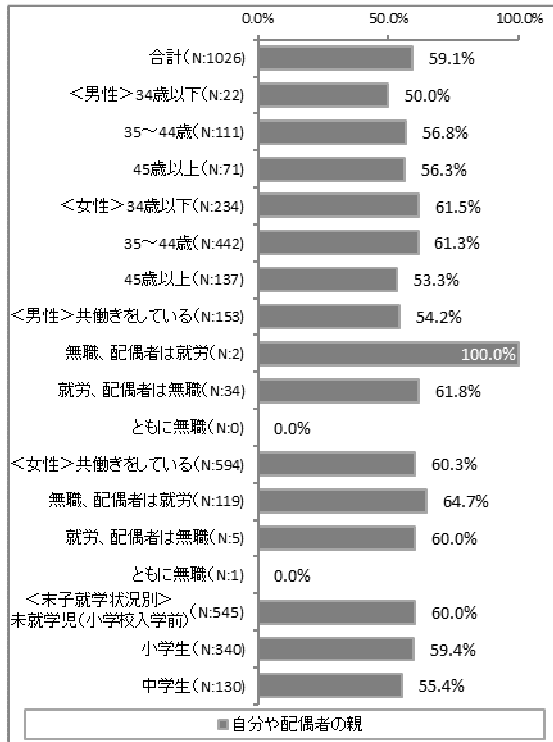
男性では、「自分や配偶者の親」56%、「配偶者」54%、「友人・知人」48%、「インターネット、SNS」28%の割合、順位となっている。

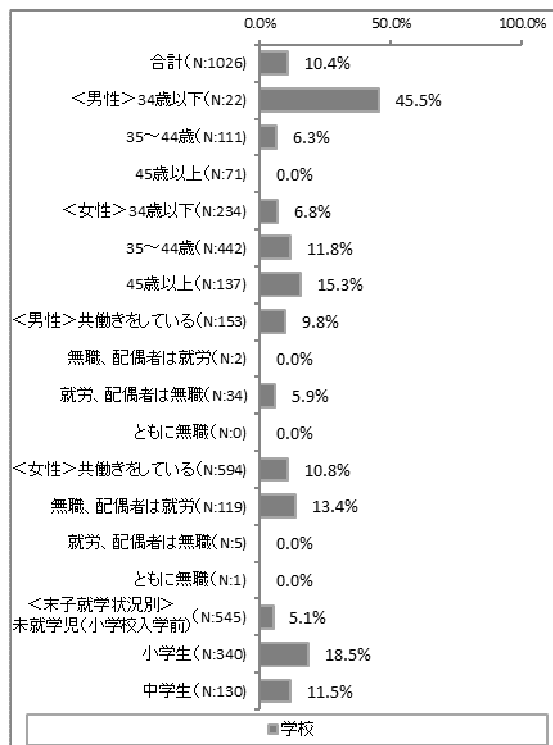
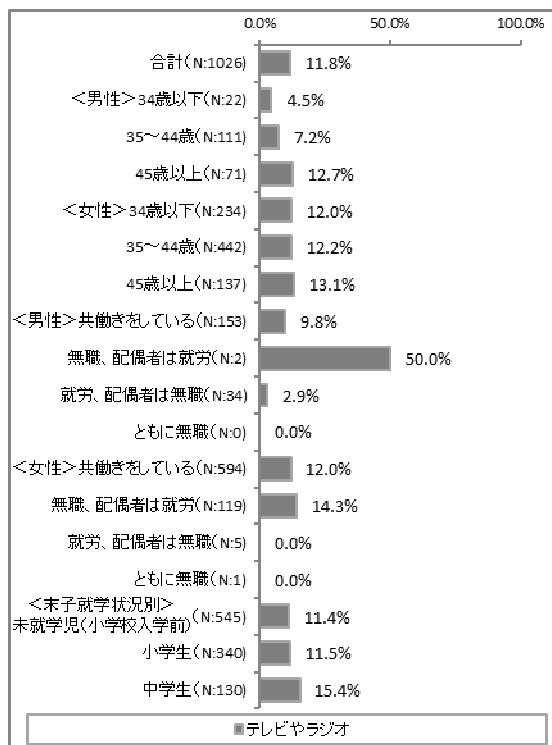
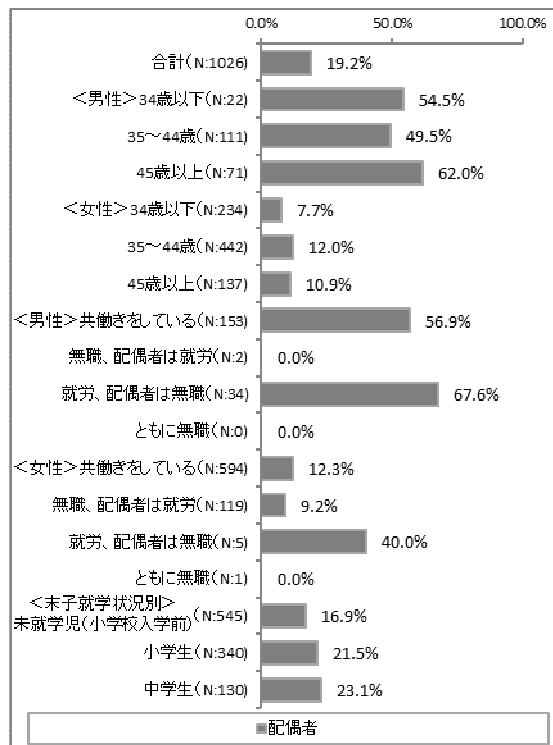
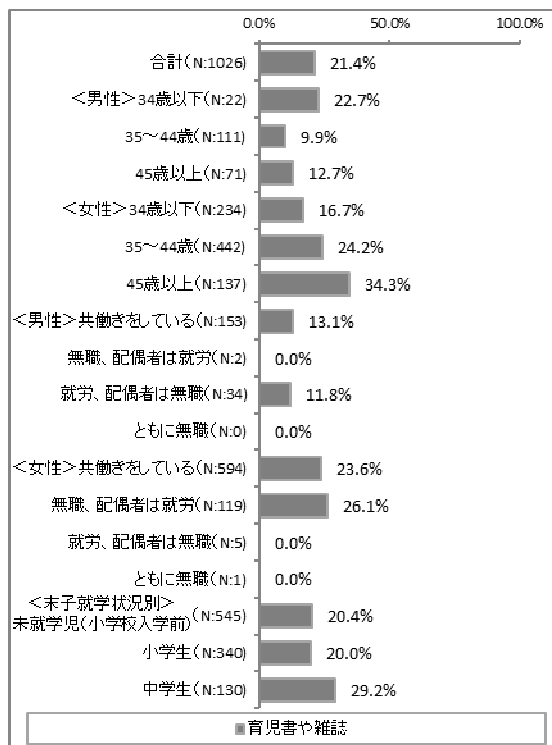
女性は男性よりも総じて割合が大きくなっているが、特に、「友人・知人」、「保育所や幼稚園」で男性との大きな差(各々13ポイント、15ポイント)が見られる。一方、「配偶者」の割合は、男性(54%)の方が女性(11%)よりも大きくなっており、43ポイントの差が見られる。

(参考) 前回調査



・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の子育ての情報源（上位8項目）





【男性年齢別】

「配偶者」、「自分や配偶者の親」は各年代とも 50%以上と大きくなっている。「友人・知人」、「学校」、「インターネット、SNS」、「保育所や幼稚園」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「自分や配偶者の親」、「友人・知人」の割合は、各年代とも50%以上と大きくなっている。

「インターネット、SNS」、「保育所や幼稚園」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で最も大きくなっている。

【男性共働きの有無別】

「配偶者」、「自分や配偶者の親」、「インターネット、SNS」の割合は、「本人は就労、配偶者は無職」が「共働き」より大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

全ての項目で「共働き」と「本人は無職、配偶者は就労」の割合で大きな差（2～7ポイント）が見られない。

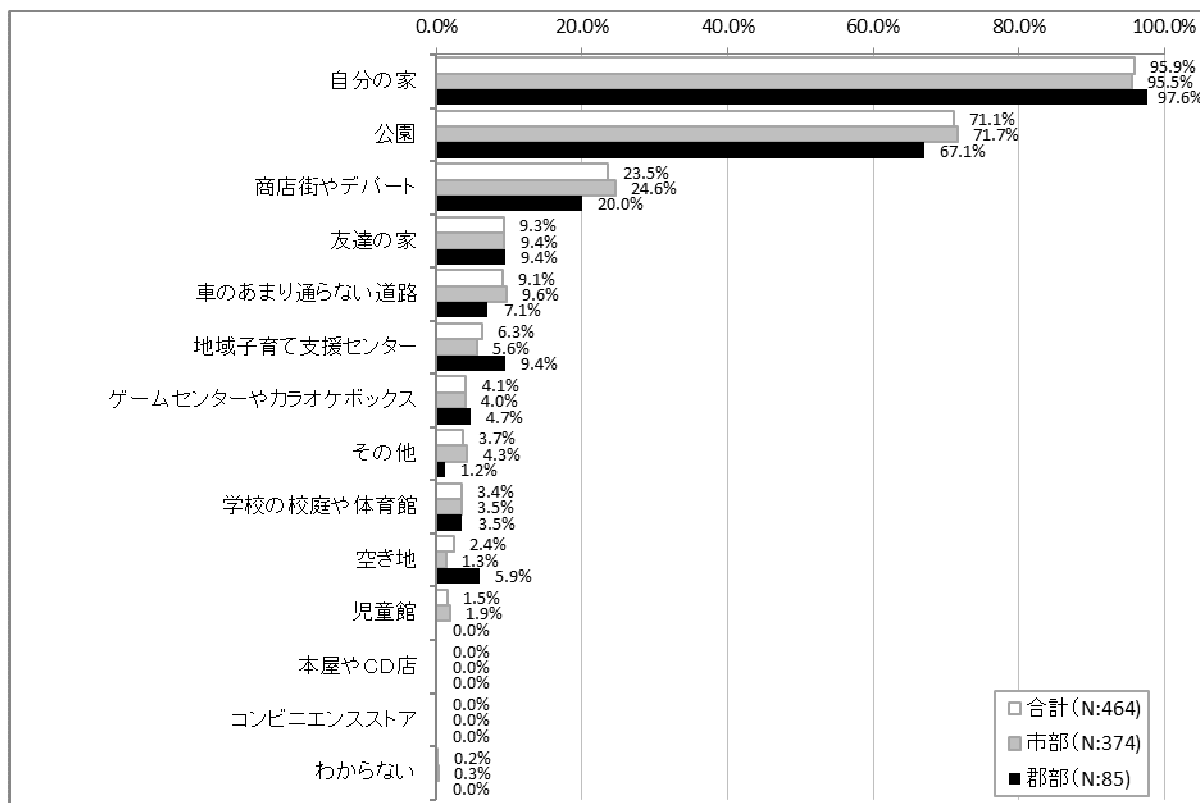
【末子の就学状況別】

「自分や配偶者の親」、「保育所や幼稚園」、「インターネット、SNS」の割合は、「未就学児」が他就学状況よりも大きくなっている。

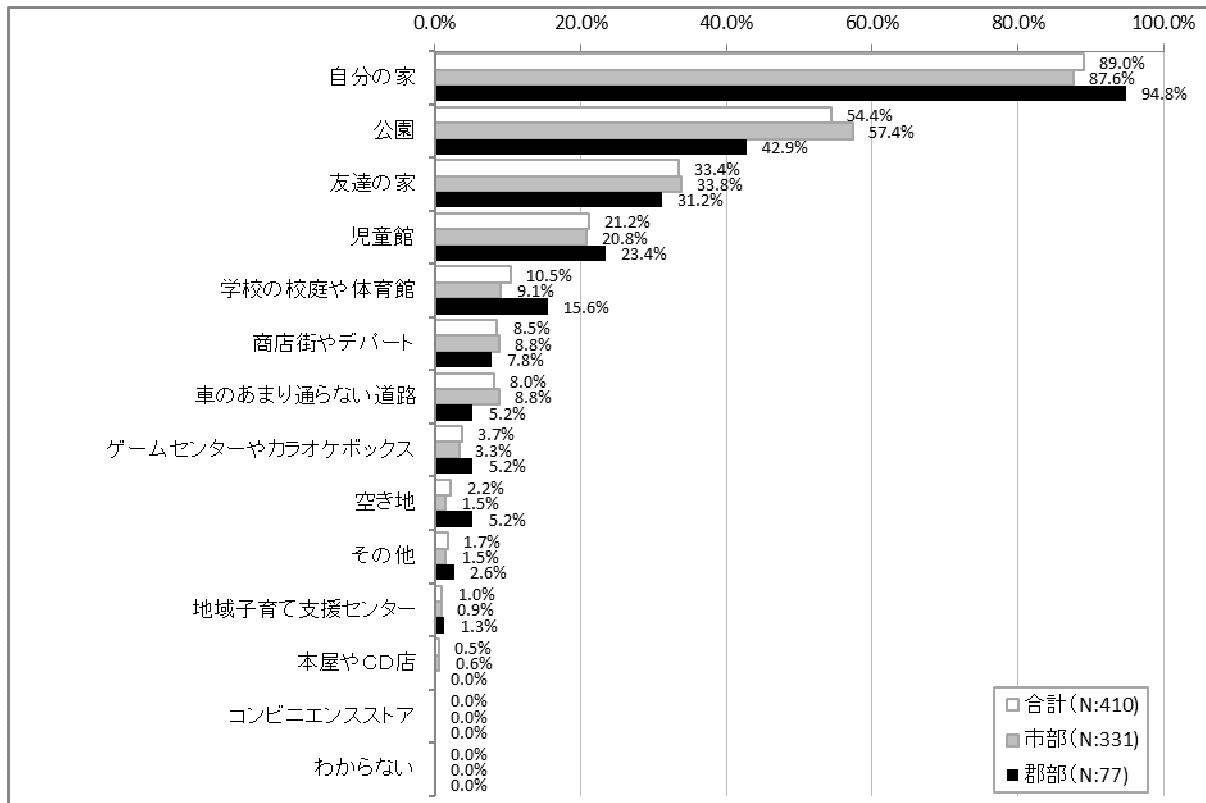
子どもの遊びや環境について

問43. あなたのお子さんは、どこで遊ぶことが多いですか。あなたのお子さんの年代別にお答えください。(3つまで)

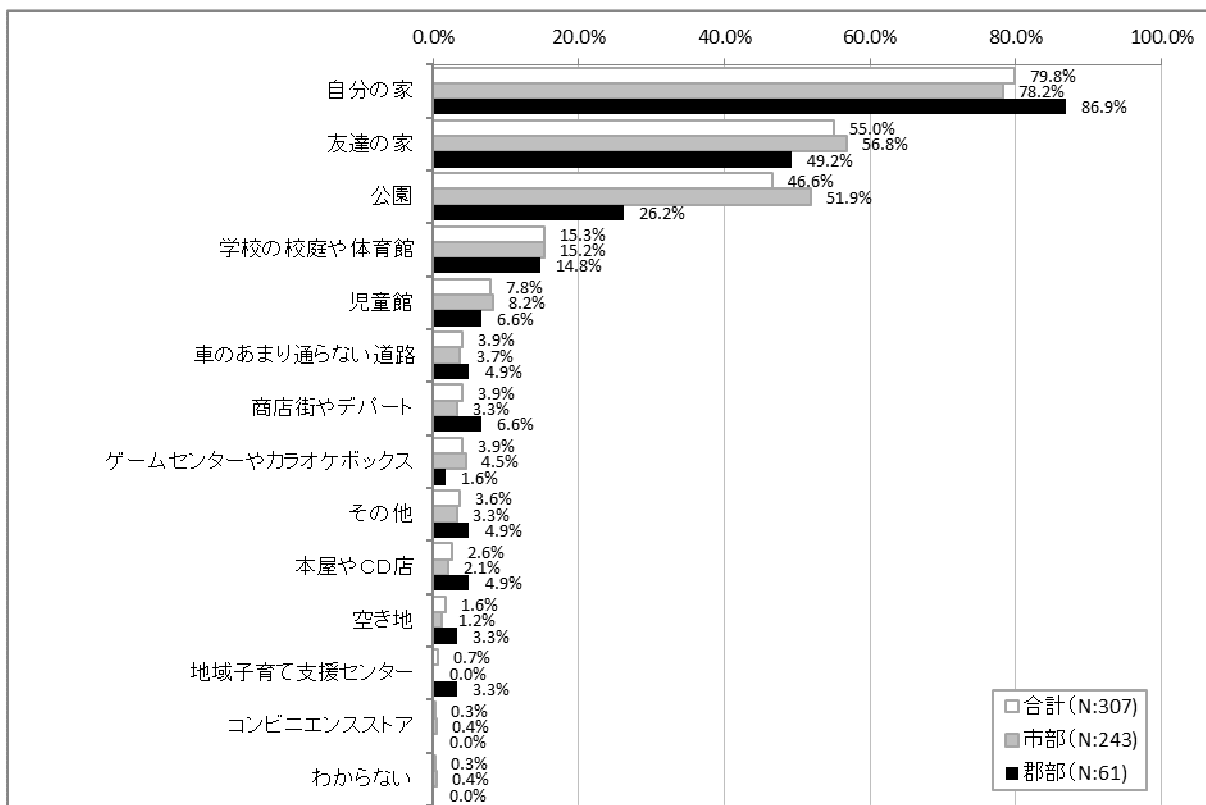
・子どもの遊び場（2歳～未就学児）



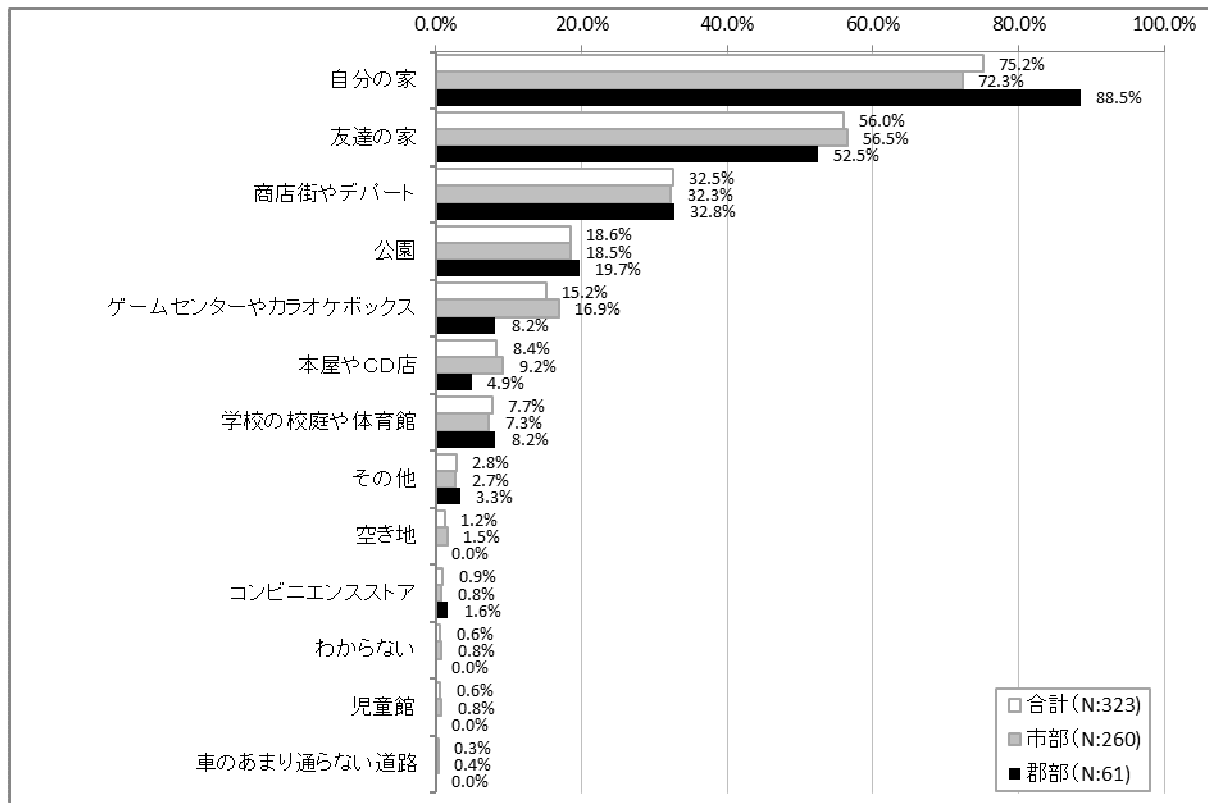
・子どもの遊び場（小学校低学年）



・子どもの遊び場（小学校高学年）



・子どもの遊び場（中学生）



2歳～未就学では「自分の家」が96%、「公園」が71%を占めており、次いで「商店街やデパート」24%、「友達の家」9%、「車のあまり通らない道路」9%の順となっている。

前回調査（前回調査は3歳～未就学児が対象）では、「自分の家」98%、「公園」61%、「商店街やデパート」20%、「友達の家」18%、「車のあまり通らない道路」10%という順位、割合となっており、前回と比べると、上位5項目の順位は変わらず、「自分の家」が2ポイント減少、「公園」が10ポイント増加、「商店街やデパート」4ポイント増加、「友達の家」は9ポイント減少している。

小学校低学年では「自分の家」が89%、「公園」が55%を占めており、次いで「友達の家」33%、「児童館」21%、「学校の校庭や体育館」11%となっている。

前回調査では、「自分の家」が94%、「公園」55%、「友達の家」47%、「児童館」15%、「学校の校庭や体育館」12%という順位、割合となっており、前回と比べると、上位5項目の順位は変わらず、「自分の家」が5ポイント、「友達の家」が14ポイント減少している。

小学校高学年では「自分の家」が80%、「友達の家」が55%を占めており、次いで「公園」47%「学校の校庭や体育館」15%、「児童館」8%の順となっている。小学校低学年と比べると「友達の家」が22ポイント、「学校の校庭や体育館」が4ポイント多くなっている。

前回調査では、「自分の家」86%、「友達の家」69%、「公園」51%、「学校の校庭や体育館」17%、「車のあまり通らない道路」6%という順位、割合となっており、前回と比べると、全ての項目で減少しており、「児童館」が4ポイント増加している。

中学生では「自分の家」が75%、「友達の家」が56%を占めており、次いで「商店街やデパート」33%、「公園」19%、「ゲームセンターやカラオケボックス」15%の順となっている。小学校高学年と比べると、「公園」が28ポイント少なくなっている一方、「商店街やデパート」、「ゲームセンターやカラオケボックス」が多くなっている。

前回調査（今回は中高生が対象）では、「自分の家」79%、「友達の家」65%、「商店街やデパート」24%、「ゲームセンターやカラオケボックス」19%という順位、割合となっており、前回と比べると、「自分の家」が4ポイント、「友達の家」が9ポイント、「ゲームセンターやカラオケボックス」が4ポイント減少している。

【市部・郡部別】

2歳～未就学は、市部と郡部に大きな差は見られないが、「公園」、「商店街やデパート」が5ポイント、市部の割合が郡部よりも大きくなっている。

小学校低学年では、「公園」が15ポイント、「車のあまり通らない道路」が4ポイント、市部の割合が郡部よりも大きくなっており、「自分の家」、「学校の校庭や体育館」については郡部の割合が市部よりも7ポイント大きくなっている。

小学校高学年では、「公園」が26ポイント、市部の割合が郡部よりも大きくなっている。一方で「自分の家」が9ポイント郡部の割合が市部よりも大きくなっている。

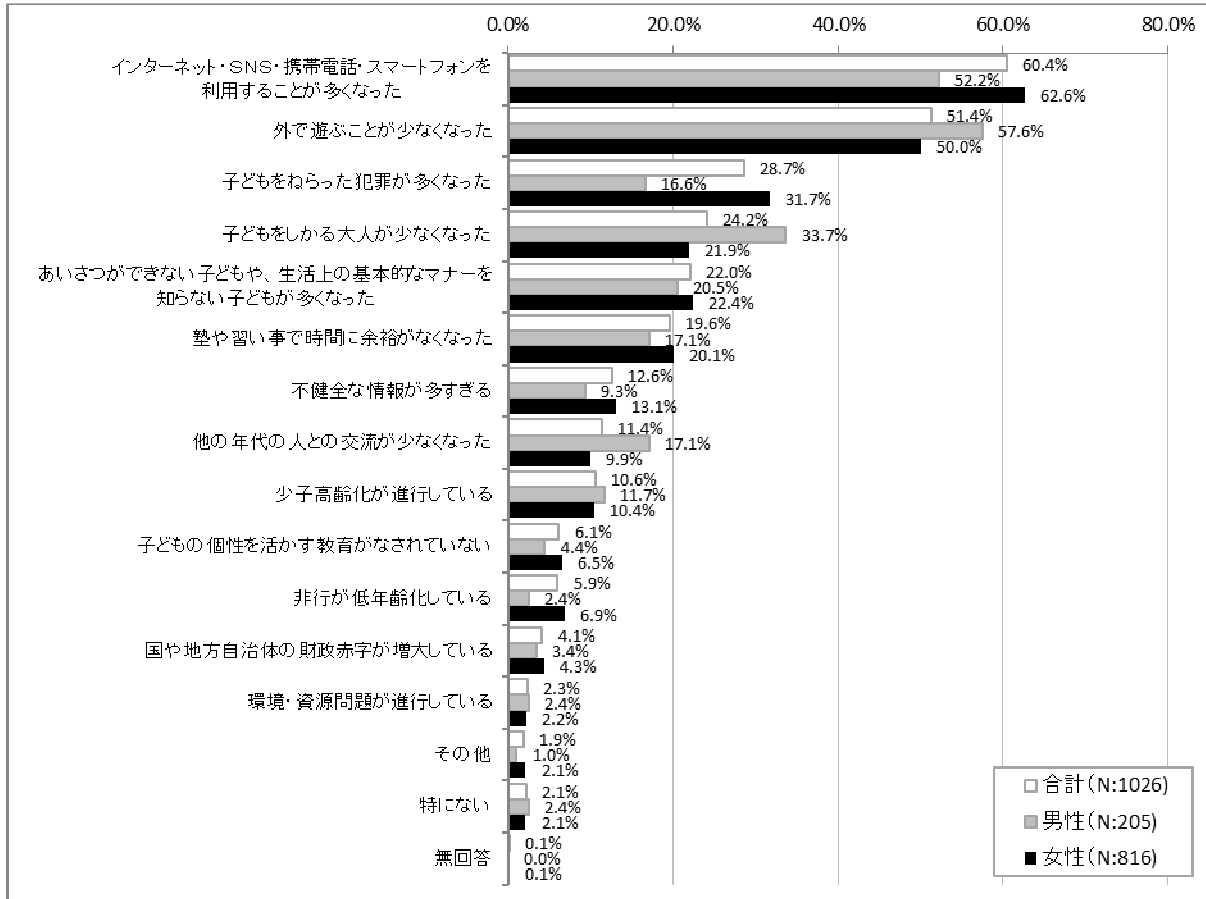
中学生では、「自分の家」が16ポイント、郡部の割合が市部よりも大きくなっているが、「友達の家」、「ゲームセンターやカラオケボックス」、「本屋やCD店」については市部の割合が郡部よりも4～9ポイント大きくなっている。

【自由回答から】

- ・育つ環境(地域)によって子育てに影響があると思う。子供が遊んでいると「声がうるさい」とか「ボールをつく音がうるさい」など良く聞かすが、学校の校庭も、昔と違い自由に使用できないので子供は遊ぶ場所がなくなっているため、リュックにゲーム、本など入れて友達の家から家と点々と移動して遊んでいる。
- ・未就学児までが遊べる屋内施設はあるが、小学生でも遊べる施設・場所が欲しい。
- ・近所の公園等の施設について、充実度や満足度が市町村間で差があると思う。市町村の財政事情にもよると思うが、時間がかかっても小規模な町村に助成等しながら、県内のインフラ整備の底上げをしてほしい。

問44. 最近の子どもの生活や子どもを取り巻く環境について、どのようなことが問題だと思いませんか。(3つまで)

・子どもを取り巻く環境についての問題点



「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」が60%と最も多く、次いで「外で遊ぶことが少なくなった」51%、「子どもをねらった犯罪が多くなった」29%、「子どもをしかる大人が少なくなった」24%、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」22%の順となっており、以下、「塾や習い事で時間に余裕がなくなった」20%と続いている。

前回調査では、「外で遊ぶことが少なくなった」49%、「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」44%、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」32%、「子どもをしかる大人が少なくなった」32%、「子どもをねらった犯罪が多くなった」24%、「塾や習い事で時間に余裕がなくなった」21%という順位、割合となっている。

前回と比べると、「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」が2位から1位になり16ポイントの増加、「子どもをねらった犯罪が多くなった」が5位から3位になり5ポイント増加、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」が3位から5位になり10ポイント減少している。

【男女別】

男性では「外で遊ぶことが少なくなった」が58%と最も多く、次いで「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」52%、「子どもをしかる大人が少なくなった」34%、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」21%の順となっている。

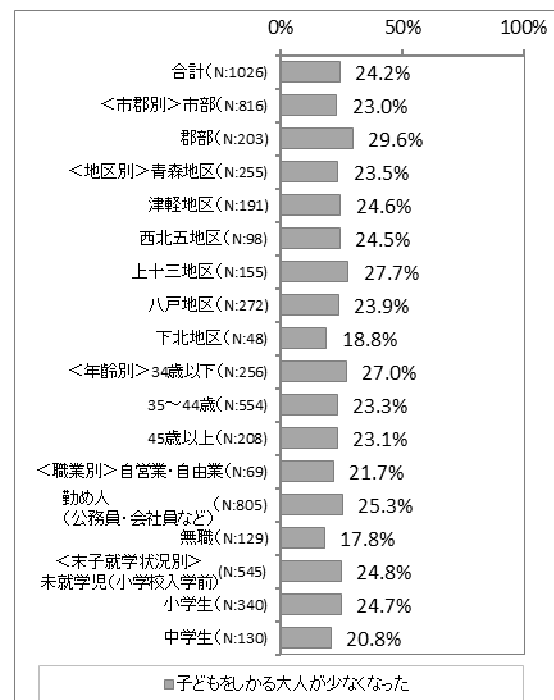
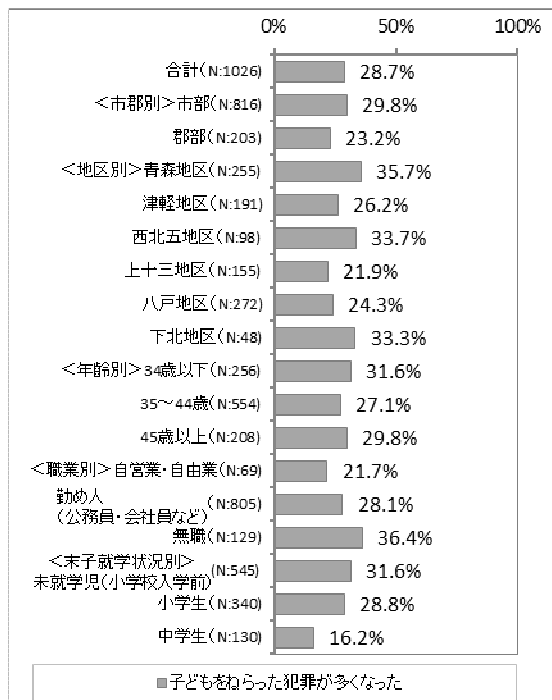
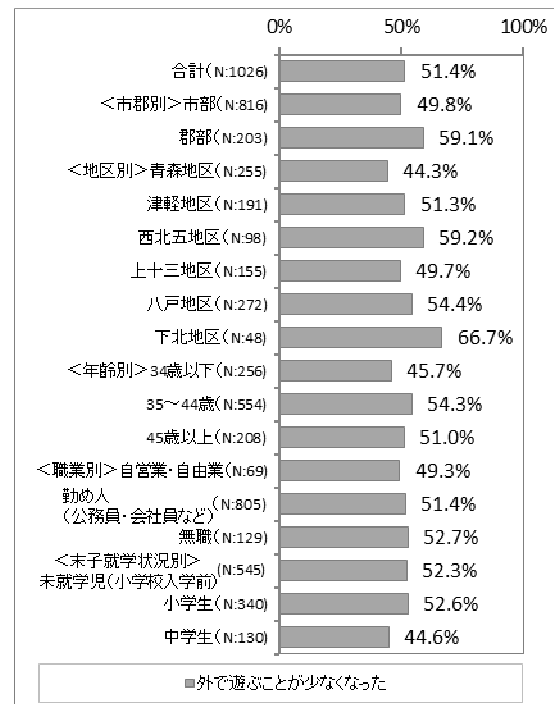
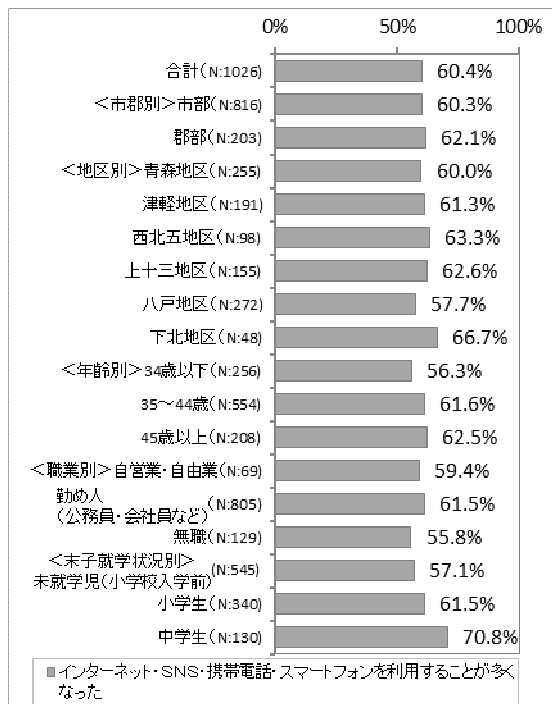
女性では「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」が63%と最も多く、「外で遊ぶことが少なくなった」が50%、「子どもをねらった犯罪が多くなった」32%、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」と「子どもをしかる大人が少なくなった」が22%の順となっている。

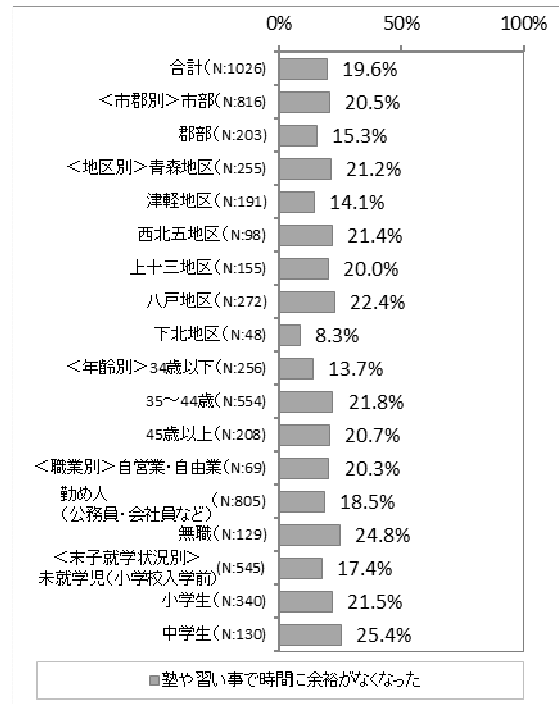
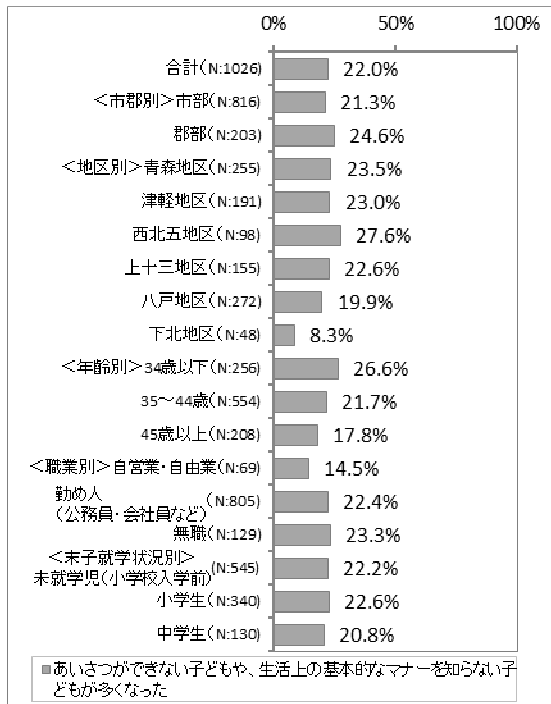
「外で遊ぶことが少なくなった」は8ポイント、「子どもをしかる大人が少なくなった」は12ポイント、男性の方が女性よりも大きくなっており、「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」は11ポイント、「子どもをねらった犯罪が多くなった」は15ポイント、女性の方が男性よりも大きくなっている。

【自由回答から】

- ・ネット社会になり、大人や老人に聞かなくても何でもネットで調べて知りえることが出来る時代のせい、便利なようで人とのつながりが消えていくようで何とかしなければと考えてしまう。今こそ地域ぐるみでの交流が必要なのではと思う。
- ・少子化問題がなかなか改善されず、生きにくい世の中だとつくづく思う。子育て中の親が不安を抱えているのですから、これからの子どもたちは、それ以上になるのではと思う。明るい未来を願っている。

・市部・郡部別、地区別、年齢別、職業別、末子就学状況別の子どもを取り巻く環境についての
問題点（上位6項目）





【市部・郡部別】

「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」、「外で遊ぶことが少なくなった」、「子どもをしかる大人が少なくなった」、「あいつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」の割合は、郡部の方が市部よりも大きくなっている。

「子どもをねらった犯罪が多くなった」、「塾や習い事で時間に余裕がなくなった」の割合は、市部の方が郡部より大きくなっている。

【地区別】

「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」、「外で遊ぶことが少なくなった」の割合は、「下北地区」でともに67%となっており、他の地区よりも大きくなっている。

「あいつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」は「西北五地区」(28%)、「子どもをしかる大人が少なくなった」は「上十三地区」(28%)、「子どもをねらった犯罪が多くなった」は「青森地区」(36%)で、「塾や習い事で時間に余裕がなくなった」は「八戸地区」(22%)で最も大きくなっている。

【年齢別】

「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」(63%)が最も大きくなっている。「外で遊ぶことが少なくなった」については、「35～44歳」で最も大きくなっている。「子どもをねらった犯罪が多くなった」、「子どもをしかる大人が少なくなった」、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」は「34歳以下」で最も大きくなっている。

【職業別】

「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」、「子どもをしかる大人が少なくなった」については、「勤め人」の割合(各々62%、25%)が他の就業状況よりも割合が大きくなっている。

「外で遊ぶことが少なくなった」、「子どもをねらった犯罪が多くなった」、「塾や習い事で時間に余裕がなくなった」、「あいさつができない子どもや、生活上の基本的なマナーを知らない子どもが多くなった」については、「無職」が他の就業状況よりも大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「インターネット・SNS・携帯電話・スマートフォンを利用することが多くなった」、「塾や習い事で時間に余裕がなくなった」は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「中学生」(各々71%、25%)が最も大きくなっている。

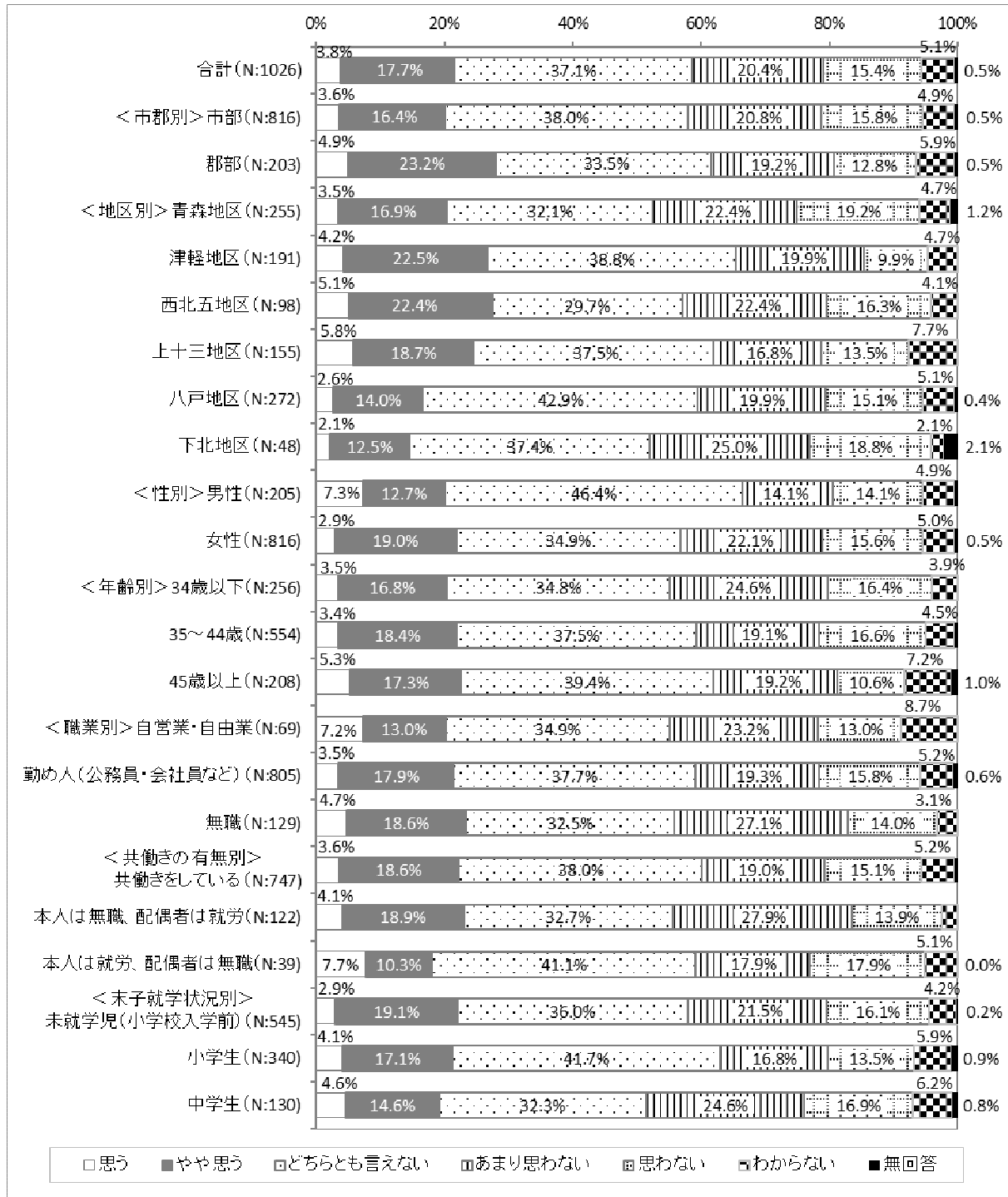
「外で遊ぶことが少なくなった」は、「小学生」(53%)が大きくなっている。

「子どもをねらった犯罪が多くなった」、「子どもをしかる大人が少なくなった」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「未就学児」(各々32%、25%)が最も大きくなっている。

子育て支援のための行政への要望等について

問45. 青森県は、子育てしやすい環境が整っていると思いますか。

・市郡、地区、性、年齢、職業、共働き有無、就学別の青森県の子育て環境



「どちらとも言えない」が 37%で最も多く、「あまり思わない」20%、「やや思う」18%、「思わない」15%、「思う」が4%となっている。「思う」と「やや思う」の合計が22%、「思わない」と「あまり思わない」の合計が36%となっており、子育てしやすい環境だと「思わない」方が14ポイント大きい。

【市郡別】

市部では「思う」と「やや思う」の合計が20%、「思わない」と「あまり思わない」の合計が37%となっており、「思わない」が17ポイント大きい。群部では「思う」と「やや思う」の合計が28%、「思わない」と「あまり思わない」の合計が32%となっており、子育てしやすい環境だと「思わない」が4ポイント大きい。

【地区別】

「思う」と「やや思う」の合計は、「西北五地区」28%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「下北地区」44%が最も大きくなっている。また、合計の差が最も大きいのは「下北地区」で「思わない」「あまり思わない」の合計が、「思う」「やや思う」の合計より29ポイント大きくなっている。

【男女別】

「思う」と「やや思う」の合計は、男性が20%、女性が22%となっている。「思わない」と「あまり思わない」の合計では、男性が28%、女性が38%となっている。「思う」は男女の差はほとんど見られないが、「思わない」は女性で男性より10ポイント大きい。

【年齢別】

「思う」と「やや思う」の合計では、年代が上がるにつれ大きくなり、「45歳以上」で22.6%となっている。一方で、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、年代が下がるにつれ大きくなり、「34歳以下」で41%となっている。合計の差が最も大きいのは「34歳以下」で21ポイントとなっている。

【職業別】

「思う」と「やや思う」の合計では、「無職」が23%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「無職」41%が最も大きくなっている。

【共働きの有無別】

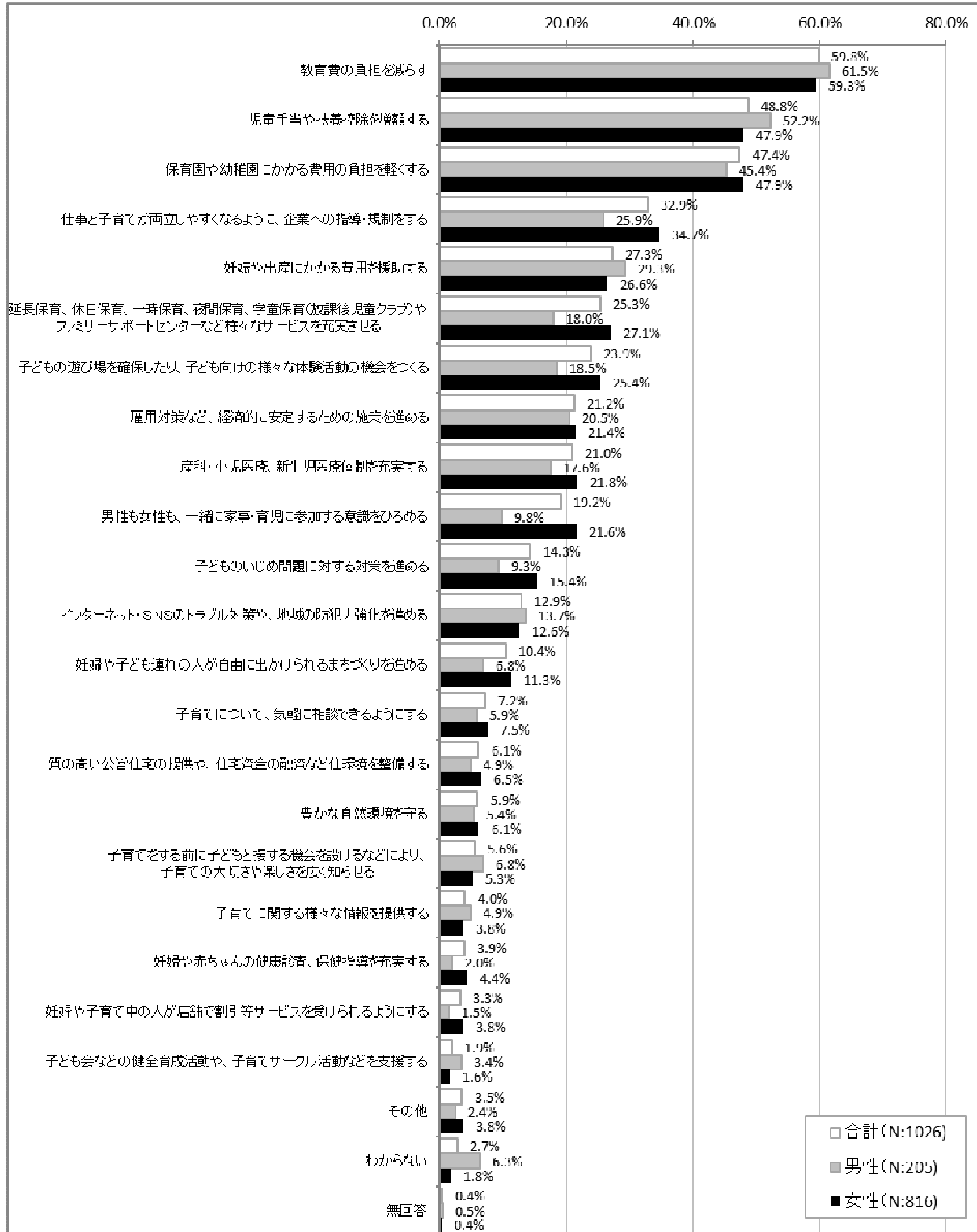
「思う」と「やや思う」の合計では、「本人は無職、配偶者は就労」が23%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「本人は無職、配偶者は就労」42%が最も大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「思う」と「やや思う」の合計では、年代が下がるにつれ大きくなり「未就学児」が22%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「中学生」42%が最も大きくなっている。

問46. あなたは、健やかに子どもを産み育てるため、国、県、市町村にどのような支援を手厚くして欲しい(又は足りない)と考えますか。(5つまで)。

・国、県、市町村に最も期待する政策



「教育費の負担を減らす」が60%と最も大きく、次いで「児童手当や扶養控除を増額する」49%、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」47%、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業への指導・規制をする」33%「妊娠や出産にかかる費用を援助する」27%の順となっており、経済支援の割合が大きくなっている。

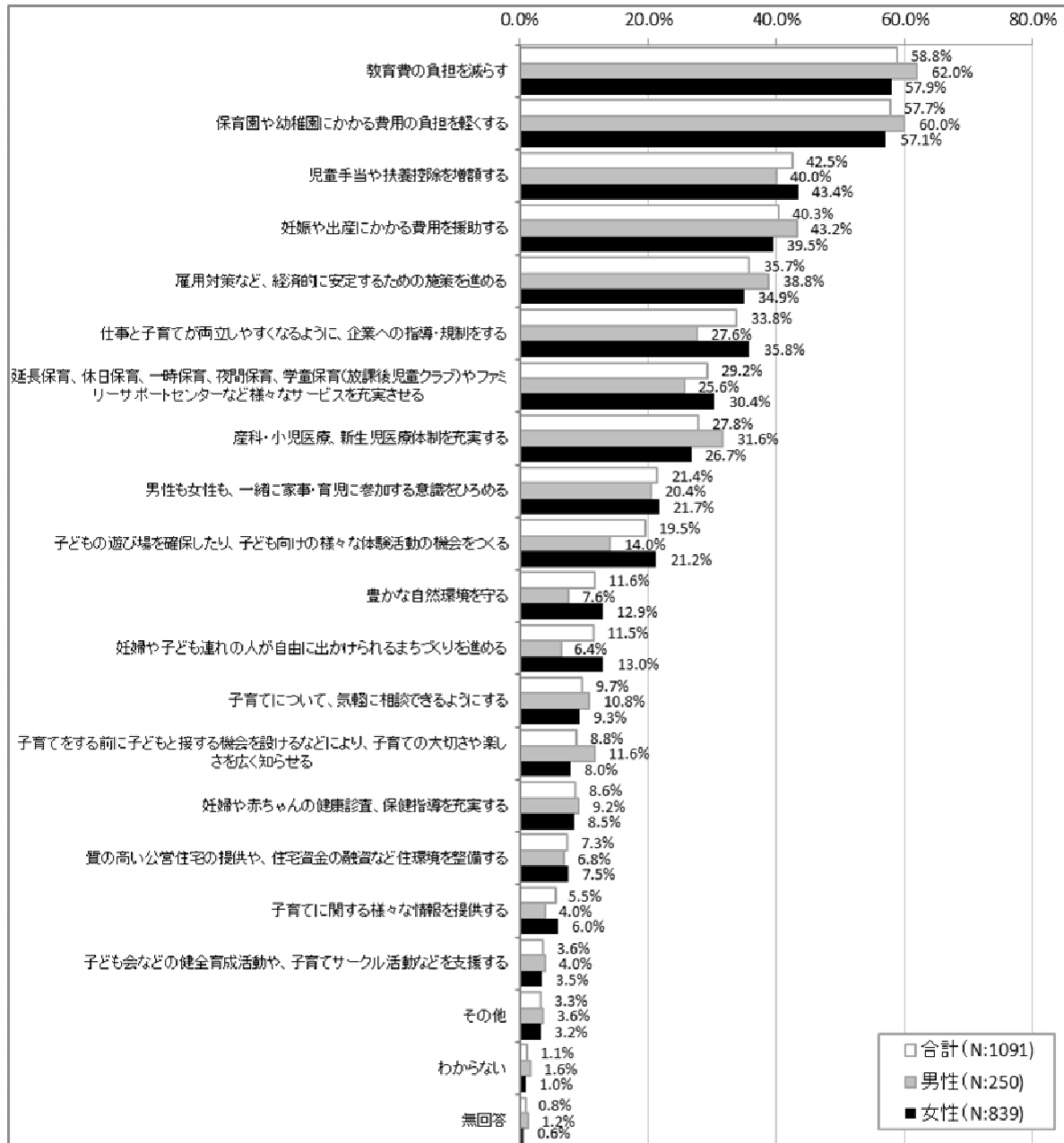
前回調査と比べて、「教育費の負担を減らす」が1ポイント、「児童手当や扶養控除を増額する」が6ポイント増加しているのに対して、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」が11ポイント、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」13ポイント、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」15ポイント減少している。

【男女別】

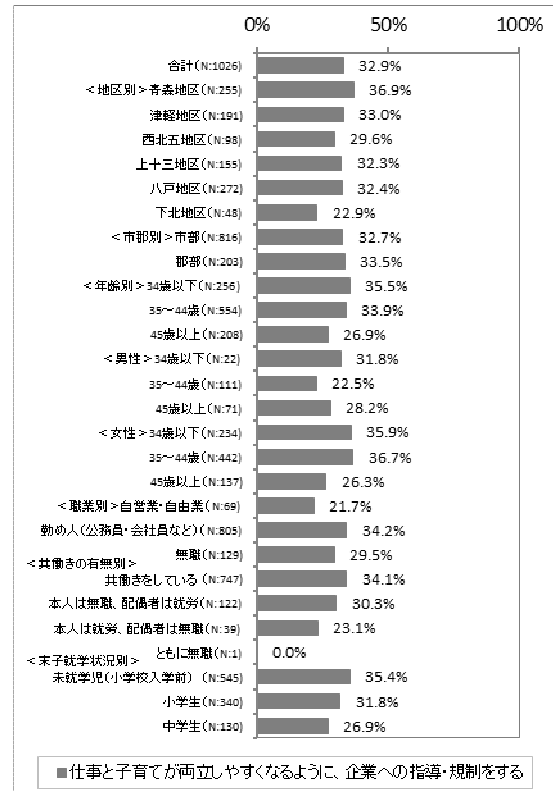
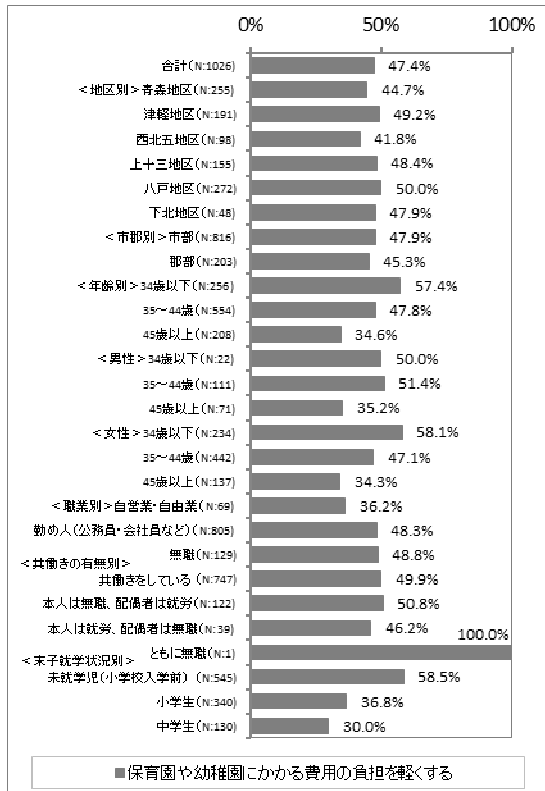
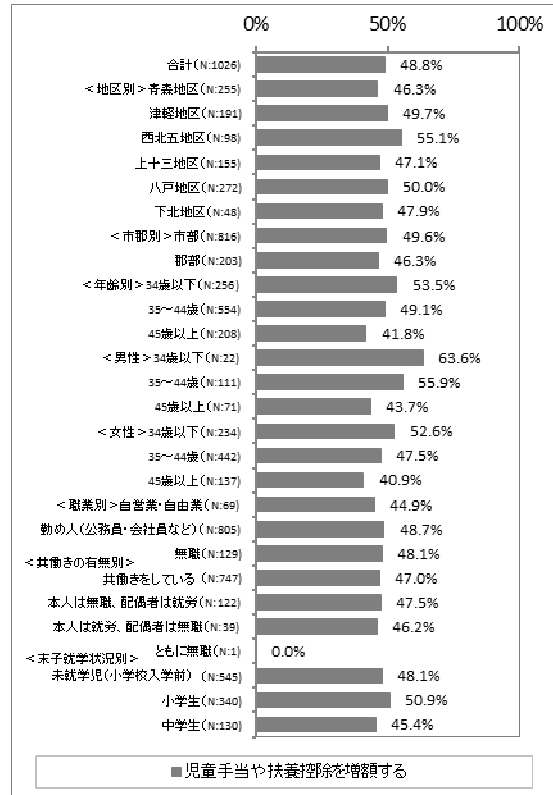
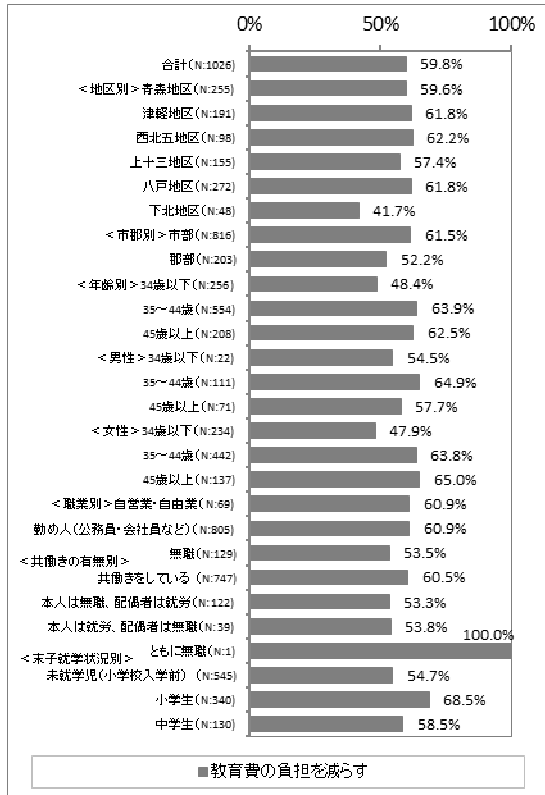
男性では、「教育費の負担を減らす」が62%、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」が52%となっており、女性より大きくなっている。

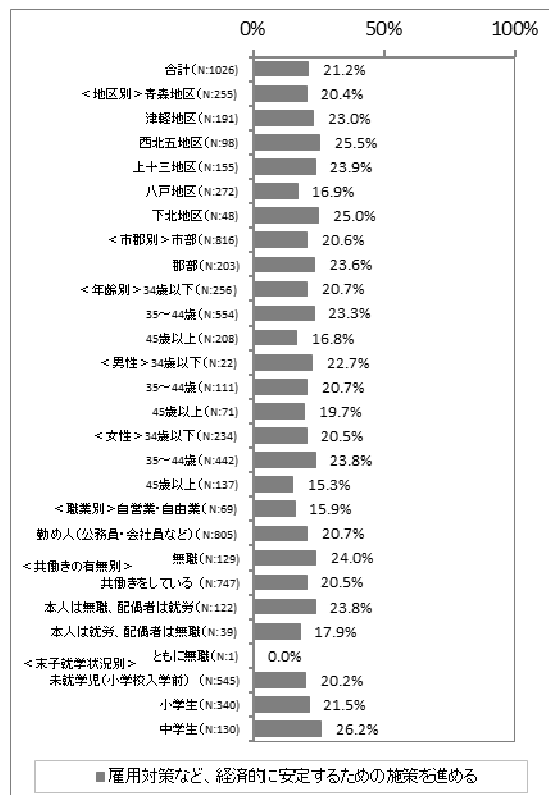
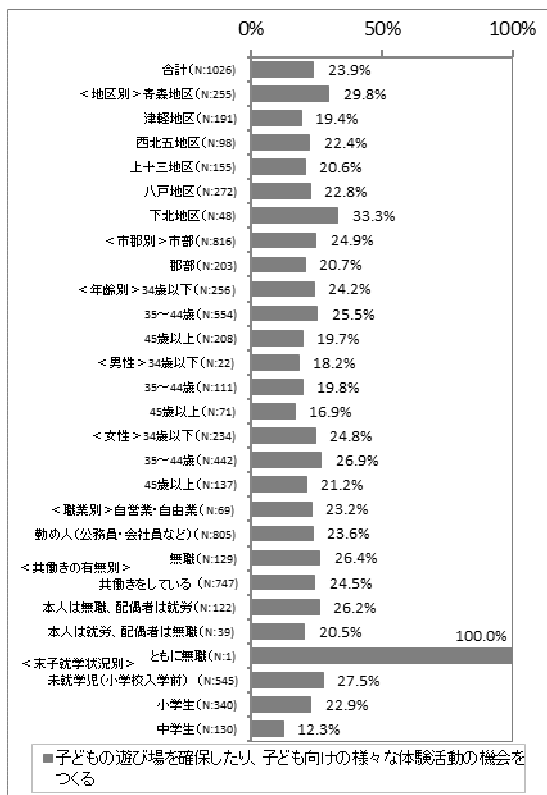
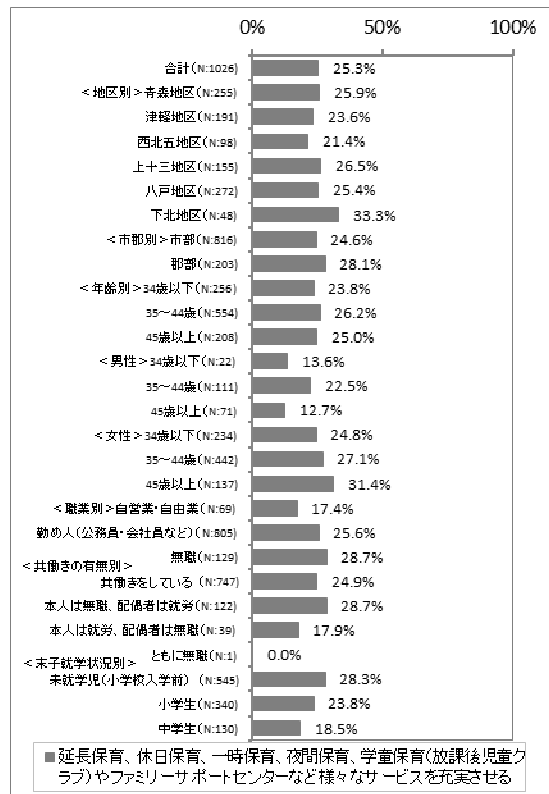
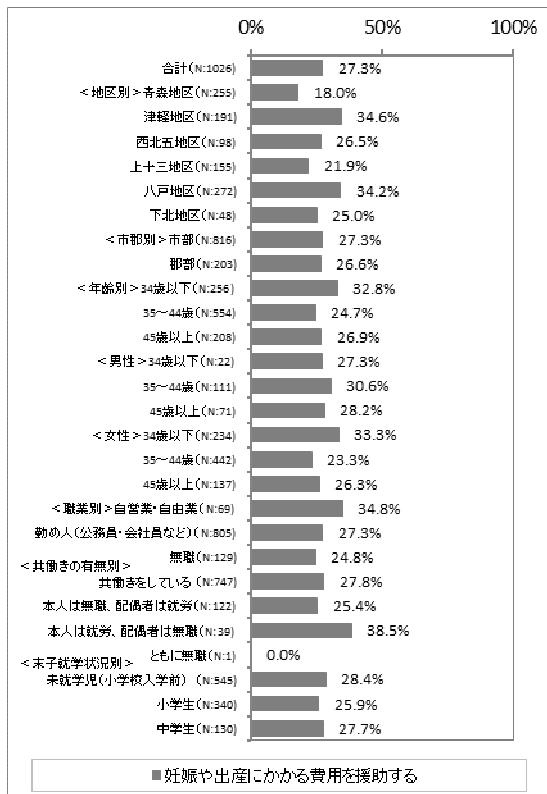
女性では、上位項目の割合、順位が全体（合計）とほとんど一致している。「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」が3ポイント、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業への指導・規制をする」が9ポイント、女性の方が男性よりも大きくなっている。

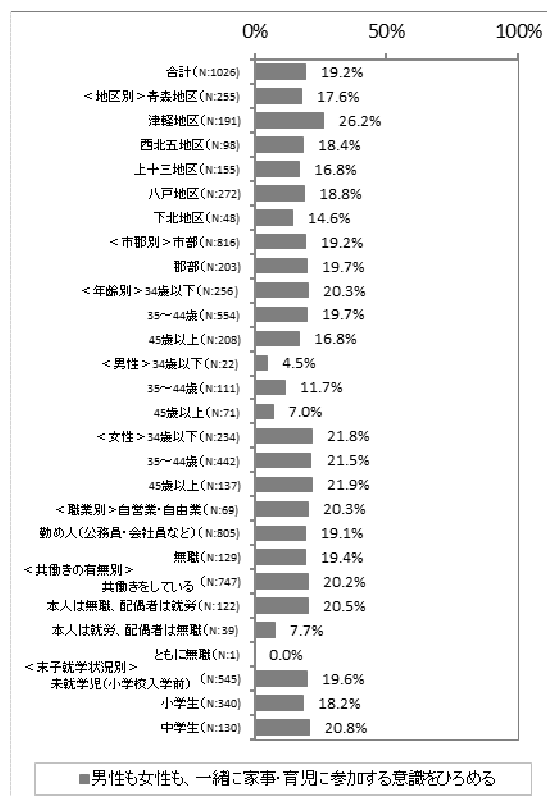
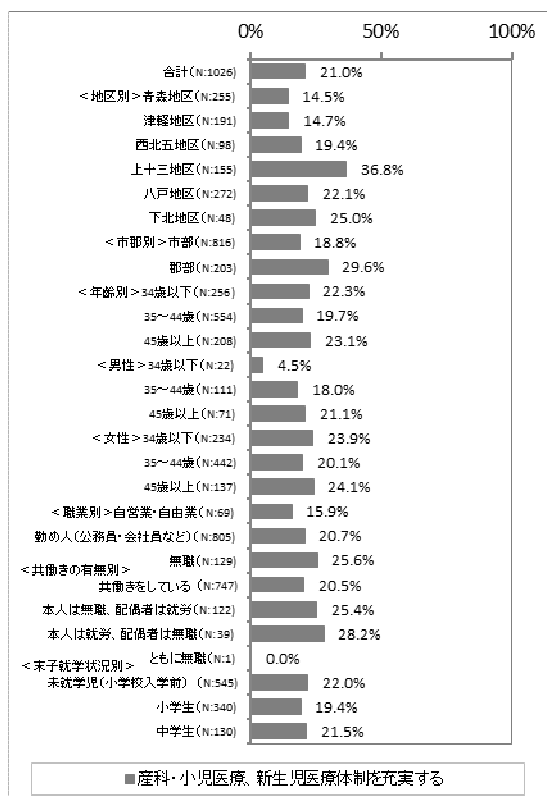
(参考) 前回調査



・ 地区別、市部・郡部別、年齢別、性・年齢別、職業別、共働きの状況別、末子就学状況別の
 国、県、市町村に最も期待する政策（上位10項目）







【地区別】

「教育費の負担を減らす」、「児童手当や扶養控除を増額する」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」については「西北五地区」の割合（各々62%、55%、26%）が他の地区よりも大きくなっている。

「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業への指導・規制をする」については「青森地区」の割合（37%）が他の地区よりも大きくなっている。

「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」については「八戸地区」の割合（50%）が他の地区よりも大きくなっている。

「妊娠や出産にかかる費用を援助する」、「男性も女性も、一緒に家事・育児に参加する意識をひろめる」については「津軽地区」の割合（各々35%、26%）が他の地区よりも大きくなっている。

「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなど様々なサービスを充実させる」については「上十三地区」の割合（各々37%、27%）が他の地区よりも大きくなっている。

また、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」については「下北地区」の割合（33%）が他の地区よりも大きくなっている。

【市部・郡部別】

「教育費の負担を減らす」、「児童手当や扶養控除を増額する」、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」については、市部の方が郡部より大きくなっている。特に大きな差が見られるのが、「教育費の負担を減らす」で市部の方が 10 ポイント大きくなっている。

また、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」は、郡部の方が市部より 11 ポイント大きくなっている。

【年齢別】

「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「児童手当や扶養控除を増額する」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業への指導・規制をする」、「男性も女性も、一緒に家事・育児に参加する意識をひろめる」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34 歳以下」で最も大きくなっている。

「教育費の負担を減らす」、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなど様々なサービスを充実させる」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」の割合は、「35～44 歳」で最も大きくなっている。

【男性年齢別】

「教育費の負担を減らす」、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなど様々なサービスを充実させる」の割合は、「35～44 歳」で最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「教育費の負担を減らす」については、「45 歳以上」の割合（65%）が最も大きくなっている。他の項目については年齢別の動向とほとんど一致している。

【職業別】

「教育費の負担を減らす」については、「自営業・自由業」、「勤め人」とも 61%となっており「無職」より大きくなっている。「妊娠や出産にかかる費用を援助する」は、「自営業・自由業」が他の就業状況より大きくなっている。

「児童手当や扶養控除を増額する」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業への指導・規制をする」は、「勤め人」が他の就業状況より大きくなっている。また、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」については、「勤め人」の方が「自営業・自由業」より 12 ポイント大きくなっている。

【共働きの有無別】

「教育費の負担を減らす」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業への指導・規制をする」については、「共働き」（各々61%、34%）の方が「非共働き」よりも大きくなっている。

「本人は無職、配偶者は就労」で、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「児童手当や扶養控除を増額する」、「延長保育、休日保育、一時保育や夜間保育など様々な保育サービスを充実させる」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」、「男性も女性も、一緒に家事・育児に参加する意識をひろめる」での割合（各々51%、48%、29%、26%、24%、21%）が他の就労状況よりも大きくなっている。

【末子の就学状況別】

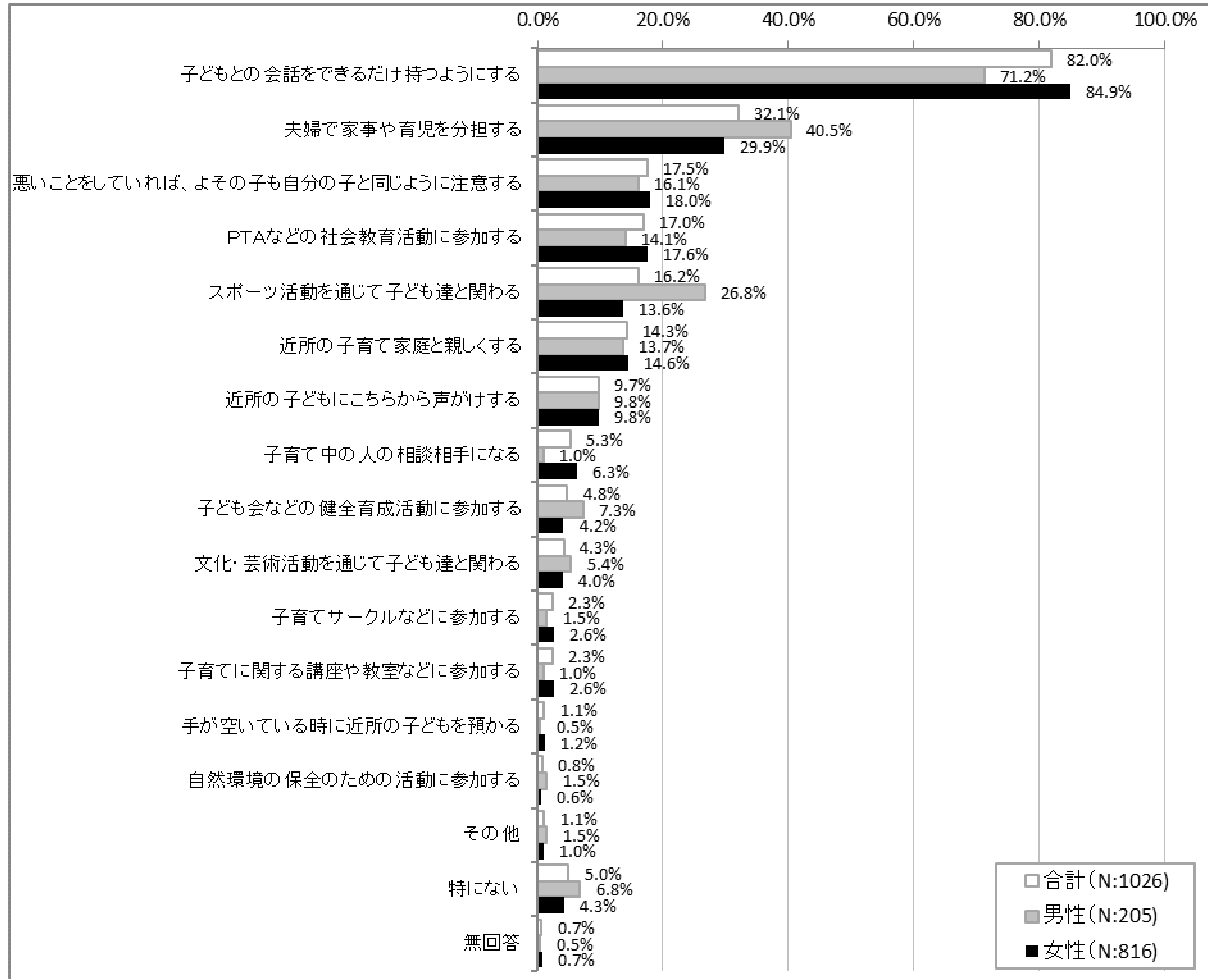
「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」、「男性も女性も、一緒に家事・育児に参加する意識をひろめる」の割合は、子どもの年代が上がるにつれて大きくなっており、「中学生」が最も大きくなっている。

一方、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業への指導・規制をする」、「延長保育、休日保育、一時保育や夜間保育など様々な保育サービスを充実させる」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」の割合は、子どもの年代が下がるにつれて大きくなっており、「未就学児」が最も大きくなっている。

なお、「教育費の負担を減らす」、「児童手当や扶養控除を増額する」、については、「小学生」の割合（各々69%、51%）が最も大きくなっている。

問47. あなたやあなたのご家庭では、お子さんを健やかに育てるために①どのようなことをしていますか。②今後、してみたいことは何ですか。(それぞれ3つまで)

①健やかに子どもを育てるためにしていること



「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」が82%と大きく、次いで「夫婦で家事や育児を分担する」32%、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する」18%、「PTAなどの社会教育活動に参加する」17%、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」16%の順となっている。

前回調査では、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」85%、「夫婦で家事や育児を分担する」29%、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する」23%、「PTAなどの社会教育活動に参加する」17%、「近所の子育て家庭と親しくする」16%、という順位、割合となっており、上位4項目の順位は同じであるが、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」が3ポイント減少、「夫婦で家事や育児を分担する」は3ポイント増加、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する」は5ポイント減少となっている。

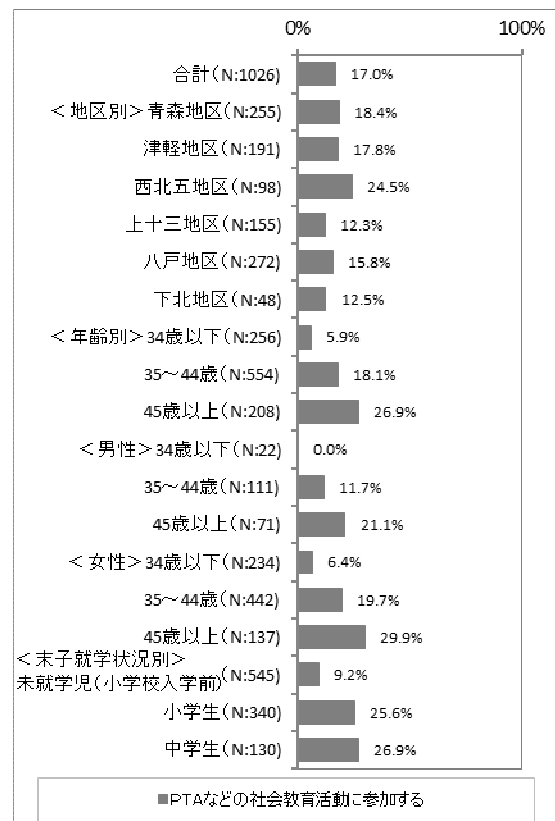
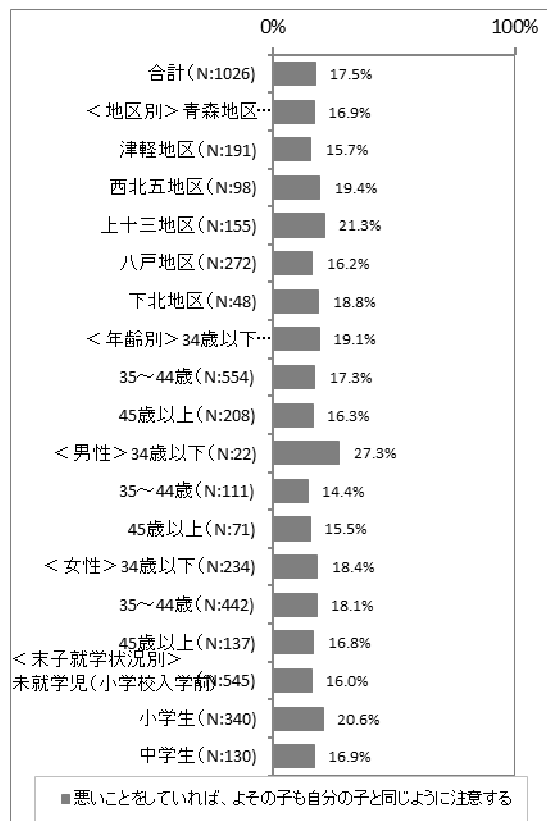
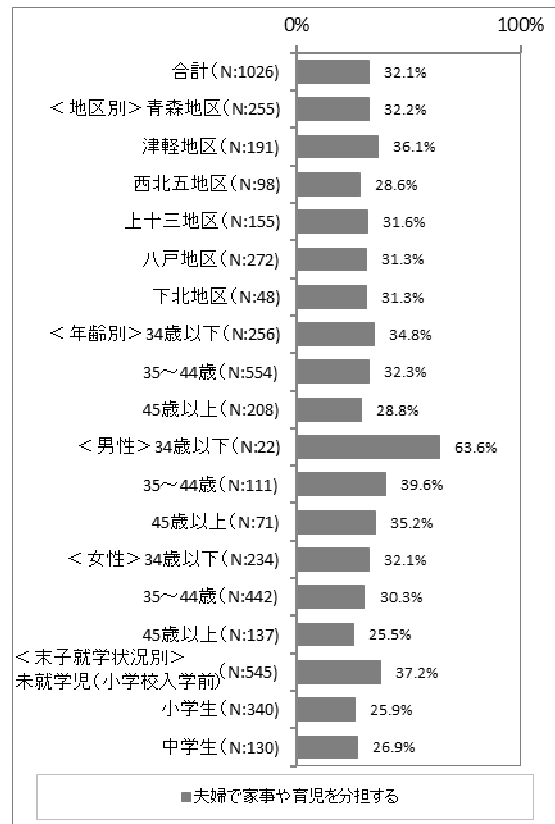
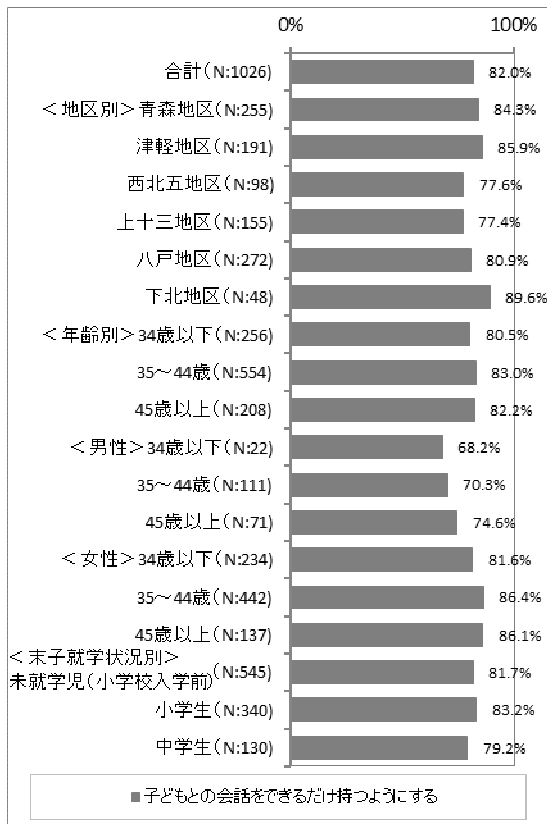
【男女別】

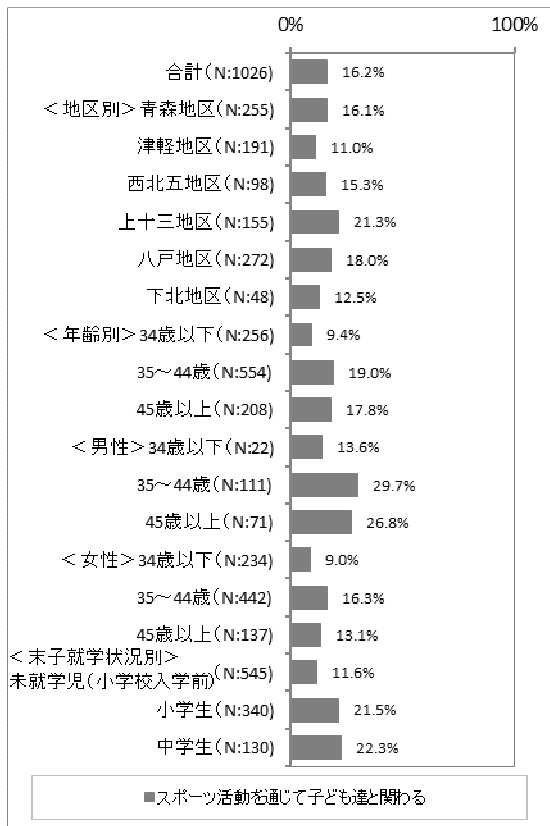
男性では、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」が 71%で最も多く、次いで「夫婦で家事や育児を分担する」41%、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」27%、「悪いことをしていれば、よその子も自分の子と同じように注意する」16%、「PTAなどの社会教育活動に参加する」14%の順となっている。

女性では、上位項目の割合、順位が全体（合計）とほとんど一致している。

「夫婦で家事や育児を分担する」、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」については、男性の方が女性よりも割合が大きくなっているが（各々11ポイント、13ポイント）、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」、「PTAなどの社会教育活動に参加する」については、女性の方が男性よりも割合が大きくなっている（各々14ポイント、4ポイント）。

・ 地区別、年齢別、性・年齢別、末子就学状況別の健やかに子どもを育てるためにしていること
(上位8項目)





【地区別】

「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する」、「子ども会などの健全育成活動に参加する」については「下北地区」の割合（各々90%、19%、8%）が他の地区より大きくなっている。

「夫婦で家事や育児を分担する」については、「津軽地区」の割合（36%）が他の地区よりも大きくなっている。

「PTAなどの社会教育活動に参加する」、「近所の子育て家庭と親しくする」については、「西北五地区」の割合（各々25%、20%）が、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」については、「上十三地区」の割合（21%）が他の地区よりも大きくなっている。

【年齢別】

「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」、「近所の子育て家庭と親しくする」の割合は、「35～44歳」（各々83%、19%、17%）が最も大きくなっている。

「夫婦で家事や育児を分担する」、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（各々35%、19%）が最も大きくなっている。

「PTAなどの社会教育活動に参加する」、「近所の子どもにこちらから声がけする」、「子ども会などの健全育成活動に参加する」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」（各々27%、11%、6%）が最も大きくなっている。

【男性年齢別】

「夫婦で家事や育児を分担する」、「近所の子育て家庭と親しくする」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（各々64%、23%）が最も大きくなっている。

「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」、「PTAなどの社会教育活動に参加する」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」（各々75%、21%）が最も大きくなっている。

「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」、「近所の子どもにこちらから声がけする」については、「35～44歳」の割合（各々30%、11%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

すべての項目について、年齢別の動向とほとんど一致している。

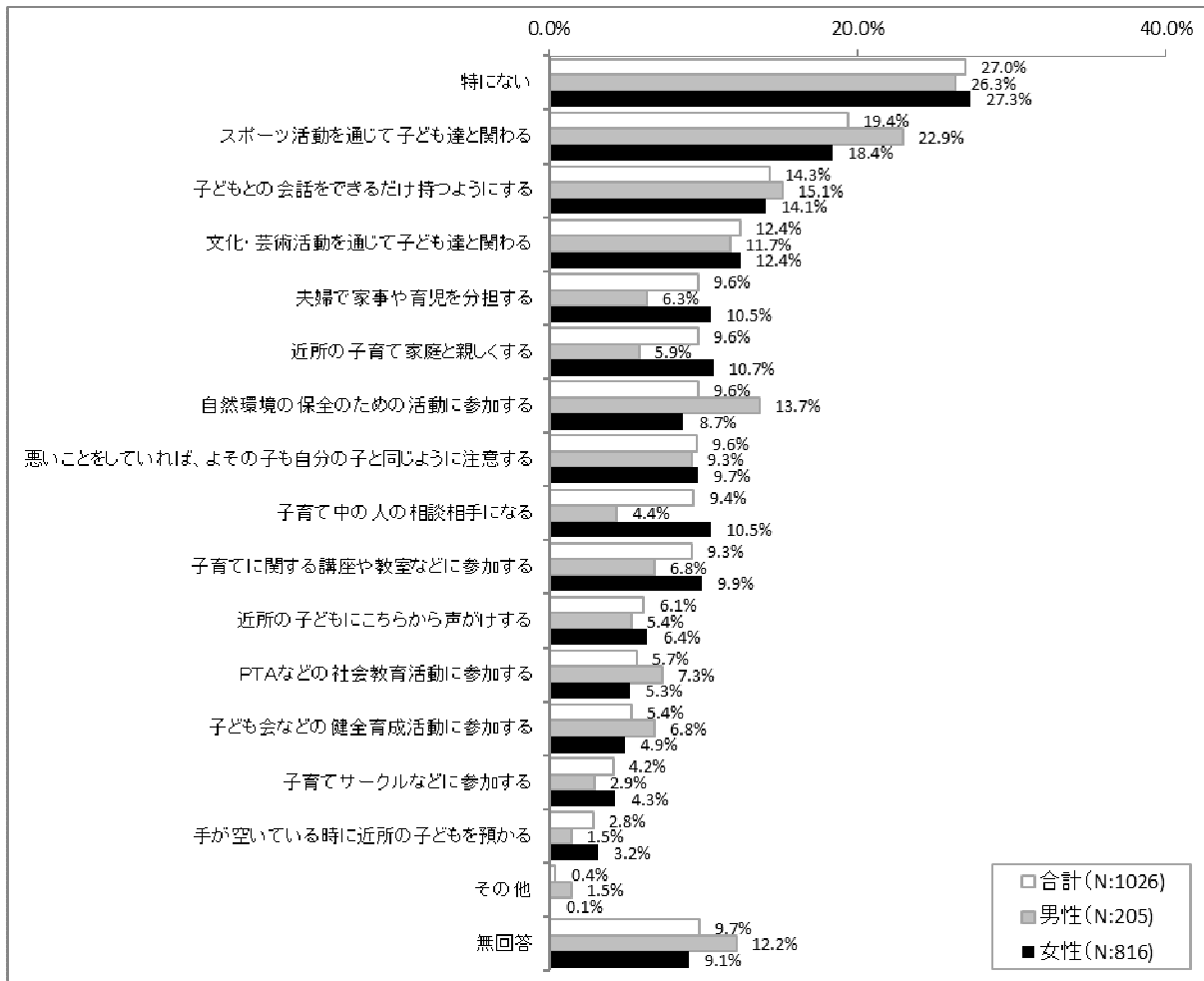
【末子の就学状況別】

「PTAなどの社会教育活動に参加する」、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」については、子どもの年代が上がるにつれて割合が大きくなっている。

一方、「近所の子育て家庭と親しくする」、「近所の子どもにこちらから声がけする」については、年代が下がるにつれて割合が大きくなっている。

「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」、「悪いことをしていれば、よその子ども自分の子と同じように注意する」については、「小学生」の割合（各々83%、21%）が最も大きくなっている。

②健やかに子どもを育てるために、今後してみたいこと



「特にない」が27%と最も多く、次いで、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」が19%、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」14%、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる」12%の順となっている。

前回調査では、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」が20%と最も多く、次いで「特にない」19%、「悪いことをしていれば、よその子も自分の子と同じように注意する」17%、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる」15%という順位、割合となっている。

項目別では、「特にない」が8ポイント増加、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」3ポイント増加しているが、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる」が3ポイント減少している。

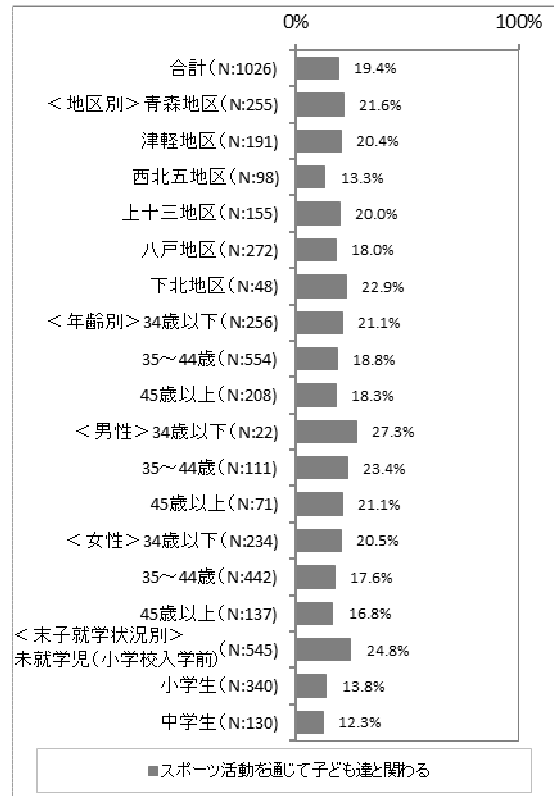
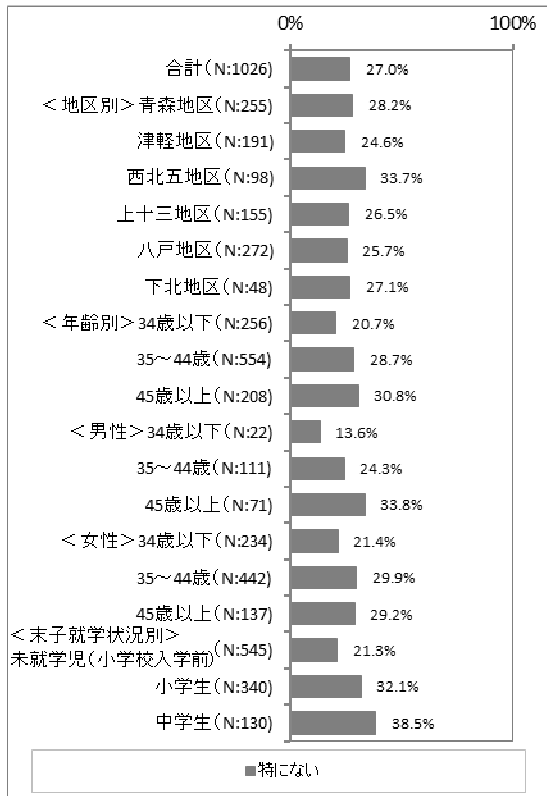
【男女別】

男性では、「特にない」が26%と最も多く、次いで、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」が23%、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」15%、「自然環境の保全のための活動に参加する」が14%の順となっている。

女性では、「特にない」が27%と最も多く、次いで、「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」が18%、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」14%、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる」が12%の順となっている。

「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」、「自然環境の保全のための活動に参加する」の割合は、男性の方が女性よりも大きくなっているが（各々5ポイント、5ポイント）、「近所の子育て家庭と親しくする」、「夫婦で家事や育児を分担する」は、女性の方が男性よりも大きくなっている（各々5ポイント、4ポイント）。

・ 地区別、年齢別、性・年齢別、末子就学状況別の健やかに子どもを育てるために今後してみたいこと（上位8項目）





【地区別】

「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる」、「自然環境の保全のための活動に参加する」、「近所の子育て家庭と親しくする」については、「下北地区」の割合が他の地区（各々23%、21%、15%、13%）よりも大きくなっている。

「特にない」、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」、「夫婦で家事や育児を分担する」、「悪いことをしていれば、よその子も自分の子と同じように注意する」については、「西北五地区」の割合（各々34%、21%、14%、12%）が大きくなっている。

【年齢別】

「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」、「近所の子育て家庭と親しくする」、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」の割合は、年代が下がるにつれて割合が大きくなっており、「34歳以下」（各々21%、16%、16%）が最も大きくなっている。

「悪いことをしていれば、よその子も自分の子と同じように注意する」、「夫婦で家事や育児を分担する」については「35～44歳」の割合（各々11%、10%）が、他の年代よりも大きくなっている。

また、「特にない」、「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる」、「自然環境の保全のための活動に参加する」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」（各々31%、16%、15%）が最も大きくなっている。

【男性年齢別】

「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」の割合は、年齢別とは逆に年代が上がるにつれて割合が大きくなっており、「35歳以上」（18%）が最も大きくなっている。

「悪いことをしていれば、よその子も自分の子と同じように注意する」については、「34歳以下」の割合（27%）が最も大きくなっており、他の年代は10以下と大きな差が見られる。

「文化・芸術活動を通じて子ども達と関わる」、「夫婦で家事や育児を分担する」、「近所の子育て家庭と親しくする」については「35～44歳」の割合（各々14%、9%、8%）が、他の年代よりも大きくなっている。

【女性年齢別】

年齢別の動向とほとんど一致している。

【末子の就学状況別】

「スポーツ活動を通じて子ども達と関わる」、「近所の子育て家庭と親しくする」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「未就学児」（各々25%、14%）が最も大きくなっている。

「特にない」、「子どもとの会話をできるだけ持つようにする」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「中学生」（各々39%、17%）が最も大きくなっている。

「悪いことをしていれば、よその子も自分の子と同じように注意する」、「自然環境の保全のための活動に参加する」については、「小学生」の割合（各々13%、10%）が最も大きくなっている。